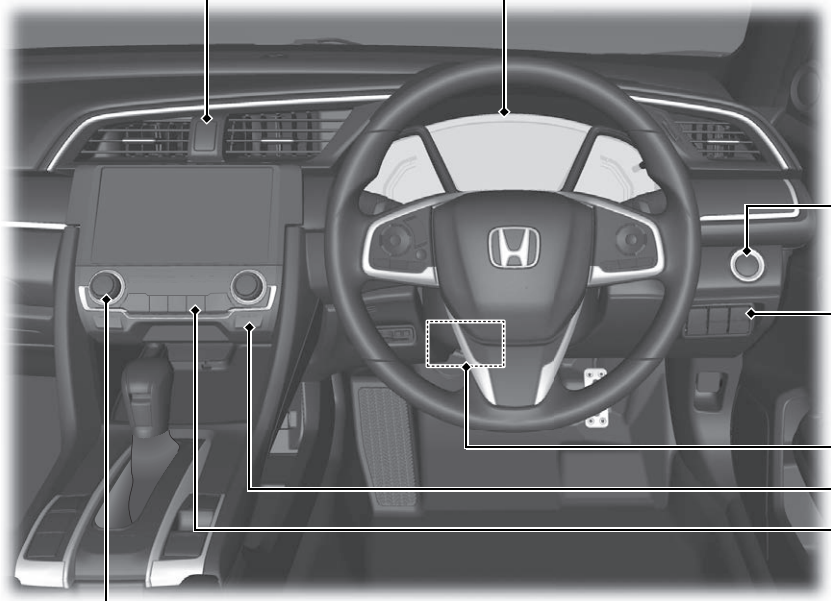
HONDA

CIVIC SEDAN

オーナーズマニュアル

クイックガイド
安全なドライブ
計器の見かた
各部の操作
オーディオ
運転
メンテナンス
万一の場合には
資料
索引

ビジュアル目次



非常点滅表示灯(ハザードスイッチ)

メーター P. 93

警告灯 P. 62

表示灯 P. 73

マルチインフォメーションディスプレイ P. 95

ENGINE START/STOP スイッチ P. 145

(VSA OFF)スイッチ P. 210

(CMBS OFF)スイッチ P. 218

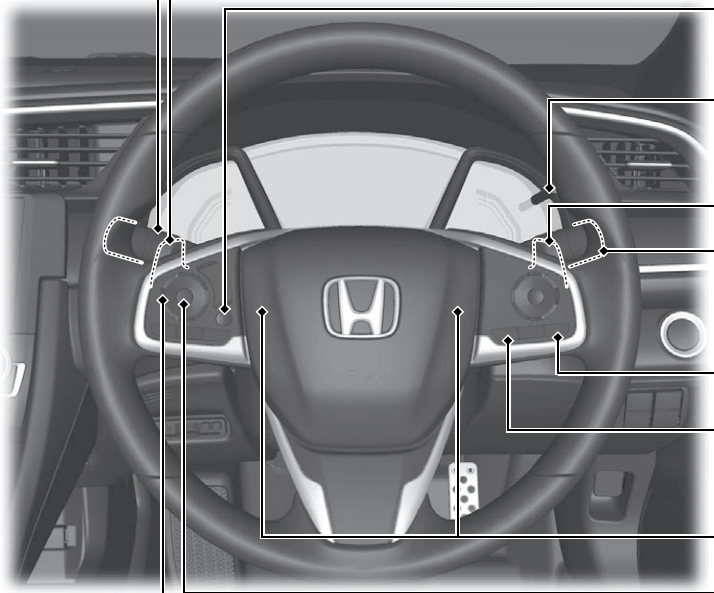
路外逸脱抑制スイッチ P. 257

ハンドル位置調節レバー P. 158

シートヒータースイッチ P. 177

リヤデフロスター/ヒーテッドドアミラースイッチ P. 158

オートエアコン P. 179



ワイパー/ ウォッシャースイッチ P. 155

シフトスイッチ(シフトダウン) P. 201

ディスプレイ / インフォメーション( )スイッチ P. 96

(セレクト / リセット)ノブ P. 97, 157

シフトスイッチ(シフトアップ) P. 201

ライト / 方向指示器(ウィンカー)スイッチ P. 148, 150

フォグライトスイッチ P. 151

LKAS スイッチ P. 246

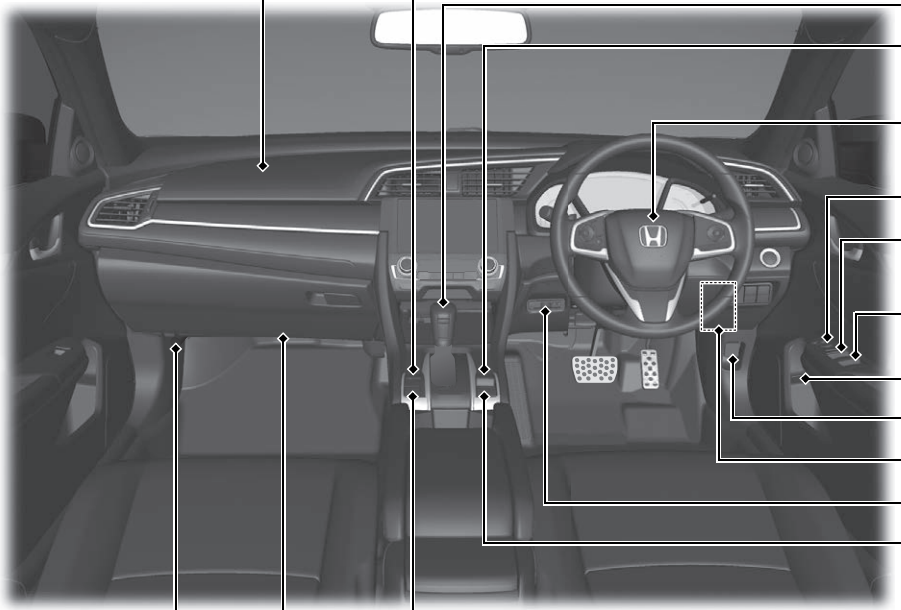
MAIN スイッチ P. 230, 246

ホーンスイッチ(周辺)

ENTER スイッチ P. 102

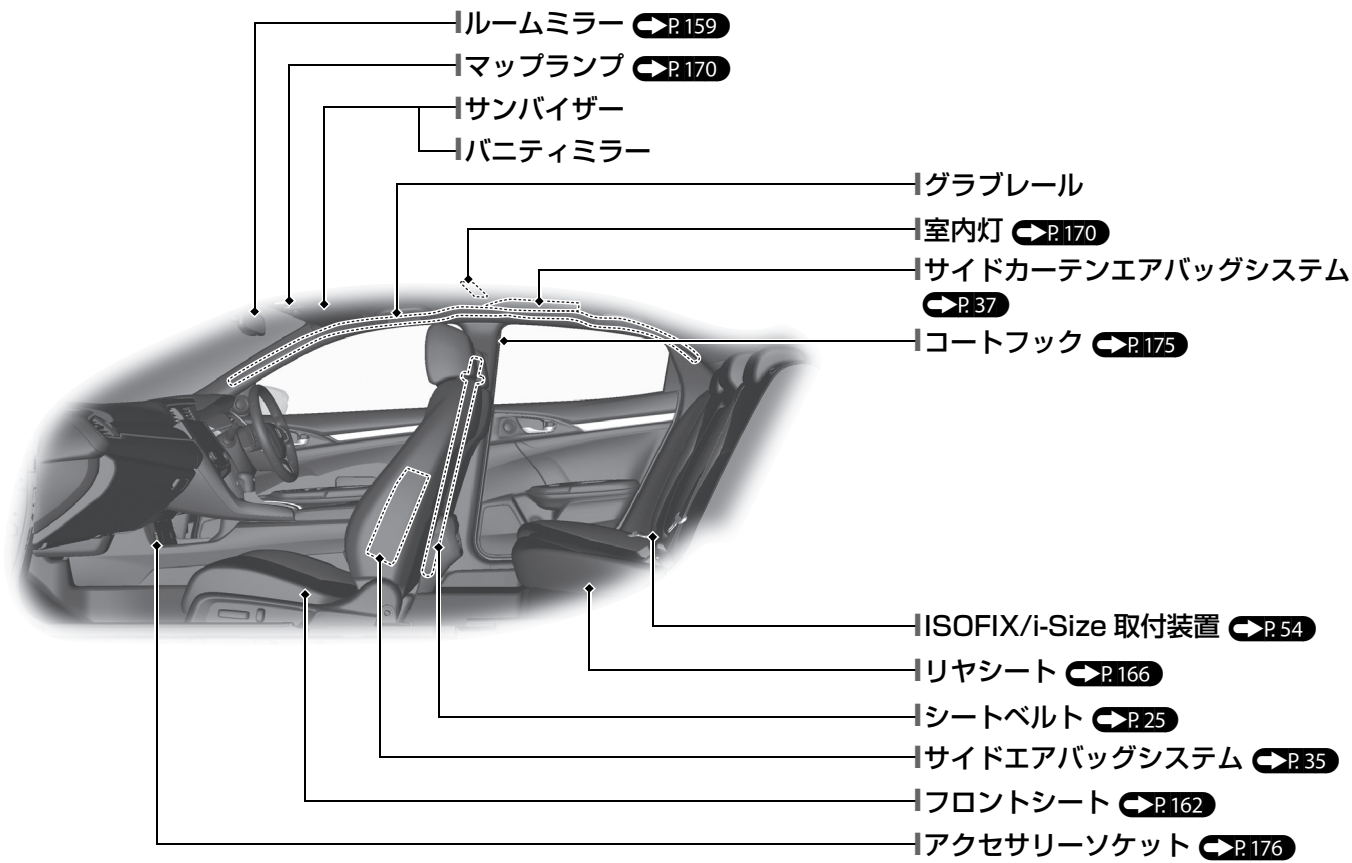
▲ / ▼ / ◀ / ▶ スイッチ P. 96, 102

ビジュアル目次

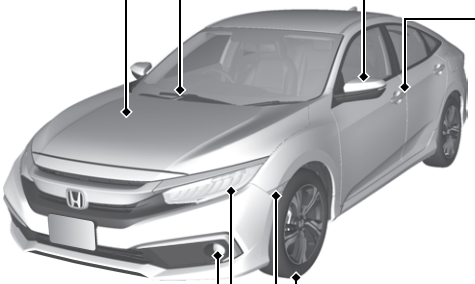


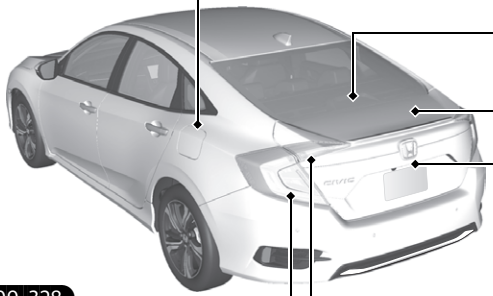
SRS エアバッグシステム(助手席用) P. 32
(アイドリングストップシステム OFF)スイッチ P. 204
セレクトレバー P. 198
オートマチックブレーキホールドスイッチ P. 277
SRS エアバッグシステム(運転席用) P. 32
ドアミラー調節スイッチ P. 160
マスタードアロックスイッチ P. 135
パワーウィンドースイッチ P. 143
トランクオープナー P. 139
ボンネット解除ノブ P. 298
室内ヒューズボックス P. 358
ETC 車載器 ※1
パーキングブレーキスイッチ P. 274
ECON スイッチ P. 202
グローブボックス P. 171
発炎筒 P. 327

※1 ：ETC 車載器については、別冊の取扱説明書を参照してください。


ルームミラー P. 159
マップランプ P. 170
サンバイザー
バニティミラー
グラブレール
室内灯 P. 170
サイドカーテンエアバッグシステム P. 37
コートフック P. 175
ISOFIX/i-Size 取付装置 P. 54
リヤシート P. 166
シートベルト P. 25
サイドエアバッグシステム P. 35
フロントシート P. 162
アクセサリーソケット P. 176

ビジュアル目次





エンジンルーム内のメンテナンス P. 297

ワイパー P. 155, 306

ドアミラー P. 160

ドアミラーウィンカー P. 150, 302

ドアの施錠 / 解錠 P. 123

給油のしかた P. 286

ハイマウントストップランプ P. 304

トランクの開閉 P. 140

番号灯 P. 304

タイヤ P. 309, 328

サイドマーカーライト P. 148, 302

ヘッドライト P. 148, 301

アクセサリーライト / 車幅灯 P. 148, 150, 301

フォグライト P. 151, 301

尾灯 P. 148, 304

制動灯 P. 303

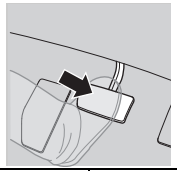
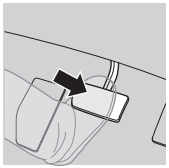
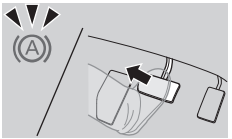
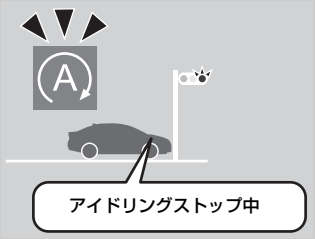
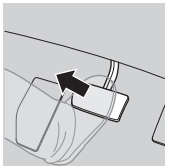
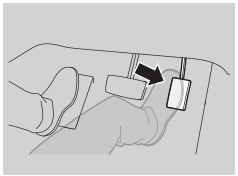
尾灯 P. 148, 304

後退灯 P. 303

ウィンカー P. 150, 301, 303

アイドリングストップシステム

燃費向上のために、下記の手順によりアイドリングストップしたり、エンジンが自動的に再始動するシステムです。
アイドリングストップしているときは、メーター内のアイドリングストップ表示灯(グリーン)が点灯します。P. 203

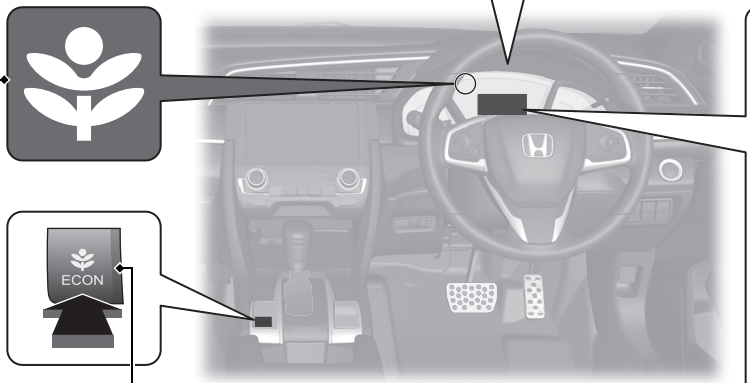
走行状態	操作		操作後のエンジンの状態
減速	停車してブレーキペダルを踏む。		
停車	ブレーキペダルを踏み続ける。	オートマチックブレーキホールドシステムがONの場合、メーター内のアイドリングストップ表示灯(グリーン)が点灯しているのを確認してブレーキペダルから足を離す。	
発進	ブレーキペダルを離す。	オートマチックブレーキホールドによりブレーキを保持した場合はアクセルペダルを踏む。	

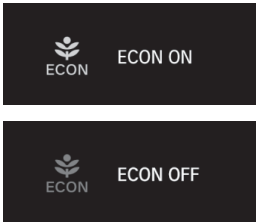
エコアシストシステム

アンビエントメーター

●運転の状態を表示します。省燃費状態の時はアンビエントメーターの色が緑色に変化します。







ECON スイッチを押すと、メッセージを数秒間表示します。

ECON スイッチ P.202

ECON スイッチを押すと、メッセージを数秒間表示します。

ECON 表示灯 P.76

ECON スイッチを押して、ECON モードにすると点灯します。

安全なドライブ P. 22

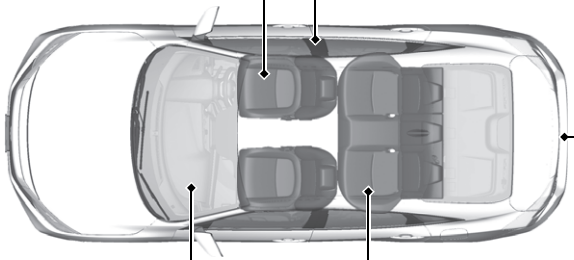


●正しい運転姿勢でシートベルトを着用してください。
●同乗者にも必ずシートベルトを着用させます。
●妊娠中のかたは腹部を圧迫しないようにシートベルトを着用してください。

運転を始める前の確認 P. 23

●運転前にフロントシートの位置、ヘッドレスト、ハンドルの位置、ミラー類の角度を調節します。

シートベルト P. 25



排気ガスについて P. 60

●車の排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれているため、ガレージなどの密閉された場所ではエンジンを始動させないでください。

お子さまの安全 P. 44

●シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。



エアバッグ P. 32

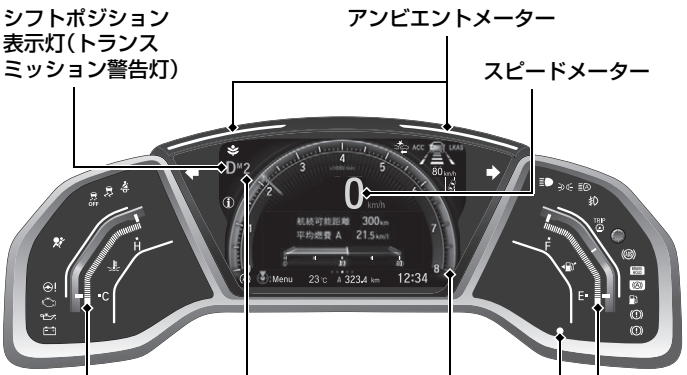
●万一の衝突の際に、乗員への衝撃を緩和するために、エアバッグが装備されています。

計器の見かた P. 61

警告灯 P. 62 表示灯 P. 73 メーター P. 93 マルチインフォメーションディスプレイ P. 95

警告灯 / 表示灯

- ECON 表示灯
- エアバッグシステム警告灯
- シートベルト非着用警告灯
- インフォメーション表示灯
- EPS システム警告灯
- VSA OFF 警告灯
- VSA 警告灯
- PGM-FI 警告灯
- 油圧警告灯
- 充電警告灯
- アイドリングストップ表示灯(グリーン)
アイドリングストップシステム OFF 表示灯(オレンジ点灯)
アイドリングストップシステム警告灯(オレンジ点滅)



警告灯 / 表示灯

- ACC 渋滞追従機能付 ACC 警告灯 / 表示灯
- LKAS LKAS 警告灯 / 表示灯

警告灯 / 表示灯

- CMBS 警告灯
- 路外逸脱抑制機能警告灯

ライト表示灯

- ハイビーム表示灯
- フォグライト点灯表示灯
- ライト点灯表示灯
- オートハイビーム表示灯

警告灯 / 表示灯

- 方向指示器 / 非常点滅表示灯
- 燃料残量警告灯
- ABS 警告灯
- BRAKE HOLD オートマチックブレーキホールドシステム表示灯
- オートマチックブレーキホールド表示灯
- ブレーキ警告灯(レッド)
- ブレーキシステム警告灯(オレンジ)

各部の操作 P. 118

時刻を合わせる P. 119



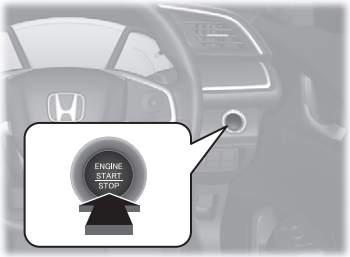
時計表示

Honda インターナビシステム装備車

時刻は人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。

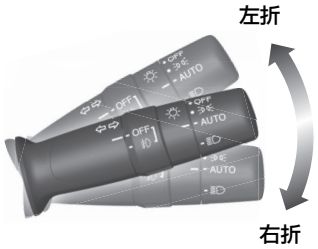
ENGINE START/STOP スイッチ P. 145

スイッチを押すと、パワーモードが切り換わります。



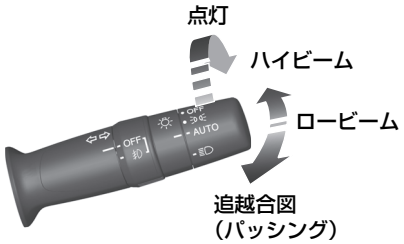
ウィンカー P. 150

方向指示器(ウィンカー)スイッチ



ライト P. 148

ライトスイッチ



ワイパー P. 155

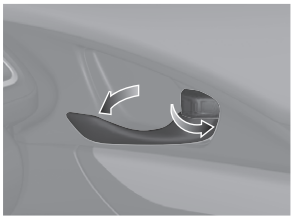
ワイパー/ ウォッシャースイッチ



- OFF 停止
- AUTO 自動作動
- LO 低速
- HI 高速

運転席ドアハンドルでの解錠 P.134

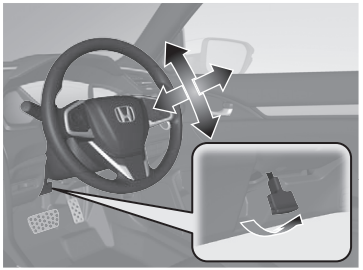
●運転席ドアは、内側のハンドルを引くと施錠していてもドアが開きます。



ハンドル位置の調節

P.158

●ハンドル位置調節レバーを引き上げ、ハンドルの位置を調節します。



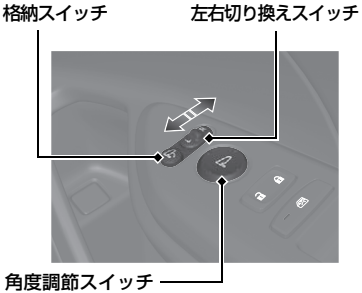
トランク P.138

●トランクは、運転席ドアにあるトランクオープナーを押すか、キーレスエントリーのトランク解錠ボタン、トランクオープンスイッチを押して開きます。



ドアミラー P.160

●パワーモードが ON モードのとき、左右のドアミラーの格納または角度の調節ができます。

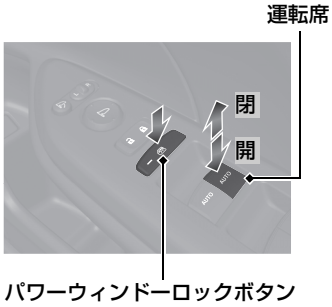


パワーウィンドー P.143

●パワーモードが ON モードのとき、ウィンドーの開閉ができます。

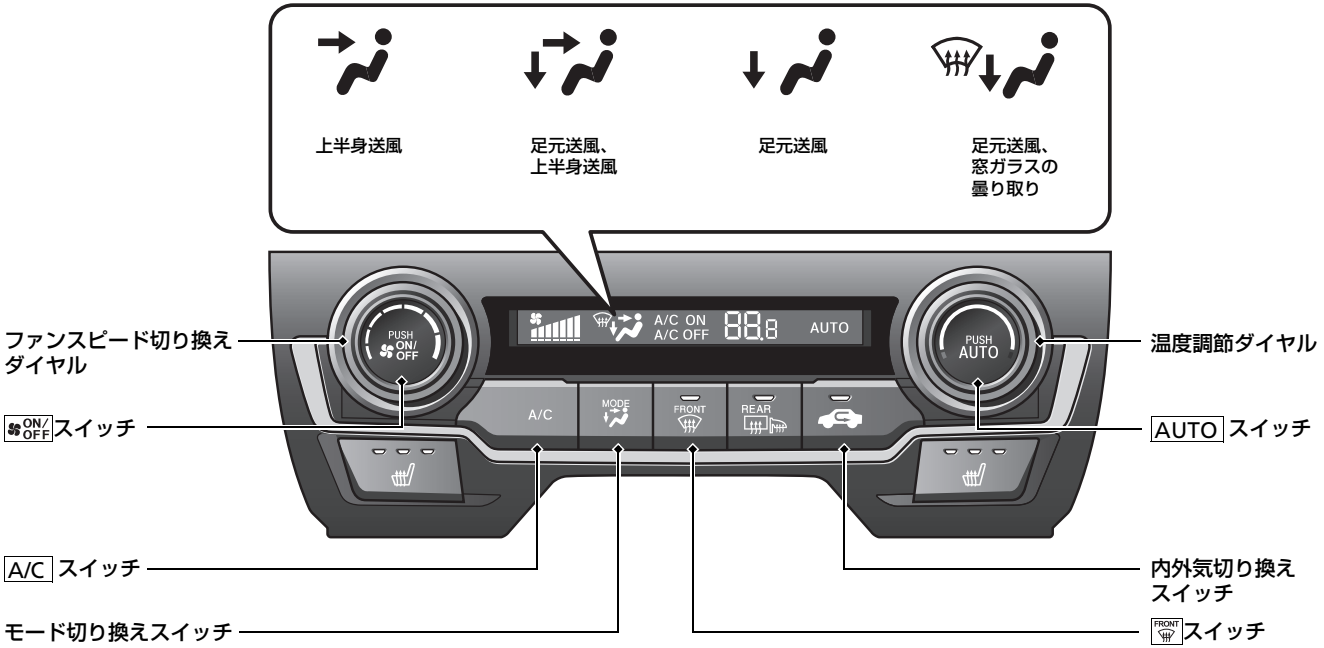
●パワーウィンドーロックボタンが OFF のとき、全てのウィンドーが操作できます。

●パワーウィンドーロックボタンが ON のとき、 運転席以外のウィンドーが非作動になります。



エアコン P. 178

●AUTO を押すと、オートエアコンが作動します。
●ON/OFFを押すと、止まります。
●前面ガラスの曇りを取るには、FRONTを押します。



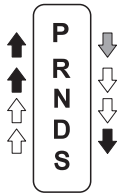
運転 P.185

無段変速オートマチック車 P.198

●セレクトレバーを P に入れ、ブレーキを踏みながらエンジンを始動します。

セレクトレバー

セレクトレバーの操作



ブレーキペダルを右足で踏み、ボタンを押して操作

ボタンを押して操作

ボタンを押さずそのまま操作



P パーキング
駐車またはエンジンの始動

R リバース
車を後退

N ニュートラル
アイドリング状態

D ドライブ
・通常走行
・一時的に 7 速マニュアルシフトモードにするとき

S ドライブ(S)
・高回転領域を有効に使用
・上り坂や下り坂を走行するとき
・7 速マニュアルシフトモードにするとき

7 速マニュアルシフトモード P.200

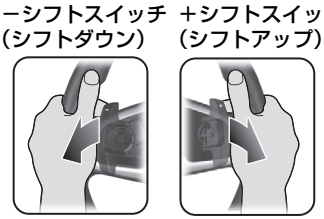
●ハンドルから手を放さずシフトスイッチを引いて、シフト操作ができます。

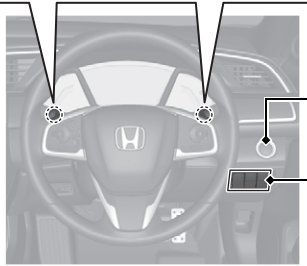
セレクトレバーが S のとき

● ハンドルにあるシフトスイッチを引くと、7 速マニュアルシフトモードになります。M(7 速マニュアルシフトモード)表示灯が点灯し、シフトインジケーターにギヤ位置が表示されます。

セレクトレバーが D のとき

● ハンドルにあるシフトスイッチを引くと、一時的に 7 速マニュアルシフトモードになります。シフトインジケーターにギヤ位置が表示されます。





CMBS の ON と OFF

P. 218

- CMBS は、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。
- エンジンを始動すると自動的に CMBS は ON になります。
- CMBS を停止(OFF)状態にするには、を「ピーッ」とブザーが鳴るまで押します。再度、使用(ON)にするにはを「ピーッ」とブザーが鳴るまで押します。

VSA の ON と OFF

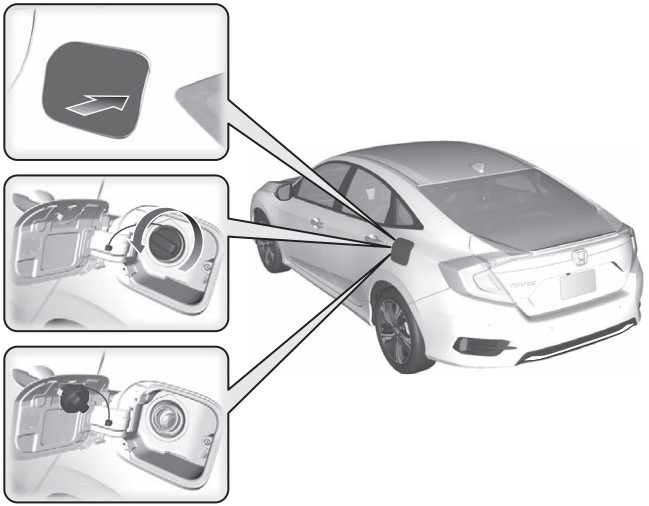
P. 210

- VSA とは、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。
- エンジンを始動すると自動的に VSA は ON になります。
- VSA を停止(OFF)状態にするには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。再度、使用(ON)するにはを「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。

ガソリンを入れる P. 285

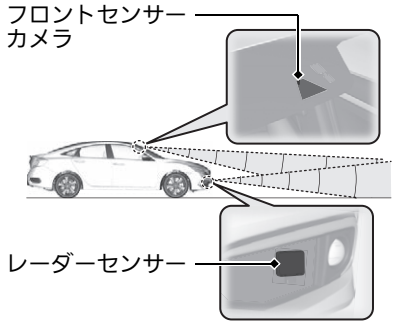
指定燃料：	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)
タンク容量：	47 リットル

1. 運転席のノブまたはマスタードアロックスイッチで解錠する。
   車内での施錠 / 解錠 P. 134
2. フューエルリッドの右端を「カチッ」と音がするまで押して、リッドを浮かせる。
3. ツマミをゆっくり回してキャップを開ける。
4. キャップをホルダーにかける。



ホンダセンシング P. 212

フロントロアグリルの奥に設置したレーダーセンサーと、フロントウインドウ内上部に設置したフロントセンサーカメラの、特性の異なる 2 種類のセンサーで構成された運転支援システムです。



衝突軽減ブレーキ（CMBS） P. 215

自車が、前方の車両のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車に正面から衝突するおそれがあるときおよび歩行者に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

歩行者事故低減ステアリング P. 222

歩行者と白線（黄線）を検出し、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

渋滞追従機能付 ACC（アダプティブ・クルーズ・コントロール） P. 228

先行車との車間距離を測定して、高速道路の渋滞時に適切な加減速を行い、設定車間距離を保持しながら、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに走行、停車出来るよう支援するシステムです。

LKAS（車線維持支援システム） P. 243

左右の白線（黄線）をとらえ、電動パワーステアリングの動きをアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

路外逸脱抑制機能 P. 254

車両の車線逸脱の可能性を検知すると、車線逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

先行車発進お知らせ機能

P. 261

信号待ちなどで、先行車が発進したことに気づかず停止し続けたときに、音と表示で運転者に知らせるシステムです。

標識認識機能 P. 265

走行中に認識した道路標識情報をマルチインフォメーションディスプレイに表示し、運転者にお知らせする機能です。

オートハイビーム P. 152

オートハイビームは夜間走行時に前方の状況によってヘッドライトのハイビームとロービームを自動的に切り換えるシステムです。

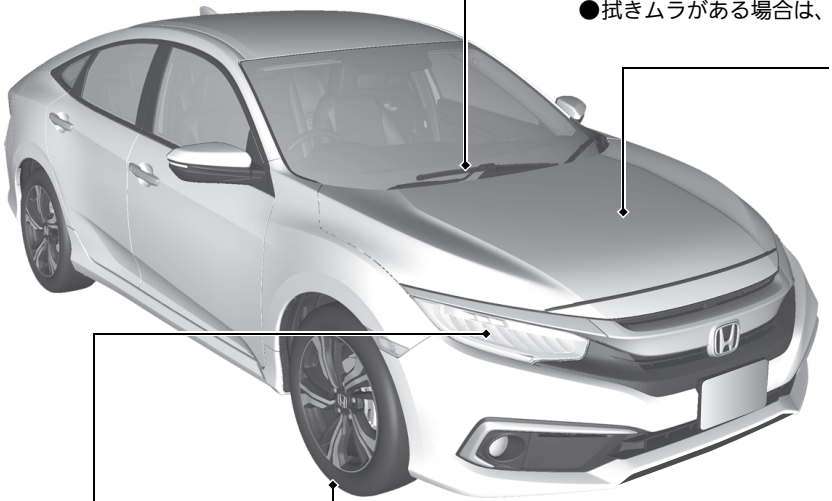
メンテナンス P. 290

ワイパーブレード P. 306

●拭きムラがある場合は、ワイパーブレードラバーを交換します。

エンジンルーム P. 297

●冷却水、ウォッシャー液の補給を行います。
●バッテリーを点検します。



タイヤ P. 309

●タイヤ、ホイールを点検します。
●降雪地域では、スノータイヤ、タイヤチェーンが必要です。

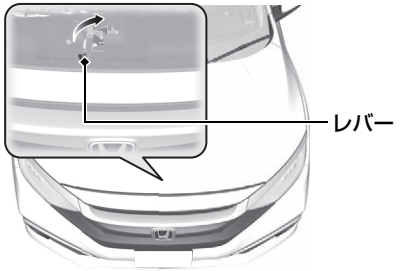
ライト P. 301

●制動灯、後退灯電球などの点検または交換を行います。
●電球の交換については、「メンテナンス」を参照してください。
●ヒューズの交換については、「万一の場合には」を参照してください。 P. 356

❶ 運転席足元のボンネット解除ノブを引く。



❷ レバーを上げボンネットを開ける。



万一の場合には P. 325

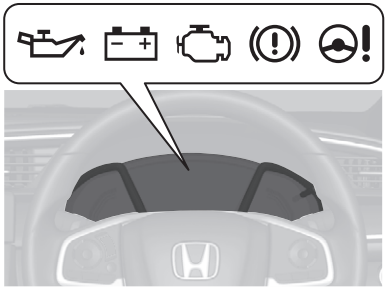
パンクした P. 328

●安全な場所に停車し、パンク修理キットで応急修理します。



警告灯が点灯した P. 351

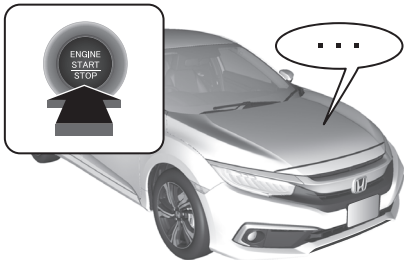
●詳細を確認し、取扱説明書にしたがってください。



エンジンが始動しない

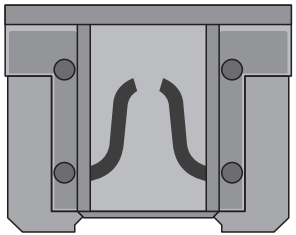
P. 342

●バッテリーあがりが考えられます。救援車のバッテリーを利用してエンジンを始動します。



ヒューズが切れた P. 356

●室内とエンジンルーム内にヒューズボックスがあります。切れているヒューズを取り換えます。



オーバーヒートした

P. 349

●安全な場所に停車し、蒸気が出ていなければボンネットを開けてください。



けん引してもらいたい

P. 361

●必ず専門業者に依頼してください。



こんなときは

Q **ENGINE START/STOP のパワーモードが OFF モードからアクセサリーモードにならない**

A
- ハンドルがロックされていませんか？
  ハンドルを左右に回しながら、
  ENGINE START/STOP を押してください。



Q **ENGINE START/STOP のパワーモードが OFF モードにならない**

A
- セレクトレバーが P 以外の位置になっていませんか？



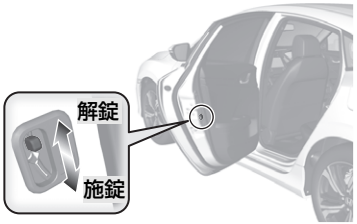
Q **ブレーキペダルを踏んだらガタガタと振動した**

A
- ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。
  これは ABS が作動しているときの現象で異常ではありません。
  そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。

ABS(アンチロックブレーキシステム) P. 280

Q **後席ドアが車内から開けられない**

A
- チャイルドプルーフが施錠の位置になっていませんか？
  後席ドアを外から開け、チャイルドプルーフのレバーを解錠の位置にしてください。



Q ドアを解錠したはずなのに施錠されている

A
- Honda スマートキーシステムで解錠してから、約 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。



Q 運転席ドアを開けるとブザーが鳴る

A
- パワーモードを OFF モード以外にしていませんか？
- ライトを消し忘れていませんか？
- アイドリングストップ中に運転席ドアを開けていませんか？

Q ドアを閉めた後、車から離れるとブザーが鳴る

A
- ドアが閉まりきる前に降車時オートドアロックの作動範囲から離れていませんか？

➔ 施錠するには（降車時オートドアロック機能）➔P.128

Q 走行するとブザーが鳴る

A
- 運転席または助手席シートベルトを着用していますか？

Q パーキングブレーキスイッチを押してもパーキングブレーキが解除できない

A
- ブレーキペダルを踏んでスイッチを操作していますか？

Q **アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが自動で解除できない**	**A** • 運転席シートベルトを着用していますか？ • セレクトレバーが P 、 N 以外になっていますか？
Q **走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がする**	**A** • ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。Honda 販売店で点検を受けてください。
Q **レギュラーガソリン仕様車にプレミアム(ハイオク)ガソリンを使用しても大丈夫ですか？**	**A** • プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠危険	指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの
⚠警告	指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの
⚠注意	指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

下記の表示を使って記載しています。

アドバイス
お車が故障や破損することを防ぐためのアドバイスや、環境への配慮のために守っていただきたいこと。

サービス診断記録装置について

この車には、システムを制御するためのコンピューターが搭載されており、次の内容をデータとして記録します。

- エアバッグシステムの故障診断情報
- エアバッグの作動に関する情報
- 動力伝達機構の状態
- 運転状態

HondaおよびHondaが委託した第三者は、記録されたデータを技術的な診断や Honda の車両の研究開発のために、取得、利用することがあります。
なお、会話等の音声や映像は記録されません。

データの開示について

HondaおよびHondaが委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示、提供することはありません。

- お車の所有者または使用者の同意がある場合
- 裁判所命令等、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う等、使用者や車が特定できないように加工したデータを、研究機関等に提供する場合

目次

安全なドライブ P.22

安全なドライブのために 23　シートベルト 25　エアバッグ 32
ポップアップフードシステム 41　お子さまの安全 44　排気ガスの危険性 60

計器の見かた P.61

警告灯と表示灯 62　メーターとマルチインフォメーションディスプレイ 93

各部の操作 P.118

時刻の設定 119　ドアの施錠と解錠 123　トランクの開閉 138　セキュリティシステム 141
ウィンドーの開閉 143　ハンドルまわりのスイッチ操作 145　ミラー類の調節 159
シートの調節 162　室内装備品 170　エアコン 178

オーディオ P.183

運転 P.185

運転の前に 186　運転操作 189　ホンダセンシング 212　ブレーキ操作 274
駐停車操作 283　給油 285　ターボ車について 289

メンテナンス P.290

メンテナンスの前に 291　オイルモニターシステム 294　エンジンルーム内のメンテナンス 297
電球の交換 301　ワイパーブレードラバーの点検と整備 306　タイヤの点検と整備 309
Honda スマートキー 314　エアコンのお手入れ 316　清掃 318　アクセサリーと改造 323

万一の場合には P.325

工具、発炎筒 326　パンクしたとき 328　ジャッキの取り扱い 340　エンジンが始動しない 342
ジャンプスタート 345　セレクトレバーが動かない 348　オーバーヒート 349　警告灯の点灯 / 点滅 351
ヒューズ 356　けん引 361　フューエルリッドが解錠できないとき 364
トランクが開かないとき 365

資料 P.366

仕様 367

車の仕様などの変更により、この本の内容と実車が一致しない場合がありますのでご了承ください。



安全なドライブ

この章には、安全運転のために必要な重要情報が記載されています。運転を始める前によくお読みいただき、運転者と同乗者の安全を確保してください。

安全なドライブのために 23
シートベルト
シートベルトについて 25
シートベルトの着用 28
シートベルトの点検 31
シートベルトのアンカーポイント 31
エアバッグ
エアバッグの種類 32
SRS エアバッグ 32
サイドエアバッグ 35
サイドカーテンエアバッグ 37
エアバッグシステム警告灯 39
エアバッグのお手入れ 40
ポップアップフードシステム
ポップアップフードシステムのしくみ 41
ポップアップフードシステムのお手入れ 43
お子さまの安全 44
乳幼児の安全 46
大きなお子さまの安全 58
排気ガスの危険性
一酸化炭素について 60

安全のための確認事項

安全なドライブのために、走行前に下記の項目を確認してください。

- ドア、トランクは完全に閉まっているか？
  ▶すべてのドア、トランクが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認してください。
  車内での施錠 / 解錠 P.134
- 運転しやすい姿勢にシート位置を調節しているか？
  ▶正しい運転姿勢がとれるよう、シート位置やヘッドレストの調節をしてください。
  フロントシート P.162
- 同乗者のシートも、安全が保たれるよう調節しているか？
  ▶ダッシュボードからできるだけ離れた位置までシートを下げてください。
  フロントシート P.162
- 乗員全員が正しくシートベルトを着用しているか？
  ▶運転者と乗員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
  シートベルトの着用 P.28
- エアバッグシステム警告灯などが点灯していないか？
  ▶エアバッグに関する説明をあらかじめお読みいただき、シートの位置などを調節してください。
  エアバッグ P.32
- お子さまの安全を守るために、チャイルドシートやシートベルトを着用しているか？
  ▶お子さまが同乗する場合は、お子さまの年齢や身長・体重に応じてチャイルドシートやシートベルトなどで安全を確保するようにしてください。
  お子さまの安全 P.44

次ページに続く

安全のための確認事項

ドアやトランクが開いていたり、完全に閉まっていないと警告表示がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。
ドア、トランクをもう一度正しく閉め直してください。警告表示は消灯し、正常な状態に戻ります。
マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ P.78

- 坂道で駐車するときは、パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを P にしているか？
  ▶ さらにタイヤに輪留めをすると効果があります。
  ➡ **シフト操作** P.198
- 車から離れるときは、お子さまや介護を必要とされる方、ペットを車内に残していないか？
  ▶ 炎天下などでは車内が高温になることがあります。車内にお子さまや介護を必要とされる方、ペットを残したままにしないようにしてください。

シートベルトについて

シートベルトは、シートに体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

■三点式シートベルト

体の動きに合わせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。
すべての席に三点式シートベルトが装備されています。

■シートベルトの着用

シートベルトの着用にあたっては、以下の点に注意してください。

- 運転者は正しい運転姿勢で、シートベルトを必ず着用
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用
- 1本のシートベルトを2人以上で使用しない
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけない

シートベルトについて

⚠警告

シートベルトは乗員全員が必ず正しく着用する。
シートベルトを正しく着用しないと、エアバッグが装備されていても、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

乗車中は正しい姿勢を保つ。
正しい姿勢ですわらないと、衝突したときに傷害を受ける危険性が高くなります。

シートベルトを着用した状態で事故にあったときは、Honda 販売店で点検を受け、ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトがロックした場合、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ベルトをゆっくり引き出してください。

次ページに続く

■シートベルトリマインダー



■フロントシート

パワーモードをONモードにしたときや走行したとき、運転席または助手席のシートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、ブザーと警告灯でお知らせします。
マルチインフォメーションディスプレイにも警告が表示されます。



■リヤシート

パワーモードがONモードのときに、後席ドアを開閉すると、リアシートベルトを着用するまでマルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されます。

▶シートベルトリマインダー

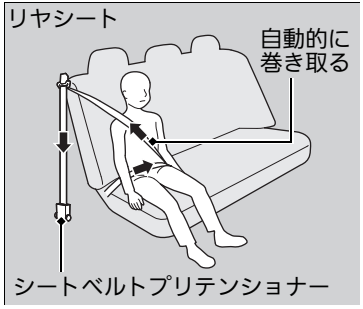
- 運転席または助手席のシートベルトを着用せずに走行した場合、停車するとブザーは止まります。また、走行している場合でも一定時間を超えるとブザーは止まります。
- 助手席シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅しブザーが鳴ることがあります。
- 助手席にお子さまや小柄な方を乗せたりクッションなどを使用すると、センサーが乗員を検知せず正常に作動しないことがあります。

セレクトレバーを R に入れたときは後退位置警報装置のチャイムが鳴るため、シートベルト非着用の警告ブザーは鳴りません。

■シートベルトプリテンショナー

フロントシートおよび左右のリヤシートにシートベルトプリテンショナーを装備しています。
シートベルトプリテンショナーは、一定以上の前方向や側面からの衝撃を受けると自動的にシートベルトを引き込み、拘束します。





シートベルトプリテンショナー

⚠注意

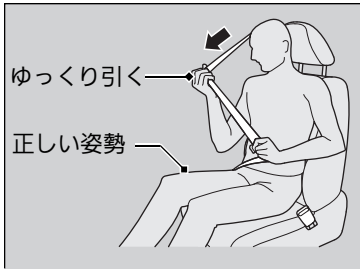
シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしない。
誤作動や故障の原因となります。

シートベルトプリテンショナーは、一度作動すると使用できません。
衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動するとエアバッグシステム警告灯が点灯します。
衝突したときは、Honda 販売店で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

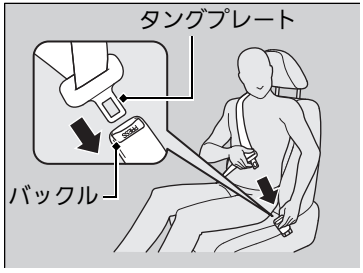
側面からの衝突により、シートベルトプリテンショナーが作動します。

SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーはかならずしも同時に作動しません。

シートベルトの着用



1. 正しい姿勢でシートにすわる。
2. シートベルトをゆっくり引き出す。



3. タングプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないようにしてください。

▩シートベルトの着用

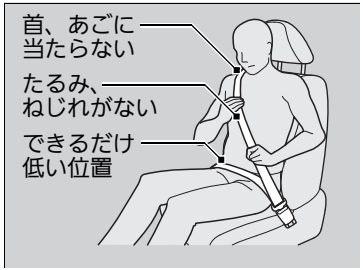
⚠注意

肩ベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。
シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず衝突時などに、けがをするおそれがあります。

シートベルトを外すには、バックルの赤色の PRESS を押してください。
そのとき、ベルトが完全に収納されるようベルトに手を添えてください。

シートベルトを十分に機能させるため、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。

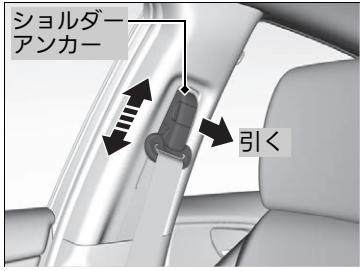
シートベルトの分解、改造はしないでください。正常に作動しないおそれがあります。



4. シートベルトが正しく着用できているか確認する。
- ▶肩ベルトは鎖骨の中心を通るように合わせ、首やあごに当たらないようにしてください。
- ▶腰ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に合わせてください。
- ▶ベルトにたるみやねじれがないようにしてください。

5. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

■ショルダーアンカーの高さ調節



フロントシートのシートベルトは、座高に合わせて、ショルダーアンカーの高さを調節してください。

1. ショルダーアンカーの解除ボタンをつまんで手前に引きながら、アンカーを上下に動かす。
2. ちょうどよい高さで解除ボタンを離し、ショルダーアンカーを固定する。

»ショルダーアンカーの高さ調節

⚠注意

調節後は、ショルダーアンカーが確実に固定されているか確認する。

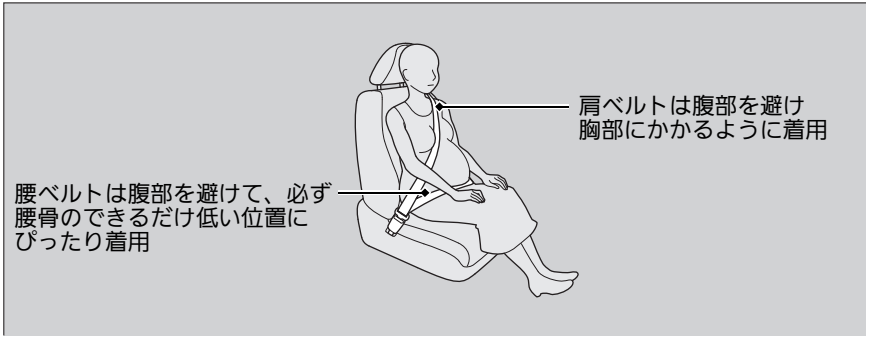
安全性を高めるため、肩ベルトが肩から胸にかかっていることを確認してください。

ベルトが首やあごに当たるときは、下げて調節してください。

次ページに続く

■妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

妊娠中のかたが運転または同乗するときは、ご自身と赤ちゃんを守るために、常に三点式シートベルトを着用してください。



▶妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

⚠注意

妊娠中のシートベルト着用は、医師に確認する。
万一のとき、腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがあります。

妊娠中のかたは以下の点を注意してください。万一の衝突時にフロントエアバッグによって、ご自身と赤ちゃんが傷害を受ける危険性が軽減されます。

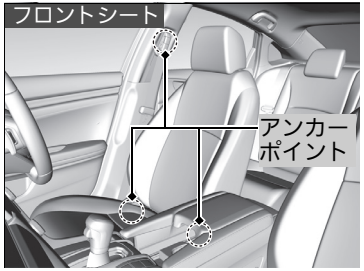
- 運転するときは上体を起こして、運転に支障のない範囲でシートをなるべく後ろに下げる
- 助手席にすわる場合も、シートはできるだけ後ろに下げる

シートベルトの点検

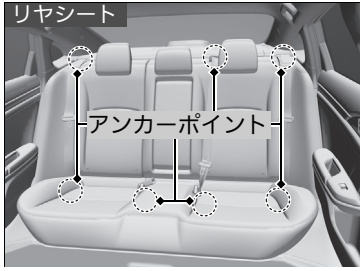
シートベルトを安全にお使いいただくために、定期的な点検を行ってください。点検の確認ポイントは下記のとおりです。

- すべてのベルトをいっぱいまで引き出し、ほつれ、破れ、焼けこげ、すり切れがないか？
- バックルが確実に固定されるか？
- ベルトがスムーズに巻き取られるか？

シートベルトのアンカーポイント



シートベルトを交換する場合、図の中で示されるアンカーポイントを使用してください。
フロントシートには三点式シートベルトが使われています。



リヤシートには三点式シートベルトが使われています。

シートベルトの点検

ベルトがスムーズに巻き取られない場合、ベルトが汚れていないことを確認してください。
ベルトが汚れているとスムーズに巻き取られない場合があります。まず、ベルトに汚れがないか確認してください。汚れを落とすと動きが元に戻ることがあります。

ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

エアバッグの種類

エアバッグは、パワーモードが ON モードのときに車体が衝突による衝撃を受けると膨らみ、運転者および同乗者の受ける衝撃を緩和させます。
エアバッグには下記の種類があり、衝突の方向や条件などにより作動が異なります。

- **SRS エアバッグ**：フロントシートの前方向エアバッグ
- **サイドエアバッグ**：フロントシートの横方向エアバッグ
- **サイドカーテンエアバッグ**：窓側の天井部両側についたエアバッグ

SRS エアバッグ

運転席と助手席についています。前方向からの衝突により、SRS エアバッグが膨らんで運転者と助手席の同乗者の頭と胸部への衝撃を緩和します。

SRS：サプリメンタルレストレイントシステム(Supplemental Restraint System)の略で、シートベルトの補助拘束の意味。

■格納場所

運転席側はハンドルの中央、助手席側はダッシュボードに SRS エアバッグが格納されています。どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

■作動のしくみ

SRS エアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で前方向から衝突したときです。このとき、センサーが衝突による急激な減速を検知し、コントロールユニットのはたらきにより運転席と助手席の SRS エアバッグが膨らみます。

▶エアバッグの種類

⚠警告

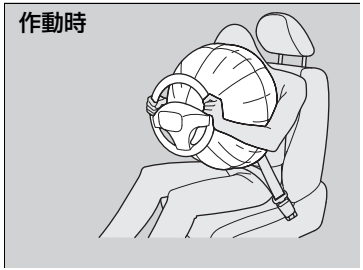
エアバッグ装備車でもシートベルトは必ず使用する。
エアバッグは、衝撃を緩和するためのシステムで、シートベルトの補助拘束具です。エアバッグ装備車であっても、必ず正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しないと、衝突時にエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

⚠注意

エアバッグが膨らんだ直後は、構成部品に触れない。
エアバッグの構成部品が熱くなっているため、やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

エアバッグは非常に速い速度で膨らみます。
エアバッグとの接触により、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

■ SRS エアバッグの作動



前方向から衝突すると、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束し、SRSエアバッグが頭と胸部を保護します。

運転者の視界を妨げたり、ハンドル操作の邪魔にならないように、SRSエアバッグは膨らんだあとすぐにしぼみます。

SRS エアバッグは、次のような場合に作動します。

- 20～30km/h以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき
- 車両の前方左右約 30 度以内の方向から強い衝撃を受けたとき

衝撃を吸収できるもの(車やガードレールのように変形するもの)に衝突した場合、作動するときの車速は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、SRS エアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

SRS エアバッグの作動

⚠警告

インストルメントパネルに手をついたり頭や胸を近づけた状態で乗車しない。
SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

ハンドルやインストルメントパネル上面に、ステッカーを貼ったり、ものを置いたりしない。
SRSエアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときに置いたものが飛んで運転者や同乗者がけがをする原因になります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。
この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認後、ただちに車外に出てください。

次ページに続く

次のような場合、SRS エアバッグが作動しないことがあります。
- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小とSRS エアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。
- 横方向からの衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、SRS エアバッグが作動することがあります。

SRS エアバッグの作動

⚠注意

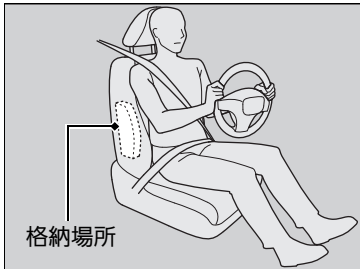
SRSエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。

サイドエアバッグ

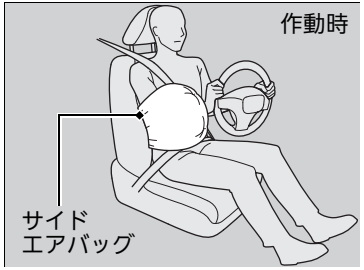
フロントシートの背もたれの外側にあるエアバッグです。
側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者と助手席の同乗者の胸部への衝撃を緩和します。

■格納場所



運転席、助手席ともにシートの背もたれ外側に格納されています。
どちらも「SIDE AIRBAG」と表示されています。

■作動のしくみ



センサーが一定以上の衝撃で側面方向から衝突を検知し、コントロールユニットのはたらきにより検知した側のサイドエアバッグが膨らみます。

次ページに続く

サイドエアバッグ

⚠注意

ドアやその周辺にアクセサリーなどを取り付けたり、ものを置いたりしない。
正常に作動しなかったり、作動時にこれらのものが飛ぶことがあります。

サイドエアバッグ収納部に衝撃や無理な力を加えない。

サイドエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。
サイドエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。
フロントシートへのシートカバー装着にあたってはHonda販売店にご相談ください。

■作動条件

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、サイドエアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、サイドエアバッグが作動しないことがあります。

- 乗員付近以外の側面への衝突

サイドエアバッグは乗員の受ける衝撃の大きさによって作動するようになっていますので、車両の損傷状態の大小とサイドエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

- 正面衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、サイドエアバッグが作動することがあります。

サイドエアバッグ

⚠注意

ドアに寄りかからない。
サイドエアバッグの格納部に手や顔を必要以上に近づけない。
後席の同乗者は、フロントシートの背もたれを抱えない。
サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け傷害を受けるおそれがあります。

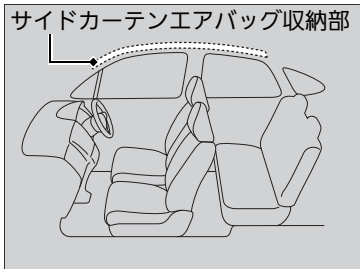
サイドエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。
この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認したら、ただちに車外に出てください。

サイドカーテンエアバッグ

窓側の天井部にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、乗員の頭部への衝撃を緩和します。

■格納場所



運転席側、助手席側ともに窓側の天井部に格納されています。
どちらも「SIDE CURTAIN AIRBAG」と表示されています。

サイドカーテンエアバッグ

⚠注意

サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりすることがあるので、以下のことに注意する。

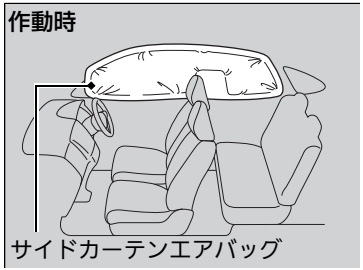
- フロントガラス、ドアガラス、フロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーなどを取り付けない
- グラブレールにものをかけない
- コートフックに重いものやとがったものをかけない

サイドカーテンエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。
サイドカーテンエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

サイドカーテンエアバッグは衝撃を受けた側のみ作動します。
サイドカーテンエアバッグは側面からの衝突に対して作動するため、衝撃を受けた側のみ作動します。また、助手席側が衝撃を受けた場合は、助手席側に乗員がいないときでもサイドカーテンエアバッグが作動します。

次ページに続く

■作動のしくみ



サイドカーテンエアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で側面方向から衝突したときです。運転席側または助手席側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

■作動条件

サイドカーテンエアバッグの作動条件は、サイドエアバッグと同じ条件です。

➔ **作動条件** P.36

■前方向から衝突したときの作動

前方向からの衝突時、横方向に一定以上の力がかかると、SRS エアバッグが膨らんだあと必要な側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

▶サイドカーテンエアバッグ

⚠注意

サイドカーテンエアバッグ収納部に衝撃を加えない。
収納部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、Honda 販売店で交換してください。

サイドカーテンエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

エアバッグシステム警告灯

エアバッグやシートベルトプリテンショナーの異常などを、警告灯やマルチインフォメーションディスプレイで知らせます。

■エアバッグシステム警告灯



■パワーモードを ON モードにしたとき

パワーモードを ON モードにすると、エアバッグシステム警告灯が数秒間点灯し、消灯すれば正常です。

■異常が発生したとき

エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常があるときに点灯します。

エアバッグシステム警告灯

⚠警告

エアバッグシステム警告灯を無視しない。
エアバッグシステム警告灯を無視すると、エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが正しく機能せず、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。エアバッグシステム警告灯が点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグシステム警告灯が点灯状態のときは、Honda 販売店で点検を受けてください。
パワーモードを ON モードにしたときにエアバッグシステム警告灯が点灯しない場合も、エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常がある可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグのお手入れ

エアバッグシステムは、メンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。ただし、以下の場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

■エアバッグが作動し、膨らんだとき

一度作動したエアバッグは、コントロールユニットやその他の関連部品とともに必ず交換する必要があります。
また、シートベルトプリテンショナーも同様に、一度作動した場合は新品と交換する必要があります。

エアバッグが作動し、膨らんだとき

エアバッグ関連部品の再利用はしないでください。

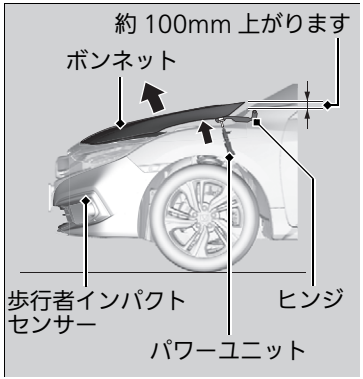
ポップアップフードシステムのしくみ

ポップアップフードシステムは前方向からの衝突時にボンネットを持ち上げてエンジンルーム内の空間を確保し、歩行者の頭部への衝撃緩和を補助します。

■作動のしくみ

設定速度以上の走行時に車両が歩行者やその他の物体に衝突したときに作動します。

■どのように作動するか



歩行者インパクトセンサーが一定以上の衝撃を検知すると、ポップアップフードシステムが作動し、ボンネットの後部が持ち上がります。

▶ポップアップフードシステムのしくみ

⚠警告

ポップアップフードシステムが作動した後は、パワーユニットが非常に熱くなっているため、やけどをするおそれがあります。冷めるまではパワーユニットに触れないでください。

ポップアップフードシステムが作動した後はボンネットを開けないでください。システム作動後、持ち上がったボンネットが視界の妨げにならないことを確認した後、速度を落とし十分に注意して運転してください。

ボンネットが完全に閉まっていないと、十分な効果を得られない場合があります。
走行前にボンネットが完全に閉まっていることを確認してください。

次ページに続く

システムは以下の状況でも作動することがあります。
- 車両下側に大きな衝撃を受けたとき
- 高速で突起物の上を乗り越えたとき、または深い溝の上を乗り越えたとき
- 歩行者インパクトセンサーに物がぶつかったとき

システムは以下の状況では作動しないことがあります。
- 後部または横方向からの衝突
- 横転または転覆
- 斜め方向や横からの歩行者との衝突

ポップアップフードシステムは、衝突時の位置、角度、車速などその他の条件によって作動しないことがあります。

≫ポップアップフードシステムのしくみ

ポップアップフードシステムが正常に機能するために、以下のことをお守りください。
- 四輪とも同一指定サイズのタイヤをお使いください。サイズの異なるタイヤを使用すると、システムが車両速度を誤認識することがあります。
- パワーユニットに荷重を加えないでください。ボンネットを激しく閉めるとパワーユニットが損傷するおそれがあります。
- フロントバンパー内の歩行者インパクトセンサーに衝撃を与えないでください。

■ポップアップフードシステム警告表示



■パワーモードをON モードにしたとき

ポップアップフードシステムに異常があると考えられる場合、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されます。

ポップアップフードシステムのお手入れ

ポップアップフードシステムは、お客様自身でのメンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。

ただし、ポップアップフードシステムが作動したときは、Honda 販売店でコントロールユニットやその他の関連部品の交換を依頼してください。

ポップアップフードシステム警告表示

⚠警告

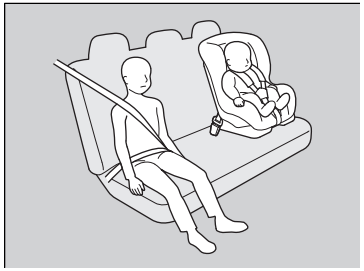
警告表示を無視すると、ポップアップフードシステムの異常につながることがあります。
異常が発生すると、歩行者との衝突時に、歩行者の深刻な傷害や死亡につながるおそれがあります。
ポップアップフードシステムの警告が表示されたときはすみやかに Honda 販売店で点検を受けてください。

ポップアップフードシステムのお手入れ

フロントバンパー周辺を損傷したときは、システムが作動していなくても Honda 販売店で点検を受けてください。

お子さまの安全を守るために

お子さまが乗車するときは、下記の注意点を確認し、お子さまの安全を確保してください。



- お子さまはリヤシートに乗せる
  ▶ お子さまを助手席に乗せると、不意の動作が気になったり、スイッチ類をいたずらしたりするなど運転の妨げになるおそれがあります。
  また、SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃があります。
- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる
  ▶ お子さまを抱えたり、ひざの上に乗せないでください。衝突したときに支えることができません。正しい着用方法でお子さまにもシートベルトをしてください。
- 乳幼児にはチャイルドシートを使用する
  ▶ 乳幼児を乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用します。
- 車外に手や顔、ものを出さない
  ▶ 走行中や一時停止時などに、お子さまが車外に手や顔、ものなどを出さないようにしてください。思わぬ障害物により事故のおそれがあります。
- ドア、ウィンドー、シートなどの操作は必ず大人が行う
  ▶ 思わぬけがの原因となりますので、お子さまにはドア、ウィンドー、シートなどの操作をさせないでください。

お子さまの安全を守るために

⚠警告

チャイルドシートは後席に設置する。
助手席に設置するとSRSエアバッグが作動したときの衝撃で、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。

⚠警告



シート前方の作動可能なエアバッグで保護されたシートには、後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。
お子さまが死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。

- 車を離れるときは、お子さまを連れて出る
  ▶ お子さまだけを車内に残さないでください。特に、炎天下の車内は高温になります。また、お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

お子さまの安全を守るために

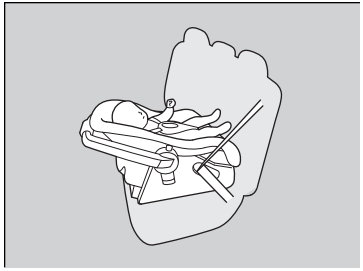
お子さまを助手席に乗せることをおすすめしない理由は下記の通りです。

- お子さまが助手席のシートに正しく乗車できないと、SRSエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある
- お子さまの体の一部がサイドエアバッグの作動範囲に入ると、サイドエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある

乳幼児の安全

■乳児のチャイルドシート

首のすわっていない乳児は、乳児用のチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■後ろ向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートに設置することができます。

- ▶推奨するのは、助手席の真後ろの席への設置です。その場合、助手席には人を乗せず助手席のシートをできるだけ前に出してください。
- ▶設置したチャイルドシートとフロントシートが接触していないことを確認してください。

≫乳児のチャイルドシート

⚠警告

後ろ向きのチャイルドシートを前向きにして使わない。

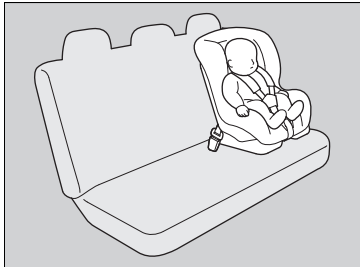
前向きにして使うと前方から衝突したときに、乳児が重大な傷害を負うおそれがあります。

後ろ向きのチャイルドシートは助手席に設置しない。

助手席の SRS エアバッグが膨らんだときに、チャイルドシートの背面にエアバッグが当たり、乳児が重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

■幼児のチャイルドシート

チャイルドシートメーカーが指定する範囲内の幼児は、前向きのチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■前向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートへの設置を推奨します。

幼児のチャイルドシート

⚠警告

助手席に前向きのチャイルドシートを設置しない。

助手席に前向きのチャイルドシートを設置すると、助手席のシートが前に出すぎていたり、衝突したときに幼児の頭が前に投げ出されるとSRSエアバッグで強い衝撃を受けるため、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

やむをえず助手席に前向きのチャイルドシートを設置する場合は、助手席のシートをできるだけ後ろに下げて設置してください。

次ページに続く

■チャイルドシートの選びかた

チャイルドシートを購入するときは、シートベルト固定タイプチャイルドシートまたは ISOFIX/i-Size チャイルドシートをお選びください。
シートベルト固定タイプチャイルドシートは、シートベルトを用いて座席に固定します。
ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、リヤシート外側 2 座席に付属している下部取付金具と、トップテザー取付金具またはサポートレッグで固定するため取り付けが簡単です。

■チャイルドシート選択の条件

チャイルドシートが適切な保護効果を発揮するためには、以下の3つの条件を満たしている必要があります。

- チャイルドシートが一覧表に案内されているお子さまに合ったタイプとサイズであること
- チャイルドシートが取り付ける車の座席にあったものであること
- チャイルドシートが安全基準に適合したものであること。
  UN R44/R129 に適合したチャイルドシートをお勧めします。

■チャイルドシートの規格

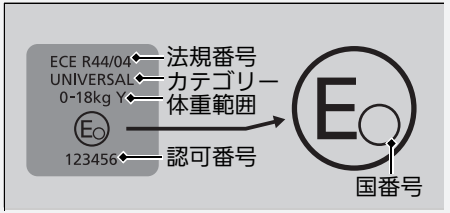
UN 基準の認可を受けたシートベルト固定タイプチャイルドシートまたは ISOFIX/i-Size チャイルドシートには、認可マークが表示されています。チャイルドシートについている認可マークを確認してください。

▶チャイルドシートの選びかた

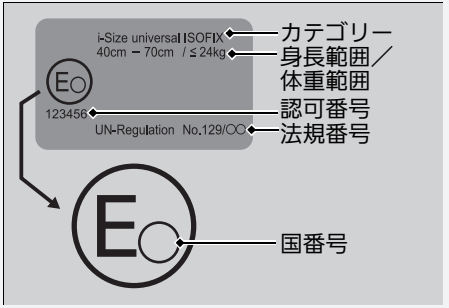
ISOFIX/i-Sizeチャイルドシートは取り付けが簡単です。
ISOFIX/i-Size チャイルドシートは取り付けを簡単にすることで、不適切な取り付けが原因で起きる傷害を減らすために開発されたものです。

Honda 純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

UN R44 認可表示(例)



UN R129 認可表示(例)



■ ISOFIX/i-Size チャイルドシートについて

この車のリヤシートの外側 2 座席には、ISOFIX/i-Size チャイルドシートを取り付けるための下部取付金具とトップテザー取付金具を装備しています。
次ページの表を参照して、それぞれの着席位置で、どのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

ISOFIX/i-Size チャイルドシートについて

チャイルドシートをご購入する際は、ISOFIX サイズ等級に一致したものをお選びください。

固定具	お子さまの大きさ	使用の向き	形状、大きさ
ISO/L1	乳児	左	寝台式
ISO/L2	乳児	右	寝台式
ISO/R1	乳児	後ろ	—
ISO/R2	幼児	後ろ	小型
ISO/R3	幼児	後ろ	大型
ISO/F2	幼児	前	低型
ISO/F2X	幼児	前	低型
ISO/F3	幼児	前	全高

次ページに続く

■ISOFIX チャイルドシート

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

ISOFIX チャイルドシート 重量区分	サイズ等級	固定具	座席位置 前席 助手席	後席 左席	後席 右席	後席 中央席	推奨チャイルドシート ※1
キャリコット	F	ISO/L1	X	X	X	X	—
	G	ISO/L2	X	X	X	X	—
グループ 0 ～ 10kg	E	ISO/R1	X	IL	IL	X	Honda ISOFIX Neo(後ろ向き)
グループ 0 ＋ ～ 13kg	E	ISO/R1	X	IL	IL	X	Honda ISOFIX Neo(後ろ向き)
	D	ISO/R2	X	IL	IL	X	Honda ISOFIX Neo(後ろ向き)
	C	ISO/R3	X	IL	IL	X	Honda ISOFIX Neo(後ろ向き)
グループ I 9kg ～ 18kg	D	ISO/R2	X	IL	IL	X	—
	C	ISO/R3	X	IL	IL	X	—
	B	ISO/F2	X	IUF	IUF	X	Honda ISOFIX Neo(前向き)
	B1	ISO/F2X	X	IUF	IUF	X	Honda ISOFIX Neo(前向き)
	A	ISO/F3	X	IUF	IUF	X	Honda ISOFIX Neo(前向き)
グループ II 15kg ～ 25kg	—	—	X	X	X	X	—
グループ III 22kg ～ 36kg	—	—	X	X	X	X	—

ISOFIX/i-Size チャイルドシートについて

Honda 純正 Honda Baby ISOFIX または Honda ISOFIX Neo のご購入は Honda 販売店にご相談ください。

記号の説明

IUF ：汎用(ユニバーサル)ISOFIX チャイルドシートを前向きに備えることができることを示す。

IL ：添付のリストに記載された特定 ISOFIX 幼児拘束装置(CRS)が備えることができることを示す。この ISOFIX CRS は「特定」「限定」または「準汎用」カテゴリーのものである。

X ：ISOFIX チャイルドシートを装備できないことを示す。

※1 ：ホンダ推奨の純正チャイルドシートです。詳しくは販売店にお問い合わせください。
他のチャイルドシートも使用に適しているものもありますが、チャイルドシートメーカーにご確認ください。

■i-Size チャイルドシート

	着席位置				推奨チャイルドシート ※1
	前席	後席			
	左席	左席	右席	中央席	
i-Size チャイルドシート	X	i-U	i-U	X	Honda Baby&Kids i-Size

記号の説明

i-U ：前向き及び後ろ向きの i-Size「汎用」幼児拘束装置に適している。

X ：i-Size「汎用」幼児拘束装置には適さない着席位置

※1 ：ホンダ推奨の純正チャイルドシートです。詳しくは販売店にお問い合わせください。
他のチャイルドシートも使用に適しているものもありますが、チャイルドシートメーカーにご確認ください。

次ページに続く

■シートベルトで固定するチャイルドシートについて

この車には様々なタイプのチャイルドシートが利用可能ですが、すべてのタイプが適当であるというわけではありません。
次ページの表を参照して、それぞれの着席位置で、どのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

シートベルトで固定するチャイルドシートについて

チャイルドシートに関する国連の安全基準であるUN R44に適合しているチャイルドシートには、シートベルトで固定する機構が付いています。

チャイルドシートをご購入する際は、重量グループに一致したものをお選びください。

チャイルドシートの種類や取り付けの向きにより固定金具(ロッキングクリップ)が必要になる場合があります。

■シートベルト固定タイプチャイルドシート

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

ベルト固定タイプ チャイルドシート 重量区分	座席位置				推奨チャイルドシート※1
	前席 助手席	後席 左席	後席 右席	後席 中央席	
グループ 0 ～ 10kg	X	U	U	U	Honda スタンダード
グループ 0 ＋ ～ 13kg	X	U	U	U	Honda スタンダード
グループ I 9kg ～ 18kg	UF※2	U	U	U	Honda スタンダード
グループ II 15kg ～ 25kg	UF※2	U	U	U	Honda ジュニアシート
グループ III 22kg ～ 36kg	UF※2	U	U	U	Honda ジュニアシート

記号の説明

U　：汎用(ユニバーサル)チャイルドシートを備えることができることを示す。

UF　：汎用(ユニバーサル)チャイルドシートを前向きに備えることができることを示す。

X　：チャイルドシートを装備できないことを示す。

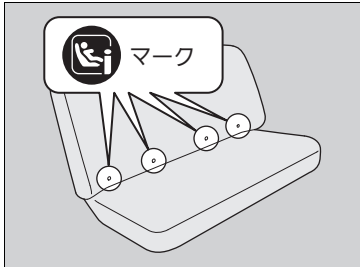
※1 ：ホンダ推奨の純正チャイルドシートです。詳しくは販売店にお問い合わせください。
　　他のチャイルドシートも使用に適しているものもありますが、チャイルドシートメーカーにご確認ください。

※2 ：シートの前後位置を最後方位置に調整し、シートバックを最も前のロック位置に調節すること。

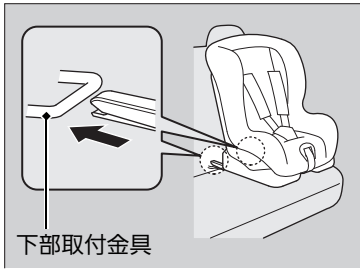
次ページに続く

■ ISOFIX/i-Size チャイルドシートの取り付け

ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、リヤシートの外側 2 座席に設置できます。
チャイルドシートは、下部取付金具とトップテザー取付金具で固定します。



1. マークの下にあるシートの切れ目から下部取付金具を確認する。



2. チャイルドシートを座席に置き、チャイルドシートの取扱説明書にしたがって下部取付金具に取り付ける。
▶ 取り付けの際に、異物やシートベルトなどが下部取付金具にかみ込まないようにしてください。

ISOFIX/i-Size チャイルドシートの取り付け

⚠注意

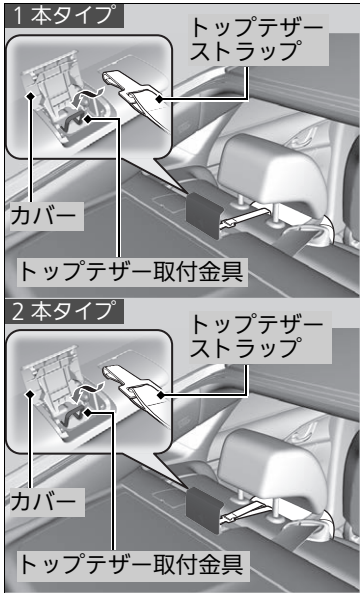
下部取付金具周辺に、異物やシートベルトのかみ込みがないか確認する。
異物やシートベルトをかみ込むとチャイルドシートが確実に固定されず、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

リヤシートが確実に固定されているか確認する。
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにシートといっしょにチャイルドシートが動き、傷害を受けるおそれがあります。

ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。

チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。





トップテザーストラップ付きチャイルドシート

3. ヘッドレストの後ろにあるカバーを開ける。

4. ヘッドレストを起こして固定し、トップテザーストラップをヘッドレストの下に通す。
▶ このときトップテザーストラップがねじれないように注意してください。

5. トップテザーストラップをトップテザー取付金具に引っかけ、ストラップを締める。

6. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

次ページに続く

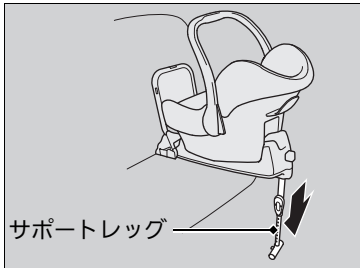
ISOFIX/i-Size チャイルドシートの取り付け

⚠注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

トップテザー取付金具シンボルが無いフックに、トップテザーストラップを使用しないでください。



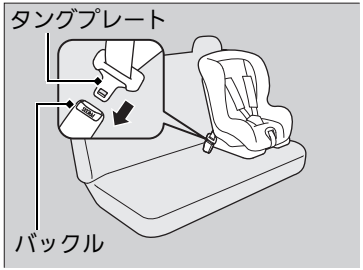
サポートレッグ付きチャイルドシート

3. サポートレッグをチャイルドシートの取扱説明書にしたがってフロアにつくまで伸ばす。

▶ サポートレッグを設置するフロア面は水平な面であることを確認してください。サポートレッグの設置フロア面が水平ではない場合、安定しないことがあります。

▶ 設置したチャイルドシートとフロントシートが接触していないことを確認してください。

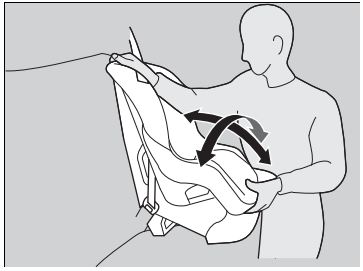
■シートベルトでの取り付け



1. チャイルドシートを座席に置く。

2. シートベルトをチャイルドシートに通し、タングプレートをバックルに差し込む。

▶ このとき、バックルが「カチッ」という音がするまできちんと差し込んでください。



3. チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付ける。

4. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

■チャイルドシートの取り外し

バックルを外し、シートベルトをチャイルドシートから引き抜きます。

シートベルトでの取り付け

⚠注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

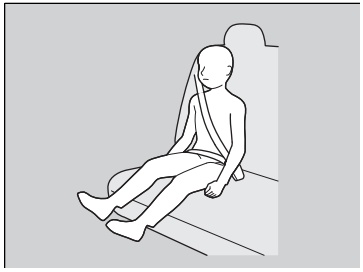
チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

チャイルドシートの種類によりシートベルトの固定に固定金具(ロッキングクリップ)が必要になります。

大きなお子さまの安全

■シートの使用について

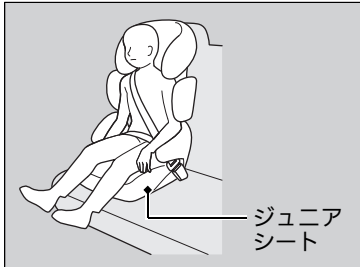
幼児用のチャイルドシートの使用条件を超えるお子さまは、リヤシートに乗せて三点式シートベルトを着用させてください。お子さまをシートに深くすわらせ、以下の確認項目でひとつでも適合しない場合、ジュニアシートの使用が必要です。



■確認項目

- お子さまのひざがシートの前端で無理なく曲がっているか？
- 肩ベルトがお子さまの首と腕の間にかかっているか？
- 腰ベルトが低い位置にあり、お子さまの太ももに触れているか？
- 乗車中、無理なくすわっていられるか？

■ジュニアシートについて



三点式シートベルトを使用できず、ジュニアシートを用いる必要があるお子さまは、ジュニアシートをリヤシートに設置して使用してください。
安全のため、お子さまがジュニアシートの使用に適した範囲に入っているか確認してください。

大きなお子さまの安全

⚠警告

お子さまは助手席に乗せない。
お子さまを助手席に乗せると、SRS エアバッグが膨らんだときに、重大な傷害を負うおそれがあります。
やむをえず、助手席にお子さまを乗せる場合は、できるだけシートを後方に下げ、必要ならばジュニアシートを使用し、適切にシートベルトを着用してすわらせてください。

やむをえずお子さまを助手席に乗せる場合は、次ページの注意事項を厳守してください。

ジュニアシートについて

ジュニアシートの取り付けについては、ジュニアシートに付属の取扱説明書をよく読み、正しく取り付けてください。

ジュニアシートには、座高の高いものと低いものがあります。お子さまが適切にシートベルトを着用できるものを選択してください。

■やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合

正しい姿勢ですわる、走行中にシートベルトを着用するなどの規則をお子さまが守ることができ、お子さまを助手席に乗せても安全と判断した場合、下記の項目を守ってお子さまを乗車させてください。

- 取扱説明書をよく読み、シートベルトに関する指示と安全に関して十分に理解する
- 助手席を一番後ろまで下げる
- 上体を起こし、シートに深く腰かけるように指示する
- お子さまのシートベルトが正しい位置で、しっかり固定されているか確認する

一酸化炭素について

車の排気ガスには一酸化炭素が含まれています。車をきちんと保守していれば、一酸化炭素が車内に入ることはありません。
以下の場合は、排気ガスのもれがないか Honda 販売店で点検を受けてください。

■点検が必要な場合

- 排気音に異常を感じたとき
- 車が衝突し、排気システムが損傷した可能性があるとき

一酸化炭素について

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

ガレージなどの密閉された場所は、一酸化炭素が急に充満するおそれがあります。
ガレージのドアを閉めたままエンジンを始動しないでください。ドアが開いている場合でも、ガレージから車を出す直前にエンジンを始動してください。

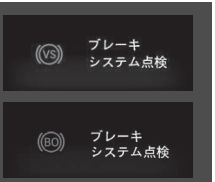
計器の見かた

この章では、運転中に使用するスイッチや警告灯・表示灯、
メーター類に関する情報を記載しています。

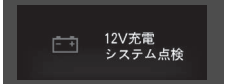
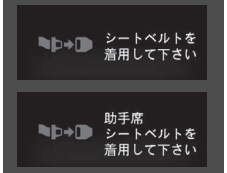
警告灯と表示灯
警告灯 62
表示灯 73
マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ 78
メーターとマルチインフォメーションディスプレイ
メーター 93
マルチインフォメーションディスプレイ..95

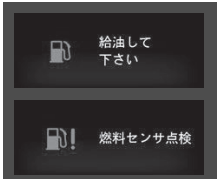
警告灯

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	ブレーキ警告灯（レッド）	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯（パーキングブレーキをかけているときは点灯） • パーキングブレーキをかけると点灯 • ブレーキフルード量が低下したときに点灯 • ブレーキシステムが異常のときに点灯 • パワーモードがアクセサリーモードまたはOFFモードのときにパーキングブレーキをかけるとしばらく点灯した後、消灯 • パーキングブレーキがかかっているときにパワーモードをOFFモードにするとしばらく点灯した後、消灯 • 電子制御パーキングブレーキが異常のときに点滅	• 走行中に点灯したりパーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ブレーキフルードを点検し、下限より減っている場合はただちにHonda 販売店で点検を受けてください。 • ABS警告灯と同時に点灯した場合も、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 **➡ ブレーキ警告灯（レッド）が点灯 / 点滅した** P.353 • ブレーキシステム警告灯（オレンジ）の点灯と同時に点滅した場合は、パーキングブレーキが作動しないことがあります。パーキングブレーキを使用せずに、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。 • パーキングブレーキが故障して作動しません。 **➡ ブレーキ警告灯（レッド）が点灯 / 点滅した** P.353	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	油圧警告灯	• パワーモードを ON モードにすると点灯し、エンジン始動で消灯 • エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯	• **走行中に点灯**＝ただちに安全な場所に車を停車し、対処してください。 ➡ **油圧警告灯が点灯した** P.351	
	ブレーキシステム警告灯(オレンジ)	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • ブレーキに関係するシステムが異常のときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。	
		• 電子制御パーキングブレーキシステム、オートマチックブレーキホールドシステムが異常のときに点灯	• 点灯したときは、パーキングブレーキを使用せずに、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	
		• カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	—

次ページに続く

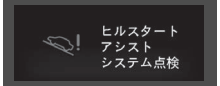
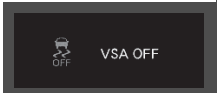
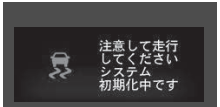
警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	PGM-FI 警告灯	• パワーモードを ON モードにすると点灯し、エンジン始動で消灯 エンジンを始動していないときは数十秒後消灯 • エンジンの排気ガス制御システムに異常があると点灯 • エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅	**PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した** P.352	
	充電警告灯	• パワーモードを ON モードにすると点灯し、エンジン始動で消灯 • バッテリーが充電されていないと点灯	• **走行中に点灯**＝電気の消費量を減らすため、エアコンやリヤデフロスターなどを OFF にし、対処してください。 **充電警告灯が点灯した** P.351	
	シートベルト非着用警告灯	• 運転席および助手席のシートベルトを着用しないと点灯 • パワーモードを ON モードにしたときに、運転席のシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅 • 走行中に運転席または助手席のシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅	• シートベルトを正しく着用するとブザーがやみ、警告灯が消灯します。 • シートベルトを正しく着用していても警告灯が点灯する場合は、センサーの誤検知などの要因が考えられます。 **シートベルトリマインダー** P.26	

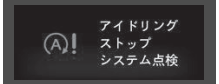
警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	トランスミッション警告灯	• トランスミッションが異常のときに点滅	• 運転中に点滅した場合は、急発進、急加速を避けて、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。	
	燃料残量警告灯	• 燃料の残量が少なくなると点灯 • 点灯するのは、タンクに残っている残量がおよそ7.0リットルになったときです。 • 燃料計に異常があるときは点滅	• 点灯したら早めに給油してください。 • 点滅したときは、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。	
	ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • ABSが異常のときに点灯	• 点灯したときは、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されていますが、ABSは作動しません。 ➡ **ABS(アンチロックブレーキシステム)** P.280	

次ページに続く

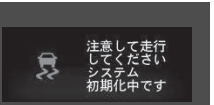
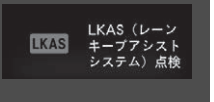
警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ

	エアバッグシステム警告灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯
		• 下記のとき点灯
		  • エアバッグシステムの異常
		  • プリテンショナーシステム異常
			• 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。	

	VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • VSAが作動しているときは点滅 • ブレーキアシストシステム、発進補助ブレーキ機能、ヒルスタートアシストシステム、VSAシステムのいずれかが異常のときに点灯	• 運転中に点灯したときは、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。 **➡VSA(ビークルスタビリティアシスト)** P.209	 
		• バッテリー再接続後、一時的にVSAがOFFになっているときに点灯	• 車速20km/h以上でしばらく走行してください。消灯しないときはHonda販売店で点検を受けてください。	
	VSA OFF警告灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • VSAをOFFにすると点灯	**➡VSA(ビークルスタビリティアシスト)** P.209	
		• バッテリー再接続後、一時的にVSAがOFFになっているときに点灯	• 車速20km/h以上でしばらく走行してください。消灯しないときはHonda販売店で点検を受けてください。	

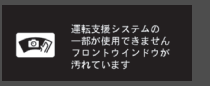
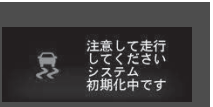
警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯	• パワーモードを ON モードにすると点灯し、エンジン始動で消灯 • EPSシステムが異常のときに点灯	• 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 **➡ EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯が点灯した** P.355	
	アイドリングストップシステム警告灯(オレンジ)	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • アイドリングストップシステムに異常があるときに点滅	• 点滅したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
ACC	渋滞追従機能付ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)警告灯(オレンジ)	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • ACC システムが異常のときに点灯	• 運転中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	
		• バッテリー再接続後、一時的にACC システムが OFF になっているときに点灯	• 車速20km/h以上でしばらく走行してください。消灯しないときはHonda 販売店で点検を受けてください。	
		• カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。	—
LKAS	LKAS(車線維持支援システム)警告灯(オレンジ)	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • LKAS が異常のときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。	

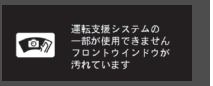
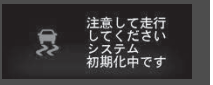
警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	CMBS（衝突軽減ブレーキ）警告灯	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • CMBS を OFF にしているとき点灯 • CMBS に異常があるとき点灯	• OFF にしていないのに点灯する場合は、いくつかの理由が考えられます。 ➔ **衝突軽減ブレーキ（CMBS）** P.215 • 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	
		• トンネルなど、閉鎖された空間を通過すると警告灯が点灯することがあります。 • フロントバンパーが汚れてレーダーセンサーが前の車両を検知しにくいとき点灯	• 常時点灯する場合は、安全な場所に停車してフロントバンパーの汚れをふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 • 復帰するまでに時間がかかることがあります。 ➔ **レーダーセンサー** P.273	
		• フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯	• エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。 温度が下るとシステムは復帰します。 ➔ **フロントセンサーカメラ** P.271	

次ページに続く

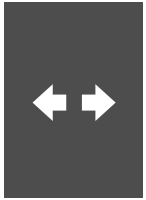
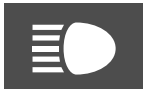
警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	CMBS（衝突軽減ブレーキ）警告灯	• フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき点灯 雨、霧、雪など悪天候のときも点灯することがあります	• 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物をふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 ➔ **フロントセンサーカメラ** P.271	
		• バッテリー再接続後、一時的にCMBS が OFF になっているときに点灯	• 車速20km/h以上でしばらく走行してください。消灯しないときはHonda 販売店で点検を受けてください。	
		• カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。	—

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	路外逸脱抑制機能警告灯	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • 路外逸脱抑制システムに異常があるとき点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	
		• トンネルなど、閉鎖された空間を通過すると警告灯が一時的に点灯することがあります。 • フロントバンパーが汚れてレーダーセンサーが前の車両を検知しにくいとき点灯	• 常時点灯する場合は、安全な場所に停車してフロントバンパーの汚れをふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 • 復帰するまでに時間がかかることがあります。 ➔ **レーダーセンサー** P.273	
		• フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯	• エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。 温度が下がるとシステムは復帰します。 ➔ **フロントセンサーカメラ** P.271	

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	路外逸脱抑制機能警告灯	• フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき点灯 雨、霧、雪など悪天候のときも点灯することがあります	• 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物をふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 ➔ **フロントセンサーカメラ** P.271	
		• バッテリー再接続後、一時的に路外逸脱抑制システムがOFFになっているときに点灯	• 車速20km/h以上でしばらく走行してください。消灯しないときはHonda 販売店で点検を受けてください。	
		• カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。	—

表示灯

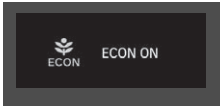
表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	方向指示器 / 非常点滅表示灯	• 方向指示器と対応し、左右どちらかが点滅 • 非常点滅表示灯スイッチを押すと、左右同時に点滅 • 高速で走行中に急ブレーキをかけると、左右同時に点滅	• 点滅しない/点滅の周期が速いときは、方向指示器の電球が切れています。ただちに電球を交換してください。 ➔ **電球の交換** P.301, 301 ➔ **エマージェンシーストップシグナル** P.282	—
	ハイビーム表示灯	• ヘッドライトを上向きにしたときに点灯	—	—
	ライト点灯表示灯	• 車幅灯、尾灯などが点灯しているときに点灯	➔ **ライトの使いかた** P.148	—
	フォグライト点灯表示灯	• フォグライトを点灯させると点灯	—	—
	オートハイビーム表示灯	• オートハイビームの作動条件がすべてそろったときに点灯	➔ **オートハイビーム** P.152	—

次ページに続く

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
 表示灯	イモビライザーシステム表示灯	• ENGINE START/STOP を押したとき、イモビライザーシステムがキーの情報を認識できないと点滅	• ENGINE START/STOP を押したあと、点滅しているときは、エンジンを始動することはできません。 パワーモードをいったんOFFモードにしてから、もう一度 ON モードにしてください。 • 頻繁に表示灯の点滅を繰り返す場合は、システムの異常が考えられますので Honda 販売店で点検を受けてください。 • ENGINE START/STOP のそばに、別のキーや金属があるとイモビライザーシステムがキーの情報を読み取れないことがあります。	—
 表示灯	セキュリティアラームシステム作動表示灯	• セキュリティアラームシステムがセットされているときに点滅	➡ セキュリティアラームシステム P.141	—

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	シフトポジション表示灯	• 現在のポジションを表示	**シフト操作** P.198	—
	シフトインジケーター/M(7 速マニュアルシフトモード)表示灯	• セレクトレバーが S で、7 速マニュアルシフトモードのとき表示灯が点灯 • 7 速マニュアルシフトモードのとき、ギヤ位置を表示	**7 速マニュアルシフトモードとは** P.200	—

次ページに続く

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	アイドリングストップ表示灯(グリーン)	• アイドリングストップシステムが作動し、アイドリングストップしたときに点灯	➔ **アイドリングストップシステム** P.203	
	アイドリングストップシステム OFF 表示灯(オレンジ)	• アイドリングストップシステム OFF スイッチでシステムを OFF にすると点灯	➔ **アイドリングストップシステムの ON/OFF** P.204	
	ECON 表示灯	• ECONスイッチを押して、ECONモードにすると点灯	➔ **ECON スイッチ** P.202	
	渋滞追従機能付ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)表示灯(グリーン)	• MAIN スイッチを押すと点灯	➔ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.228	—
	LKAS(レーンキープアシストシステム)表示灯(グリーン)	• MAIN スイッチを押すと点灯	➔ **LKAS(車線維持支援システム)** P.243	—

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	オートマチックブレーキホールドシステム表示灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • オートマチックブレーキホールドシステムがONのとき点灯	➔ **オートマチックブレーキホールド** P.277	
	オートマチックブレーキホールド表示灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • オートマチックブレーキホールドが作動しているとき点灯	➔ **オートマチックブレーキホールド** P.277	—
	インフォメーション表示灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • 異常を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、同時に警告音も鳴り、点灯	• メッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたときは、表示灯、警告灯の該当ページを参照して、必要な処置を行ってください。 • メッセージは警告が解除されるか、ディスプレイ/インフォメーション( )スイッチを押すまで通常表示に戻りません。 • 点灯しているときにディスプレイ/インフォメーション( )スイッチを押すと、メッセージを再表示させることができます。	—

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ

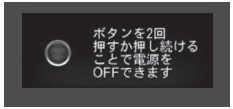
下記のメッセージはマルチインフォメーションディスプレイにのみ表示されます。
再表示させるときはディスプレイ / インフォメーション( )スイッチを押してください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• パワーモードが ON モードのときに、外気温が 3 ℃以下になると 1 回のみ表示	—
	• パワーモードが ON モードのときに、リヤシートベルトを着用または外すと約30秒間表示 • パワーモードが ON モードのときに、後席ドアを開閉すると表示	**シートベルトリマインダー** P.26
	• スターティングシステムが異常のときに表示	• ブレーキペダルを踏んだまま、 ENGINE START/STOP をエンジンが始動するまでおよそ 15 秒間押し続けてください。表示が消えないときや再び表示した場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	• エンジンの冷却水の温度が著しく高いときに表示	**オーバーヒート** P.349

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• ドアとトランクが完全に閉まっていないときに表示 • 走行中、ドアを開けるとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告メッセージが表示	• ドアとトランクを完全に閉めてください。
	• バッテリーセンサーの機能に異常があると表示	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	• セレクトレバーが P 以外のとき、マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ設定をすると表示	➡ **カスタマイズのしかた** P.102
	• オートライトコントロールシステムに異常があると表示	• 運転中に表示された場合は、ライトの点灯、消灯は手動で行い、Honda 販売店で点検を受けてください。 ➡ **ライトの使いかた** P.148
	• ヘッドライトの機能に異常があると表示	• 運転中に表示された場合は、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• Hondaスマートキーシステムが異常のときに表示	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	• パワーモードがONモードで、Hondaスマートキーを車外に持ち出し、ドアを閉めたときに、警告音と同時に表示	• Honda スマートキーを車内に戻してドアを閉めると、警告が解除されます。 ➡ **Honda スマートキー持ち去り警告** P.147
	• Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときに、警告音と同時に表示	➡ **電池交換のしかた** P.314
	• パワーモードがアクセサリーモードまたは ON モードのときに表示	➡ **エンジンの始動** P.189
	• Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときや Honda スマートキーが車内にないときに ENGINE START/STOP を押すと、警告音と同時に表示	➡ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.343

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• パワーモードがアクセサリーモードのときに運転席のドアを開けると表示	• ブレーキペダルを踏まずに ENGINE START/STOP を 2 回押して、パワーモードを OFF モードにしてください。 ➡ **ENGINE START/STOP スイッチ** P.145
	• パワーモードがアクセサリーモードのときに表示	—
	• 走行中に ENGINE START/STOP を押すと表示	➡ **緊急時のエンジン停止方法** P.344
	• ハンドルのロックが解除されていないときに表示	• ハンドルを左右に動かしながら ENGINE START/STOP を押してください。
	• パワーモードが ON モードでセレクトレバーが P 以外のとき、ENGINE START/STOP を押すと表示	• パワーモードを OFF モードにしたいときは、セレクトレバーを P にして、ブレーキペダルを踏まずに ENGINE START/STOP を 2 回押してください。

次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• エンジンオイルの交換時期が近づくと表示	• エンジンオイル交換時期になると、「エンジンオイルを交換して下さい」と表示され、エンジンオイル交換時期を過ぎると、「エンジンオイル交換時期を過ぎています」と表示されます。 ➔ **オイルモニターシステム** P.294
	• ポップアップフードシステムに異常があると表示	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	• オートマチックブレーキホールドスイッチを押して、オートマチックブレーキホールドシステムを OFF にすると表示	➔ **オートマチックブレーキホールド** P.277

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 運転席のシートベルトを着用せずに、オートマチックブレーキホールドスイッチを押すと表示	• 運転席のシートベルトを着用してください。 ➔ **オートマチックブレーキホールド** P.277
	• オートマチックブレーキホールドが作動中に、ブレーキペダルを踏まずにオートマチックブレーキホールドスイッチを押すと表示	• ブレーキペダルを踏みながらオートマチックブレーキホールドスイッチを押してください。 ➔ **オートマチックブレーキホールド** P.277
	• オートマチックブレーキホールドが作動中に、自動的にパーキングブレーキがかかったときに表示	➔ **オートマチックブレーキホールド** P.277 ➔ **電子制御パーキングブレーキ** P.274
	• オートマチックブレーキホールドが作動中に、自動的にオートマチックブレーキホールドが停止したときに表示 • 警報音が鳴ることがあります	• ただちにブレーキペダルを踏んでください。
	• ブレーキペダルを踏まずにパーキングブレーキスイッチを押したときに表示	• ブレーキペダルを踏んでパーキングブレーキスイッチを押してください。 ➔ **電子制御パーキングブレーキ** P.274

次ページに続く

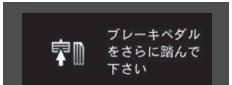
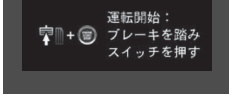
メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• ボンネットが完全に閉まっていないときに表示	• ボンネットを完全に閉めてください。
	• 何らかの理由により、アイドリングストップできないときに表示 • エンジンが自動的に再始動したときに表示 • バッテリーの内部温度が 5 ℃以下のときに表示	➔ **アイドリングストップシステム** P.203
	• アイドリングストップシステムを ON にしたときに表示	➔ **アイドリングストップシステム** P.203

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• バッテリーの充電量が少ない状態でアイドリングストップできないときに表示	➔ **アイドリングストップシステム** P.203
	• エアコン使用中で設定温度と車内の温度差が大きくて、アイドリングストップできないときに表示	➔ **アイドリングストップシステム** P.203
	• エンジン冷却水の水温が低いとき、または高くてアイドリングストップできないときに表示	➔ **アイドリングストップシステム** P.203

	• アイドリングストップ中に、以下の状態となったときに表示
	  • バッテリーの充電量が少なくなったとき
	  • バッテリーの内部温度が5℃以下になったとき
		• 数秒後にエンジンが自動的に再始動します。

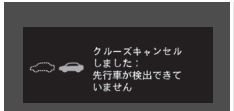
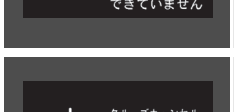
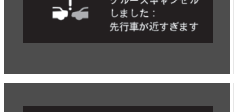
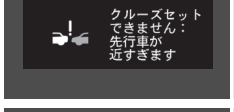
	• アイドリングストップ中に、以下の状態となったときに表示
	  • エアコンを使用中で、設定温度と車内の温度差が大きい
	  • 車内の湿度が高い
		• 数秒後にエンジンが自動的に再始動します。

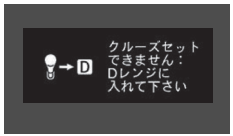
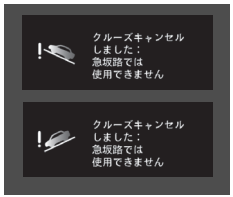
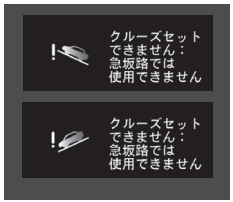
次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• アイドリングストップ中に、以下の状態のためエンジンが自動的に再始動しないときに表示 • ボンネットが開いている • アイドリングストップを続けることができないシステムの異常	• エンジンを再始動してください。 ➔ **エンジンの始動** P.189
	• セレクトレバーが P 以外のときにエンジンが停止して、自動的に再始動しないときに表示 • アイドリングストップ中に、ボンネットなどを開けると表示	• パワーモードを OFF モードにしたいときは、セレクトレバーを P にしてください。 • エンジンを始動させたいときは、通常のエンジンの始動操作をしてください。 ➔ **エンジンの始動** P.189
	• ブレーキペダルの踏み込みが足りないため、アイドリングストップしないときに表示	• ブレーキペダルを踏み込んでください。
	• Hondaスマートキーで車外からエンジンを始動しているときに運転席ドアを開けると表示	➔ **エンジンスタートボタン付のHonda スマートキーでのエンジンの始動** P.191

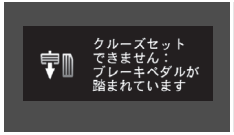
メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 車速が高すぎて渋滞追従機能付 ACC がセットできないときに表示	• 車速を下げてから渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ➔ **渋滞追従機能付ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.228
	• 車速が高すぎて渋滞追従機能付ACCの作動が解除されたときに表示	• 車速を下げてから渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ➔ **渋滞追従機能付ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.228
	• 渋滞追従機能付ACCの作動が自動的に解除されたときに表示	• 渋滞追従機能付 ACC が自動解除になった原因が解決された場合、 RES/+ を押すことにより、元の設定速度に戻すことができます。 ➔ **渋滞追従機能付ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.228

次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 衝突の可能性があるときブザーが断続的に鳴り警告が点滅	➔ **渋滞追従機能付ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.228 ➔ **衝突軽減ブレーキ(CMBS)** P.215
	• 停車中に先行車が発進し、レーダーセンサーの検知範囲からいなくなって渋滞追従機能付ACCの作動が解除されたときに表示	• 先行車がいる状態または車速 30km/h 以上で走行して渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ➔ **渋滞追従機能付ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.228
	• 車速 30km/h 未満で先行車がいなくてセットできないときに表示	• 先行車がいる状態または車速 30km/h 以上で走行して渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ➔ **渋滞追従機能付ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.228
	• 先行車との車間距離が接近しすぎて渋滞追従機能付ACCの作動が解除されたときに表示	• 先行車との車間距離をとってから渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ➔ **渋滞追従機能付ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.228
	• 先行車との車間距離が接近しすぎてセットできないときに表示	• 先行車との車間距離をとってから渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ➔ **渋滞追従機能付ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.228
	• 運転席のシートベルトが着用されておらずセットできないときに表示	• 運転席のシートベルトを着用してから渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ➔ **渋滞追従機能付ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.228

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 渋滞追従機能付ACCによって自車が自動的に停止しているとき、運転席のシートベルトが外されたときに表示	• 運転席のシートベルトを着用してから渋滞追従機能付 ACCを再度セットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.228
	• シフトポジションが D または S 以外でセットできないときに表示	• シフトポジションを D または S にしてから渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.228
	• 渋滞追従機能付ACCが作動しているときにシフトポジションを D または S 以外にしたときに表示	• シフトポジションを D または S にしてから渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.228
	• 急な坂道で停車して渋滞追従機能付 ACCの作動が解除されたときに表示	• 坂道が緩やかになってから渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.228
	• 急な坂道で停車していてセットできないときに表示	• 坂道が緩やかになってから渋滞追従機能付ACCを再度セットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.228

次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• パーキングブレーキがかかっていてセットできないときに表示	• パーキングブレーキを解除してから渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ➔ **渋滞追従機能付ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.228 ➔ **電子制御パーキングブレーキ** P.274
	• 渋滞追従機能付ACCが作動しているときにパーキングブレーキがかけられたときに表示	• パーキングブレーキを解除してから渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ➔ **渋滞追従機能付ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.228
	• 走行中にブレーキペダルを操作していてセットできないときに表示	• ブレーキペダルを操作していない状態で渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ➔ **渋滞追従機能付ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.228
	• 渋滞追従機能付ACCによって自車が自動的に停止しているとき、渋滞追従機能付 ACC の作動が解除されたときに表示	• ただちにブレーキペダルを踏んでください。 ➔ **渋滞追従機能付ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.228
	• 渋滞追従機能付ACCによって自車が自動的に停止しているとき、先行車が発進したときに表示	• RES/+ スイッチか -/SET スイッチを押す、またはアクセルペダルを踏むと発進できます。 ➔ **渋滞追従機能付ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.228

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 渋滞追従機能付ACCが作動しているときにスリップやホイールスピンなどが発生したときに表示	• 渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)を使用するときは再度、設定しなおしてください。 ➡ **渋滞追従機能付ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.228
 (オレンジ)	• 車線を越えそうなときに表示	• ハンドル操作をして、車線の中央を走行してください。しばらくすると、メッセージが消えます。 ➡ **LKAS(車線維持支援システム)** P.243 ➡ **路外逸脱抑制機能** P.254 ➡ **カスタマイズ機能** P.113
 (レッド)	• ハンドルを操作しないで、もしくはハンドルから手を放したまま走行し、車線を越えそうになると、警告音と同時に表示	• ハンドル操作をして、車線の中央を走行してください。しばらくすると、警告メッセージが消えます。 ➡ **LKAS(車線維持支援システム)** P.243
	• ハンドルを操作しないで、もしくはハンドルから手を放したまま走行すると、警告音と同時に点滅	• そのまま走行を続けると、長い警告音が1回鳴り、LKASの作動が解除されます。 • ハンドル操作をすると、警告メッセージが消えます。 ➡ **LKAS(車線維持支援システム)** P.243
	• 車線からはみ出るような走行をすると、ハンドル制御と同時に表示	• ハンドル操作をして、車線の中央を走行してください。しばらくすると、警告メッセージが消えます。 ➡ **路外逸脱抑制機能** P.254
	• LKAS システムに異常が起こり LKAS の作動が解除されたとき、または LKAS システムに異常がある場合に LKAS スイッチを押したときに警告音と同時に表示	• VSA 警告灯、ABS 警告灯、ブレーキシステム警告灯と同時に点灯した場合は、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。 ➡ **LKAS(車線維持支援システム)** P.243

次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• オートハイビームに異常があると表示	• ヘッドライトスイッチを手動で操作してください。 • ハイビーム点灯中に表示された場合は、ロービームに切り替わります。
	• フロントガラスに遮蔽物があるとき、渋滞追従機能付 ACC、LKAS、標識認識機能、オートハイビームが使用できなくなると表示 • 雨、霧、雪など悪天候のときも表示することがあります	• 安全な場所でフロントガラスの遮蔽物を取り除いてください。 ➔ **フロントセンサーカメラ** P.271 ➔ **渋滞追従機能付ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.228 ➔ **LKAS(車線維持支援システム)** P.243 ➔ **標識認識機能** P.265 ➔ **オートハイビーム** P.152
	• フロントセンサーカメラの温度が異常に上がり、渋滞追従機能付 ACC、LKAS、標識認識機能、オートハイビームが使用できなくなると表示	• エアコンを使用して車内の温度を下げてください。 ➔ **フロントセンサーカメラ** P.271 ➔ **渋滞追従機能付ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.228 ➔ **LKAS(車線維持支援システム)** P.243 ➔ **標識認識機能** P.265 ➔ **オートハイビーム** P.152
	• フロントバンパーに遮蔽物があり前の車両等が検知しにくくなり、渋滞追従機能付 ACC が使用できなくなると表示	• 安全な場所でフロントバンパーの遮蔽物を拭き取ってください。 ➔ **レーダーセンサー** P.273 ➔ **渋滞追従機能付ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.228

メーター

メーターには、スピードメーター、燃料計などの種類があります。
パワーモードが ON モードのとき表示されます。

■スピードメーター

走行速度を km/h で表示します。

■燃料計

燃料タンクに残っている、燃料の量を表示します。

■水温計

エンジン冷却水の温度を表示します。通常は H のマークにまで上がらない状態で走行します。

燃料計

アドバイス

燃料計が E に近づいたら、早めに給油してください。
燃料がなくなるとエンジンが点火しなくなり、触媒装置を損傷することがあります。

実際の燃料残量と、メーターに表示される量は異なる場合がありますので、ご注意ください。

水温計

水温計が H のマークを示した場合、オーバヒートのおそれがあります。
ただちに安全な場所に停めて、エンジンを冷やしてください。
オーバーヒート P.349

次ページに続く

■タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を表示します。

≫タコメーター

エンジンの限界回転数は、6,500rpm です。

アドバイス

エンジン故障の原因となりますので限界回転数以上(レッドゾーン)に入らないよう運転してください。

特に、高速走行時にシフトダウンするときには、注意してください。

セレクトレバーが R のときや、空ぶかしをしたときは、エンジンの限界回転数より低い回転数でも、トランスミッション保護のため燃料供給が停止されます。

マルチインフォメーションディスプレイ

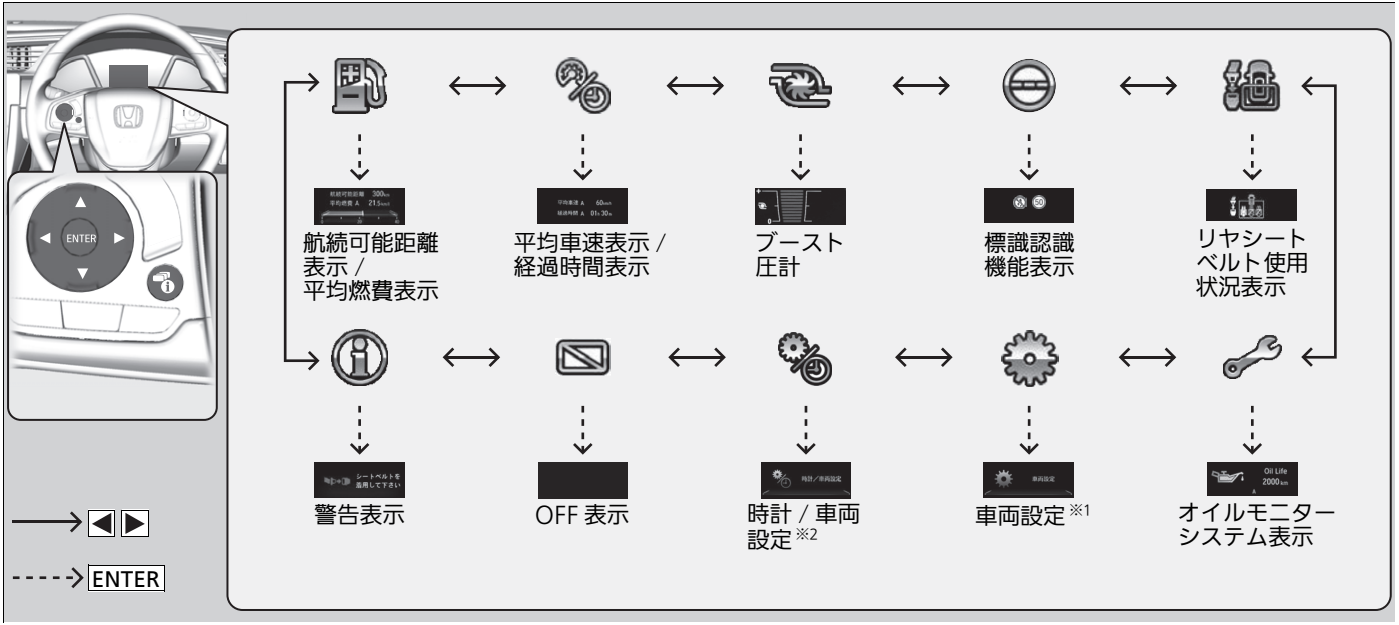
マルチインフォメーションディスプレイには、オドメーター、トリップメーター、外気温表示、燃費情報などが表示されます。
また、異常を検知すると警告メッセージが表示されます。

次ページに続く

■表示の切り換えかた

■メインディスプレイ

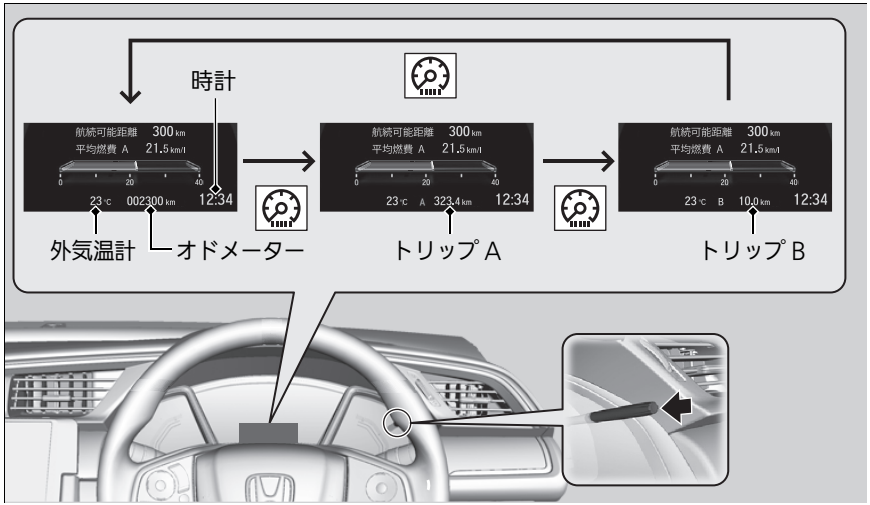
ディスプレイ / インフォメーション( )スイッチを押し、◀または▶を操作するごとに、表示が下記のように切り換わります。



※1 ：Honda インターナビシステム装備車
※2 ：Honda インターナビシステム非装備車

■サブディスプレイ

セレクト / リセットノブを押すごとに、画面が切り換わります。



次ページに続く

■オドメーター

走行距離の累計を km で表示します。

■トリップメーター

リセットしてからの走行距離を km で表示します。
トリップメーターA と、トリップメーターB があり、それぞれ独立して計測するため 2 つの走行距離を知ることができます。

■トリップメーターをリセットするには

リセットしたいトリップメーターが表示されている状態で、セレクト/リセットノブを押し続けてください。トリップメーターが 0.0 にリセットされます。

■外気温表示

外気温を測定し表示します。

■外気温表示を補正するには

外気温とメーターの表示温度に差がある場合、±3℃の範囲で補正することができます。補正するには、マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ機能を使用します。

➔ **カスタマイズ機能** P.113

トリップメーター

トリップメーターは走行距離が 9999.9km を超えると、0.0km に戻ります。

トリップメーターA とトリップメーターB は、セレクト / リセットノブを押して切り換えられます。

外気温表示

温度センサーはフロントバンパー付近に付いています。
速度がおよそ 30km/h 以下のときは、表示される温度が、路面の熱、エンジンの熱、周囲の車の排気ガスの影響を受けることがあります。また、温度の読み取り値が安定するまで更新されないため、温度表示の更新に数分かかることがあります。

外気温表示の補正は、温度が安定してから行ってください。
パワーモードをONモードにしたとき、外気温が 3 ℃以下の場合は、外気温低下メッセージが表示されます。

■平均燃費表示

トリップメーターA、B と連動し、それぞれの平均燃費を一定時間ごとに更新して km/l で表示します。
トリップメーターをリセットすると、平均燃費表示も同時にリセットされます。

■瞬間燃費表示

瞬間燃費をバーグラフに km/l で表示します。

■航続可能距離表示

燃料残量と平均燃費をもとに推定航続可能距離を km で表示します。

平均燃費表示

表示される平均燃費は実際に走行した燃費と異なる場合があります。

トリップメーターA、B と平均燃費表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

➔ **カスタマイズ機能** P.113

停車時または低速走行中にリセットした場合は、走行を始めてから燃費の計算を開始します。

航続可能距離表示

表示される航続可能距離は、実際に航続可能な距離とは異なる場合があります。

次ページに続く

■経過時間表示

トリップメーターA、B をリセットしてからの経過時間を表示します。

経過時間表示

経過時間表示は99時間59分まで表示できます。

トリップメーターA、B と経過時間表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

➔ **カスタマイズ機能** P.113

■平均車速表示

トリップメーターA、B をリセットしてからの平均車速を km/h で表示します。

平均車速表示

トリップメーターA、B と平均車速表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

➔ **カスタマイズ機能** P.113

■時計

時刻を表示します。

時計

時計は、マルチインフォメーションディスプレイで時計表示(24h/12h)を変えたり時刻調整をすることができます。

➔ **時刻の設定** P.119

■ブースト圧計

ターボのブースト圧を表示します。

■オイルモニターシステム表示

エンジンオイルの交換までの距離を表示します。

➔ **オイルモニターシステム** P.294

■標識認識機能表示

走行中に認識した最高速度、はみ出し通行禁止、一時停止、車両進入禁止の道路標識情報を表示します。

➔ **標識認識機能** P.265

■リヤシートベルト使用状況表示

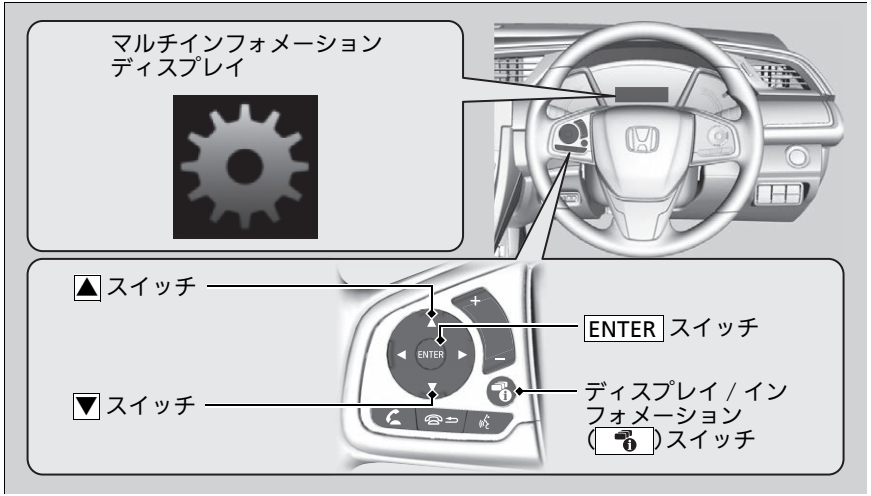
リヤシートベルトの使用状況を表示します。

➔ **シートベルトリマインダー** P.26

次ページに続く

■カスタマイズのしかた

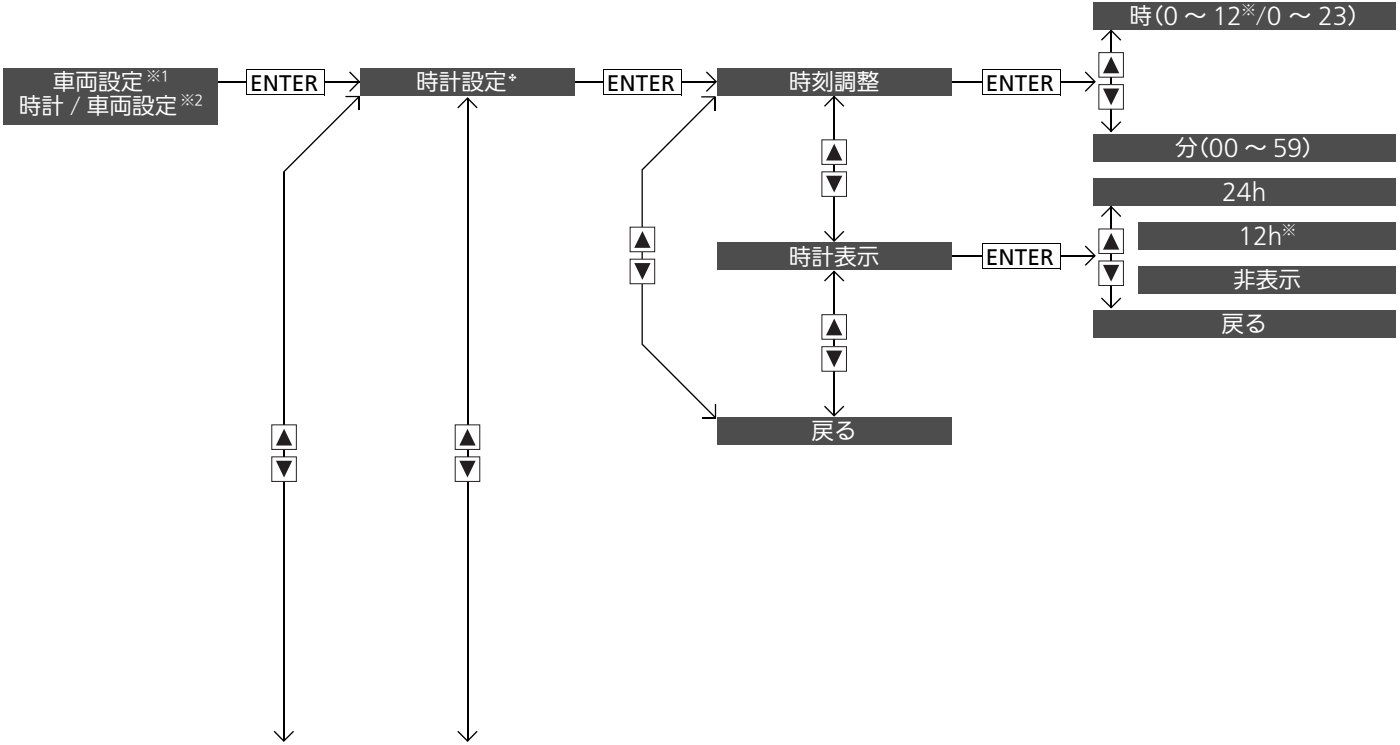
パワーモードが ON モードで、シフトポジションが P のときに、ディスプレイ / インフォメーション( )スイッチを押して⚙を表示し ENTER スイッチを押して決定します。設定画面が表示されたら ENTER スイッチを押して決定します。



▶▶カスタマイズのしかた
▶▶ **カスタマイズ操作一覧** P.103
▶▶ **カスタマイズ設定の例** P.115

■カスタマイズ操作一覧

▲ または ▼ スイッチでメニューまたは設定値を切り換え、 ENTER スイッチで決定します。



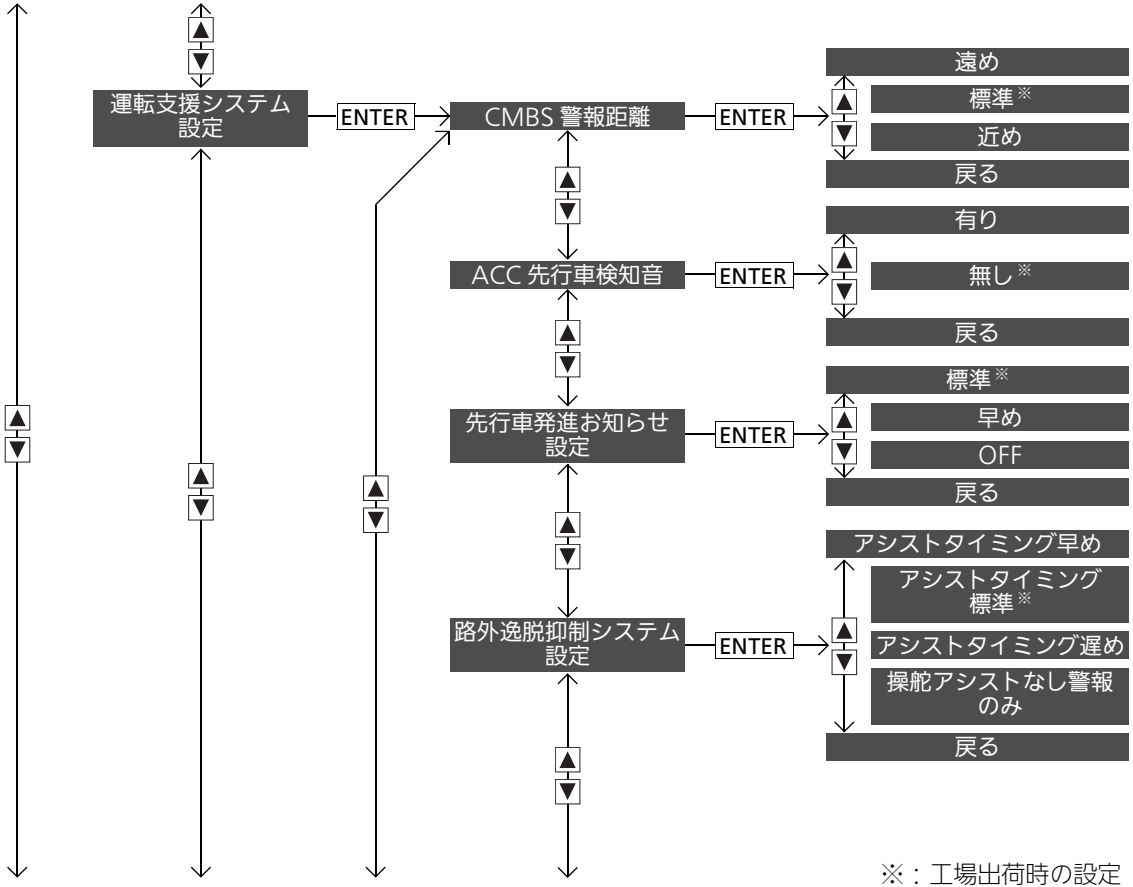
※1 ：Honda インターナビシステム装備車

※2 ：Honda インターナビシステム非装備車

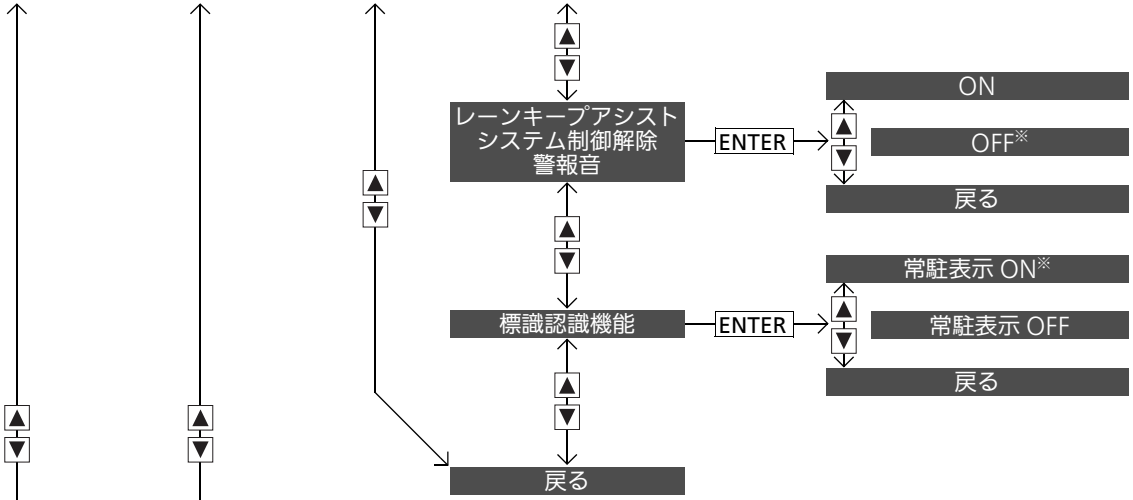
※：工場出荷時の設定

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

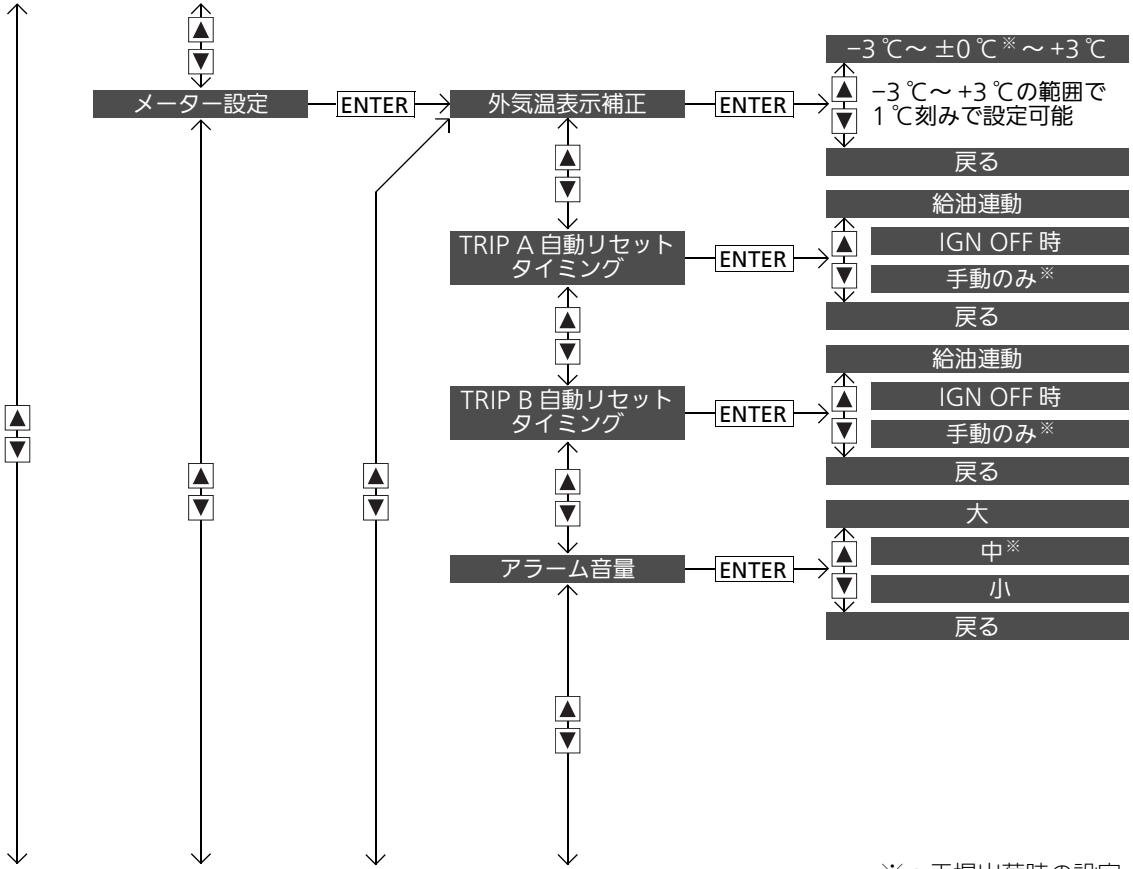

運転支援システム設定
ENTER
CMBS 警報距離
ENTER
遠め
標準※
近め
戻る
ACC 先行車検知音
ENTER
有り
無し※
戻る
先行車発進お知らせ設定
ENTER
標準※
早め
OFF
戻る
路外逸脱抑制システム設定
ENTER
アシストタイミング早め
アシストタイミング標準※
アシストタイミング遅め
操舵アシストなし警報のみ
戻る

※：工場出荷時の設定

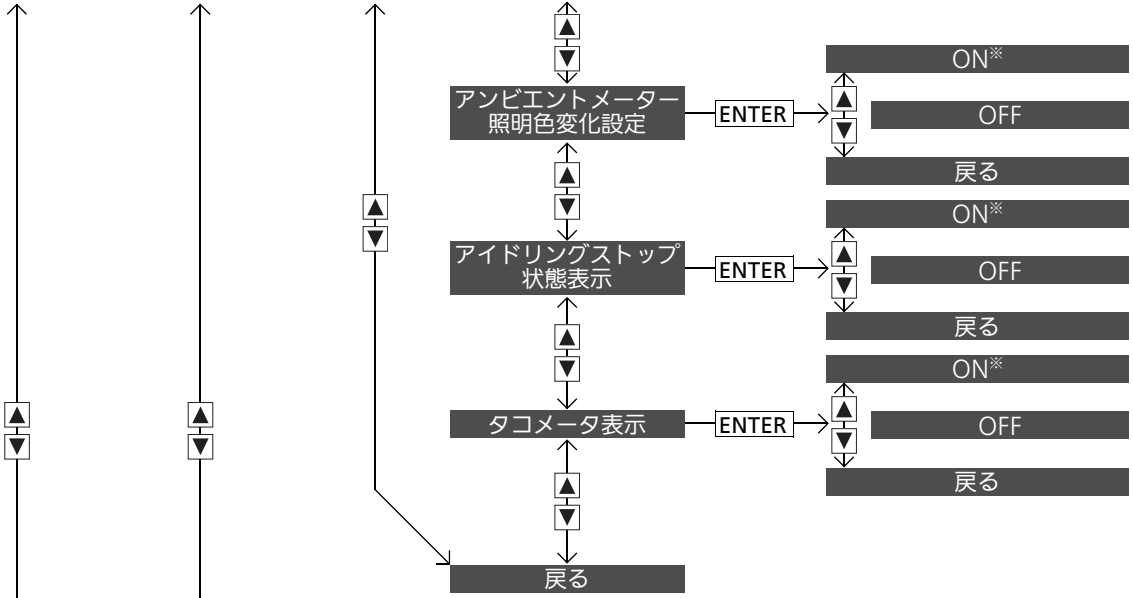


※：工場出荷時の設定

次ページに続く

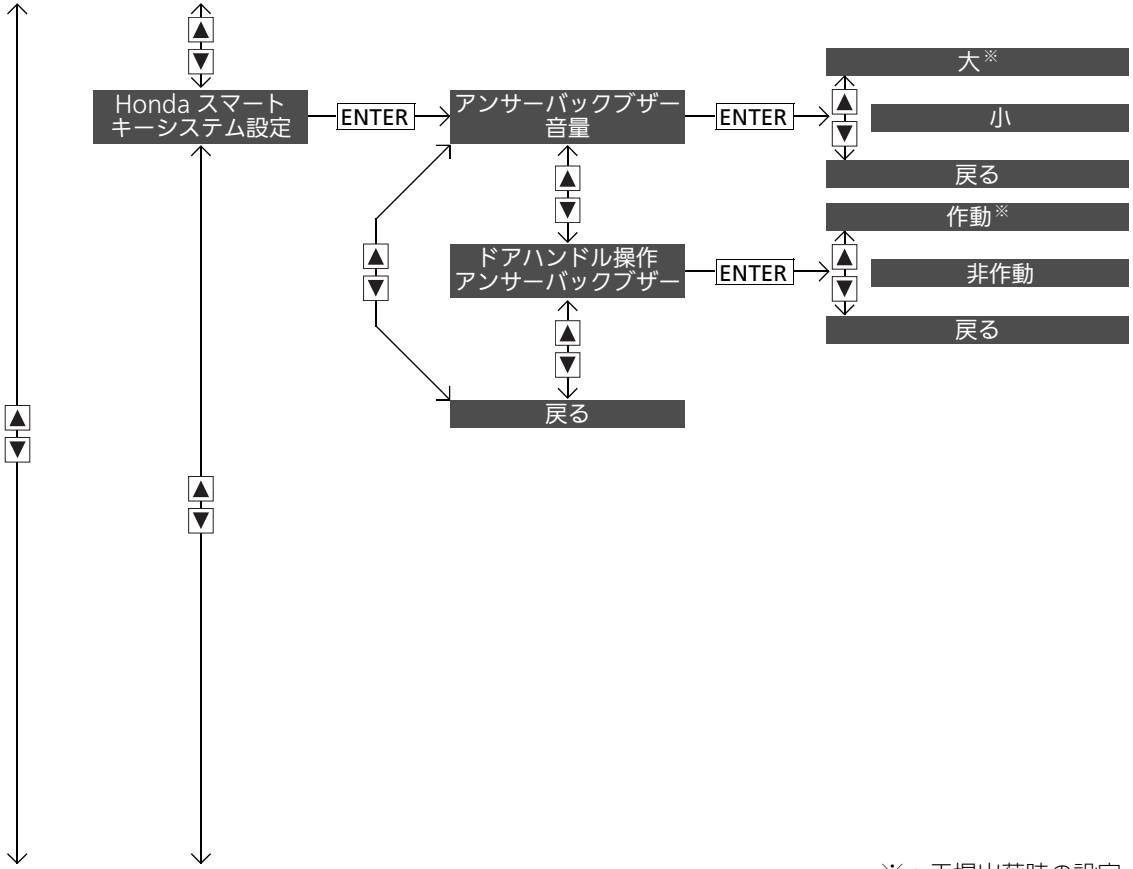

メーター設定
ENTER
外気温表示補正
ENTER
−3 ℃～ ±0 ℃※ ～ +3 ℃
−3 ℃～ +3 ℃の範囲で
1 ℃刻みで設定可能
戻る
TRIP A 自動リセット
タイミング
ENTER
給油連動
IGN OFF 時
手動のみ※
戻る
TRIP B 自動リセット
タイミング
ENTER
給油連動
IGN OFF 時
手動のみ※
戻る
アラーム音量
ENTER
大
中※
小
戻る

※：工場出荷時の設定

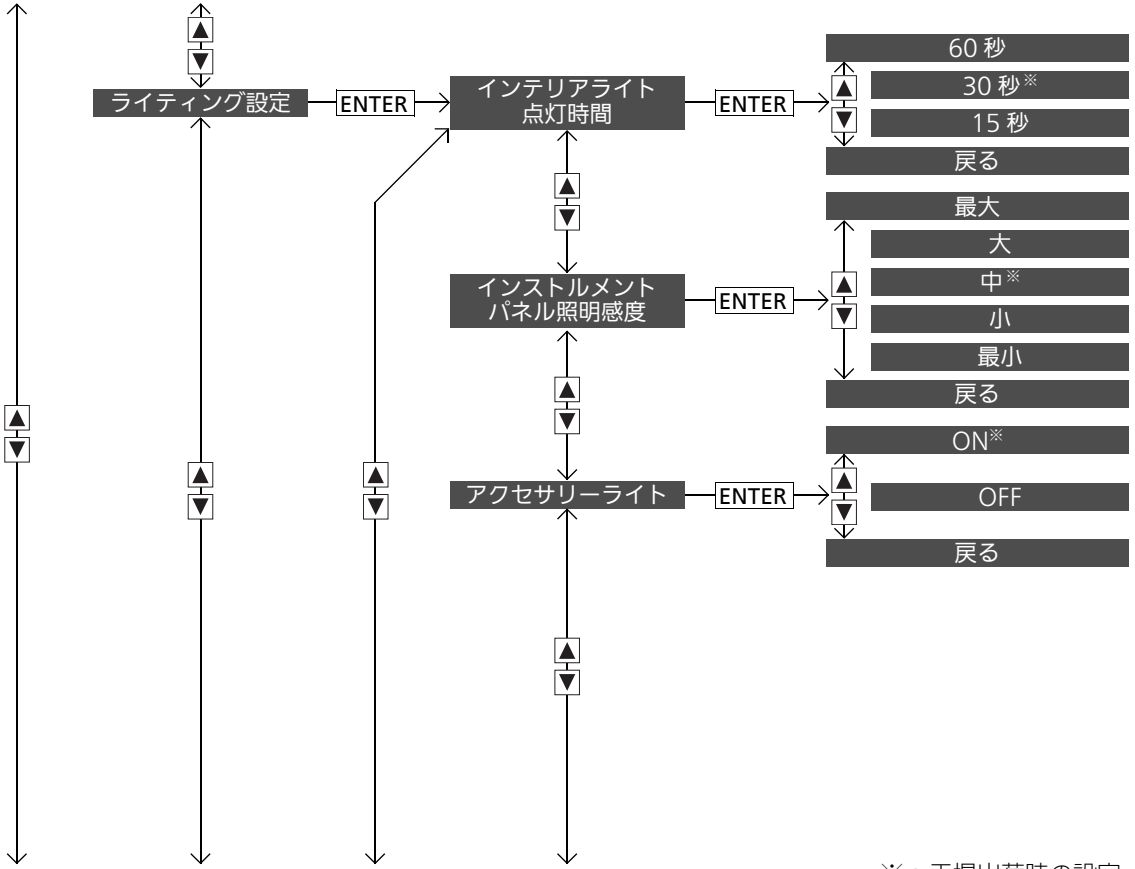


※：工場出荷時の設定

次ページに続く

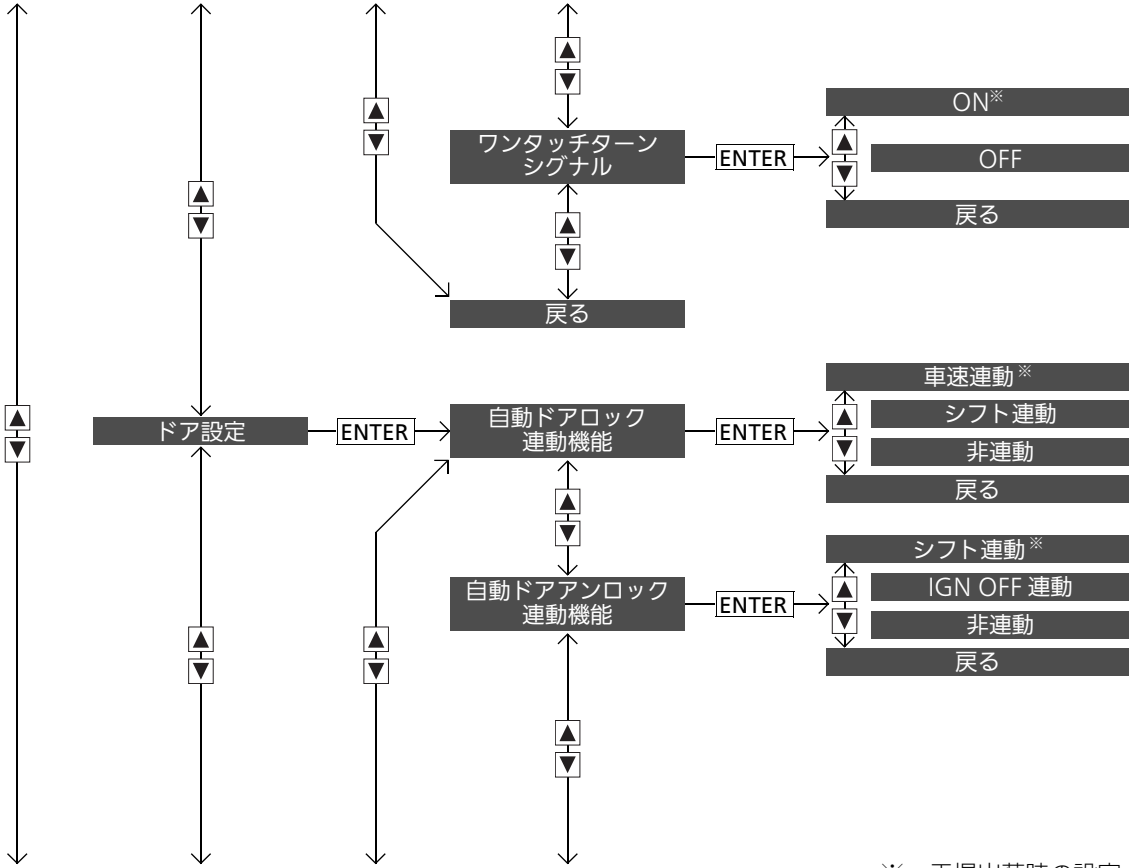

Honda スマート
キーシステム設定
ENTER
アンサーバックブザー
音量
ENTER
大※
小
戻る
ドアハンドル操作
アンサーバックブザー
ENTER
作動※
非作動
戻る
戻る

※：工場出荷時の設定

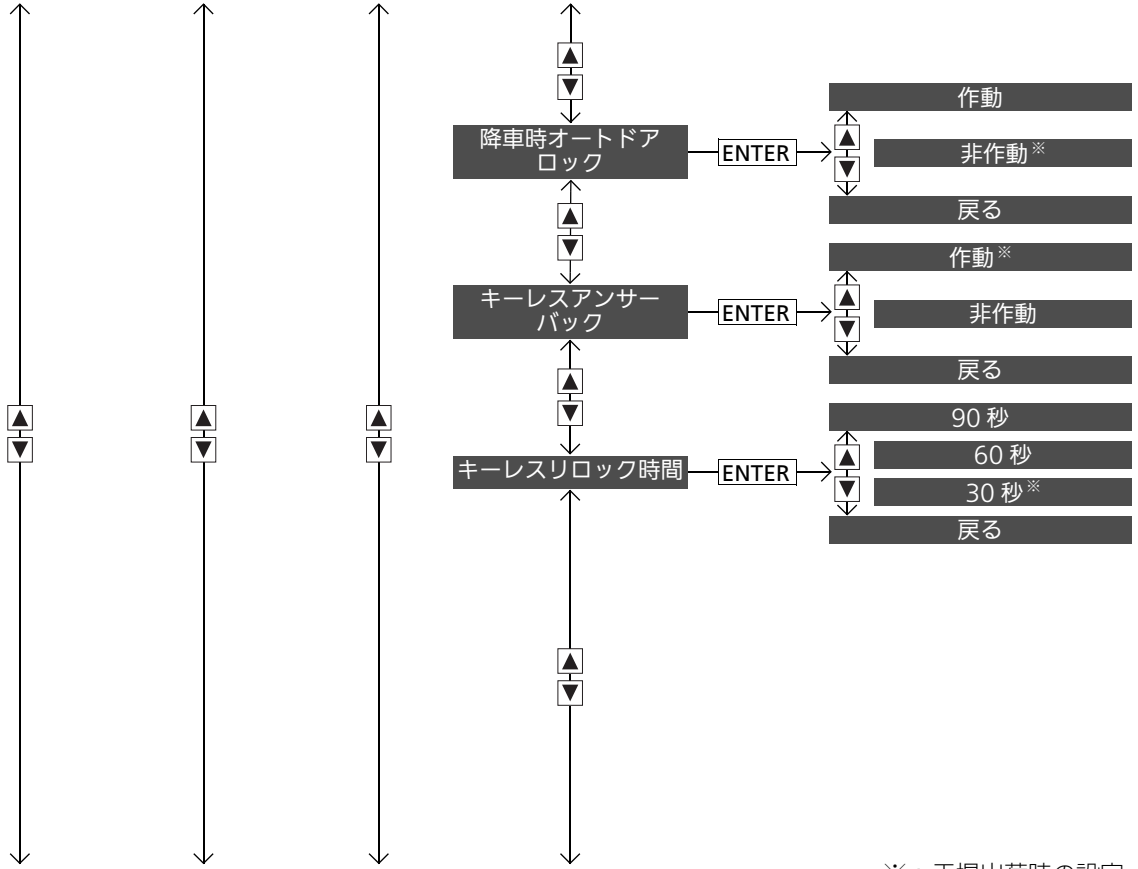


※：工場出荷時の設定

次ページに続く

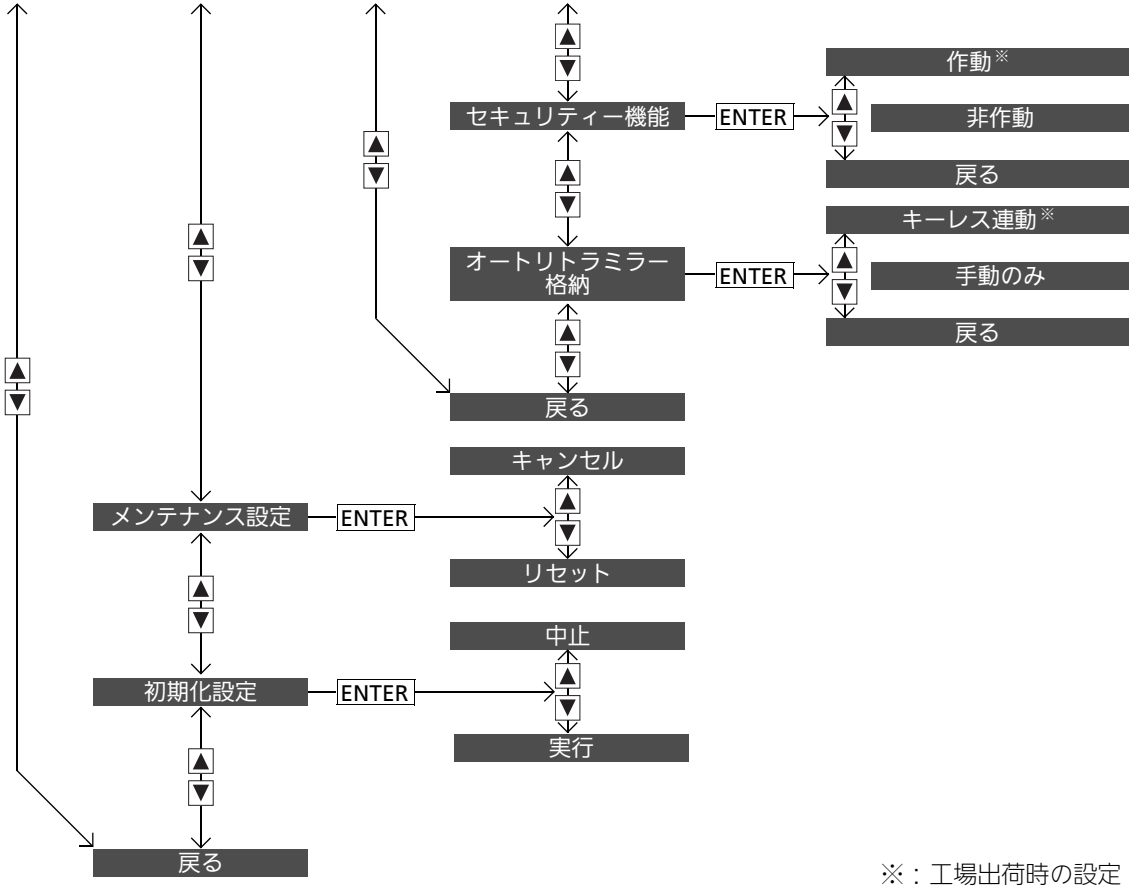

ワンタッチターン
シグナル
ENTER
ON※
OFF
戻る
戻る
ドア設定
ENTER
自動ドアロック
連動機能
ENTER
車速連動※
シフト連動
非連動
戻る
自動ドアアンロック
連動機能
ENTER
シフト連動※
IGN OFF 連動
非連動
戻る

※：工場出荷時の設定



※：工場出荷時の設定

次ページに続く


セキュリティー機能
ENTER
作動※
非作動
戻る
オートリトラミラー格納
ENTER
キーレス連動※
手動のみ
戻る
戻る
メンテナンス設定
ENTER
キャンセル
リセット
初期化設定
ENTER
中止
実行
戻る

※：工場出荷時の設定

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイを使って、下表の機能をお好みに合わせてカスタマイズ(設定変更)することができます。

カスタマイズ機能		選択できる設定内容
時計設定✤	時刻調整	時間(00 ～ 12※/00 ～ 23)、分(00 ～ 59)
	時計表示	24h/12h※/ 非表示
運転支援システム設定	CMBS 警報距離	遠め、標準※、近め
	ACC 先行車検知音	有り、無し※
	先行車発進お知らせ設定	標準※、早め、OFF
	路外逸脱抑制システム設定	アシストタイミング早め、アシストタイミング標準※、アシストタイミング遅め、操舵アシストなし警報のみ
	レーンキープアシストシステム制御解除警報音	ON、OFF※
	標識認識機能	常駐表示 ON※、常駐表示 OFF
メーター設定	外気温表示補正	−3 ℃～ ±0 ℃※ ～ +3 ℃
	TRIP A 自動リセットタイミング	給油連動、IGN OFF 時、手動のみ※
	TRIP B 自動リセットタイミング	給油連動、IGN OFF 時、手動のみ※
	アラーム音量	大、中※、小
	アンビエントメーター照明色変化設定	ON※、OFF
	アイドリングストップ状態表示	ON※、OFF
	タコメータ表示	ON※、OFF

※：工場出荷時の設定

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

カスタマイズ機能		選択できる設定内容
Honda スマートキーシステム設定	アンサーバックブザー音量	大※、小
	ドアハンドル操作アンサーバックブザー	作動※、非作動
ライティング設定	インテリアライト点灯時間	60 秒、30 秒※、15 秒
	インストルメントパネル照明感度	最大、大、中※、小、最小
	アクセサリーライト	ON※、OFF
	ワンタッチターンシグナル	ON※、OFF
ドア設定	自動ドアロック連動機能	非連動、車速連動※、シフト連動
	自動ドアアンロック連動機能	非連動、シフト連動※、IGN OFF 連動
	降車時オートドアロック	作動、非作動※
	キーレスアンサーバック	作動※、非作動
	キーレスリロック時間	90 秒、60 秒、30 秒※
	セキュリティー機能	作動※、非作動
	オートリトラミラー格納	キーレス連動※、手動のみ
メンテナンス設定		キャンセル、リセット
初期化設定		中止、実行

※：工場出荷時の設定

■カスタマイズ設定の例

例えば「TRIP A 自動リセットタイミング」を「給油連動」にする場合、下記の手順で設定します。

「TRIP A 自動リセットタイミング」は工場出荷時の設定では「手動のみ」になっています。



1. ディスプレイ/インフォメーション( ) スイッチを押して が表示されたら、ENTER スイッチを押す。

2. が表示されたら ENTER スイッチを押す。

Honda インターナビシステム装備車

▶「グループ」画面に切り換わり、「運転支援システム設定」が表示されますので、▲ または ▼ スイッチを押して「メーター設定」を選択します。

Honda インターナビシステム非装備車

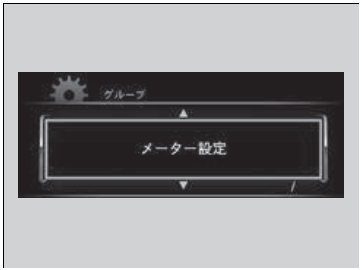
▶「グループ」画面に切り換わり、「時計設定」が表示されますので、▲ または ▼ スイッチを押して「メーター設定」を選択します。

▶▶カスタマイズのしかた

カスタマイズ操作の途中で以下の操作を行うと、設定は変更されず元の設定のままとなります。

- パワーモードをアクセサリーモードまたはOFF モードにする
- セレクトレバーを P 以外にする

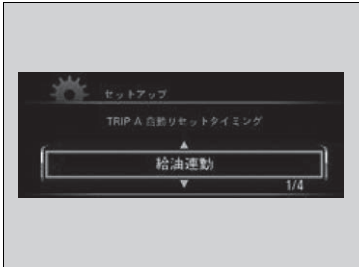
次ページに続く



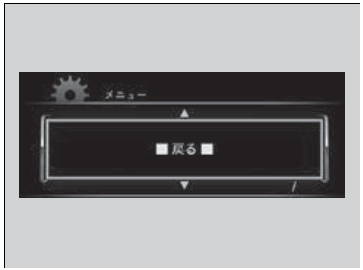
3. ENTER スイッチを押す。
▶「メニュー」画面に切り換わり、最初に「外気温表示補正」が表示されます。



4. ▲ または ▼ スイッチを押し、「TRIP A 自動リセットタイミング」が表示されたら ENTER スイッチを押す。
▶「セットアップ」画面に切り換わり、「給油連動」、「IGN OFF 時」、「手動のみ」が表選択できます。



5.「給油連動」が選択されていることを確認し、 ENTER スイッチを押す。
▶「給油連動に設定しました」という画面が表示された後、「メニュー」画面に戻ります。



6. ▲ または ▼ スイッチを押し、「戻る」が表示されたら、 ENTER を押す。
手順5の操作を通常画面に戻るまで繰り返す。

各部の操作

この章では、運転に必要な各部の操作方法について記載しています。



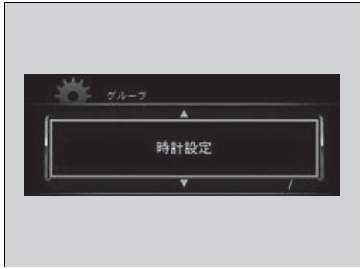
時刻の設定 119
ドアの施錠と解錠
キー 123
Honda スマートキーの微弱電波 125
車外でのドアの施錠 / 解錠 126
車内での施錠 / 解錠 134
衝撃感知ドアロック解除システム 135
チャイルドプルーフ 136
オートドアロック/オートドアアンロック 137
トランクの開閉 138
セキュリティシステム
イモビライザーシステム 141
セキュリティアラームシステム 141
ウィンドーの開閉 143
ハンドルまわりのスイッチ操作
ENGINE START/STOP スイッチ 145
ライトの使いかた 148
オートハイビーム 152
ワイパー/ ウォッシャー 155
イルミネーションコントロール 157
リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラースイッチ 158
ハンドルの調節 158
ミラー類の調節 159
シートの調節 162
フロントシート 162
リヤシート 166
アームレスト 169
室内装備品 170
エアコン
エアコンの吹き出し口 178
オートエアコンの使いかた 179
オートエアコンのセンサー 182

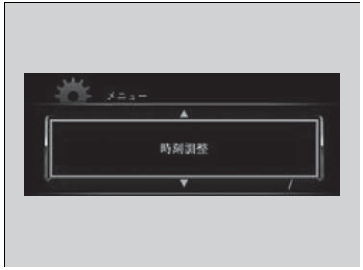
Honda インターナビシステム非装備車

時計の時刻を合わせる

時計はマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■時刻調整





1. ディスプレイ/インフォメーション( )スイッチを押し、が表示されたら、ENTER を操作する。
2. ENTER を操作する。
   ▶「グループ」画面に切り換わり、「時計設定」が表示されます。
3. ENTER を操作する。
   ▶「メニュー」画面に切り換わり、最初に「時刻調整」が表示されます。
4. ENTER を操作する。
   ▶「セットアップ」画面に切り換わり、「時」の調整ができます。
5. ▲ / ▼ を押し、希望の数値が表示されたら、ENTER を操作する。
   ▶「時」が設定され、「分」の調整ができます。

≫時刻の設定

Honda インターナビシステム装備車

ディスプレイ / インフォメーション( )スイッチを押しても時計調節表示に切り替わりません。

時刻は人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。

次ページに続く



6. ▲ / ▼ を押し、希望の数値が表示されたら、 ENTER を操作する。
▶「分」が設定され、通常画面に戻ります。

■時計表示



1. ディスプレイ/インフォメーション( )スイッチを押し、が表示されたら、ENTERを操作する。

2. ENTERを操作する。

▶「グループ」画面に切り換わり、「時計設定」が表示されます。



3. ENTERを操作する。

▶「メニュー」画面に切り換わり、最初に「時刻調整」が表示されますので、▲/▼を押し、「時計表示」を選択します。

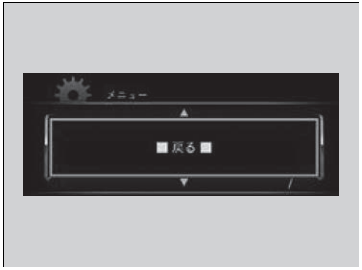
次ページに続く



4. ENTER を操作する。
▶「セットアップ」画面に切り換わり、時計表示設定ができます。

5. ▲ / ▼ を押す。
▶ 24h/12h/非表示に切り換えることができます。
▶「12h」または「24h」を選択すると時計表示が 12 時間または 24 時間に切り換わります。
▶「非表示」を選択すると時計が非表示となります。

6. ENTER を操作する。
▶ 設定完了のメッセージ画面が表示された後、「メニュー」画面に戻ります。



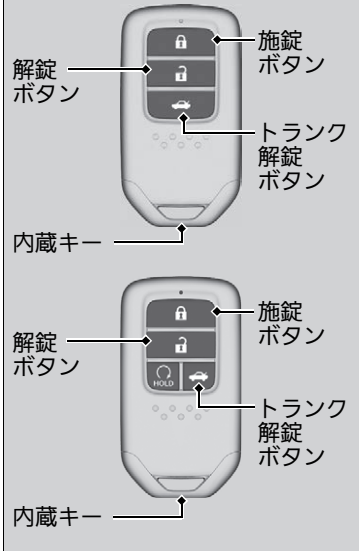
7. ▲ / ▼ を押し、「戻る」が表示されたら、 ENTER を操作する。

8. 手順7の操作を通常画面に戻るまで繰り返す。

キー

この車には、以下のキーが付いています。キーの組み合わせは、車両のタイプにより異なります。

Honda スマートキー



エンジンの始動、停止のほかに、すべてのドア、トランクの施錠 / 解錠に使用できます。

キー

すべてのキーには、イモビライザーシステムがついています。イモビライザーシステムは、車両を盗難から守るためのシステムです。

➡ **イモビライザーシステム** P.141

キーの故障を防ぐため、下記の点をお守りください。

- 直射日光が当たる場所、高温、多湿の場所に置かない
- キーを落としたり、重いものをのせない
- キーに液体をかけない
- 砂やほこりを避ける
- 分解をしない
- 火であぶらない
- テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置いたりしない

キーの電子部品が故障すると、エンジンの始動やリモート発信が作動しなくなることがあります。

キーが正常に作動しなくなった場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

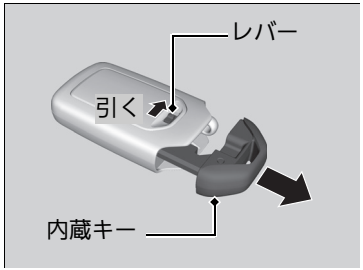
エンジンスタートボタン付の Honda スマートキー装備車

Honda スマートキーを使って離れた場所からエンジンの始動ができます。

➡ **エンジンスタートボタン付の Honda スマートキーでのエンジンの始動** P.191

次ページに続く

■内蔵キー

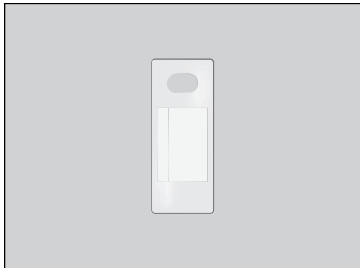


Hondaスマートキーの電池が切れたときや車のバッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。
内蔵キーは、レバーを引きながら取り出します。

収納するときは、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

Hondaスマートキーの電池の消耗や故障したときのことを考慮して、内蔵キーはHondaスマートキーに収納しておいてください。

■キーナンバータグ



キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。

キー

Honda スマートキーは、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。以下のことをお守りください。

- 日本国内でのみ使用する
- 電池交換時以外は分解しない
- 改造しない
- キーの内部にある技術基準適合表示を故意に消去、改ざんしない

分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

Honda スマートキーの電池が切れたとき
P.343

キーナンバータグ

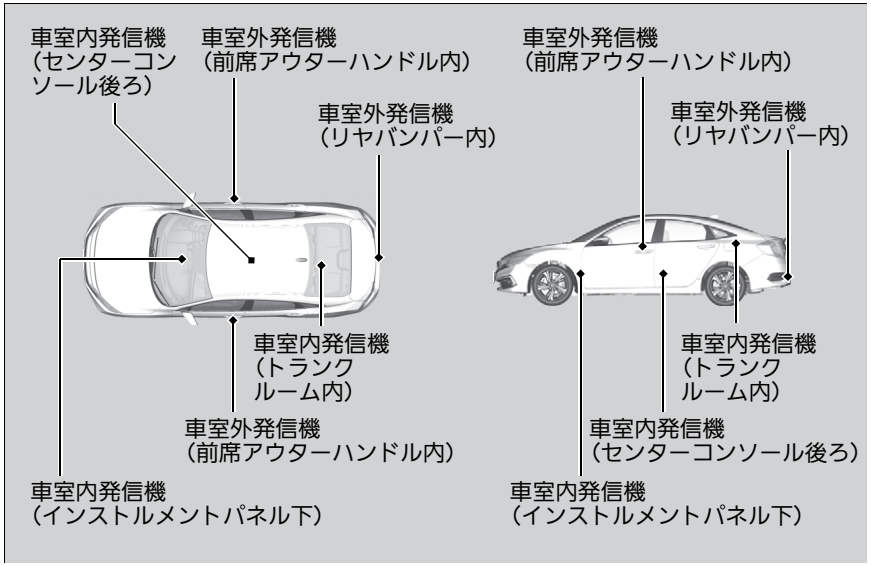
キーナンバータグは、キーとは別に車両以外の場所に大切に保管してください。
キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。キーと一緒に保管せず、車両以外の場所に大切に保管してください。キーを紛失したときや、追加購入したいときは、Honda 販売店に依頼してください。

Honda スマートキーの微弱電波

Honda スマートキーを使用してドア、トランクの施錠 / 解錠操作をするときやエンジンを始動するとき、Honda スマートキーとの電子照合を行うために車両から電波が発信されます。

そのため、次のような場合正常に作動しなかったり、不安定な動作となったりすることがあります。

- 強い電磁波を発する機器や設備が近くにあるとき
- 携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンと一緒に Honda スマートキーを携帯しているとき
- Honda スマートキーが金属物に触れていたり覆われていたりするとき



Honda スマートキーの微弱電波

⚠注意

植込み型心臓ペースメーカや植込み型除細動器などの医療機器を装着されているかたは、車両に搭載されている発信機から 22cm 以内に近づかない。

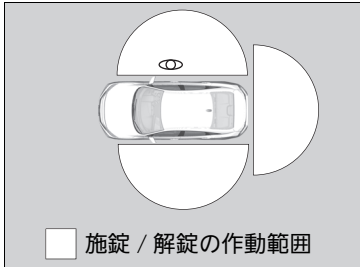
Honda スマートキーシステムで発信されている電波が、機器の作動に影響を与える可能性があります。医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

Honda スマートキーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池寿命は、使用状況により異なりますが約 2 年間です。

また、強い電波を受信し続けると電池を著しく消耗することがあります。テレビやパソコンなどの電化製品の近くには置かないでください。

車外でのドアの施錠 / 解錠

■ Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠



施錠 / 解錠の作動範囲

Honda スマートキーを携帯し、ロックボタン、ドアハンドルを操作することでドア、トランクの施錠や解錠ができます。
施錠 / 解錠が作動するのは、運転席または助手席ドアハンドルから周囲約 80cm 以内です。

車外でのドアの施錠 / 解錠

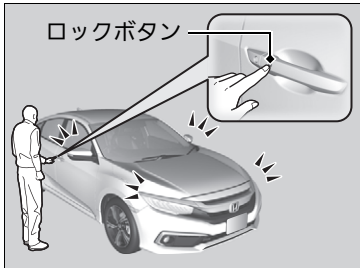
ドアを解錠すると、室内灯が点灯します。
室内灯のスイッチがドアと連動する位置にあるとき、解錠すると室内灯が点灯します。
約 30 秒点灯し、徐々に暗くなります。30 秒以内にドアを施錠すると、室内灯は直ちに消灯します。
➔ **室内灯** P.170

Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

Honda スマートキーシステムで解錠操作をした場合、30 秒以内にドアを開けないと、再び自動的に施錠されます。

パワーモードがOFFモード以外のときはHondaスマートキーシステムによる施錠 / 解錠はできません。

- Hondaスマートキーは運転者が携帯し、車内に残したまま降車しないでください。
- 同じ作動範囲に Honda スマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもロックボタンやドアハンドルで施錠 / 解錠操作ができます。



■施錠するには

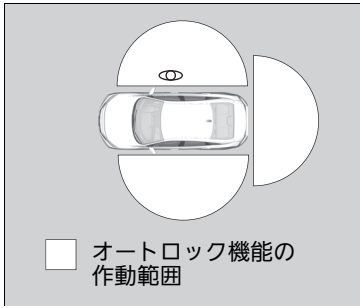
運転席ドアまたは助手席ドアのロックボタンを押します。

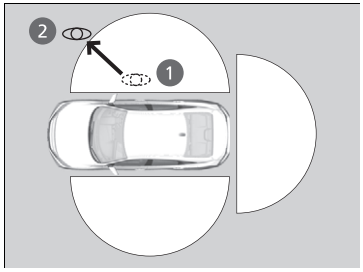
▶「ピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、トランクが施錠されます。

Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

- 革製やスキー用の手袋などを着用しているときは、ドアハンドルでの解錠操作が遅れたりできなかったりすることがあります。
- 作動範囲内にHondaスマートキーがあるときは、大雨や洗車などで大量の水がドアハンドルにかかると、解錠されることがあります。
- 施錠後約2秒間は、ドアハンドルを握っても解錠操作はできません。
- ドアハンドルを握った直後はドアが開かないことがあります。ドアハンドルを握りなおして解錠されていることを確認してから開けてください。
- ドアハンドルより約80cm以内の距離でも、Honda スマートキーが地面の近くや高い位置にあるときは作動しないことがあります。
- ドアやドアガラスに近づきすぎていると作動しないことがあります。

次ページに続く





■施錠するには(降車時オートドアロック機能)

Honda スマートキーを携帯し、車から離れると、ドアが自動的に施錠します。
このオートロック機能は、すべてのドアが閉まっている状態で、Honda スマートキーが運転席または助手席ドアハンドルから周囲約 1.5m 以内にあるときに起動します。

Honda スマートキーを携帯し、降車してドアを閉めてください。

1. そのまま約 1.5m 以内で待つ。
▶「ピッ」と音が鳴り、オートロック機能が起動します。

2. Honda スマートキーを携帯したまま、約 1.5m 以上離れて、約 2 秒待つ。
▶「ピッ」と音が鳴り、非常点滅表示灯が 1 回点滅し、すべてのドア、トランクが施錠されます。

施錠するには(降車時オートドアロック機能)

降車時オートドアロック機能の工場出荷時の設定は OFF になっています。
ON にするときは、マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ機能で設定を変更してください。
カスタマイズ機能 P.113

オートロック機能が起動し、作動範囲内にいるときはドアが施錠されるまで、Honda スマートキーのインジケーターが点滅します。

オートロック機能が起動し、車から離れずに作動範囲内にいた場合は、アンサーバック音が鳴ってから、約 30 秒後に自動で施錠されます。

オートロック機能が起動してからドアを開けた場合、オートロック機能は中断されます。

以下のときオートロック機能は起動しません。
- Honda スマートキーが車内にあるとき
  ▶警告音は鳴りません。
- Honda スマートキーが作動範囲に無いとき
  ▶警告音が鳴ります。

一時的にオートロック機能を OFF にするとき：

1. パワーモードを OFF モードにする。
2. 運転席ドアを開ける。
3. マスタードアロックスイッチを施錠→解錠→施錠→解錠の順番で押す。
▶ オートロック機能が OFF になり、アンサーバック音が鳴ります。

以下のいずれかの操作をした場合、オートロック機能が ON に戻ります。

- パワーモードを ON モードにする
- 内蔵キー、キーレスエントリーシステムもしくは Honda スマートキーシステムですべてのドア、トランクを施錠する
- Honda スマートキーを携帯したままオートロック機能の作動範囲内から離れる
- いずれかのドアを開ける

施錠するには（降車時オートドアロック機能）

次のような場合は、オートロック機能は作動しません。

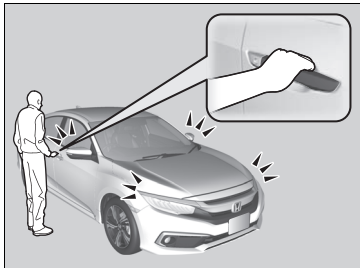
- Honda スマートキーが車内に置いてあるとき
- ドア、ボンネットが完全に閉まっていないとき
- パワーモードが OFF モード以外のとき
- 降車時にすでに Honda スマートキーが作動範囲内にないとき

オートロック機能の起動後に、次のような場合は、オートロック作動中止警告ブザーが約 2 秒間鳴ります。

- Honda スマートキーを窓から車内に置いたとき
- 車に近づきすぎているとき
- Honda スマートキーをトランク内に置いたとき

オートロック作動中止警告ブザーが鳴ったときは、車から離れても自動で施錠されません。
Honda スマートキーを携帯していることを確認し、再度ドアを開閉してオートロック起動ブザーが鳴ることを確認してください。

次ページに続く



■解錠するには

運転席または助手席ドアハンドルを握ります。

▶「ピピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドア、トランクが解錠されます。

Hondaスマートキーシステムでの施錠 / 解錠

カスタマイズ機能について

施錠 / 解錠時に鳴るアンサーバックブザーは、マルチインフォメーションディスプレイを使って音量を変えたりブザーが鳴らないようにすることができます。

カスタマイズ機能 P.113

■キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠





■施錠

施錠ボタンを押します。

▶ 非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、トランクが施錠されます。

■解錠

解錠ボタンを押します。

▶ 非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドア、トランクが解錠されます。

»キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠

キーレスエントリーシステムで解錠操作をした場合、30 秒以内にドアを開けないと、再び自動的に施錠されます。
マルチインフォメーションディスプレイを使ってキーレスリロック時間をカスタマイズすることができます。
➲ **カスタマイズ機能** P.113

パワーモードが OFF モード以外のときはキーレスエントリーシステムによる施錠 / 解錠はできません。

キーレスエントリーシステムは微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が変化することがあります。

ドアが開いているときは、キーレスエントリーシステムで施錠できません。

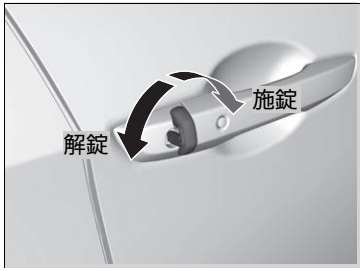
作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。
ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。
➲ **電池交換のしかた** P.314

次ページに続く

■キーを差し込んでの施錠 / 解錠

Honda スマートキーのボタンで施錠 / 解錠できない場合は内蔵キーを使用してください。

➔ **電池交換のしかた** P.314



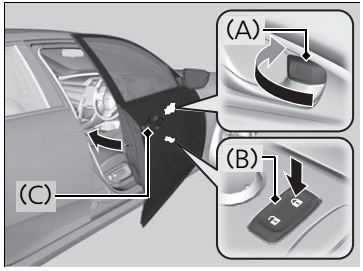
キーを確実に差し込んで、回します。

»キーを差し込んでの施錠 / 解錠

運転席ドアにキーを差し込んで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドアとトランクも同時に施錠 / 解錠されます。

■キーを使わない施錠

キーが正常に作動しなくなったときや、キーを所持していないときに、キーを使わずに施錠することができます。



■運転席のドアの施錠

ノブ(A)を押し込むか、マスタードアロックスイッチ(B)を施錠のほうに押し、外側のドアハンドル(C)を引いたままドアを閉めます。

■運転席以外のドアの施錠

ノブを押し込み、ドアを閉めます。

■キー閉じ込み防止装置

Honda スマートキーが車内の作動範囲内に置いてあると、施錠できません。

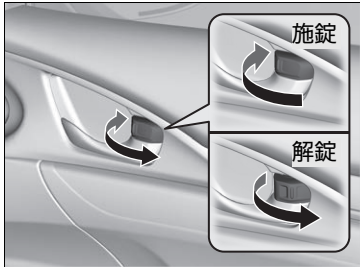
»キーを使わない施錠

運転席ドアで施錠すると、ほかのすべてのドア、トランクも同時に施錠されます。

施錠の際は車内にキーを置き忘れないようにしてください。

車内での施錠 / 解錠

■ノブでの施錠 / 解錠



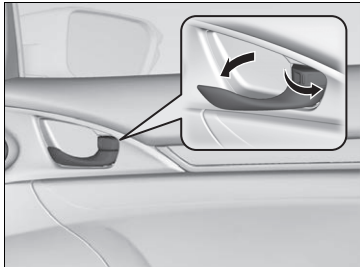
■施錠するには
ノブを押し込みます。

■解錠するには
ノブを引き出します。

ノブでの施錠 / 解錠

運転席ドアのノブで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、トランクも同時に施錠 / 解錠されます。

■運転席ドアハンドルでの解錠



運転席ドアは、内側のハンドルを引くと施錠していてもドアが開きます。

運転席ドアハンドルでの解錠

走行中でも運転席の内側のハンドルを引くとドアが解錠します。走行中はドアハンドルを操作しないでください。

■マスタードアロックスイッチでの施錠 / 解錠



マスタードアロックスイッチを施錠 / 解錠のほうに押します。

衝撃感知ドアロック解除システム

車両に衝撃が加わったときに、自動的にすべてのドア、トランクを解錠するシステムです。
作動するのは以下の場合です。

- 正面からの衝撃：SRS エアバッグが作動したとき
- 側面からの衝撃：サイドエアバッグ / サイドカーテンエアバッグが作動したとき
- 後面からの衝撃：衝撃が大きいとき

いずれの場合も、安全性を考慮して衝撃を受けてから約 10 秒後に解錠します。

マスタードアロックスイッチでの施錠 / 解錠

運転席または助手席ドアのマスタードアロックスイッチで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、トランクも同時に施錠 / 解錠されます。

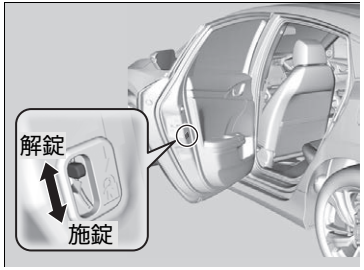
衝撃感知ドアロック解除システム

衝撃の加わりかたや大きさによっては解錠しない場合があります。

チャイルドプルーフ

チャイルドプルーフとは、走行中などにお子さまが車外に放り出されることを防止するため、ノブの位置に関係なく、後席ドアを車内から開けることができないようにする機能です。
お子さまをリヤシートに乗せるときなどにお使いください。

■チャイルドプルーフのセット



後席ドアについているツマミを、施錠の位置にしてドアを閉めます。

■ドアを開ける場合

外側のハンドルで開けます。

チャイルドプルーフ

チャイルドプルーフセット時に車内から開けたい場合は、ノブを解錠状態にして後席ウィンドーを下げ、窓から手を出して外側のドアハンドルを引いてください。

オートドアロック / オートドアアンロック

■オートドアロック

■車速連動

車速が約 15km/h 以上になるとすべてのドア、トランクが自動的に施錠される機能です。

■オートドアアンロック

■セレクトレバー連動

ブレーキペダルを踏んでセレクトレバーを P にすると、すべてのドア、トランクが自動的に解錠される機能です。

オートドアロック / オートドアアンロック

マルチインフォメーションディスプレイを使ってオートドアロック / オートドアアンロックの条件をカスタマイズすることができます。

➔ **カスタマイズ機能** P.113

トランク開閉時の注意

トランク開閉をするときは、下記の点に注意してください。

■トランクを開けているとき

- トランクは上までしっかりと開ける。
  ▶途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあります。
- 風の強い日は、風にあおられて閉まらないように注意する。
- トランクを開けたまま走行しない。
  ▶車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。

■トランクを閉めるとき

- Honda スマートキーを、トランク内に置き忘れないように注意する。

▶トランク開閉時の注意

⚠注意

トランクを閉めるときは、頭をぶつけたり手をはさまないよう注意する。

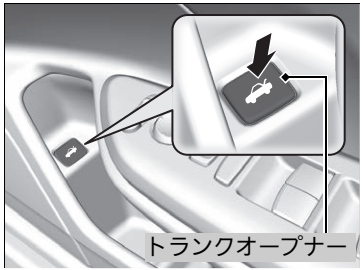
エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないようにする。
やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

トランクルーム内には、人を乗せない。
ブレーキや加速、衝突のときにけがをするおそれがあります。

トランク内にお子さまが入らないように注意する。

運転席ドアが施錠されているとき：
トランクを閉めると、トランクも施錠されます。
運転席ドアが解錠されているとき：
トランクを閉めても、施錠されません。

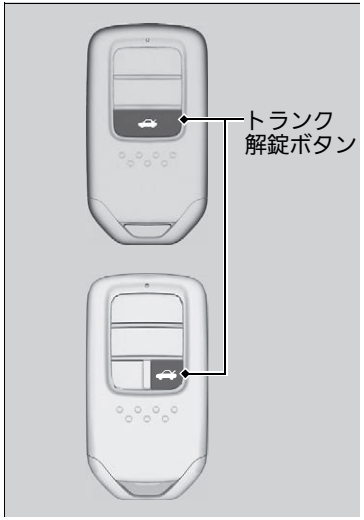
トランクオープナーで開ける



運転席ドアにあるトランクオープナーを約 1 秒押すと、トランクが解錠され浮き上がります。

➡ **トランクが開かないとき** P.365

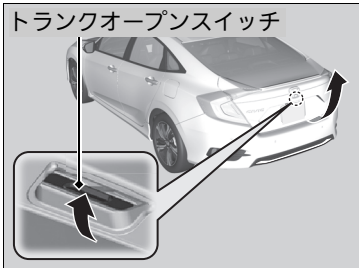
キーレスエントリーシステムで開ける



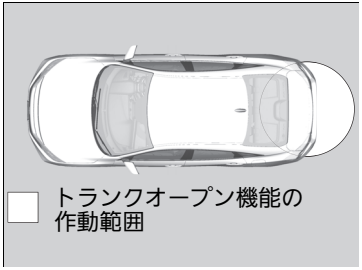
トランク解錠ボタンを約1 秒押すと、トランクが解錠され浮き上がります。

パワーモードが OFF モード以外のときは、Honda スマートキーの解錠ボタンでは開けられません。

トランクオープンスイッチで開ける



運転席ドアを解錠し、トランクオープンスイッチを押すとトランクが浮き上がります。



Honda スマートキーを携帯して、トランクオープンスイッチを押すとトランクが解錠され浮き上がります。このときアンサーバックブザーが「ピッ」と1回鳴ります。トランクオープン機能が作動するのは、トランクオープンスイッチから周囲約80cm以内です。

トランクオープンスイッチで開ける

- Honda スマートキーは運転者が携帯し、トランク内に置かないようにしてください。
- 作動範囲内に Honda スマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもトランクオープンスイッチでトランクを開けることができます。
- トランク内に Honda スマートキーを置いたままトランクを閉めると、トランクが開きます。Honda スマートキーを取り出してから、再度トランクを閉めてください。
- トランクを閉めるときは、Honda スマートキーを後席に置かないでください。

イモビライザーシステム

イモビライザーシステムとは、キーに信号を発信する電子部品が組み込まれてあり、あらかじめ登録されたキーでないとエンジンの始動ができないようにしたシステムです。

イモビライザーシステムでは、車両とキーの電子照合を行うときに微弱な電波を使用します。 ENGINE START/STOP を押すときは、下記の点に注意してください。

- ENGINE START/STOP スイッチの近くに強い電波を発するものを近づけない
- キーを金属に触れさせたり、覆ったりしない
- ほかの車両のイモビライザーシステムのキーを近づけない
- 磁気を帯びたキーホルダーなどをキーと一緒に取り付けない

イモビライザーシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

セキュリティアラームシステム

セキュリティアラームシステムは、内蔵キー、キーレスエントリーシステムあるいは Honda スマートキーシステムを使わずにドア、トランク、ボンネットを開けると、警報装置が作動するシステムです。

■作動すると

ホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯が点滅します。

■停止させるには

Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーで解錠するか、パワーモードを ON モードにしてください。システムが停止し、ホーンと点滅も停止します。

セキュリティアラームシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

警報装置はセキュリティアラームシステムを停止させるまで、約 5 分間作動します。
ホーンおよび非常点滅表示灯は、1 回の作動につき約 30 秒間作動し、その警報作動が 10 回行われます。
状況によっては、5 分間以上作動することがあります。

次ページに続く

■セットするには

セキュリティアラームシステムは、以下の条件が整うと自動的にセットされます。

- パワーモードが OFF モードのとき
- ボンネットが閉まっているとき
- Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーですべてのドアとトランクが施錠されているとき

■セットされると

メーター内にある作動表示灯が点滅し、約 15 秒後に点滅間隔が長くなります。

■セットを解除するには

Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーで解錠するか、パワーモードをONモードにすると解除されます。同時に作動表示灯が消灯します。

≫セキュリティアラームシステム

車内に人が乗っているときやウィンドーが開いているときでも、セキュリティアラームシステムは作動します。

警報装置の思わぬ作動を防ぐために、人が乗っていたりウィンドーが開いているときには、セキュリティアラームシステムをセットしないでください。

セキュリティアラームシステムをセットした後にバッテリーがあがり、バッテリーの充電、交換をすると、警報装置が作動することがあります。

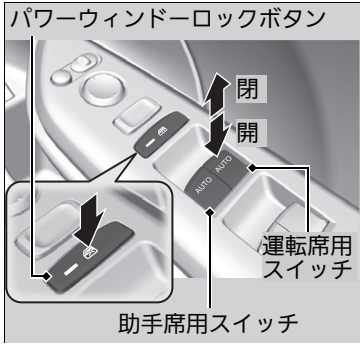
そのときは、Hondaスマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーでドアを解錠し、セキュリティアラームシステムを解除してください。

パワーウィンドーの開閉

パワーモードが ON モードのときに、パワーウィンドーの開閉操作を行うことができます。開閉はそれぞれのドアにあるスイッチで行います。

運転席のスイッチでは、すべてのウィンドーの開閉操作を行うことができます。運転席以外のウィンドーの開閉は、運転席のパワーウィンドーロックボタンを OFF にしてから行います。
パワーウィンドーロックボタンを OFF にすると、ボタンにある表示灯が消灯します。
パワーウィンドーロックボタンを ON(表示灯点灯)にしておくと、運転席以外のウィンドーは作動しません。お子さまを乗せているときなどは、パワーウィンドーロックボタンを ON にしておいてください。

■自動開閉機能付きのウィンドーの開閉



■手動開閉

開けるとき：スイッチを軽く押す
閉めるとき：スイッチを軽く引き上げる
希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

■自動開閉

開けるとき：スイッチを強く押す
閉めるとき：スイッチを強く引き上げる
自動的に全開/全閉します。途中で止めるには、スイッチを反対側に軽く上げ / 下げします。

次ページに続く

パワーウィンドーの開閉

⚠警告

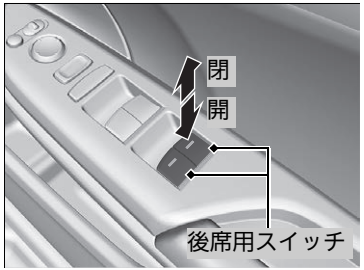
パワーウィンドーを閉めるときは、同乗者が窓から手や顔などを出していないことを確認する。
手や顔などをパワーウィンドーにはさむと、重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

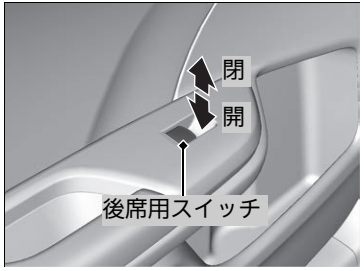
⚠注意

指などをはさみ込まないように注意する。
確実に閉めるため、閉め切る直前の部分に、はさみ込みを検知しないエリアがあります。

お子さまだけを車内に残さない。必ず Honda スマートキーを携帯しドアをロックしてお子さまと一緒に車外に出てください。

■自動開閉機能なしのウィンドーの開閉





開けるとき：スイッチを押す
閉めるとき：スイッチを引き上げる
希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

パワーウィンドーの開閉

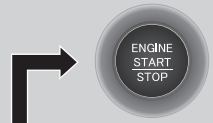
パワーモードを OFF モードにしても、約 10 分間は自動開閉機能付きのパワーウィンドーを開閉できます。
この場合、運転席のドアを開閉すると、ウィンドーの開閉はできなくなります。

自動開閉機能付きのパワーウィンドーを自動で閉めているときに障害物を検知すると、はさみ込み防止機構によりウィンドーの動きが逆転し止まります。

故障などではさみ込み防止機構が作動し、自動でウィンドーを閉めることができなくなったときは、スイッチを軽く引き上げ続けると閉めることができます。
路面や走行条件による衝撃などで、はさみ込み防止機構が作動することがあります。

ENGINE START/STOP スイッチ

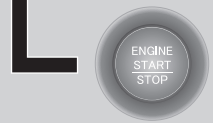
■パワーモードの切り換えかた



OFF モード
- スイッチが消灯
- ハンドルがロックされ、すべての電源がOFF になります



アクセサリーモード
- スイッチが赤色に点滅
- エンジンを始動させずに、オーディオシステムなどのアクセサリーを使用するときの位置



ON モード
- スイッチが赤色に点滅
- すべてのアクセサリーが使用可能

（ブレーキペダルを踏んでいない状態）

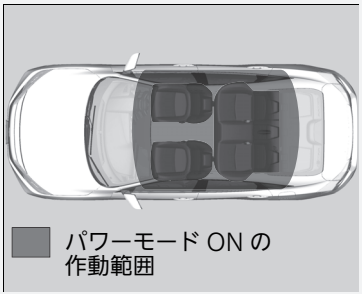
⇨ スイッチを押す

➡ セレクトレバーが P 以外のときに、スイッチを押す

➡ セレクトレバーが P のときに、スイッチを押す

ENGINE START/STOP スイッチ

Honda スマートキーが車内にある場合パワーモードを ON モードにできます。
Honda スマートキーをインストルメントパネル上、カーゴスペースやグローブボックス、ドアポケットなどの各種小物入れに置いた場合、電波状態によってはパワーモードのON機能が作動しないことがあります。



Honda スマートキーの電池が消耗した状態で ENGINE START/STOP を押してもエンジンが始動しない場合があります。そのときは、下記ページを参照ください。

Honda スマートキーの電池が切れたとき
P.343

Honda スマートキーが車外にあっても、ドアやドアガラスに近づきすぎていると、パワーモードをONモードにできることがあります。

次ページに続く

■パワーモードオートオフ機能

セレクトレバーが P でパワーモードがアクセサリーモードのときに 30 分～ 60 分経過すると、バッテリー保護のため自動的にパワーモードが OFF モードになります。
このときはハンドルはロックされません。またキーレスエントリーシステムおよび Honda スマートキーシステムによる施錠 / 解錠ができなくなります。
ENGINE START/STOP を押してパワーモードを再度 OFF モードに切り換えてください。

■パワーモード警告ブザー

次の状態で車を離れようとして運転席ドアを開けた場合、警告ブザーが鳴ります。

- パワーモードがアクセサリーモードのとき

ENGINE START/STOP スイッチ

ENGINE START/STOP のパワーモードが OFF モードからアクセサリーモードに切り換わらないときは、ハンドルロックを解除します。
ハンドルを左右に回しながら、
ENGINE START/STOP を押してください。
ハンドルロックが解除されます。

■ Honda スマートキー持ち去り警告



パワーモードが OFF モード以外のときに Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると警告ブザーが鳴ります。警告状態が続くときは Honda スマートキーの携帯位置を変更してください。

■パワーモードがアクセサリーモードのとき

車外から警告ブザーが鳴ります。

■パワーモードが ON モードのとき

車外と車内から警告ブザーが鳴ります。また、メーター内に警告が表示されます。

Honda スマートキー持ち去り警告

パワーモードONの作動範囲内にHondaスマートキーを戻してドアを閉めると、警告が解除されます。

Honda スマートキーを持ち出した状態で、パワーモードを OFF モードにすると、パワーモードの操作ができなくなります。
パワーモードを操作するときは、Honda スマートキーを持っていることを確認してください。

窓からの受け渡しでは、Honda スマートキー持ち去り警告は作動しません。

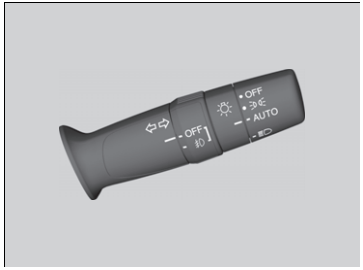
Honda スマートキーを、インストルメントパネル、グローブボックスなどに置いた場合、電波状態により警告ブザーが鳴ることがあります。

Honda スマートキーがエンジン始動の作動範囲内にあっても、周囲の環境や電波状態により Honda スマートキー持ち去り警告が行われることがあります。

ライトの使いかた

■ヘッドライト・車幅灯

車外の明るさに応じて自動で点灯します。手動で点灯 / 消灯させることもできます。



パワーモードが ON モードのときに、ライトスイッチを AUTO にすると自動点灯が作動します。

■手動点灯 / 消灯

ヘッドライト・車幅灯の点灯：

ライトスイッチを にします。

車幅灯の点灯：

ライトスイッチを にして手を放します。

- ▶ ヘッドライトは車外の明るさに応じて自動点灯します。
- ▶ 停車中に行うとヘッドライトは消灯します。低速でしばらく走行するか一定以上の車速で走行するとヘッドライトの自動点灯が再開します。
- ▶ 車幅灯の自動点灯を再開するにはスイッチを にしたあと、 AUTO にします。

ヘッドライト・車幅灯の消灯：

停車中にライトスイッチを OFF にして手を放します。

- ▶ 発進すると車幅灯の自動点灯が再開します。低速でしばらく走行するか一定以上の車速で走行するとヘッドライトの自動点灯が再開します。

ライトの使いかた

ライト類が点灯するとメーター内の表示灯が点灯します。

➡ **表示灯** P.73

ヘッドライト・車幅灯

車幅灯が点灯しているときは尾灯、番号灯、サイドマーカーライトも点灯します。

スイッチを にしたままパワーモードを OFF モードにすると、運転席のドアを開けた時にライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。このとき、Honda スマートキーシステム、または、キーレスエントリーシステムですべてのドアを施錠すると、ライトが消灯します。

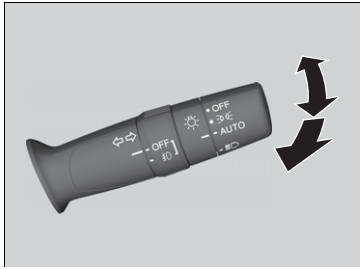
重い荷物の積載時など、車両の姿勢の変化に応じてヘッドライト光軸の上下方向を自動的に調整するオートレベリング機能が付いています。

ヘッドライト光軸の異常を感じたときは Honda 販売店で点検を受けてください。

エンジンが停止しているときにライト類を点灯したままにしていると、バッテリー上がりの原因となります。

■ハイビーム

ヘッドライトが点灯しているとき、レバーを前方に押すとハイビームに切り換わります。手前に引くとロービームに戻ります。



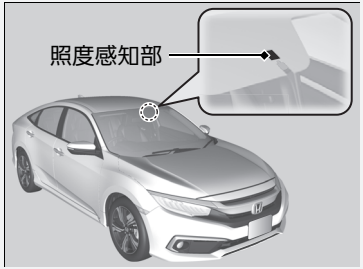
■パッシング

レバーを手前に引くとハイビームが点灯します。

▶ レバーを放すとレバーはロービームの位置に戻ります。

» ヘッドライト・車幅灯

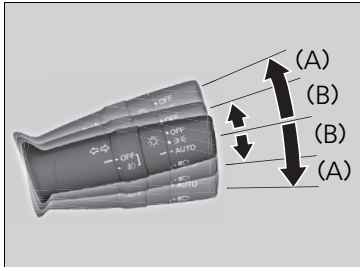
照度感知センサーは、図の位置にあります。



次ページに続く

■方向指示器(ウィンカー)

パワーモードが ON モードのときに使用できます。



■(A): 方向指示器

進行方向に応じてレバーを下または上に押し込むと方向指示器が点滅します。

■(B): ワンタッチターンシグナル

車線変更のときなどに、進行方向に応じてレバーを下または上に軽く押してレバーを放すと、方向指示器が 3 回点滅します。

▶ 点滅中にレバーを反対方向に軽く押して放すと点滅が停止します。

■アクセサリーライト

アクセサリーライトは以下の条件をすべて満たしたときに点灯します。

- パワーモードが ON モードのとき
- ライトスイッチが AUTO で周囲が明るいとき

»方向指示器(ウィンカー)

マルチインフォーメーションディスプレイでワンタッチターンシグナルの ON/OFF 設定を変更することができます。

➔ **カスタマイズ機能** P.113

方向指示器が点滅するとメーター内の方向指示器表示灯が点滅します。

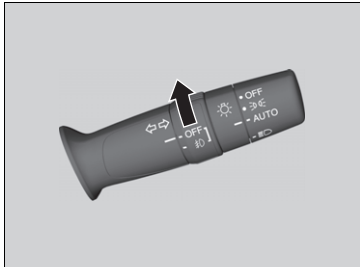
➔ **表示灯** P.73

»アクセサリーライト

マルチインフォメーションディスプレイでアクセサリーライトの ON/OFF 設定を変更することができます。

➔ **カスタマイズ機能** P.113

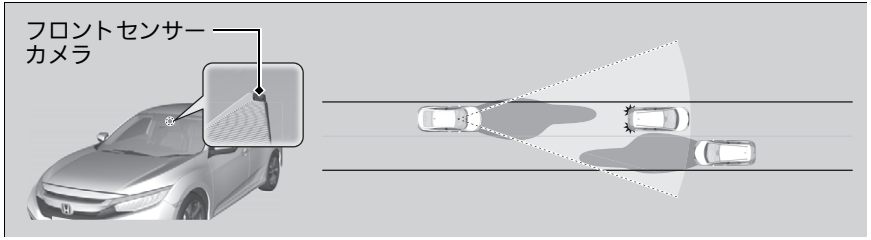
■フォグライト



インジケータが点灯しているときに、フォグライトスイッチを回して点灯することができます。

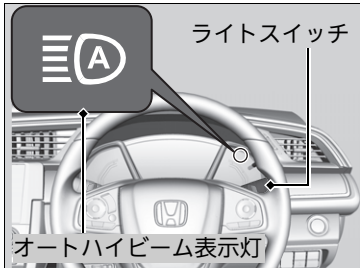
オートハイビーム

夜間走行時にフロントセンサーカメラで前方車両のライトや街灯などを検知し、状況に応じてヘッドライトのハイビームとロービームを自動で切り換えるシステムです。



■オートハイビームの使いかた

以下の条件をすべて満たすとオートハイビーム表示灯が点灯し、オートハイビームが作動します。



- パワーモードが ON モード
- ライトスイッチが AUTO の位置
- レバーがロービームの位置
- ヘッドライトが自動で点灯している
- 車両の周囲が暗い

上記の条件を満たしていてもオートハイビーム表示灯が点灯しないときは、続けて以下のいずれかの操作を行うことで、オートハイビーム表示灯が点灯します。

- レバーを手前(パッシングの位置)に 2 秒以上引き続け、手を放す
- ライトスイッチを≡Oに回したあと、 AUTO に戻す

≫オートハイビーム

オートハイビームはあらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。常に周囲の状況を確認し、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り換えてください。

カメラが認識できる範囲や距離は周囲の状況により変化します。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➡ **フロントセンサーカメラ** P.271

オートハイビームを正しく動作させるために次のことをお守りください。

- インストルメントパネルの上に光を反射するものを置かない
- カメラ付近のガラスはきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れのときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにする
- カメラ付近のガラスにアクセサリー、ステッカーやフィルムを取り付けない
- カメラのレンズに触れない

カメラに強い衝撃が加わったときやカメラ周辺の修理を行うときは Honda 販売店にご相談ください。

■ハイビーム / ロービームの自動切り換え

オートハイビームが作動しているとき、以下の条件によりハイビームとロービームが自動で切り換わります。

ハイビームへの切り換え：	ロービームへの切り換え：
以下の条件をすべて満たすとハイビームに切り換わります。 • 車速が 30km/h 以上 • 前方にライトを点灯した車両がいない • 前方に街灯などの光が少ない	以下の条件のいずれかを満たすとロービームに切り換わります。 • 車速が 24km/h 以下 • 前方にライトを点灯した車両がいる • 前方に街灯などの光が多い

■ハイビーム / ロービームの手動切り換え

ハイビームとロービームを手動で切り換えたい場合は、以下のいずれかの操作を行ってください。このとき、オートハイビーム表示灯が消灯し、オートハイビームが停止します。

レバーによる操作：

レバーを手前(パッシングの位置)に引いた後すぐに手を放す。または、レバーを前方(ハイビームの位置)に押す。

▶ オートハイビームを復帰させる場合は、以下のいずれかの操作を行ってください。

- レバーを手前(パッシングの位置)に 2 秒以上引き続け手を放す
- レバーがロービームの位置のときにライトスイッチを≡Dに回した後、AUTOに戻す。

このとき、オートハイビーム表示灯が点灯します。

ライトスイッチによる操作：

ライトスイッチを≡Dに回す。

▶ オートハイビームを復帰させる場合は、レバーがロービームの位置のときにライトスイッチを AUTO に戻してください。このとき、オートハイビーム表示灯が点灯します。

次ページに続く

ハイビーム / ロービームの自動切り換え

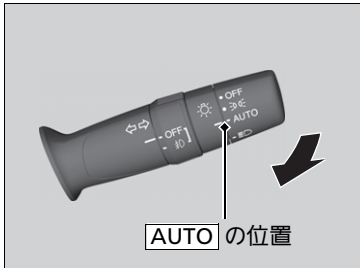
次のような場合、ヘッドライトの切り換えタイミングが変化したり適切に切り換えが行われない場合があります。運転者の感覚に合わない場合は手動で切り換えを行ってください。

- 対向車や先行車のランプが明るい場合や暗い場合、片側点灯や無灯火の場合
- 天候の状況(雨、雪、霧、フロントガラスの霜など)
- 周囲にある街灯、電光掲示、信号機などの光源が明るいとき
- 周囲の明るさが連続的に変わるとき
- カーブが多い道、起伏の激しい道路を走行しているとき
- 前方の車両が突然現れたり、適切な方向を向いていないとき
- 重い荷物を積んで車が傾いているとき
- 車両前方に標識やミラーなどの光を強く反射するものがあるとき
- 中央分離帯、街路樹などで対向車が見え隠れするとき
- 対向車や先行車が二輪車、自転車などのとき

フロントワイパーが高速(HI)作動しているとき、または、フロントセンサーカメラが濃霧と判断しているときは、ロービームが継続します。

■オートハイビームを OFF に設定変更したいとき

オートハイビームのシステムを OFF に設定変更することができます。設定を行うときはパワーモードが ON モードで停車しているときに以下の操作を行います。



OFF に設定する：

ライトスイッチが AUTO のとき、レバーを手前(パッシングの位置)に約 40 秒間引き続けるとオートハイビーム表示灯が 2 回点滅します。2 回点滅後にレバーから手を放します。

ON に設定する：

ライトスイッチが AUTO のとき、レバーを手前(パッシングの位置)に約 30 秒間引き続けるとオートハイビーム表示灯が 1 回点滅します。1 回点滅後にレバーから手を放します。

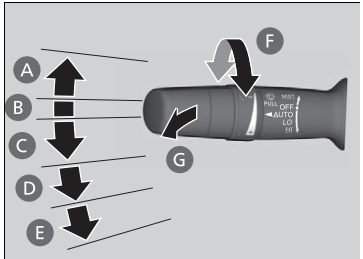
»オートハイビームを OFF に設定変更したいとき

オートハイビームのシステムを OFF に設定変更したとき、ON に設定変更するまでオートハイビームは作動しません。

システムを OFF または ON に設定変更するときは、安全な場所に停車してから設定変更の操作を行ってください。

ワイパー/ ウォッシャー

■フロントワイパー/ ウォッシャー



Ⓐ MIST: (レバーを操作している間作動)
Ⓑ OFF: 停止
Ⓒ AUTO: 自動作動
Ⓓ LO: 低速(普通の雨量のとき)
Ⓔ HI: 高速(雨量が多いとき)
Ⓕ センサー感度の調節
Ⓖ ウォッシャー

パワーモードがONモードのときに使用できます。

■MIST

レバーを押し上げている間、高速で作動します。
霧や小雨のときに使用します。

■ワイパースイッチ(OFF、AUTO、LO、HI)

雨量に応じてワイパースイッチを切り換えて使用します。

■ウォッシャースイッチ

レバーを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。
レバーを1秒以上引くとワイパーが作動します。レバーを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

ワイパー/ ウォッシャー

⚠注意

寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射させない。
ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

ワイパーを乾拭きさせないでください。
ガラスが傷付いたりブレードラバーを傷めたりします。

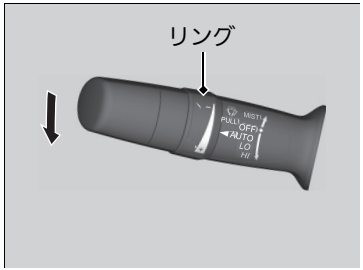
アドバイス

ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。
ポンプ故障の原因となります。

ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。
ワイパーモーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、ブレーカーが作動し一時的にワイパーが停止することがあります。
数分経過すると、ブレーカーが復帰し、通常通り使用できるようになります。

次ページに続く

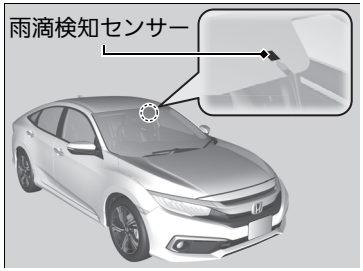
■オートワイパー



レバーを AUTO の位置にするとワイパーが1回作動し、その後は自動作動に切り換わります。フロントガラス上部にある雨滴検知センサーが検出した雨滴量に応じて、停止、間欠作動、低速作動、高速作動のいずれかの作動をします。

ワイパー作動中に雪などがたまると雨滴検知をしていなくてもワイパーが作動し続けることがあります。

レバーをOFFの位置にすると、ワイパーを停止することができます。



■センサー感度の調節

リングを回して、雨滴検知センサーの感度を調節します。



低感度： 雨滴に対して、より鈍感に反応してワイパーを作動します。

高感度： 雨滴に対して、より敏感に反応してワイパーを作動します。

▧ワイパー/ ウォッシャー

寒冷時、凍結によりワイパーブレードがガラスに張りつくことがあります。

ワイパー故障の原因となりますので、デフロスターでフロントガラスを暖めてから、ワイパーを作動させてください。

ワイパー作動中に雪などがたまりワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してください。

ワイパースイッチを OFF、パワーモードをアクセサリーモードまたは OFF モードにしてから、ワイパーが作動できるように障害物を取り除いてください。

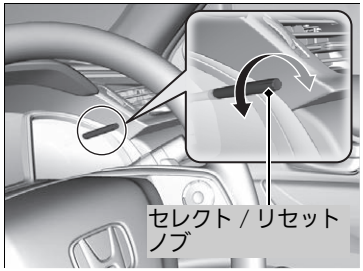
▧オートワイパー

⚠注意

フロントガラスのお手入れをするときは、レバーを必ず OFF にしてください。

パワーモードが ON モードでレバーが AUTO のとき、雨滴センサー上部のガラス面に手で触れたり、布で拭き取ったりすると、ワイパーが作動することがあり、手をけがしたりワイパーが損傷するおそれがあります。

イルミネーションコントロール



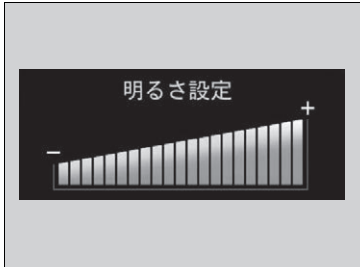
インストルメントパネル照明が減光しているとき、セレクト / リセットノブでインストルメントパネルの明るさを調節することができます。

明るくする：ノブを右に回す

暗くする：ノブを左に回す

明るさが最大 / 最小になると電子音が鳴ります。

また、明るさの調節後、数秒経過するとディスプレイが元の表示に戻ります。



■明るさ調節表示

セレクト / リセットノブを回すとディスプレイが明るさ調節表示に切り換わります。

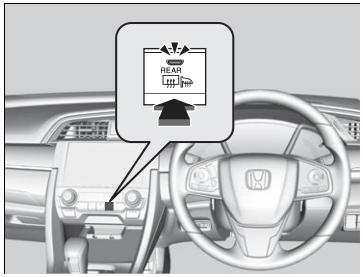
目盛が右に増えていくほど、メーター照明が明るくなります。

»イルミネーションコントロール

以下の条件が整うと、インストルメントパネル照明が減光します

- パワーモードが ON モード
- 車幅灯が点灯している
- 周囲が暗い

リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラースイッチ



パワーモードが ON モードのときにスイッチを押すと、リヤガラスとドアミラーを暖め、曇りをとることができます。

外気温に応じて約 10 ～ 30 分経過すると、システムは自動的に停止します。ただし、外気温が 0℃以下のときは自動的に停止しません。

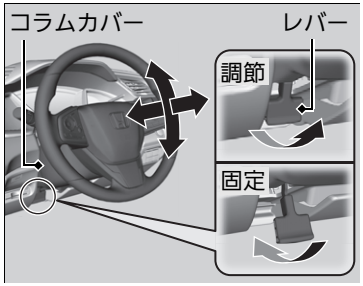
リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラースイッチ

この装置は消費電力が大きいので、曇りが取れたら OFF にしてください。
また、エンジンの回転数が低いときに長時間使わないでください。バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

パワーモードを ON モードにしたとき、外気温が 5℃以下の場合、ヒーテッドドアミラーのみ約 10 分間作動することがあります。

ハンドルの調節

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドルの位置を調節することができます。



1. ハンドル位置調節レバーを引き上げる。
   ▶ ハンドル位置調節レバーは、コラムカバーの下にあります。
2. ハンドルの位置を調節する。
   ▶ 調節した位置で、メーターや表示灯が見えることを確認してください。
3. ハンドル位置調節レバーを押し下げ、ハンドルを固定する。
   ▶ 位置調節後、ハンドルに上下前後方向の力を加え、ハンドルがしっかり固定されていることを確認してください。

ハンドルの調節

⚠注意

走行中にハンドル位置を調節しない。
走行中に調節すると、ハンドル位置が動き、正確なハンドル操作ができないことがあり、衝突して重大な傷害を負うおそれがあります。ハンドルの調節は、必ず停車中に行ってください。

ルームミラー

ルームミラーの角度は、正しい運転姿勢ですわった位置でミラーを調節してください。

■自動式防眩ミラー



夜間走行時、後続車のヘッドライトの反射を自動的に弱くできます。
パワーモードがONモードのときに作動します。

» ミラー類の調節

ミラー類の調節は走行前に行ってください。

» 自動式防眩ミラー

セレクトレバーを R に入れているときは、自動式防眩ミラーは解除されます。

ドアミラー



ドアミラーの操作は、パワーモードが ON モードのときに行います。

■角度調節

左右切り換えスイッチ：右か左を選択するスイッチです。角度調節後、中央の位置に戻します。

角度調節スイッチ：上下左右に鏡面を動かすスイッチです。

■格納

格納スイッチを押すごとに ON と OFF が切り換わります。

	格納スイッチの状態	ミラーの状態
ON		
OFF		

■オートリトラミラー

キーレスエントリーシステムや Honda スマートキーシステムでのドアの施錠や解錠に連動して、パワーモードが OFF モードの状態でも、ドアミラーの格納や元の状態への復帰が行えます。

格納するとき：

- Hondaスマートキーの施錠ボタンもしくはHondaスマートキーを携帯し、ドアのロックボタンを押す

元の位置に戻すとき：

- Hondaスマートキーの解錠ボタンもしくはHondaスマートキーを携帯しドアを解錠する
- パワーモードを ON モードにする

オートリトラミラー

格納スイッチを押してドアミラーを格納した場合、オートリトラミラー機能ではドアミラーを元の位置に戻せません。

マルチインフォメーションディスプレイを使ってオートリトラミラーの設定を変更することができます。

カスタマイズ機能 P.113

フロントシート

運転者は、正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。
正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドル操作が楽にできる姿勢をいいます。

フロントシート

⚠注意

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

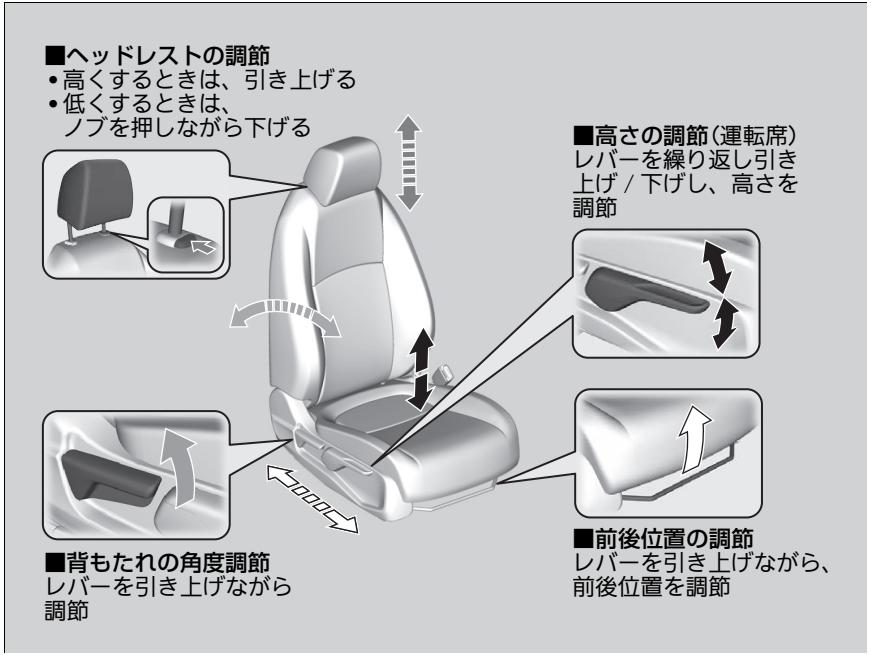
フロントシートの下に物を置かない。
物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロントシートは、エアバッグからなるべく離れた位置に調節してください。

同乗者もシートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。

■シートの動かしかた

■フロントマニュアルシート*



フロントマニュアルシート*

⚠注意

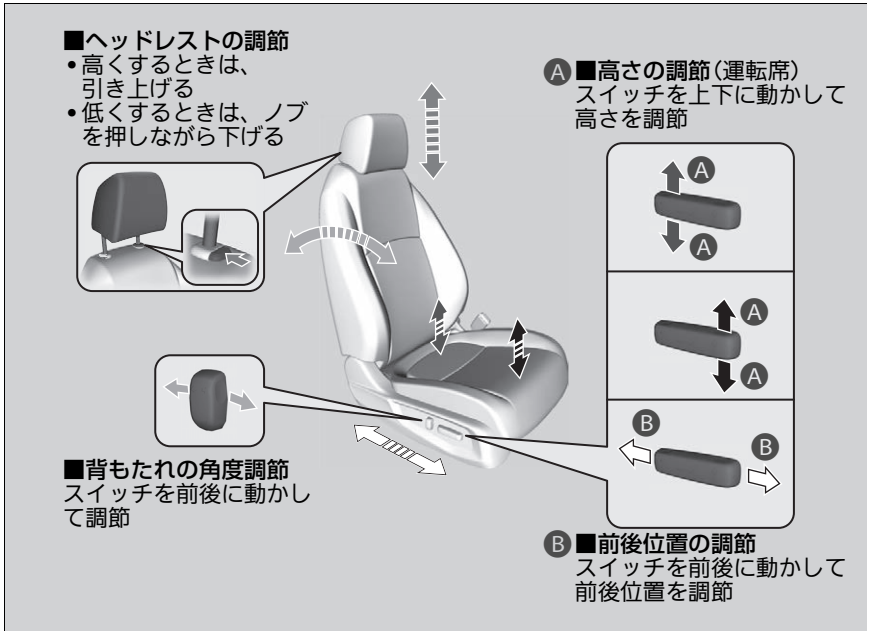
走行中にシートの調節はしない。
走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

フロントシートに純正以外のシートカバーを取り付けないでください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

■フロントパワーシート*



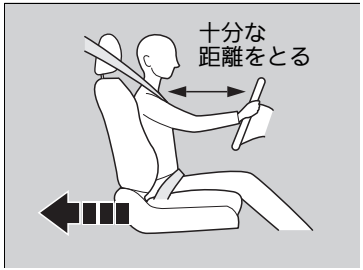
▶フロントパワーシート*

⚠注意

走行中にシートの調節はしない。
走行中に調節すると思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行ってください。

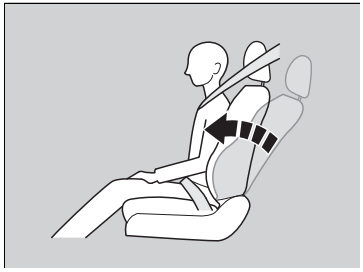
✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■フロントシートの調節



■シート位置の調節

運転者とハンドルとの間に十分な距離をとれるように、シートをできるだけ後ろに下げます。
助手席の同乗者のシートも同様に、ダッシュボードのSRSエアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げます。
シートの位置を調節したら、シートを前後に揺すり、固定されていることを確認します。



■背もたれ角度の調節

シートに深く腰かけ、楽な姿勢ですわれるように背もたれを起こし調節します。
助手席の同乗者のシートも同様に、楽な姿勢ですわれるように背もたれ角度を調節します。

フロントシートの調節

⚠警告

SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げる。
ハンドルやダッシュボードに近づきすぎると、フロントエアバッグが膨らむ際に重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

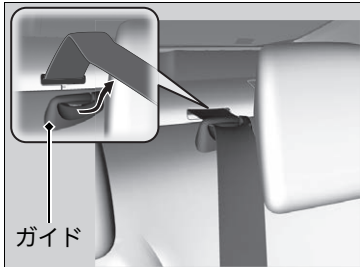
背もたれを必要以上に倒さない。
背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

⚠注意

背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。
正しい運転姿勢がとれません。また、シートベルトなどの効果が十分に発揮されません。

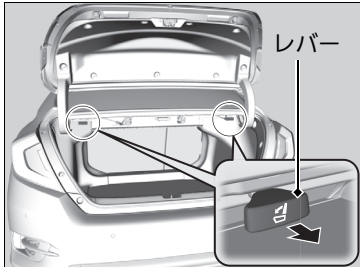
リヤシート

■背もたれの倒しかた

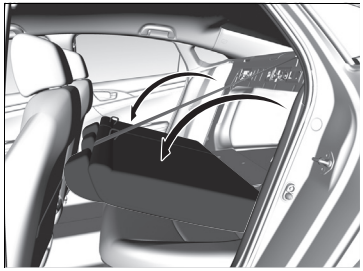


背もたれは、左右別々に倒すことができます。
ヘッドレストがフロントシートに当たるときは、ヘッドレストを外してください。

1. 中央席のシートベルトをガイドから外す。



2. トランク内のレバーを引き、ロックを解除する。



3. 背もたれを倒す。

≫背もたれの倒しかた

⚠注意

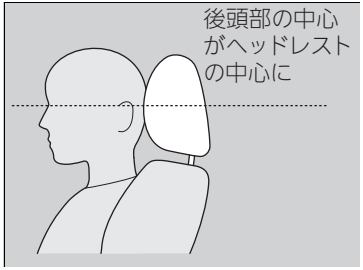
操作するときは、手などをはさまないように十分注意する。

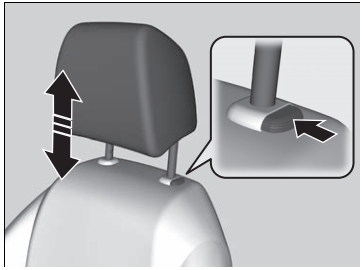
背もたれを倒し、トランクを開けたまま走行しないでください。

背もたれを起こすときは、後ろに押しつけて固定します。
背もたれをもとの状態に戻すときは、背もたれを起こし、後ろにしっかり押しつけてください。また、リヤシートのシートベルトが背もたれの前にあり、中央部のシートベルトがガイドにはまっていることを確認してください。

ヘッドレスト

■フロントシートヘッドレストの調節





後頭部の中心が、ヘッドレストの中心に来るようにヘッドレストの高さを調節します。

高くするとき：ヘッドレストを引き上げます。
低くするとき：ノブを押しながら下げます。

ヘッドレスト

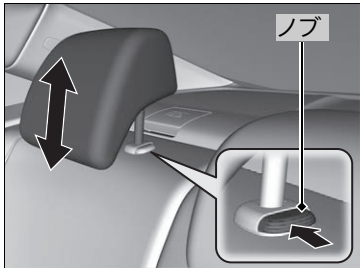
⚠警告

ヘッドレストは必ず正しい位置に調節する。
ヘッドレストの高さが適切でないと、ヘッドレストの効果が低くなり、衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

ヘッドレストを外した状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

次ページに続く

■リヤシートヘッドレストの位置変更



高くするとき：ヘッドレストを引き上げます。
低くするとき：ノブを押しながら下げます。

■ヘッドレストの取り外しと取り付け

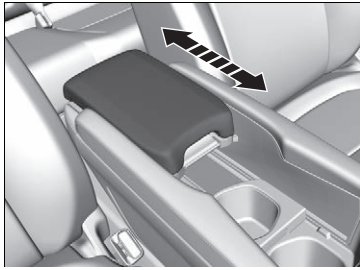
ヘッドレストは、掃除や修理のために取り外すことができます。

ヘッドレストの取り外し：
ヘッドレストを引き上げ、ノブを押して取り外します。

ヘッドレストの取り付け：
ヘッドレストの脚を元の位置に差し込んでください。ノブを押しながらヘッドレストの位置を適切な位置に合わせてください。ヘッドレストを軽く上下させ、確実に固定します。

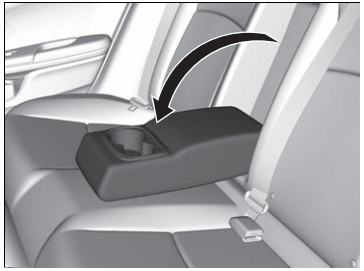
アームレスト

■フロントシートアームレストの操作



センターコンソールボックス上部を前に動かして使うことができます。

■リヤシートアームレストの操作



前に倒して使います。

アームレスト

⚠警告

シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。
万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

アドバイス

アームレストに腰をかけたり荷物を載せるなどの大きな力を加えないでください。
アームレストが破損するおそれがあります。

室内灯

■室内灯スイッチ

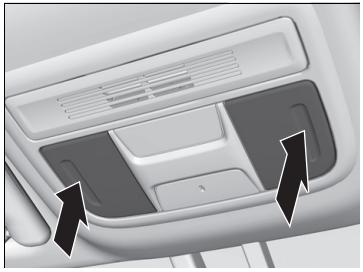


■ON
ドアの開閉に関係なく室内灯が点灯。

■ドア連動
以下のときに室内灯が点灯。
- いずれかのドアを開けたとき
- 運転席ドアを解錠したとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき

■OFF
ドアの開閉に関係なく室内灯が消灯。

■マップランプ



夜間、車を停めて地図を見るときなどに使用するライトです。

レンズを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

▶室内灯

ドア連動で室内灯が点灯している場合は、ドアを閉めると約 30 秒後に減光しながら消灯します。
以下の場合も約 30 秒後に消灯します。
- 運転席ドアを解錠してドアを開けなかったとき
- パワーモードをOFFモードにしてドアを開けなかったとき

室内灯の消灯する時間をカスタマイズすることができます。
➡ **カスタマイズ機能** P.113

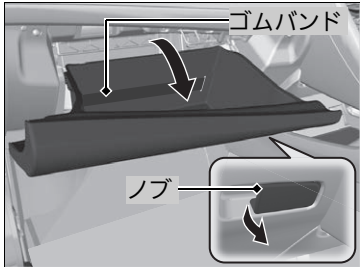
また、以下の操作を行うと室内灯はすぐに消灯します。
- 運転席のドアを施錠したとき
- パワーモードがOFFモード以外の状態でドアを閉めたとき
- パワーモードを ON モードにしたとき

バッテリーがあがるおそれがあるため、エンジンを停止しているときは、室内灯を長時間点灯させないでください。

パワーモードが OFF モードのときに、いずれかのドアを開けたままにすると、約 15 分後に室内灯は消灯します。

収納装備

■グローブボックス



ノブを引くと開きます。
内側にゴムバンドが付いています。

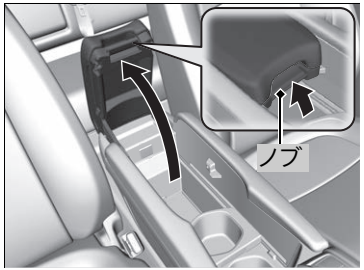
グローブボックス

⚠警告

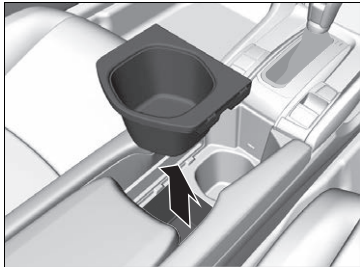
走行中は必ずグローブボックスを閉める。
グローブボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

次ページに続く

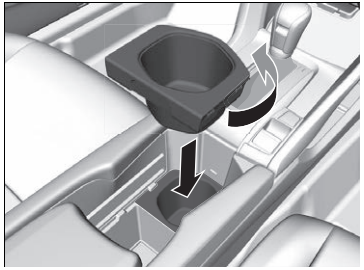
■センターコンソールボックス



センターコンソールボックス上部を後ろ側にスライドさせて、ノブを引くと開きます。



ドリンクホルダーを取り外し、コンソールボックス内を広く使用することができます。



取り外したドリンクホルダーはコンソールボックス内に収納することができます。

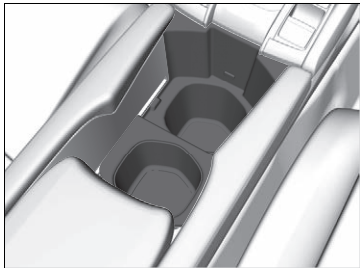
1. 取り外したドリンクホルダーを反対向きにする。

2. 前側のドリンクホルダーに収納する。

»センターコンソールボックス

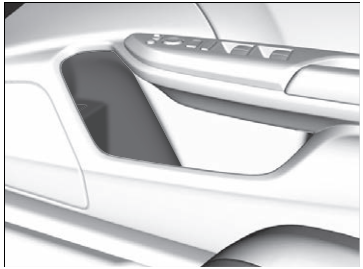
アームレストとして使用することもできます。

■ドリンクホルダー



■フロントシート用ドリンクホルダー

センターコンソールボックス上部を後ろ側にスライドさせて使用します。



ドアのドリンクホルダーは運転席側と助手席側にあります。

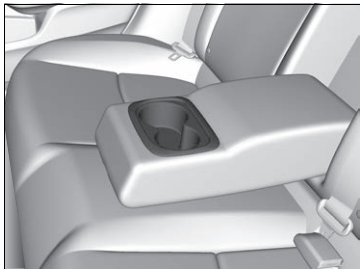
ドリンクホルダー

⚠注意

飲み物などを電装品にこぼさないように注意する。

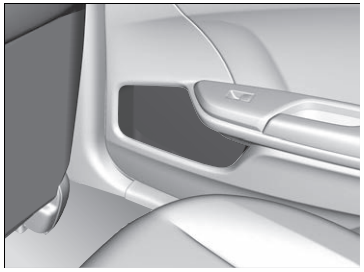
スイッチなどの電装品に飲み物がかかると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。

次ページに続く



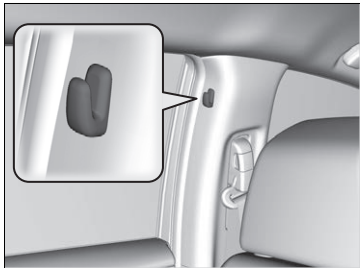
■リヤシート用ドリンクホルダー

アームレストを前に倒して使います。



ドアのドリンクホルダーは運転席側と助手席側にあります。

■コートフック



両側のドアピラーに付いています。

コートフック

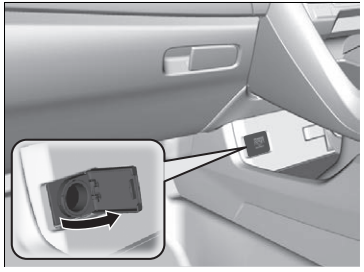
⚠注意

コートフックに重いものやとがったものをかけたりしない。
サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりしてけがをするおそれがあります。

その他の室内装備品

■アクセサリーソケット

パワーモードがアクセサリーモード、またはONモードのときに使用できます。



■フロントコンソールのアクセサリーソケット

カバーを開けて使います。

≫その他の室内装備品

⚠注意

アクセサリーソケットや USB ジャックなどの電装品に液体がかかったり、異物が入ったりしないように注意する。

電装品に水がかかったり、ゴミやほこりなどの異物が入ったりすると故障の原因となったり車両火災につながったりする恐れがあります。

≫アクセサリーソケット

アドバイス

シガレットライターは差し込まないでください。

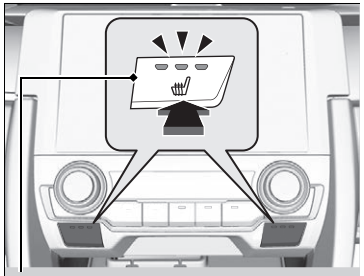
発熱するおそれがあります。

消費電力 180W(15A)以下のアクセサリーに、直流 12V の電源を供給します。

バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態でご使用ください。

使用しないときは異物の侵入を防ぐためカバーを閉めてください。

■シートヒーター



シートヒータースイッチ

パワーモードがONモードのときに使用できます。

スイッチを押すたびに設定が切り替わります。

1回目 - 高：インジケーターが3個点灯
2回目 - 中：インジケーターが2個点灯
3回目 - 低：インジケーターが1個点灯
4回目 -OFF：インジケーターが消灯

シートヒーター

⚠注意

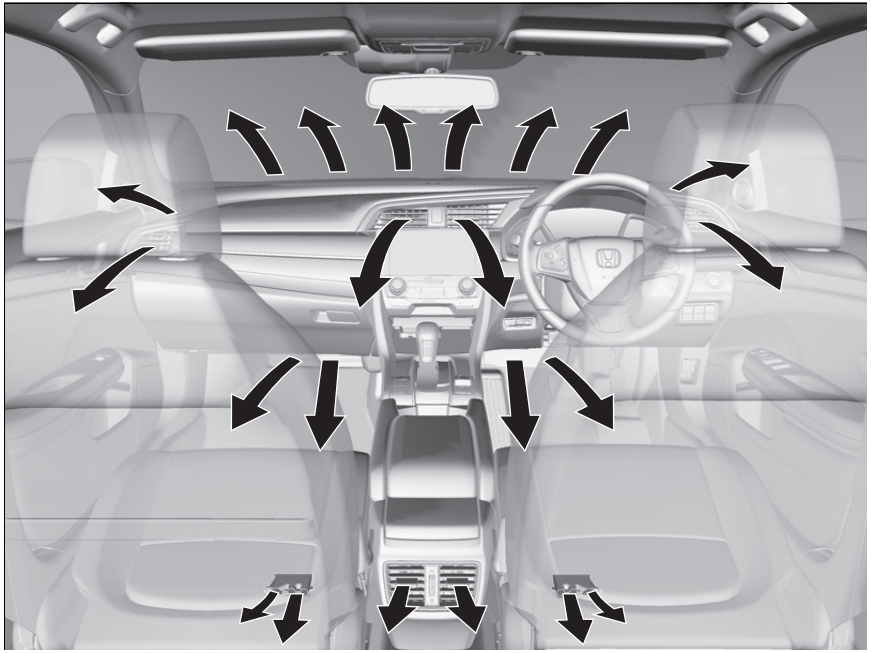
低温やけどに注意する。
次のようなかたは、低温やけどに十分注意してください。

- 乳幼児、お年寄り、体の不自由なかた
- 皮膚の弱いかた
- 疲労の激しいかた

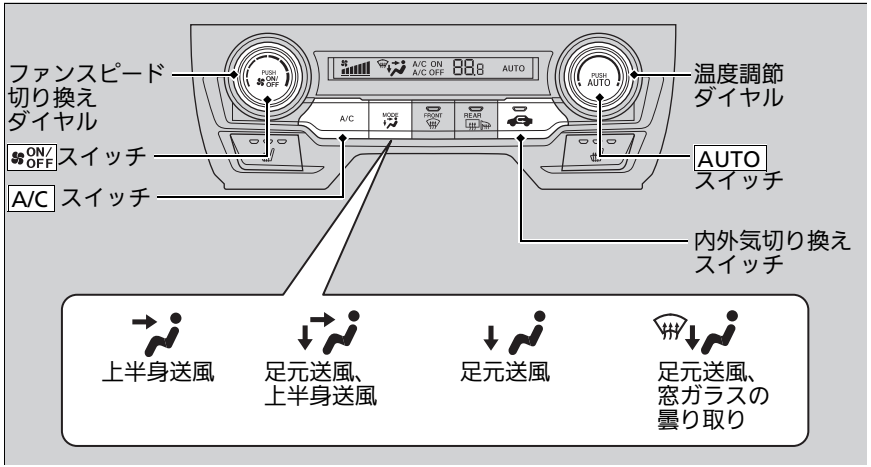
また、毛布などの保温性の高いものをかけて使用すると低温やけどをすることがあります。

この装置は消費電力が大きいので、エンジンをかけた状態で使用してください。
バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

エアコンの吹き出し口



オートエアコンの使いかた



エンジンを始動してから使用します。

1. AUTO を押す。

2. 温度調節ダイヤルで温度を調節する。

3. 停止するときは、ON/OFF を押す。

オートエアコンの使いかた

オート(AUTO)で使用中いずれかのスイッチを押すと、押したスイッチの機能が優先されます。

このとき AUTO の表示は消灯しますが、押したスイッチ以外の機能は自動制御されます。

外気温が低いときは、冷風の吹き出しを防ぐため、AUTO を押してもすぐにファンが回転しないことがあります。

炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

設定温度表示で「Lo」は最大冷房を、「Hi」は最大暖房を示します。

アイドリングストップ中は冷暖房機能が停止し、送風機能のみが作動します。
冷暖房機能を停止させたくないときは、アイドリングストップシステム OFF スイッチを押してアイドリングストップ機能を OFF にしてください。

次ページに続く

■内気 / 外気の切り換え

状況に合わせてを押して、内気 / 外気を切り換えます。

- 内気(表示灯点灯):トンネルや渋滞などで、汚れた空気を車内に入れたくない場合
- 外気(表示灯消灯):換気を行う場合

■除湿暖房

暖房中に A/C を押すと、除湿暖房となります。

▶オートエアコンの使いかた

ON/OFF を押すたびに ON や OFF に切り換わります。ON すると OFF する前の状態に戻ります。

急な上り坂などでは、走行性能を優先させるため、エアコンが作動しないことがあります。

■前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた



外気導入
(表示灯消灯)

FRONTを押すとエアコンが作動し、自動的に外気導入に切り換わります。

FRONTをもう一度押すと曇り止めが停止し、前の状態に戻ります。



内気循環
(表示灯点灯)

■急速に霜を取りたいとき

1. FRONT を押す。
2. を押す。

▩前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた

安全のため、運転する前に視界が確保されていることを確認してください。

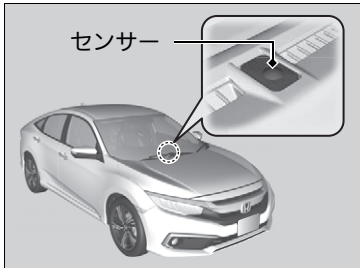
設定温度を最大冷房付近にしないでください。
冷風が前面ガラスに当たると、ガラスの外側が曇ることがあります。

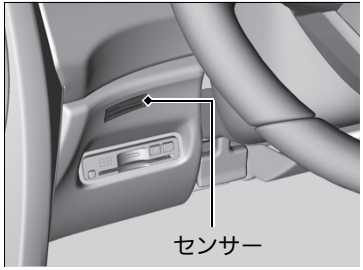
側面ガラスが曇ったときは、吹き出し風が側面ガラスに当たるよう、側面吹き出し口を調節してください。

霜が取れたら、ただちに外気導入に切り換えてください。
内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。

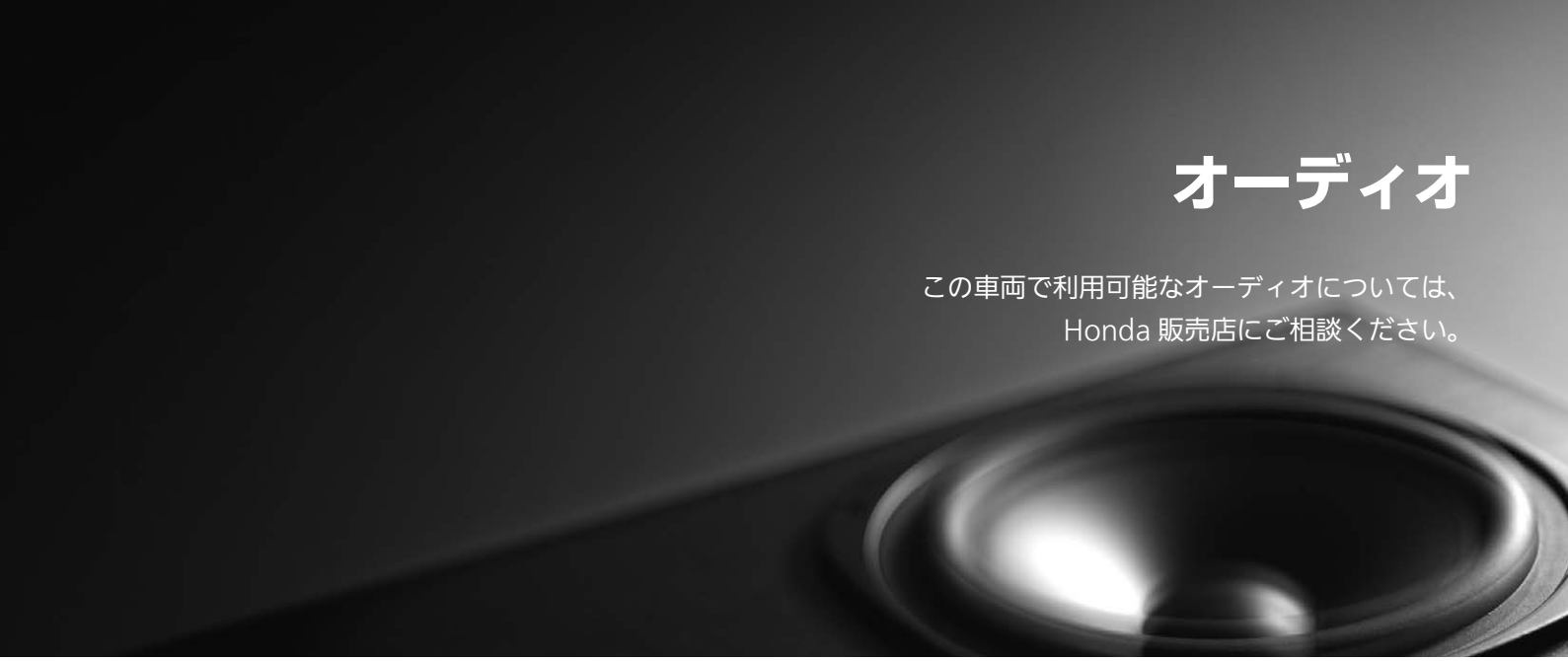
アイドリングストップ中にFRONTを押すと、エンジンが自動的に再始動します。

オートエアコンのセンサー





オートエアコンには、センサーが付いています。センサーの上にものを置いたり、水をかけたりしないでください。



オーディオ

この車両で利用可能なオーディオについては、
Honda 販売店にご相談ください。



運転

この章では、運転操作、給油などについて記載しています。

運転の前に 186
運転操作
エンジンの始動 189
走行時の注意点 194
無段変速オートマチックについて..... 197
シフト操作..... 198
ECON スイッチ..... 202
アイドリングストップシステム 203
VSA(ビークルスタビリティアシスト) ...209
アジャイルハンドリングアシスト..... 211
ホンダセンシング 212
衝突軽減ブレーキ(CMBS) 215
歩行者事故低減ステアリング.....222
渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール) 228
LKAS(車線維持支援システム).....243
路外逸脱抑制機能.....254
先行車発進お知らせ機能.....261
標識認識機能.....265
フロントセンサーカメラ.....271
レーダーセンサー.....273
ブレーキ操作
ブレーキシステム.....274
ABS(アンチロックブレーキシステム)...280
電子制御ブレーキアシスト 281
エマージェンシーストップシグナル .. 282
駐停車操作
駐車する 283
給油
指定燃料について 285
給油のしかた 286
ターボ車について
取り扱い 289

運転の準備

運転を始める前に下記の項目を確認してください。

■車外での確認項目

- 窓やミラーの視界、灯火器類の光をさえぎるものがないか？
  ▶霜、雪、氷が付着している場合は取り除きます。
  ▶屋根に雪が積もっている場合は、走行時に滑り落ちて視界をさえぎる可能性があるため取り除きます。
  氷結しているときは、氷が溶けてから取り除いてください。
  ▶足回りに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないよう注意しながら取り除きます。
- ボンネットは完全に閉まっているか？
  ▶走行中にボンネットが開くと、視界がさえぎられて危険です。
- タイヤは正常か？
  ▶空気圧、亀裂、損傷や異常な摩耗がないか確認します。
  ➲ **タイヤの点検と整備** P.309
- 車の周囲に子供はいないか？
  車の周りに障害物はないか？
  ▶運転席から見えない死角や、バックミラーでは確認できない死角がありますので、乗車する前に確認します。

■車内での確認項目

- フロアマットがペダルに引っかかっていないか？
- フロアマットが固定されているか？
- フロアマットを重ねていないか？
  ▶ブレーキやアクセルの操作が確実にできないおそれがあり危険です。

»車外での確認項目

アドバイス

ドアが凍結しているときは、無理にはがさずお湯をかけて溶かしてください。
無理にはがすと、ドアまわりのゴムがはがれます。お湯をかけた後は、凍結防止のため、水分をよく拭き取ってください。

ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。
凍結すると、キーが差し込めなくなります。

エンジンルーム内に可燃物の置き忘れや、燃えやすいものがないか確認してください。
車両を長期間使用しなかった場合や、メンテナンスの後は、特に注意してください。火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

»車内での確認項目

運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。
運転者が運転中にハンズフリー以外の携帯電話を使用することは、法律で禁止されています。運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

車に合ったフロアマットをお使いください。

- 積み込んだ荷物が適切に固定されているか？
  ▶ 不適切な荷物の積み込みは、タイヤに負担をかけたり走行中のバランスを維持できず危険です。
- 荷物はシートの高さを越えていないか？
  ▶ 後方視界を妨げたり急ブレーキのときに荷物が飛び出したりするおそれがあり危険です。
- フロントシートの足元にものを置いていないか？
- 動物を乗せるときは、動きまわらないようにしているか？
  ▶ 運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ドア、トランクが確実に閉まっているか？
  ▶ 走行前にすべてのドア、トランクが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認します。
  ➔ **車内での施錠 / 解錠** P.134
- シート位置などが適切に調節されているか？
  ▶ 不適切なシート位置での走行は危険です。
  ➔ **シートの調節** P.162
- ルームミラー、ドアミラー、ハンドルは適切に調節したか？
  ▶ 正しい運転姿勢ですわり、それぞれ適切な位置に調節します。
  ➔ **ミラー類の調節** P.159
  ➔ **ハンドルの調節** P.158
- すべての乗員がシートベルトを締めているか？
  ▶ すべての乗員は必ずシートベルトを着用します。
  ➔ **シートベルトの着用** P.28

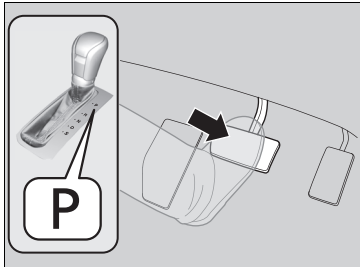
次ページに続く

- エンジンを始動したとき、メーターに異常を示す警告灯などが点灯していないか？
  ▶ 異常を示す警告灯の異常を解決してから走行します。
  ➔ **警告灯** P.62

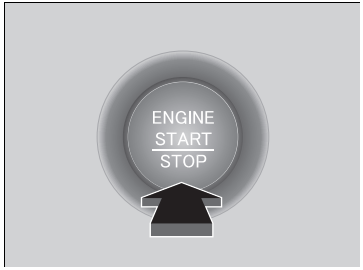
エンジンの始動



1. パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げる。
▶パーキングブレーキがかかっていると、スイッチのインジケーターとメーター内のブレーキ警告灯(レッド)が約15秒間点灯します。



2. シフトポジションが P であることを確認し、右足でブレーキペダルを踏む。
▶ N でも始動できますが、安全のため駆動輪が固定される P で行ってください。



3. アクセルペダルを踏まずに、ENGINE START/STOP を押す。

エンジンの始動

⚠警告

バッテリー液が不足しているときは、エンジンを始動しない。
バッテリーが破裂するおそれがあります。

⚠注意

エンジンを始動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

寒いときのエンジンの始動は、すべての電気アクセサリーを OFF にしてから行います。
寒いときのエンジンの始動は、バッテリーの消耗を防ぐためライト類、エアコン、リヤデフロスターなどの電気アクセサリーをすべてOFFにしてから行ってください。

次ページに続く

■エンジンの停止

車が完全に停止しているとき、エンジンを切ることができます。

1. シフトポジションを P にする。

2. ENGINE START/STOP を押す。

▨エンジンの始動

排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えないときは、排気系や燃料系の異常が考えられます。

Honda 販売店で点検を受けてください。

ENGINE START/STOP はエンジンが始動するまで押し続ける必要はありません。

Honda スマートキーの電池が切れたときは、キーで ENGINE START/STOP に触れてください。

➔ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.343

エンジンがかからない場合は、30秒以上待ってから操作してください。

車を盗難から守るため、イモビライザーシステムのキーを採用しています。

そのため、あらかじめ登録されたキーでないとエンジンの始動ができません。

➔ **イモビライザーシステム** P.141

■エンジンスタートボタン付の Honda スマートキーでのエンジンの始動

Honda スマートキーで車外からエンジンの始動ができます。



エンジンスタートボタン

■車外からエンジンの始動をするには

1. ボタンを押す。
▶ 信号を受信すると非常点滅表示灯が1回点滅します。

2. 5 秒以内にHOLDボタンを 1 秒間押す。
▶ 信号を受信すると非常点滅表示灯が1回点滅します。ただし、始動時間延長の場合は点滅が省略されます。
▶ エンジンが始動すると非常点滅表示灯が 6 回点滅します。

10分間エンジンが始動した状態になります。

■エンジンを始動できない条件

- シフトポジションが P 以外のとき
- ボンネットが開いている、またはいずれかのドアまたはトランクが解錠されている
- 始動時間をすでに延長しているとき
- 別の登録された Honda スマートキーが車内にある
- 車両に異常があるとき

» エンジンスタートボタン付の Honda スマートキーでのエンジンの始動

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のあるガレージや密閉された場所でのエンジンの始動はしない。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

工場出荷時にはこの機能をOFFにしています。機能を ON にする場合は Honda 販売店にご相談ください。

一部の自治体では、アイドリングストップに関する条例に抵触するおそれがあります。関係する自治体に確認したうえで、適切に使用してください。

エンジンを始動中にもう一度始動操作を行なうと、さらに 10 分間始動時間が延長されます。
(繰り返し始動操作をしてもエンジンが始動していることを示すため、非常点滅表示灯が点滅しますが、始動時間延長は最長で 20 分間までです。)

次ページに続く



■エンジンを停止するには

HOLDボタンを 1 秒間押してください。

▶ 信号を受信すると非常点滅表示灯が1回点滅します。

エンジンスタートボタン付の Honda スマートキーでのエンジンの始動

建物や障害物が Honda スマートキーと車両の間にある場合、また周囲の電波状況により、作動範囲が狭くなったり作動しないことがあります。

以下の場合、自動的にエンジンを停止します。

- Honda スマートキーのHOLDボタンを使用してエンジンを始動した後、10 分以内に走行しないとき
- 車内に Honda スマートキーがない状態で ENGINE START/STOP スイッチを押したとき
- Honda スマートキーを使わずにドア開けたとき
- ボンネットを開けたとき
- セレクトレバーのボタンを押したとき
- 車両に異常があるとき

エンジンが始動している間は外気温に応じて自動的にエアコンやデフロスターなどを作動させる機能があります。

外気温が高いとき：

- エアコンが作動し、設定温度 25 ℃で制御します。

外気温が低いとき：

- デフロスターとリヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラーが作動します。
- シートヒーターが作動します。

■発進時の操作

車外からエンジンの始動をしたとき

1. 右足でブレーキペダルを踏み、 ENGINE START/STOP を押す。

エンジンの始動共通手順

2. 右足でブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D にする。
▶ 後退する場合は R にします。

3. パーキングブレーキをかけたまま、ブレーキペダルを離して、アクセルペダルをゆっくりと踏む。
▶ ブレーキ警告灯(レッド)が消灯したことを確認してください。
▶ 運転席シートベルトを装着していないと、発進時でも電子制御パーキングブレーキは自動解除されません。
➔ **電子制御パーキングブレーキ** P.274

■ヒルスタートアシストシステム

急な坂道からの発進をするときに、ブレーキペダルから足を離した後、ブレーキ力を約1秒間保持することで車両の後退を緩和し、発進を容易にするシステムです。

発進時の操作

⚠注意

アクセルペダルを踏んだまま、シフトポジションを操作しない。
急発進して思わぬ事故の原因となります。

パーキングブレーキスイッチの操作で解除することもできます。
下り坂の場合、アクセルペダルを踏まずにパーキングブレーキを手動で解除すると、よりスムーズに発進することができます。

ヒルスタートアシストシステム

緩やかな坂道ではシステムが作動しないことがあります。

走行時の注意点

■霧が出たときは

霧が出たときは視界が悪くなります。昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレール、前走車のテールランプなどを目安にして、速度を落として走行してください。

■風が強いときは

風が強く車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、速度を徐々に落として進路を立て直します。
トンネルの出口、橋、土手の上、山を削った切り通しの走行時や大型トラックの追い越し時などには、特に横風の影響を受けやすいため、十分に注意してください。

≫走行時の注意点

走行中はエンジンを停止しないでください。
下記のような状態になり危険です。
- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる

走行中はシフトポジションを N にしないでください。
エンジンブレーキが全く効かず、思わぬ事故の原因となります。

車を移動するときは、必ずエンジンを始動してください。
下り坂を利用しての移動などは、思わぬ事故の原因となります。

1,000km 走行するまでは、エンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け、控えめな運転をしてください。

■雨が降っているときは

雨天時は路面が滑りやすくなっているため、急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け通常より注意深く運転してください。
わだちなどの水のたまりやすい場所ではハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。エンジンや駆動系の破損、電装品の故障につながるおそれがあります。

雨が降っているときは

ハイドロプレーニング現象に注意してください。
ハイドロプレーニング現象とは、路面が水でおおわれているところを高速で走行したときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いてハンドルやブレーキが効かなくなる状態のことをいいます。

次ページに続く

■その他の注意点

走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードや燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。

その他の注意点

⚠注意

シフトダウンする際の車速には、十分注意する。

滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。

アドバイス

停車中や極低速のときハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけ保持するなどして EPS(電動パワーステアリング)システムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が徐々に重くなります。

システムの温度が下がると復帰しますが、システム保護がはたらくような使いかたを断続的に繰り返すと、システム破損の原因となります。

無段変速オートマチックについて

■クリープ現象

エンジンがかかっているとき、シフトポジションが P N 以外に入っていると動力がつながった状態になり、クリープ現象によりアクセルペダルを踏まなくても、車がゆっくり動き出します。

エンジン回転が上がるとクリープ現象が強くなります。
エンジン回転が上がったときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

■キックダウン

シフトポジションが D S で走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に変速比が変わりエンジンの回転数が上がって、力強い加速を得ることができます。

クリープ現象

上り坂での停車時、クリープ現象による前進の力よりも、後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退する場合があります。
ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

キックダウン

上り坂などでアクセルペダルを踏み込んだとき、キックダウンにより急にエンジン回転が上がり、速度が出すぎてしまうことがあります。
アクセルペダルは慎重に操作してください。滑りやすい路面やカーブでは、特に注意が必要です。

シフト操作

走行状態に応じてセレクトレバーで切り換えます。

■シフトポジションの名称とはたらき



P パーキング
駐車またはエンジンの始動

R リバース
車を後退

N ニュートラル
アイドリング状態

D ドライブ
通常走行
- 一時的に 7 速マニュアルシフトモードにするとき

ボタン

S ドライブ(S)
- 高回転領域を有効に使用
- 上り坂や下り坂を走行するとき
- 7 速マニュアルシフトモードにするとき

シフトポジションの名称とはたらき

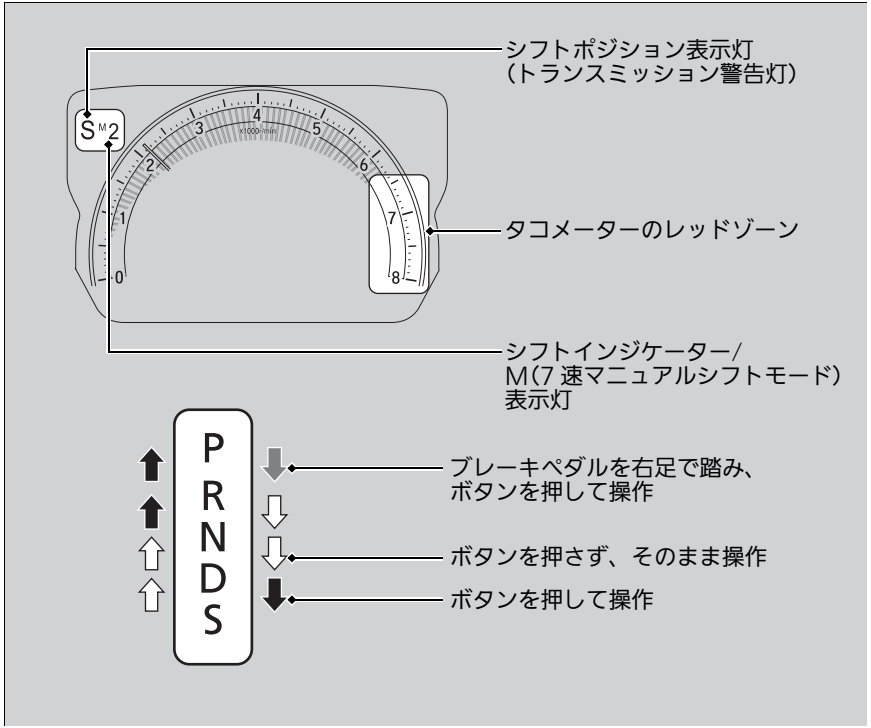
セレクトレバーが P 以外のときは、パワーモードが OFF モードになりません。

R のときは、チャイム音が鳴り運転者にセレクトレバーが R に入っていることを知らせます。

N のときでも、エンジンが冷えているときはトランスミッションフルードの粘性により、車がわずかに動き出すことがあります。
ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

■セレクトレバーの操作

シフトポジションは、メーター部にあるシフトポジション表示灯と連動し、現在のポジションを表示灯の点灯で表示します。



次ページに続く

セレクトレバーの操作

アドバイス

前進から後退、後退から前進するときは車を完全に止め、ブレーキペダルを踏んだままセレクトレバーを操作してください。

車が完全に止まっていない状態でレバーを操作すると、トランスミッションを破損するおそれがあります。

車を発進させるときは、思い違いによる事故を防ぐためにシフトポジション表示灯でもセレクトレバーの位置を確認してください。

走行中にシフトポジション表示灯が点滅しているときは、トランスミッションに異常があります。

急加速を避け、Honda販売店で点検を受けてください。

■ 7 速マニュアルシフトモードとは

ハンドルにあるシフトスイッチで、ハンドルから手を離さずに手動で1～7速まで変速することができます。走行中にシフトスイッチを引くと、7 速マニュアルシフトモードへ切り換わります。エンジンブレーキが必要なときにも、使用してください。

■シフトポジションが D のとき

一時的に7速マニュアルシフトモードとなり、シフトインジケーターが点灯します。

一定速走行や加速の状態になると、7 速マニュアルシフトモードは自動的に解除されます。また、 + のシフトスイッチ(右側)を数秒間引き続けることでも解除することができます。

カーブの手前など、一時的に減速したいときに便利です。

■シフトポジションが S のとき

7速マニュアルシフトモードとなり、M表示灯とシフトインジケーターが点灯します。

シフトスイッチを操作せずに車速が下がると、順次低速段に自動的にシフトダウンし、停止すると 1 速にシフトダウンします。

車速が上がりエンジン回転数が限界回転数(レッドゾーン)に近づくと、自動的に 1 段シフトアップします。

▶セレクトレバーの操作

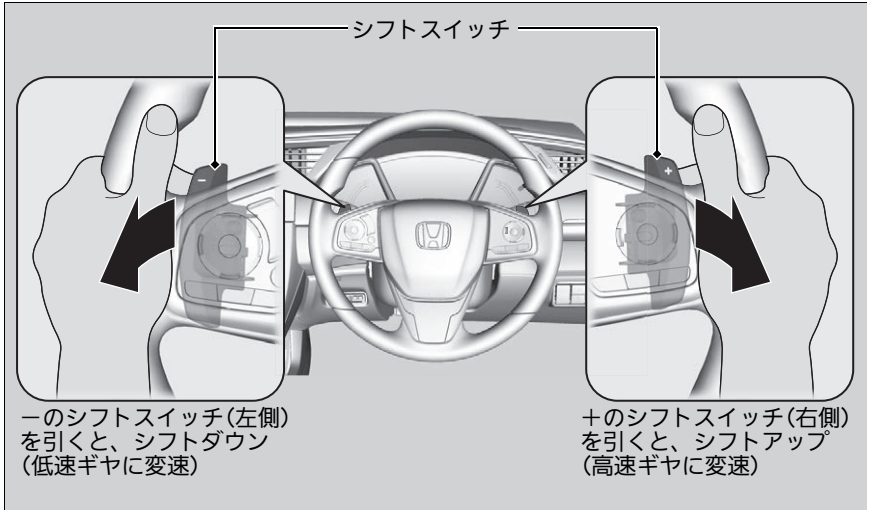
セレクトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、セレクトレバーの操作ができないことがあります。

先にブレーキペダルを踏んでください。

外気温が非常に低い(マイナス 30 度以下)とき、シフトポジションの表示の切り替わりが少し遅れることがあります。走行前は必ずシフトポジションを確認してください。

■ 7 速マニュアルシフトモードの操作

1 回のシフトスイッチ操作で、ギヤは 1 段変速します。
発進は 1 速でのみ行うことができます。
モードを解除する場合は、セレクトレバーを S から D に動かしてください。
7速マニュアルシフトモードが解除され、M表示灯とシフトインジケーターが消灯します。



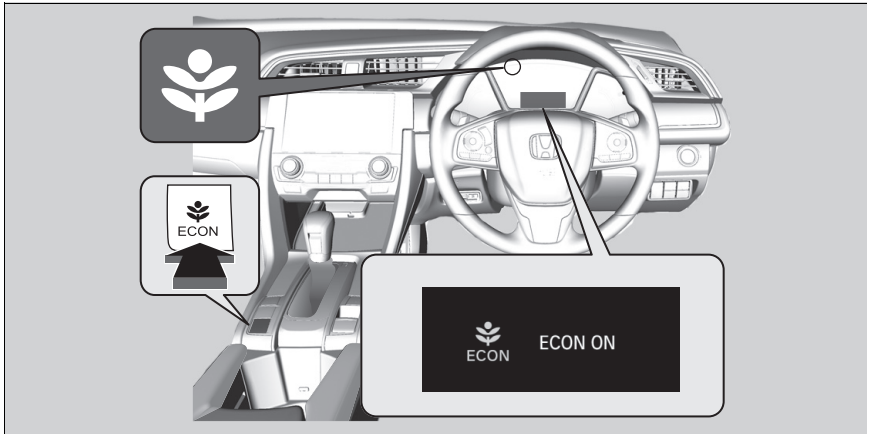
7 速マニュアルシフトモードの操作

シフトスイッチを操作したとき、操作後のエンジン回転数が許容範囲外になる場合は、変速せず表示灯が点滅します。

エンジンを保護するために、自動的にシフトアップやシフトダウンすることがあります。

滑りやすい路面でシフトスイッチを操作したときに、タイヤがロックするような場合、7 速マニュアルシフトモードから通常走行に戻る場合があります。

ECON スイッチ



パワーモードが ON モードのときに ECON スイッチを押して、ECON モードの ON と OFF を切り替えてください。

▶ ECONモードがONの時は、メーター内の表示灯が点灯し、運転の状況に応じて省燃費制御に切り換わります。

スイッチを押すとエンジン、トランスミッション、オートエアコン、クルーズコントロールの作動を制御して、省エネ運転をしやすくするように制御します。

▶▶ECON スイッチ

ECON モードのときは、走行中にエアコンの効きが弱くなる場合があります。

アイドリングストップシステム

燃費向上やアイドリング騒音低減のために、停車時にアイドリングストップしたり、エンジンが自動的に再始動するシステムです。アイドリングストップ中は、表示灯(グリーン)が点灯します。



アイドリングストップシステムの作動は、車両の状態や環境により影響を受けることがあります。

➔ **アイドリングストップをする** P.205, 206

表示灯(グリーン)が点灯しているときに運転席ドアを開けるとブザーがなり、アイドリングストップしていることを知らせます。

➔ **警告灯** P.62
➔ **表示灯** P.73
➔ **カスタマイズ機能** P.113

マルチインフォメーションディスプレイにアイドリングストップ状態のメッセージが表示されます。

» アイドリングストップシステム

アイドリングストップシステム装備車に適合したバッテリーを使用しています。
指定されたバッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やアイドリングストップが作動しにくくなる可能性があります。交換時は指定されたバッテリーを使用してください。
詳しくは Honda 販売店にご相談ください。

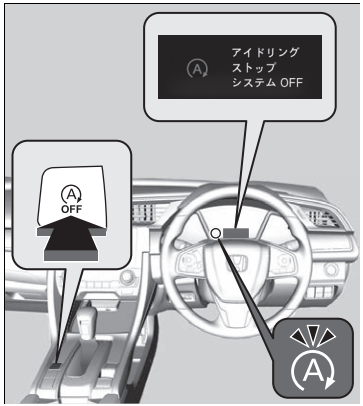
➔ **仕様** P.367

ECON スイッチを ON にしていると、エアコン使用中のアイドリングストップ時間が長くなります。

➔ **ECON スイッチ** P.202

次ページに続く

■アイドリングストップシステムの ON/OFF



アイドリングストップシステムの作動を停止するには、Ⓐ OFFを押してください。
メーター内のアイドリングストップシステムOFF表示灯(オレンジ)が点灯し、アイドリングストップシステムの作動が停止します。

前回の走行時に作動を停止した場合でも、再度エンジンを始動させると自動的に作動可能状態になります。

»アイドリングストップシステムの ON/OFF

アイドリングストップ中にⒶ OFFを押すと、エンジンが再始動します。

■アイドリングストップをする

停車時にブレーキペダルを踏んでいるとアイドリングストップします。

■アイドリングストップしない条件

- アイドリングストップシステム OFF スイッチを押してアイドリングストップ機能を OFF にしたとき
- 運転者がシートベルトを着用していないとき
- エンジン冷却水の水温が低いとき、または高いとき
- トランスミッションフルードの油温が低いとき、または高いとき
- エンジン始動後、5km/h に達しないまま停車したとき
- 急な坂道で停車したとき
- シフトポジションを D 以外にしているとき
- ボンネットが開いている状態でエンジンを始動したとき
  ▶ ボンネットを閉めてからエンジンを再始動してください。
- バッテリーの充電量が少ないとき
- バッテリーの内部温度が 5 ℃以下のとき
- 外気温がー 20 ℃以下または 40 ℃以上で、エアコンを使用しているとき
- エアコンの風量が多いとき
- エアコンの設定温度が Hi または Lo で、エアコンを使用しているとき
- FRONT が ON のとき

アイドリングストップをする

アイドリングストップ中は、ボンネットを開けないでください。
ボンネットを開けると、エンジンが自動で再始動しません。
ボンネットを開けたときは、
ENGINE START/STOP でエンジンを再始動させてください。
➔ **エンジンの始動** P.189

アイドリングストップ中に、
ENGINE START/STOP を押すと自動で再始動しなくなります。
その場合は、通常のエンジンの始動操作をしてください。
➔ **エンジンの始動** P.189

渋滞追従機能付 ACC が作動していると、ブレーキを操作せずに停車しアイドリングストップ状態になる場合があります。
このような場合は、シフトポジションを D 以外にするとエンジンが再始動します。

次ページに続く

■アイドリングストップしないことがある条件

- 急ブレーキをかけて停止したとき
- ハンドルを動かしているとき
- 標高が高いとき
- 低車速で、加減速が繰り返されるとき
- エアコン風量が多いとき
- エアコンを使用中で設定温度と車内の温度差が大きいとき
- エアコンを使用中で車内の湿度が高いとき

■エンジンが自動的に再始動する

- ブレーキペダルを離すとエンジンが自動的に再始動します。
- オートマチックブレーキホールドシステムがONで停止した場合はアクセルペダルを踏みます。

オートマチックブレーキホールド P.277

■ブレーキペダルを離さずに、エンジンが自動的に再始動する条件※1

- アイドリングストップシステム OFF スイッチを押してシステムを OFF にしたとき
- ハンドルを動かしたとき
- シフトポジションを R 、 S にしたとき、または N から D に操作したとき
- 坂道で停車中に、ブレーキをゆるめて車が動いたとき
- ブレーキを繰り返し踏み込んだりゆるめたりしたとき
- バッテリーの放電量が多いとき
- アクセルペダルを踏んだとき
- 運転者がシートベルトを外したとき
- FRONT を押したとき
- エアコンを使用中で設定温度と車内の温度差が大きくなったとき
- エアコンを使用中で車内の湿度が高くなったとき
- 渋滞追従機能付 ACC の機能で自動停止後、追従走行または定速走行を再開させたとき

エンジンが自動的に再始動する

アイドリングストップからエンジンが再始動すると、使用している電子機器によっては、電源が一時的にオフになることがあります。

ブレーキペダルを離さずに、エンジンが自動的に再始動する条件※1

※1：オートマチックブレーキホールドによるブレーキ保持中はアイドリングストップシステムが作動しているときにブレーキペダルを離すことができます。
ただし、オートマチックブレーキホールドシステムを OFF したとき、またはオートマチックブレーキホールドシステムに問題が発生したときにはエンジンが自動的に再始動します。

オートマチックブレーキホールド P.277

次ページに続く

■発進補助ブレーキ機能

アイドリングストップからの発進はブレーキペダルから足を離しても一時的にブレーキ力を保持し、坂道で車を下がりにくくします。

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

VSA とは、ABS 機能、TCS 機能および横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。

■ABS(アンチロックブレーキシステム)機能 P.280

■TCS(トラクションコントロールシステム)機能
滑りやすい路面などでの駆動輪の無駄な空転を防止し、駆動力、操舵能力を確保しようとする機能です。

■横滑り抑制機能
急激なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制することで車両の安定性を確保しようとする機能です。

さらに、緊急制動時に運転者のブレーキ操作を補助する電子制御ブレーキアシストも装着しています。
電子制御ブレーキアシスト P.281

■ VSA の作動と警告灯



TCS 機能または横滑り抑制機能作動中は、VSA 警告灯が点滅します。

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、VSA が正常に機能しないことがあります。
タイヤは必ず、指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

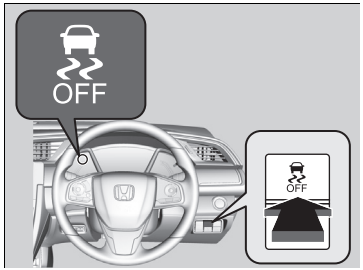
VSA 警告灯が運転中に点灯するときや、パワーモードをONモードにしても点灯しない場合は、システムの異常が考えられます。
通常の運転には支障はありませんが、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

バッテリー再接続後、渋滞追従機能付 ACC 警告灯と CMBS 警告灯、路外逸脱抑制機能警告灯、VSA 警告灯、VSA OFF 警告灯が一時的に点灯する場合があります。
車速 20km/h 以上でしばらく走行すると消灯します。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。

VSA が作動した状態でも車両の安定性の確保には限界がありますので、無理な運転はしないでください。
- カーブ手前では十分に速度を落とす
- 雪道、凍結路を走行するときは、スノータイヤまたはタイヤチェーンを装着し控えめな速度で運転する

次ページに続く

■ VSA の ON と OFF



VSA 機能を部分的に停止(OFF)状態にするには、VSA OFFを「ピッ」とブザーが鳴るまで押してください。
TCS機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなります。
再度使用(ON)するには、VSA OFFを「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。

前回の走行時にOFFにした場合でも、再度エンジンを始動させると自動的に ON になります。

▶VSA(ビークルスタビリティアシスト)

新雪やぬかるみから脱出したいときに、VSA OFFでVSA を OFF にすると TCS 機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなるので効果的な場合があります。
新雪やぬかるみから脱出した後は、すみやかに VSA を ON にしてください。
VSA を OFF にしたままでの走行は、お勧めしません。

エンジン始動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

アジャイルハンドリングアシスト

運転者のハンドル操作に応じて、前輪に軽いブレーキがかかることで、車両の動きを滑らかにし、安定感のあるコーナリングを可能とする機能です。

アジャイルハンドリングアシスト

アジャイルハンドリングアシストはすべての走行条件で安定性を向上させる機能ではありません。
安全のために、カーブ走行時は状況に応じた適正な速度で、十分に車間距離をとって走行してください。

走行中に VSA 警告灯が点灯したままのときは、アジャイルハンドリングアシストが作動しません。

アジャイルハンドリングアシストが作動中、エンジンルームから音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

ホンダセンシング

フロントロアグリルの奥に設置されたレーダーセンサーと、フロントウインドウ内上部に設置されたフロントセンサーカメラの、特性の異なる 2 種類のセンサーで構成された運転支援システムです。

ホンダセンシングには、次の機能があります。

■作動させるためにスイッチ操作が不要な機能

- 衝突軽減ブレーキ（CMBS） ➔P.215
- 歩行者事故低減ステアリング ➔P.222
- 路外逸脱抑制機能 ➔P.254
- 先行車発進お知らせ機能 ➔P.261
- 標識認識機能 ➔P.265
- オートハイビーム ➔P.152

■作動させるためにスイッチ操作が必要な機能

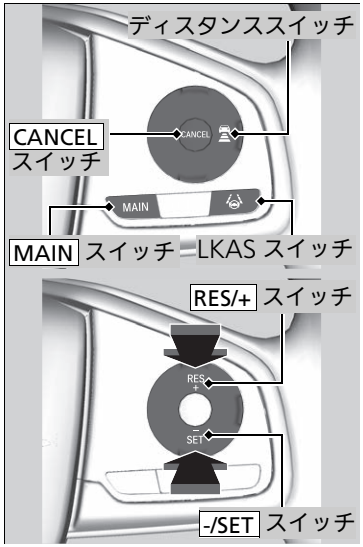
- 渋滞追従機能付 ACC（アダプティブ・クルーズ・コントロール） ➔P.228
- LKAS（車線維持支援システム） ➔P.243

⚠警告

ホンダセンシングは、補助システムとして使用してください。
自動運転システムではありません。
あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。
各機能の能力（認識能力・制御能力）には限界があります。
機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。常に周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を心がけ走行してください。

各機能を作動させるためのスイッチと表示

■ステアリングスイッチ



■MAIN スイッチ

渋滞追従機能付 ACC および LKAS の待機状態の設定を行ないます。

■LKAS スイッチ

LKAS の ON と OFF の設定を行ないます。

■RES/+ スイッチ、-/SET スイッチ

渋滞追従機能付 ACC の車速のセットと復帰、設定車速の調整を行ないます。

■ディスタンススイッチ

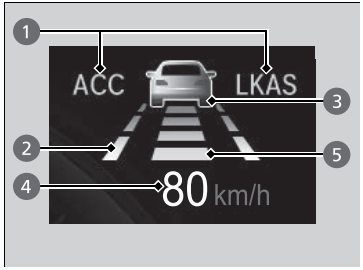
渋滞追従機能付 ACC の車間距離設定を行ないます。

■CANCEL スイッチ

渋滞追従機能付 ACC の解除を行ないます。

次ページに続く

■マルチインフォメーションディスプレイの表示



渋滞追従機能付 ACC および LKAS の現在の状態を表示します。

❶渋滞追従機能付 ACC および LKAS の待機状態

❷LKAS の ON と OFF の状態と制御状態

❸渋滞追従機能付 ACC の前走車検知状態

❹渋滞追従機能付 ACC の設定車速

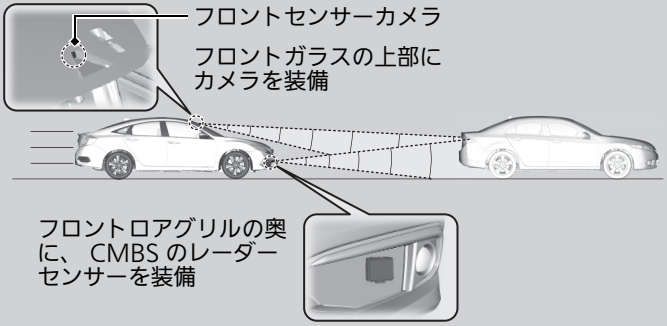
❺渋滞追従機能付 ACC の設定車間

衝突軽減ブレーキ(CMBS)

自車が、前方の車両のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車に正面から衝突するおそれがあるときおよび歩行者に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

■システムの作動

自車の車速が約 5km/h 以上になるとレーダーセンサーとカメラが前方の車両や歩行者の検知を開始。



自車との速度差が約 5km/h 以上ある車両および歩行者に対して衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。
対向車、停止車両および歩行者に対しては、自車が約 100km/h 以下で走行中に衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。
CMBS が作動し、停車した後または衝突のおそれがなくなったと判断した後に、自動ブレーキは解除されます。
なお、衝突を回避しようとして、運転者がハンドル、ブレーキペダル、アクセルペダルを操作したときは、システムが解除されることがあります。

衝突軽減ブレーキ(CMBS)

⚠警告

衝突軽減ブレーキ(CMBS)は、あらゆる状況で衝突を回避できるシステムではありません。レーダーやカメラは天候や速度、路面状況によって検知しにくいことがあります。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を行ってください。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **レーダーセンサー** P.273

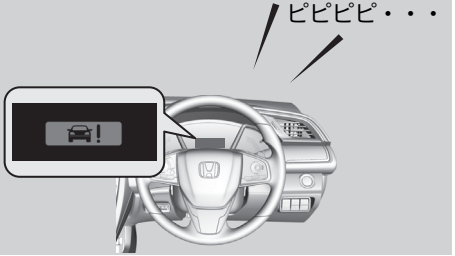
フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントセンサーカメラ** P.271

アクセルペダルの踏み込み量が大きいときに、システムが作動しない場合があります。

次ページに続く

■CMBS の警告のしかた

以下の方法により、CMBS は衝突のおそれがあることを、運転者に知らせます。
- マルチインフォメーションディスプレイの警告表示や警告ブザーが発生します

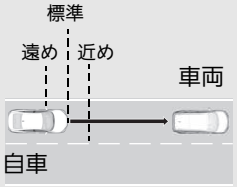


CMBS の警報距離を遠め・標準・近めの 3 段階から選択することができます。
カスタマイズ機能 P.113

遠めは標準に対して遠くで警告します。近めは標準に対して近くで警告します。

■ CMBS 作動の流れ

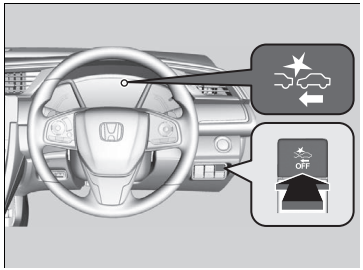
CMBSの作動には衝突の可能性に応じ3つの段階があります。しかし、状況によっては途中の段階から作動することがあります。

車両と自車の距離		状況	ブザーと表示による警告	ブレーキ
第 1 段階		車両への衝突のおそれがでてきた状況	警告表示が 2 回点滅する さらに接近すると、警告表示およびブザーによる警報を行う ▶ 衝突警報距離を変更することができます。 ➔ **カスタマイズ機能** P.113	—
第 2 段階		衝突の危険が増し、衝突するまでの余裕が少なくなった状況	警告表示およびブザーによる警報を行う	軽いブレーキ
第 3 段階		回避が困難な状況		強いブレーキ

※：CMBS によるブレーキが作動しているときは制動灯が点灯します。

次ページに続く

■ CMBS の ON と OFF



CMBS OFF スイッチを「ピーッ」とブザーが鳴るまで押すことで、システムの ON と OFF を切り換えます。

CMBS が OFF に切り換わったとき CMBS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「CMBS OFF」とメッセージが表示されます。

CMBS を OFF にした状態でパワーモードを OFF にした場合でも、再度パワーモードを ON にすると自動的に ON になります。

▨衝突軽減ブレーキ（CMBS）

以下の場合、CMBS が自動的に停止し、警告灯が点灯することがあります。

- 山岳路や悪路を長時間走行したとき
- 雨、霧、雪などの悪天候になったとき
- パーキングブレーキをかけて走行したとき
- カメラの温度が高温になっているとき
- フロントロアグリルまたはフロントガラスがほこり、泥、落ち葉、湿った雪などで覆われているとき
- タイヤの異常を検出したとき

CMBS が作動できる状態になると、CMBS は自動復帰します。

車両の整備や検査の際に、シャシーダイナモやフリーローラーを使用するときは CMBS を OFF にしてください。

バッテリー再接続後、渋滞追従機能付 ACC 警告灯と CMBS 警告灯、路外逸脱抑制機能警告灯、VSA 警告灯、VSA OFF 警告灯が一時的に点灯する場合があります。
車速 20km/h 以上でしばらく走行すると消灯します。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。

次のような場合、レーダーセンサーやカメラが車両、歩行者や路面状況を検知できず、CMBS が正常に作動しない場合があります。

■環境によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 逆光のとき
- 強い光が車両や歩行者、路面に反射しているとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- 夜間やトンネル内などで照明が暗く、車両・歩行者の全体が照らされていないとき

■道路の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 路面に水溜りや水膜があるとき
- 雪道や未舗装路などわだちのある道路のとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両や歩行者の周囲に電波を強く反射する物があるとき

■自車の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- フロントロアグリルが汚れているとき
- フロントガラスの曇り、雨粒、シールなどでカメラ前方が覆われているとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 適正なタイヤを使用していないとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトを OFF で走行しているとき

CMBS の ON と OFF

頻繁に警報が作動するなど、システムに異常を感じたときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

■前方の車両や対向車、歩行者の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 前方の車両や歩行者との距離が極端に短いとき
- 自車の前方に車両が急に割り込んだとき
- 自車の前方に対向車や歩行者が飛び出したとき
- 歩行者の一部(頭や手足など)が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者が背景に紛れて、カメラが歩行者を検知できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき
- 暗がりで前方の車両が無灯火のとき

■その他、作動できない事例

- 衝突を回避しようとして、運転者がブレーキやハンドルを操作したとき
- 急加速やハンドル操作をしながら、前方の車両や対向車、歩行者に接近したとき
- 前方の車両や対向車、歩行者が自車の正面にいないとき
- 前方の車両や歩行者との速度差が大きいとき
- 前方の車両が急減速したとき
- 自転車や二輪車、車いす、特殊な形状の車両などのとき
- 交差点などで自車の前方に車両が飛び出したとき
- 歩行者のかたちとしてカメラが正しく検知できないとき

CMBS の ON と OFF

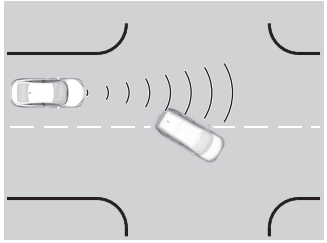
サスペンションの改造はしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

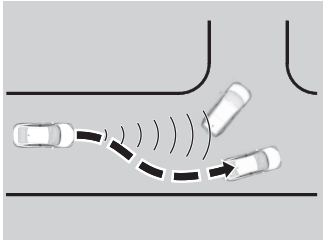
タイヤは、四輪とも指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを使用すると、システムが正常に作動しないおそれがあります。

■衝突の可能性のない場合の作動について

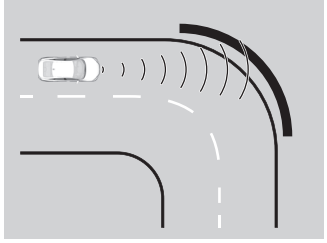
衝突の可能性がなくても、以下のとき、CMBS が作動することがあります。

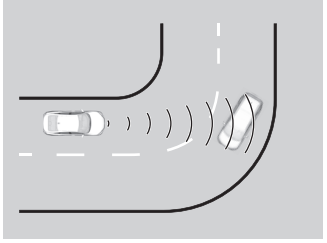
- 左折、または右折している前方車両がいるとき、または右左折待ちの車両がいるとき
- 前走車を追い越すときに車両に接近して走行する場合
- 交差点などで車両に接近して走行する場合





- 低いゲートや狭いゲートなどの間を規制速度を越えるような速度で通過しようとするとき
- 段差のある道路、線路、工事の鉄板などの上を走行するとき
- カーブ途中の道路脇に標識やガードレールなどがあるとき
- カーブ走行などで自車の正面に対向車がいるとき



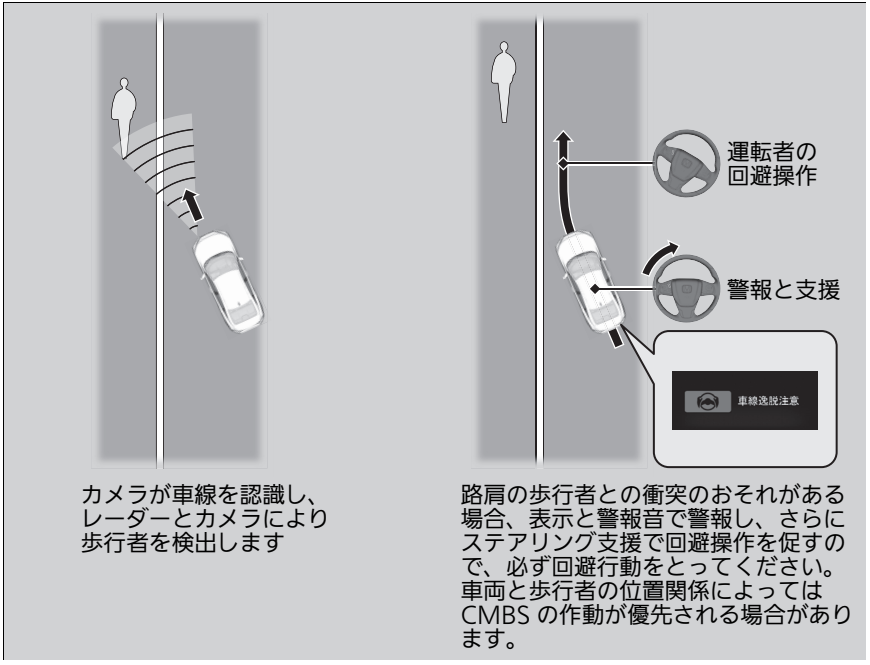


- 駐車時など、停止している車両や壁に接近するとき

歩行者事故低減ステアリング

レーダーとカメラにより歩行者と白線(黄線)を検出し、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

■システムの作動



カメラが車線を認識し、
レーダーとカメラにより
歩行者を検出します

路肩の歩行者との衝突のおそれがある場合、表示と警報音で警報し、さらにステアリング支援で回避操作を促すので、必ず回避行動をとってください。
車両と歩行者の位置関係によってはCMBS の作動が優先される場合があります。

▶歩行者事故低減ステアリング

⚠警告

歩行者事故低減ステアリング機能は、運転者の運転操作を支援するシステムです。
あらゆる状況での歩行者事故を、軽減したり回避できるものではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

運転者は周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

車線内を走行していないときは、歩行者事故低減ステアリング機能は作動しません。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **レーダーセンサー** P.273

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントセンサーカメラ** P.271

■システムの作動条件

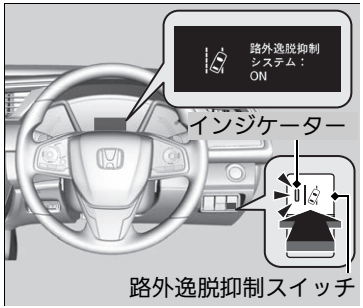
歩行者事故低減ステアリングは以下の状態で作動します。

- 歩行者が路肩を歩行しているときに、車両がその歩行者に向かって車線から逸脱していくとき
- 実線の白線(黄線)が連続しているとき
- 車速が約 10 ～ 40km/h で走行しているとき
- 直線の道路を走行しているとき

歩行者事故低減ステアリングは以下の状態では作動しません。

- ワイパーを連続で作動させているとき
- 方向指示器(ウィンカー)を出しているとき

■システムの ON と OFF



歩行者事故低減ステアリングは、路外逸脱抑制機能が ON のときに作動します。
路外逸脱抑制スイッチを押して、歩行者事故低減ステアリングの ON と OFF を切り替えてください。

▶ ON のときは、路外逸脱抑制スイッチのインジケーターが点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

システムの作動条件

運転者による操作が行われているときには支援が感じられないことがあります。

システムの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用し、路外逸脱抑制機能の設定をカスタマイズすることができます。
カスタマイズ機能で「操舵アシストなし　警報のみ」を選択した場合、歩行者事故低減ステアリングはステアリング制御を行いません。

カスタマイズ機能 P.113

次ページに続く

■歩行者事故低減ステアリングシステムの条件と制限

以下の条件で、歩行者事故低減ステアリングの支援が遅れたり、支援できない場合があります。
運転者が周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

■環境によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が歩行者や路面に反射しているとき
- トンネルの出入り口など、周辺の明るさが急に変わるとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき(木々、建物、ガードレール、車両など)
- 夜間やトンネル内などの暗いところ
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■道路の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線(黄線)や歩行者を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、歩行者の周囲に電波を強く反射する物があるとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき

次ページに続く

■自車の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- カーゴスペースや、リヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- 衝突を回避しようとして、運転者がブレーキやステアリングを操作したとき
- フロントロアグリルが汚れているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 先行車との車間距離が短いとき

■歩行者の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 自車の前方に歩行者が飛び出すなど、歩行者が急に見え始めたとき
- 歩行者の一部(頭や手足など)が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者が背景に紛れて、カメラが歩行者を検知できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき

■その他、作動できない事例

- 急加速やステアリング操作をしながら、前方の歩行者に接近したとき
- 歩行者のかたちとしてカメラが正しく検知できないとき
- 自転車や二輪車、車いす、特殊な形状の車両などのとき

渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)

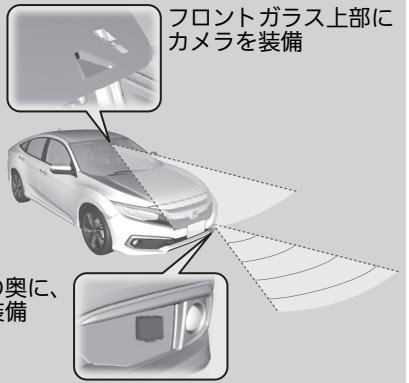
渋滞追従機能付 ACC は、フロントロアグリルの奥に設置してあるレーダーセンサーとフロントガラス上部に設置してあるカメラが先行車との車間距離を測定して、高速道路の渋滞時に適切な加減速を行い、設定車間距離を保持しながら、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに走行、停車出来るよう支援するシステムです。
渋滞追従機能付 ACC によるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。

渋滞追従機能付ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)

⚠警告

渋滞追従機能付 ACC の不適切な使用は事故につながります。取扱説明書の操作手順に従い操作してください。
高速道路や自動車専用道路でのみ使用してください。

■使用できるシフトポジション
D、S のとき



ブレーキペダルを操作しての減速中や、パーキングブレーキがかかっているときは、渋滞追従機能付 ACC は作動しません。
悪天候などで、レーダーセンサーが先行車との車間距離を測定できないときは、システムが作動しないことがあります。

渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)

⚠警告

渋滞追従機能付 ACC は、補助システムとして使用してください。渋滞追従機能付 ACC は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

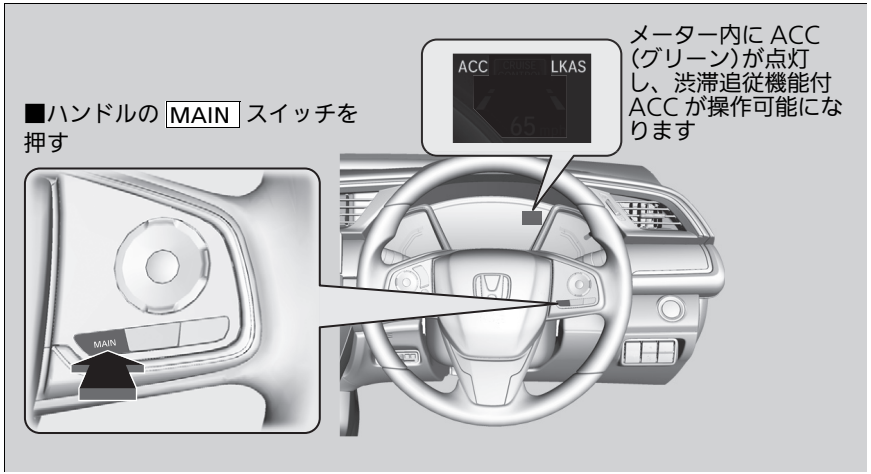
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

⚠警告

渋滞追従機能付 ACC の作動中に停車した車両から、適切な駐車操作無しで外に出ると車両が操作無しで動き出す可能性があります。
適切な駐車操作無しで動く車両は、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。
渋滞追従機能付 ACC で停車した車両から絶対に外に出ないでください。

次ページに続く

■システムを作動させるには



渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **フロントセンサーカメラ** P.271

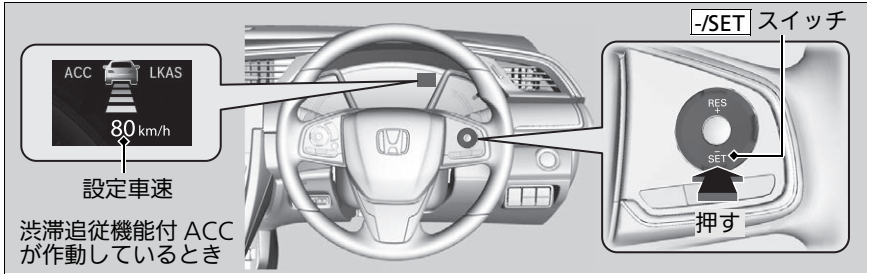
レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **レーダーセンサー** P.273

使用上の注意：

渋滞追従機能付 ACC は、運転者を支援するシステムです。天候や環境などによって機能しないことがあります。必要なときはブレーキペダルを使用し、常に安全な車間距離を保ってください。

■車速をセットするには



ブレーキペダルを操作していないときに -/SET スイッチを押すと現在の車速が設定車速とされ、渋滞追従機能付 ACC が作動し、マルチインフォメーションディスプレイにアイコンや設定車速が表示されます。

車速が 30km/h 以下で走行しているとき：

先行車を検知している場合のみ作動することができ、現在の車速にかかわらず設定車速が約 30km/h に設定されます。車両が動いていない場合は、ブレーキペダルを踏んでいても作動することができます。

車速をセットするには

バッテリー再接続後、渋滞追従機能付 ACC 警告灯と CMBS 警告灯、路外逸脱抑制機能警告灯、VSA 警告灯、VSA OFF 警告灯が一時的に点灯する場合があります。
車速 20km/h 以上でしばらく走行すると消灯します。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。

MAIN スイッチを押すと、渋滞追従機能付 ACC と LKAS の両方が ON と OFF に切り換わります。

下記の状況のときは、渋滞追従機能付 ACC を使用しないでください。

- 交通量の多い道路や頻繁に加減速を繰り返すような交通状況では、交通状況にあった速度で走行できません。
- 急カーブのある道では道路状況にあった速度で走行できません。
- 急な下り坂では設定車速を超えてしまう場合があります。このような場合は、渋滞追従機能付 ACC によるブレーキは作動しません。
- 高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するときは、自車の前から先行車がいなくなることで設定車速まで加速を始めてしまいます。

次ページに続く

渋滞追従機能付 ACC を使用すると Straight Driving Assist（直進保舵支援機能）が作動します。
これはEPS（電動パワーステアリング）の機能であり、直進におけるハンドル保舵力を低減し、直進走行しやすくします。

車速をセットするには

- 悪天候（雨、霧、雪など）のときは先行車との車間距離を正確に測定できません。
- 凍結路や積雪路などの滑りやすい路面ではタイヤが空転して車のコントロールを失うおそれがあります。

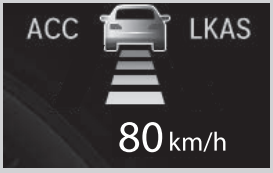
■渋滞追従機能付 ACC の作動

■先行車がいるとき

渋滞追従機能付 ACC は先行車がレーダーセンサーの検知範囲に入ると、先行車の車速変化に合わせ、設定車速の範囲内で車間距離を保ちながら追従走行します。



渋滞追従機能付 ACC の検知範囲：120m



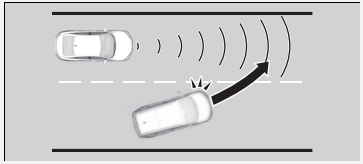
マルチインフォメーションディスプレイに車のアイコンが表示されます

設定車速より遅い速度で走行する先行車や割り込み車が前方にあらわれた場合、システムは減速制御を行います。

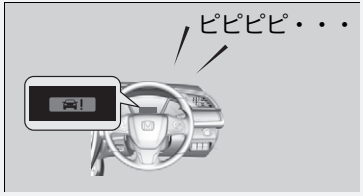
次ページに続く

渋滞追従機能付 ACC の作動

先行車が急減速したり、遅い車両が割り込んできたときは、警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイの警告で視覚への警告が表示されます。



ブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。



先行車または割り込み車の車速が自車よりも速く、次第に離れていく場合、先行車との距離が短くても警報が出ず、そのまま追従することがあります。

マルチインフォメーションディスプレイを使って先行車検知音の有り / 無しを設定できます。
➔ **カスタマイズ機能** P.113

■先行車がいないとき



マルチインフォメーションディスプレイに点線の車のアイコンが表示されます

先行車がいない場合、設定した車速で定速走行します。
先行車が車線変更などでいなくなると、設定車速までゆるやかに加速後、定速走行します。

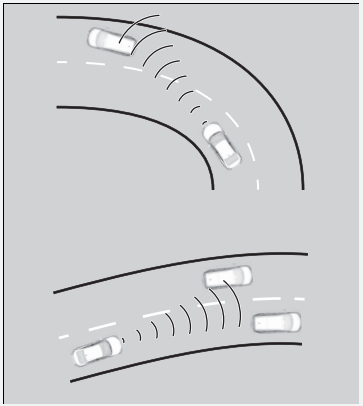
■アクセルペダルを踏んだとき

- アクセルペダルを踏み込むと、渋滞追従機能付 ACC が一時的に解除され車速が上がります。このとき、渋滞追従機能付 ACC の警告範囲内に先行車がいても警告音やマルチインフォメーションディスプレイの警告表示はでません。
- アクセルペダルを離すと、渋滞追従機能付 ACC が復帰し追従走行または定速走行を再開します。

渋滞追従機能付 ACC の作動

制限：
安全な車間距離を保つために、渋滞追従機能付 ACC を使用中でもブレーキペダルを使用しブレーキをかける必要があります。また、天候や環境などにより渋滞追従機能付 ACC が適切に作動しないことがあります。
渋滞追従機能付 ACC の条件と制限 P.235

- 道路状況（カーブなど）や自車の状況（ハンドル操作や車線内の位置）によっては、一時的にとなりの車線の車や周囲の物に対して車間距離制御を行う場合があります。



- 先行車がインターチェンジやサービスエリアなどに入る際、自車の前から先行車がいなくなるときは、車間距離制御が少しの間継続する場合があります。

■先行車が減速して停車するとき



先行車が停車すると、自車も自動で停車します。マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
先行車が動き始めると、マルチインフォメーションディスプレイのアイコンが点滅します。 RES/+ スイッチまたは -/SET スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むことで発進し、以前の設定車速の範囲内で追従走行します。

■渋滞追従機能付 ACC の条件と制限

一定の条件でシステムは自動解除し、渋滞追従機能付 ACC 警告灯が点灯する場合があります。以下の条件では渋滞追従機能付 ACC の機能の一部を発揮できない場合があります。

➔ フロントセンサーカメラ P.271

■自車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- フロントロアグリルが汚れているとき
- 適正なタイヤを使用していないとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

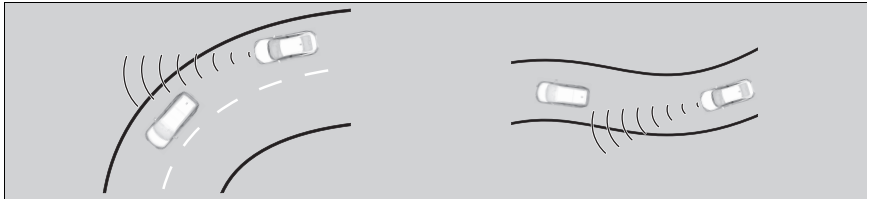
■環境によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 先行車による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

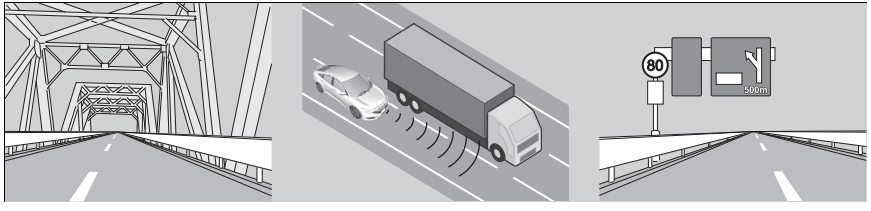
次ページに続く

■道路の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき



- 雪道や未舗装路などわだちのある道路
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき

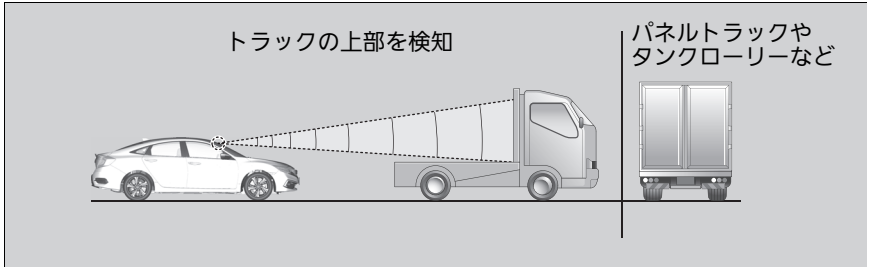


■前方の車両の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

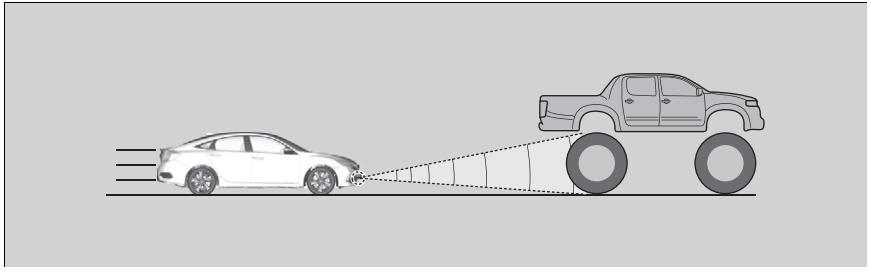
- 自車の前方に車両が急に割り込んだとき
- 前方の車両との距離が極端に短いとき

■その他、システムが正しく作動しない事例

- 前方の車両が駐停車していたり、自車との速度差が大きいとき
- 前方の車両が急減速したとき
- 前方の車両がパネルトラックや特殊な形状の車両のとき



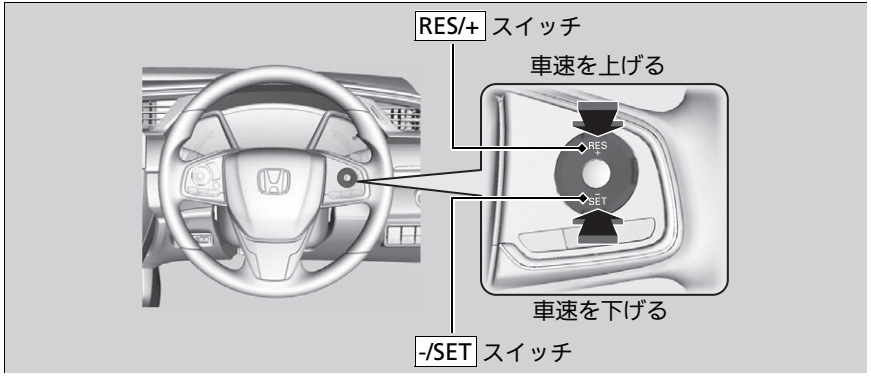
- 自車または前方の車両が、車線の片側にかたよって走行しているとき
- 前方の車両が二輪車など幅の狭い車両のとき
- 前方の車両の最低地上高が極端に高いとき



次ページに続く

■設定車速を調整するには

手元の RES/+ スイッチと -/SET スイッチの操作で、設定車速を上げ / 下げることができます。



RES/+ スイッチ

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が上がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が上がり、手を離したときの設定車速に固定

-/SET スイッチ

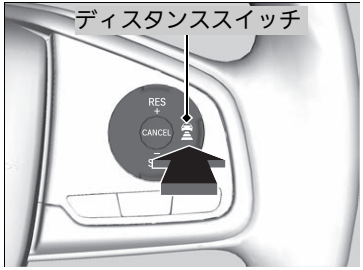
- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が下がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が下がり、手を離したときの設定車速に固定

▶設定車速を調整するには

検知した先行車の車速が自車が上げた設定車速よりも遅い場合は、自車の車速を加速させない場合があります。
これは設定した先行車との車間距離を維持するためです。

アクセルペダルを踏み、 -/SET スイッチを押すと、現在の車速が設定車速になります。

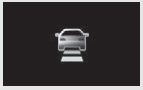
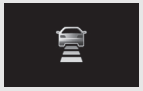
■車間距離を設定するには



ディスタンススイッチを押し、車間距離を設定します。
先行車との車間距離設定は、4 段階に切り換えることができます。
ディスタンススイッチを押すごとに、最長→長→中→短と切り換わります。
適切な車間距離の設定を決定してください。

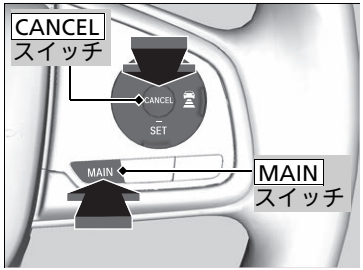
次ページに続く

車速が低くなるほど、車間距離は短くなります。車間距離の目安は以下の通りです。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、実際の交通状況に応じて車間距離を選択して、走行してください。

車間距離設定		車速 80km/h のとき	車速 100km/h のとき
短		約 24.7m	約 30.3m
中		約 34.2m	約 41.8m
長		約 46.8m	約 58.5m
最長		約 63.5m	約 80.1m

先行車が停車し、自車も自動で停車したときの車間は車間距離設定により変わります。

■解除するには



以下のいずれかの操作をすると、渋滞追従機能付 ACC が解除されます。

- CANCEL スイッチを押す
- MAIN スイッチを押す
  ▶ メーター内の ACC(グリーン)が消灯します。
- 車両が前進しているときにブレーキペダルを踏む

■渋滞追従機能付 ACC の自動解除

次の場合は、マルチインフォメーションディスプレイに「ACC OFF」と表示され、「ピー」とブザーが鳴り、渋滞追従機能付 ACC が自動解除されます。

- 悪天候(雨、霧、雪など)のとき
- フロントロアグリルが汚れたとき
- 先行車を安定して検知できないとき
- タイヤの異常を検知したとき
- 山岳路や悪路を長時間走行したとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ABS や VSA、または CMBS が作動したとき
- VSA 警告灯が点灯したとき
- 急斜面で停車しているとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- 検知した先行車との車間距離が短すぎるとき

解除するには

解除前の設定車速を復帰させるには：

渋滞追従機能付 ACC を解除したあと、停車状態でも RES/+ スイッチを押すと解除前の設定車速で作動を開始することができます。

ただし、以下の場合は復帰しません。

- MAIN スイッチを押して渋滞追従機能付 ACC を OFF したあと
- 30km/h 以下で先行車がいないとき

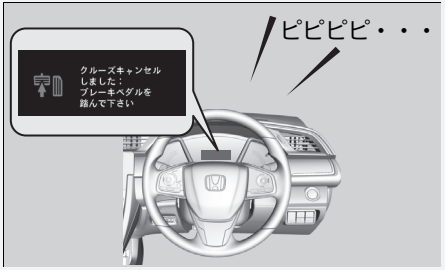
次ページに続く

- 停車状態で先行車がいなくなったとき
- 急加速したとき
- フロントガラス上部のカメラまたはカメラ付近が汚れているとき
- 停車中に運転席のシートベルトを外したとき
- 車両が 10 分以上停車しているとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき
- ブレーキシステム警告灯（オレンジ）が点灯したとき

解除するには

停車中の解除：

渋滞追従機能付 ACC によって自車が自動的に停車しているときに渋滞追従機能付 ACC が解除された場合に、警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。

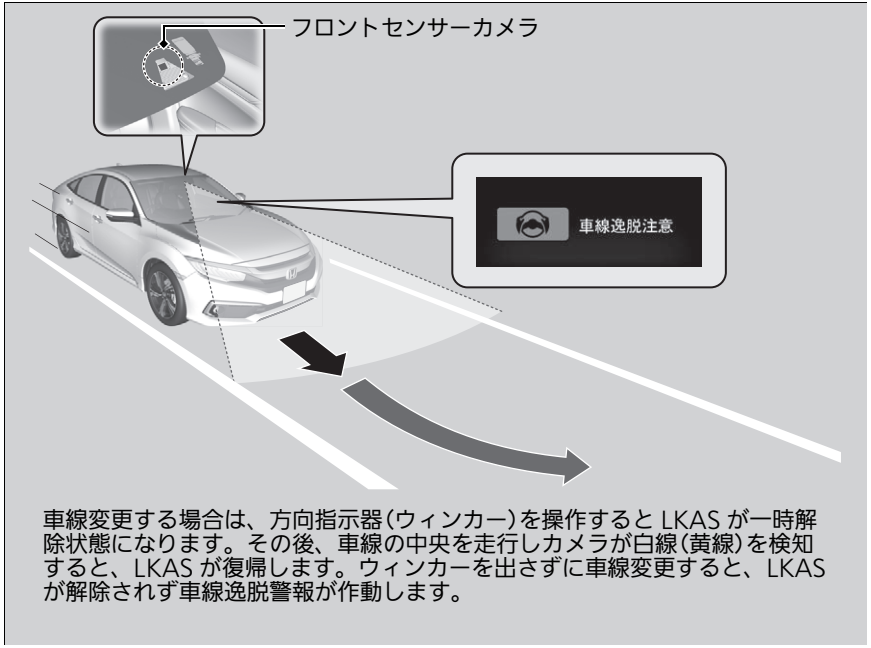


すみやかにブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。

LKAS(車線維持支援システム)

LKAS は、フロントガラス上部に設置してあるカメラによって、左右の白線(黄線)をとらえ、電動パワーステアリングの動きをアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

■システムの作動



車線変更する場合は、方向指示器(ウィンカー)を操作すると LKAS が一時解除状態になります。その後、車線の中央を走行しカメラが白線(黄線)を検知すると、LKAS が復帰します。ウィンカーを出さずに車線変更すると、LKAS が解除されず車線逸脱警報が作動します。

次ページに続く

LKAS(車線維持支援システム)

⚠警告

LKAS は補助システムとして使用してください。LKAS は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

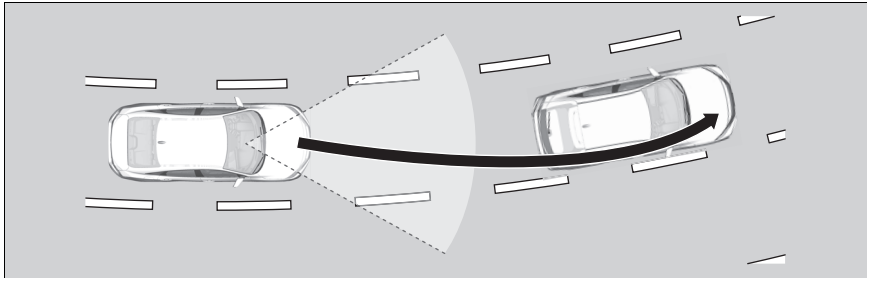
インストルメントパネル上部に物を置かないでください。物がフロントガラスに反射して車線を正確に検知できない場合があります。

LKAS は方向指示器(ウィンカー)を出さずに車線変更を検知した時のみ警告します。
LKAS は、すべての車線区画線や車線逸脱を検出できない場合があります。また天候や速度、路面状況によっては、システムが機能しないことがあります。
運転者が周囲の道路状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

LKAS は、急なカーブや加速・減速の繰り返しが続く道路では、システムが正常に機能しないおそれがあります。LKAS は、高速道路や自動車専用道路などを運転するときに使用してください。

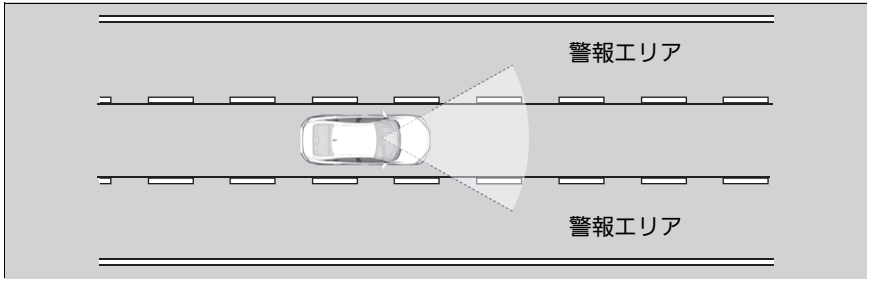
■車線維持支援機能

車が車線中央を走行するようにアシストし、白線(黄線)に近づくと電動パワーステアリングの操舵力が強くなります。



■車線逸脱警告機能

車が警報エリアに入ると車線逸脱の警報をハンドルの振動と音およびディスプレイ表示で行います。



LKAS(車線維持支援システム)

LKAS は条件により正常に作動しない場合があります。

LKAS の条件と制限 P.250

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

フロントセンサーカメラ P.271

車線の検知ができないときは、一時的にシステムが解除されます。車線を検知するとシステムが自動復帰します。

■ LKAS を作動させるには

LKAS システムは、以下の条件で作動します。

- 車速が約 60 ～ 100km/h で走行しているとき
- 左右に白線（黄線）が引かれている車線の中央付近を走行しているとき
- 直線または半径 230m 以上のゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- ワイパーを連続で作動させていないとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき
- 方向指示器（ウィンカー）を出していないとき

LKAS を作動させるには

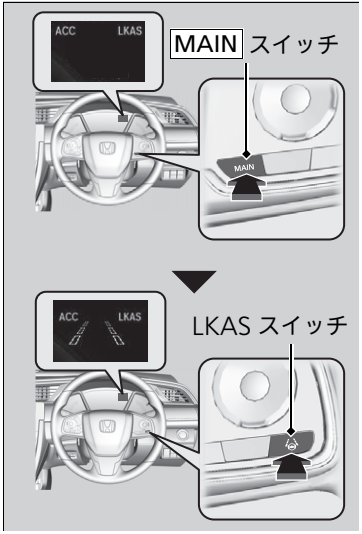
システムが作動しているときに、左右の白線（黄線）に偏る場合は、システムを停止し指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

白線（黄線）を正しく検知できず走行位置を正しく設定できない場合があります。

LKAS の条件と制限 P.250

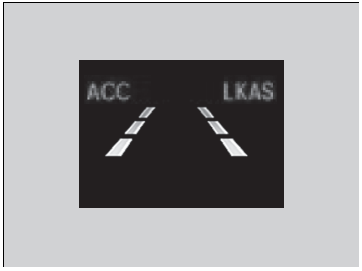
次ページに続く

■システムの作動方法



1. MAIN スイッチを押す
▶ LKAS システムが ON になり、マルチインフォメーションディスプレイ内に LKAS 表示灯（グリーン）が点灯します。

2. LKAS スイッチを押す
▶ LKAS システムが待機状態になります。マルチインフォメーションディスプレイに車線表示（点線）が点灯します。



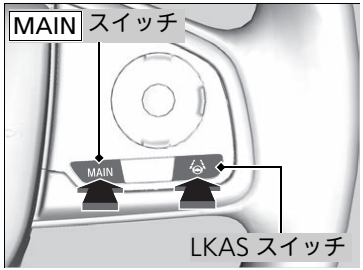
3. 車線の中央付近を走行する
▶ 車線中央付近を走行中にカメラが両側の白線（黄線）を検知すると、LKAS が制御を開始します。

LKAS を作動させるには

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- カメラ付近のガラスは常にきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れをするときは、ガラスクリーナーなどがカメラのレンズに付着しないようにする
- カメラのレンズには触れない
- カメラ付近のガラスにステッカーを貼らない

■解除するには



以下のいずれかの操作をすると、LKAS が解除されます。

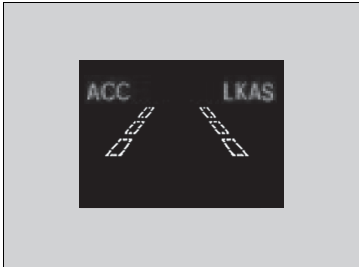
- MAIN スイッチを押す
- LKAS スイッチを押す

前回走行時に LKAS が ON 状態でも、パワーモードを OFF モードにする度に LKAS は OFF になります。

解除するには

MAIN スイッチを押すと、LKAS と同時に渋滞追従機能付 ACC も解除されます。

次ページに続く



■LKAS の一時解除

次の場合、マルチインフォメーションディスプレイに車線表示が点線で表示され、LKAS が自動解除されます。

- ワイパーを連続作動したとき
  ▶ ワイパースイッチを HI、AUTO または MIST で連続作動しているときは、LKAS は自動解除します。ワイパーを OFF または LO にすると、LKAS は復帰します。
- ワイパースイッチが AUTO のときにワイパーが連続作動した場合には、LKAS は自動解除されます。
  ワイパーの作動が停止、もしくは間欠作動になると、LKAS は復帰します。
- ブレーキ操作をしたとき
  ▶ 減速などでブレーキペダルを踏むと LKAS が解除され、待機状態になります。ブレーキペダルから足を離し、システムが左右の白線(黄線)を検知すると LKAS が自動で復帰します。
- 車速が 60km/h 以下になったとき
  ▶ 車速が60km/h以下になると、LKASは自動解除します。車速が 65km/h 以上になると、LKAS は復帰します。

LKAS の一時解除

マルチインフォメーションディスプレイを使って自動解除ブザーの有り / 無しを設定できます。

カスタマイズ機能 P.113

■LKAS が自動的に一時解除されるとき

- 白線（黄線）を検知できないとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ハンドル操作をしていないとき
- 急なカーブを走行したとき
- 制限速度を超えた速度で走行したとき
- 路外逸脱抑制機能が作動したとき

これらの条件が長く続かなければ、システムは自動的に再開されます。

■LKAS が自動的にキャンセルされるとき

次の場合、マルチインフォメーションディスプレイに車線表示が点線で表示され、ブザーが鳴り、LKAS が自動的にキャンセルされる場合があります。

- カメラ内部の温度が一定以上高温になったとき
- カメラまたはカメラ付近のフロントガラスが汚れているとき
- ABS、VSA が作動しているとき

次ページに続く

■ LKAS の条件と制限

以下の条件では、システムは白線（黄線）を検知できず、LKAS が正しく機能しない場合があります。

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

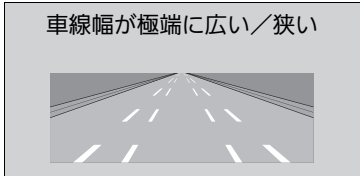
- 白線（黄線）と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 白線（黄線）の付近に影が映っているとき（木々、建物、ガードレール、車両など）

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線（黄線）のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線（黄線）が道路にあるとき



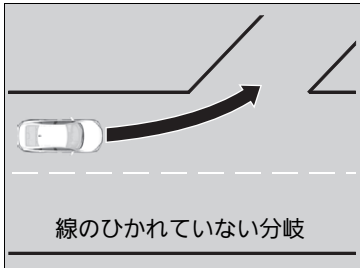
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき



- 車両などが白線（黄線）の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの（縁石、ガードレール、パイロンなど）を白線（黄線）と認識したとき
- 道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき

次ページに続く

- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 分岐・合流路などを走行するとき



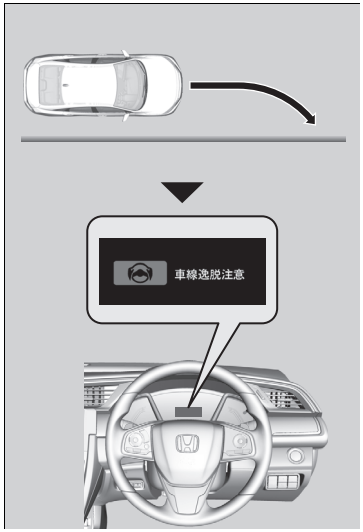
■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- サスペンションを変更したとき
- 先行車との車間距離が短いとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

路外逸脱抑制機能

路外逸脱抑制機能はシステムが車両の車線逸脱の可能性を検知すると、車線逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

■システムの作動



このシステムは、フロントガラス上部に設置されたカメラによって左右の白線または黄線を検知し、方向指示器(ウィンカー)を使用せずに白線(黄線)を逸脱したことを判断したとき、作動します。
マルチインフォメーションディスプレイにより警告を行うとともに、ハンドルを短時間振動させることで運転者の操作を促し、さらに逸脱を防ぐ方向にハンドル操作を支援します。
また逸脱を回避するのに大きくハンドル操作が必要なときは、ハンドル操作の支援とともにブレーキ操作の支援も行います。
ブレーキ操作の支援は、検知した線が実線のときのみ行われます。

▶路外逸脱抑制機能

⚠警告

路外逸脱抑制機能は、補助システムとして使用してください。路外逸脱抑制機能は、自動運転システムではなく、運転者のハンドル操作に代わるものではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

路外逸脱抑制機能は、方向指示器(ウィンカー)を使用しない車線逸脱を検知したときに警告します。
車線区画線(白線や黄線)や車線逸脱を検出できない場合があります。また、天候、速度や路面状況によっては、支援できない場合があります。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➡ **フロントセンサーカメラ** P.271



繰り返し路外逸脱抑制機能が作動しても運転者の操作がない場合は警報音が鳴ります。その後、左記の警告を表示し路外逸脱抑制機能を一時停止します。



一時停止状態から数分経過すると、左記の表示とともに路外逸脱抑制機能は復帰します。

路外逸脱抑制機能

路外逸脱抑制機能は、正常に作動しないことがあります。

➡ **路外逸脱抑制機能の条件と制限** P.258

運転者による操作が行われているときや、路面の状況によっては支援が感じられないことがあります。

カスタマイズ機能で「アシストタイミング早め」を選択し、LKAS（車線維持支援システム）を作動させていない場合、車線逸脱の可能性を検知すると以下のメッセージが表示されます。

➡ **カスタマイズ機能** P.113



次ページに続く

■システムの作動条件

路外逸脱抑制機能は、以下の条件を満たすとき、作動します。

- 車速が約 60 ～ 100km/h で走行しているとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- 方向指示器(ウィンカー)を使用していないとき
- ワイパーが連続で作動していないとき
- システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき

システムの作動条件

路外逸脱抑制機能は自動的に OFF になり、路外逸脱抑制機能警告灯が点灯する場合があります。

警告灯 P.62

下記の条件下では路外逸脱抑制機能を抑制しています。

- 車線内を走行していないとき
- カーブ内側に、はみ出して走行してしまっているとき
- 車線幅が狭いとき

■システムの ON と OFF



路外逸脱抑制スイッチを押して、システムの ON と OFF を切り替えてください。

▶ システムが ON のときは、路外逸脱抑制スイッチのインジケーターが点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

≫システムの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用してシステムの設定をカスタマイズすることができます。
カスタマイズ機能で「操舵アシストなし　警報のみ」を選択した場合、システムはハンドルおよびブレーキ制御を行いません。
➔ **カスタマイズ機能** P.113

バッテリー再接続後、渋滞追従機能付 ACC 警告灯と CMBS 警告灯、路外逸脱抑制機能警告灯、VSA 警告灯、VSA OFF 警告灯が一時的に点灯する場合があります。
車速 20km/h 以上でしばらく走行すると消灯します。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

■路外逸脱抑制機能の条件と制限

以下の条件では、システムは白線(黄線)を検知できず、システムが正しく機能しない場合があります。

■環境の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき(木々、建物、ガードレール、車両など)

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- 道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき

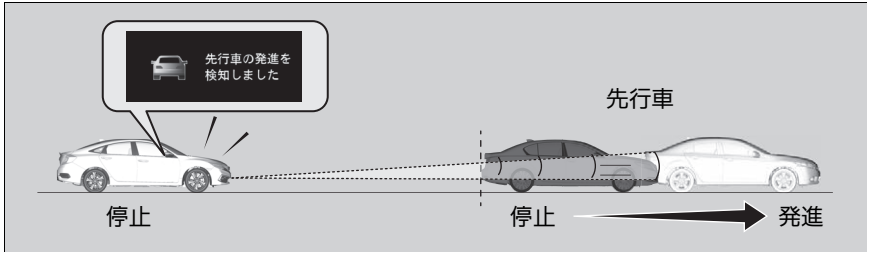
次ページに続く

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- カメラ温度が高温のとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで車両が傾いているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 先行車との車間距離が短いとき
- サスペンションを変更したとき

先行車発進お知らせ機能

信号待ちなどで、先行車が発進したことに気づかず停止し続けたときに、音と表示で運転者に知らせるシステムです。



■システムの作動条件

先行車に続いて停車(停止状態での車間距離が約10m以内、かつ自車・先行車がしばらく停止)すると先行車を認識し続け、先行車の発進を検知しても自車が停止し続けたときに作動します。

■シフトポジションが D 、 S の場合

ブレーキペダルを踏んでいるまたはオートマチックブレーキホールドのブレーキ保持機能が作動している。

次ページに続く

先行車発進お知らせ機能

⚠警告

先行車発進お知らせ機能は、運転者をアシストするための補助システムです。安全に発進できる状況を知らせるシステムではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

発進するときは、運転者が目視で周囲と前方の安全を十分に確認し、適切な車間距離を保ち運転してください。

他の運転支援システムと同様に、先行車発進お知らせ機能は、天候や環境などによって機能しないことがあります。

先行車発進お知らせ機能をOFFにすることができます。

➔ **カスタマイズ機能** P.113

渋滞追従機能付 ACC 警告灯が点灯しているときは、先行車発進お知らせ機能は作動しません。

➔ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)** P.228

■シフトポジションが N の場合

ブレーキペダルを踏んでいるまたはパーキングブレーキが作動しているまたはオートマチックブレーキホールドのブレーキ保持機能が作動している。

システムの作動タイミングを標準・早めの2段階から選択することができます。

➔ **カスタマイズ機能** P.113

標準は先行車が停止状態から約 3m 以上進んだときに作動します。
早めは先行車の発進を検知したときに作動します。

≫先行車発進お知らせ機能

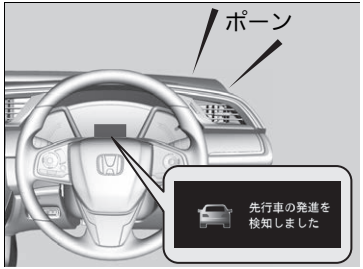
レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **レーダーセンサー** P.273

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **フロントセンサーカメラ** P.271

■システムの作動状態



システムが作動すると、「ポーン」とブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■先行車発進お知らせ機能の条件と制限

次のような場合、先行車が発進していなくてもシステムが作動したり、先行車が発進していてもシステムが作動しないことがあります。

■自車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- フロントロアグリルが汚れているとき
- 自車の停車している時間が短いとき

■環境によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

次ページに続く

■道路の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、右左折直後、坂道などのとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき

■先行車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 先行車の停車している時間が短いとき
- 先行車との距離が極端に短いとき
- 先行車が極端に遅い速度で移動しているとき
- 先行車が右左折や急旋回したとき

■その他、レーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 歩行者や自転車、二輪車、特殊な形状の車両など
- 自車と先行車の間に別の車両や歩行者、自転車などが割り込んできたとき
- 先行車が自車の正面にいないとき

標識認識機能

標識認識機能は走行中に認識した道路標識情報をマルチインフォメーションディスプレイに表示し、運転者にお知らせする機能です。
表示される道路標識は以下の４つです。

- 最高速度
- はみ出し通行禁止
- 一時停止
- 車両進入禁止

■作動のしかた

走行中にフロントガラス上部にあるカメラで特定の道路標識を認識し、マルチインフォメーションディスプレイに道路標識情報を表示します。



▨標識認識機能

⚠警告

標識認識機能は補助機能として使用する。
標識認識機能は、あらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

この機能は、日本の道路標識を認識するよう設計されていますが、すべての標識が表示されるわけではありません。
また、表示される道路標識であっても新しいデザインの道路標識は表示されません。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➲ **フロントセンサーカメラ** P.271

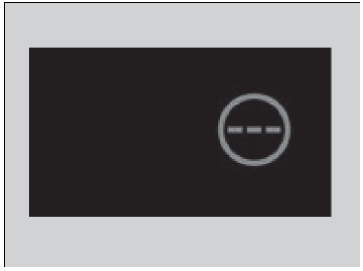
次ページに続く

標識認識機能は以下の条件で作動します。
- 最高速度 / はみ出し通行禁止：速度に関係なく作動
- 一時停止 / 車両進入禁止：自車の速度が約 60km/h 以下のとき

以下のときは、道路標識情報が別のものに切り替わります。
- 表示中の最高速度と異なる最高速度標識を認識したとき
- 一時停止標識または、車両進入禁止標識を認識したとき

以下のときは道路標識情報が消えます。
- 最高速度とはみ出し通行禁止は、標識を通過してから標識ごとに設定された距離(数百〜千数百 m)を走行したとき、または終了を示す補助標識を認識したとき
- 一時停止は、標識を通過したとき
- 車両進入禁止は、進入せず標識を通過したとき
- 交差点で方向指示器(ウィンカー)を出しながら右左折したとき

運転中に道路標識が認識されない場合や認識できない場合は以下の画面が表示されることがあります。



■標識認識機能の条件と制限

以下の場合などにおいては、標識の認識が遅れたり、認識できない場合があります。

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

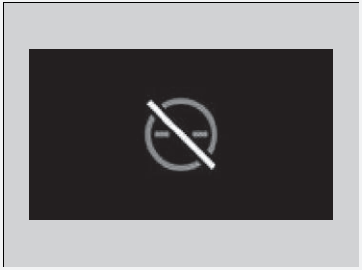
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところ
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 前走車による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

標識認識機能

標識認識機能が故障した場合はマルチインフォメーションディスプレイに が表示されます。
のメッセージが消えないときは、Honda販売店で点検を受けてください。



次ページに続く

■標識の位置や状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 標識の周囲が煩雑で標識を見つけにくい場合
- 自車から遠く離れた位置にある標識
- 自車のヘッドライトの光が届きにくい位置にある標識
- 曲がり角やカーブの先に設置された標識
- 色あせた標識や折れ曲がった標識
- 向きが変えられた標識や破損した標識
- 泥、雪、又は、霜で覆われた標識
- 一部が樹木などで隠れていたり、車両などの陰になった標識
- 標識の表面上に光(街灯など)や影が映り込んでいる場合
- 明るすぎたり、暗い標識(電光式標識)
- 小さいサイズの標識(終了を示す補助標識など)

■その他、カメラが正しく検知できない事例

- 高い速度で走行しているとき

以下の場合などにおいては、標識認識が正しく作動せず、自車の走路に対する規制内容とは異なる表示をしたり、実際には対象となる標識が無いのに表示したりすることがあります。
(最高速度標識においては、実際の規制速度よりも高い数値を表示したり、低い数値を表示したりすることがあります。)

- 標識の上や下に、規制の地点(始まり、終わりなど)や条件(曜日、時間帯など)を示す補助標識がある場合
- 数字の判別がつきにくい標識(電光式標識、数字がかすれた標識など)
- 自車の走路に対しての標識ではないが、自車の走路付近にあり、標識が自車の走路に向いている場合(側道が本線に合流する地点の一時停止標識など)
- 認識対象の標識の色、形、図形に似たものがある場合(類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物など)

次ページに続く

■マルチインフォメーションディスプレイの表示

同時に二つまで道路標識情報を表示します。右側には最高速度または一時停止標識、左側にははみ出し通行禁止または車両進入禁止標識を表示します。

選択表示モードのときの表示例





常駐表示モードのときの表示例



左側は車両進入禁止、右側は一時停止を優先表示します。

▶マルチインフォメーションディスプレイの表示

車両進入禁止区域に進入すると車両進入禁止アイコンが点滅します。
約5秒間点滅したあと、車両進入禁止アイコンは消えます。

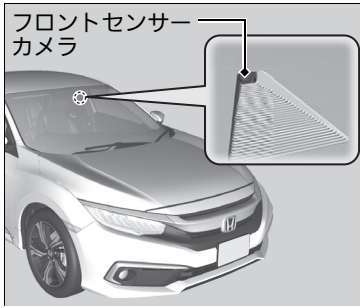
マルチインフォメーションディスプレイは、選択表示モードのほかに、常駐表示モードの選択ができます。

➡ **カスタマイズ機能** P.113

常駐表示モードの道路標識表示

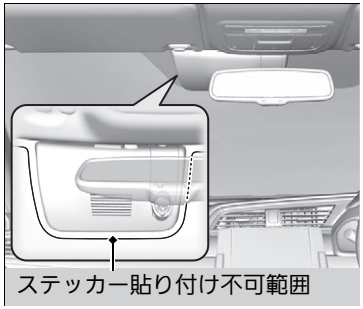
常駐表示モード状態のときは、マルチインフォメーションディスプレイに縮小サイズの道路標識のアイコンを表示し続けることができます。

フロントセンサーカメラ



カメラはフロントガラス上部に設置されています。

炎天下に駐車したときなど、室内温度が高温になり、カメラ機能が一時停止する場合があります。一時停止を防ぐため、駐車時は太陽光を避けて日陰に駐車することをおすすめします。反射サンシェードを使用する場合、カメラを覆わないでください。覆うとカメラに熱を集中させてしまう可能性があります。



フロントガラスにフィルムを貼ったり、カメラの視野を遮るものを取り付けないでください。

フロントセンサーカメラ

カメラの視野内のフロントガラスにキズ、打痕、損傷があると、システムが正常に作動しなくなることがあります。この問題が発生した場合、フロントガラスの交換をお勧めします。
Honda 純正品以外のフロントガラスを使用するとシステムが正常に作動しなくなる場合があります。
フロントガラスの修理や交換をする場合はHonda 販売店にご相談ください。

カメラのレンズを汚したり傷つけたりしないでください。
車内の清掃 P.318

インストルメントパネル上部に物を置かないでください。
物がフロントガラスに反射して車線を的確に検知できない場合があります。

カメラを取り外さないでください。システムが正常に作動しなくなる場合があります。
次の場合は Honda 販売店にご相談ください。
- カメラおよび周辺部に衝撃が加わったとき

フロントガラスが曇った場合は曇りをとってください。
必要に応じてデフロスターを使用してください。

次ページに続く

フロントセンサーカメラ

ボンネットやフロントグリルの上にカメラの視野を妨げるものを装着しないでください。カメラの視野を妨げシステムが正常に作動しない場合があります。

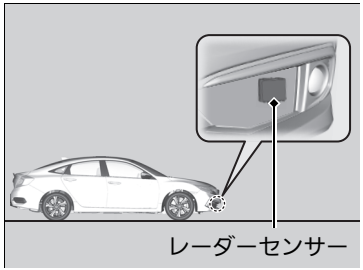
マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません　カメラが高温です」が表示される場合：

- エアコンを使用して車内の温度を下げてください。必要に応じてデフロスターを使用し、風がカメラに向かうようにしてください。
- 車両を走行させ、フロントガラスとセンサーカメラ周辺の温度を下げてください。

マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません　フロントウインドウが汚れています」が表示される場合：

- 安全な場所に車を駐車し、フロントガラスの汚れを落としてください。フロントガラスの汚れを落とし、しばらく走行した後でもメッセージが消えない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

レーダーセンサー



レーダーセンサーはフロントロアグリルの奥に設置されています。

レーダーセンサー

フロントロアグリルの周囲に強い衝撃を与えないようにしてください。

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- フロントロアグリルは常にきれいにしておく
- フロントロアグリルのお手入れにベンジン、シンナー類、クレンザーなどの磨き粉類を使わない
- フロントロアグリルを塗装したりステッカーを貼らない
- フロントロアグリルを交換しない

次の場合は、Honda 販売店にご相談ください。

- レーダーセンサーに衝撃が加わったとき
- フロントロアグリル周辺の修理を行うとき

以下のときは、レーダーセンサーが正常に作動しなくなる場合があるため、Honda 販売店で点検を受けてください。

- フロントロアグリルが段差、縁石、輪留め、盛り土などに接触したとき
- 深い水たまりに進入したとき
- 車両前方が衝突、接触したとき

パワーモードをONモードにするときは、車を静止させてください。駐車場のターンテーブル上など、車両が動いているときにパワーモードをONモードにすると、各機能が作動しない場合があります。

ブレーキシステム

■電子制御パーキングブレーキ

主に停車中や駐車時に使用するブレーキです。自動での解除および手動での操作ができます。

■手動で操作するとき

パーキングブレーキスイッチの操作で、パーキングブレーキをかけたり解除したりできます。
急な下り坂の発進時などに、手動でパーキングブレーキを解除すると、スムーズな発進を行うことができます。



■手動でパーキングブレーキをかける

パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げてください。

▶ パーキングブレーキが作動すると、スイッチのインジケーターとメーター内のブレーキ警告灯(レッド)が点灯します。



■手動でパーキングブレーキを解除する

1. パワーモードがONモードのときに、右足でブレーキペダルをしっかりと踏む。
2. パーキングブレーキスイッチを押す。

▶ パーキングブレーキが解除され、スイッチのインジケーターとメーター内のブレーキ警告灯(レッド)が消灯します。

▨電子制御パーキングブレーキ

パーキングブレーキをかけたり解除したときに作動音が聞こえます。
これはブレーキシステムが作動している音で異常ではありません。

パーキングブレーキをかけたり解除するとブレーキペダルが動くことがあります。
これはブレーキシステムの作動によるもので異常ではありません。

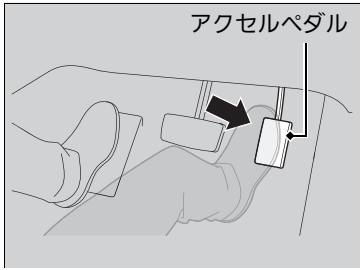
バッテリーがあがっているときは、パーキングブレーキをかけたり、解除することはできません。
➔ **ジャンプスタート** P.345

走行中にパーキングブレーキスイッチを引き続けると、その間はパーキングブレーキがかかります。

10分以上渋滞追従機能付ACCまたはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態で停車していると、自動でパーキングブレーキがかかります。

■自動解除するとき

アクセルペダルの操作とパーキングブレーキの解除が連動します。
渋滞や上り坂での発進に便利です。



アクセルペダルをゆっくりと踏んでください。

▶パーキングブレーキが解除され、ブレーキ警告灯(レッド)が消灯します。

パーキングブレーキの自動解除は、次の条件が揃ったときに行えます。

- 運転席シートベルトを着用しているとき
- エンジンが始動しているとき
- シフトポジションが P 、 N 以外のとき

»電子制御パーキングブレーキ

渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態でシートベルトを外したとき、自動でパーキングブレーキがかかります。
渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態でパワーモードを OFF モードにしたとき、自動でパーキングブレーキがかかります。

パーキングブレーキを自動で解除できないときは、手動で解除してください。

次の警告灯が点灯しているときは、自動解除できません。

- PGM-FI 警告灯
- トランスミッション警告灯

次の警告灯が点灯しているときは、自動解除できないことがあります。

- ブレーキ警告灯(レッド)
- VSA 警告灯
- ABS 警告灯
- エアバッグシステム警告灯

次ページに続く

■フットブレーキ

車の減速や停止をするためのメインのブレーキです。ブレーキペダルで操作します。
緊急制動時により大きな制動力を発生させるブレーキアシストが装備されています。

➔ **電子制御ブレーキアシスト** P.281

また、ブレーキのロックを防止する ABS（アンチロックブレーキシステム）で、安全性の向上を図っています。

➔ **ABS（アンチロックブレーキシステム）** P.280

▶フットブレーキ

水たまりを走行したときは、ブレーキの効き具合を確認してください。
効きが悪いときは、効き具合が戻るまでブレーキペダルを何回か軽く踏んでください。

ブレーキを踏んでいる間、絶えず金属的な摩擦音が聞こえる場合はブレーキパッドを交換する必要があります。
Honda 販売店で点検を受けてください。

長い下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなり危険です。
そのため、長い下り坂などではエンジンブレーキを使用します。
アクセルペダルから足を離し、シフトポジションを S にすると、エンジンの回転抵抗で速度が落ちます。

■オートマチックブレーキホールド

停車中に、ブレーキペダルを踏み続けなくても、自動的にブレーキを保持する機能です。保持中にアクセルペダルを操作すると、自動でブレーキが解除され発進することができます。信号待ちなどの一時的に停止したいときの使用に適しています。

■機能を ON させるには

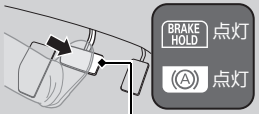


オートマチックブレーキホールドスイッチ

シートベルトを着用し、エンジンを始動してからオートマチックブレーキホールドスイッチを押す。

- オートマチックブレーキホールドシステム表示灯が点灯し、機能が ON になります。

■ブレーキを保持させるには

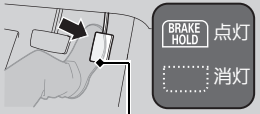


ブレーキペダル

シフトポジションが P R 以外のときにブレーキペダルを踏んで停車する。

- オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯し、自動でブレーキが 10 分間保持されます。
- オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯後、ブレーキペダルから足を離してください。

■車両を発進させるには



アクセルペダル

シフトポジションが P N 以外のときにアクセルペダルを踏むと機能が解除し、発進します。

- オートマチックブレーキホールド表示灯が消灯し、自動でブレーキが解除されます。

次ページに続く

▶オートマチックブレーキホールド

⚠警告

急な坂道やすべりやすい路面の場所では、ブレーキペダルから足を離さない。

急な坂道やすべりやすい路面の場所では、オートマチックブレーキホールドが作動していても、ブレーキペダルから足を離したときに車が動くことがあります。

不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠警告

駐車をする目的でオートマチックブレーキホールドを作動させない。

不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

オートマチックブレーキホールドシステム作動中は絶対に車から離れないでください。駐車する際はシフトポジションを P にしてパーキングブレーキをかけてください。

■ブレーキ保持機能が自動的に解除されるとき

- シフトポジションが P もしくは R で、ブレーキペダルを踏んでいるとき
- パーキングブレーキスイッチを引いたとき

以下の状態のときは、パーキングブレーキが自動で作動した後、オートマチックブレーキホールドシステムによるブレーキ保持が解除されます。

- 10 分以上ブレーキを保持したとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- パワーモードを OFF したとき
- オートマチックブレーキホールドシステムに問題が発生したとき

≫オートマチックブレーキホールド

⚠警告

オートマチックブレーキホールドを使用する際は、オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯するまでブレーキペダルから足を離さない。

不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

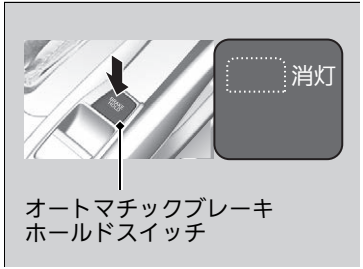
オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯した後にブレーキペダルから足を離してください。

システムが作動していても通常と同じ手順でエンジンの停止が行えます。

➡ **駐停車操作** P.283

エンジンを停止すると、システムは自動的に OFF になります。

■機能を OFF させるには



機能がONのときにオートマチックブレーキホールドスイッチを押します。

▶ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯が消灯します。

オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯中にOFFにしたいときは、ブレーキペダルを踏みながらオートマチックブレーキホールドスイッチを押します。

機能を OFF させるには

自動洗車機を使用するときは、システムがOFF になっていることを確認してください。

ブレーキ保持中にタイヤの回転を検知すると、ブレーキ力を強めるために作動音が発生する場合があります。

ABS(アンチロックブレーキシステム)

■ ABS とは

ABS(アンチロックブレーキシステム)とは、急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとするための装置です。

■ABS の作動と警告灯

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが小刻みに動くことがありますが、これは ABS の正常な動作です。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

なお、低速(車速約 10km/h 以下)では ABS は作動せず、通常のブレーキと同じ作動となります。



ABS 警告灯

パワーモードを ON モードにすると数秒間点灯し消灯するのが正常な状態。

≫ABS(アンチロックブレーキシステム)

アドバイス

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、ABS が正常に機能しないことがあります。

タイヤは必ず、指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

ABS 警告灯が運転中に点灯するときは、システムの異常が考えられます。

通常のブレーキ操作には支障はありませんが、ABS が作動していない可能性があります。
ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

ABS は、制動距離を短くするためのものではありません。

ABS を装備していない車両と同様に、路面が滑りやすいほど長い制動距離が必要になります。ABS が作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、安全運転に心がけてください。また、次のような場合、ABS の装着されていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあります。

- 砂利道、深い新雪、凸凹路などの悪路
- 舗装の継ぎ目やマンホールなどの段差
- タイヤチェーン装着時

エンジン始動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

電子制御ブレーキアシスト

■電子制御ブレーキアシストとは

緊急制動時に、より大きな力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。

■電子制御ブレーキアシストの作動

ブレーキペダルを強く踏み込んだときに、ブレーキがより強く効くようになります。

ブレーキアシストが作動すると、ペダルが小刻みに動いたり、作動音が聞こえたりすることがあります。これはブレーキアシストが作動しているときの現象で異常ではありません。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

➔ VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.209

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、自車が急ブレーキをかけたことを非常点滅表示灯が自動的に高速で点滅して後続車に知らせ、追突される可能性を低減するシステムです。60km/h 以上で走行しているときに急ブレーキをかけると作動します。

■作動のしくみ



エマージェンシーストップシグナルは、以下の状態になると作動が停止します。

- ブレーキペダルを離したとき
- ABS が停止したとき
- 急減速でなくなったとき
- ハザードスイッチを ON にしたとき

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、追突されるおそれを低減するシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。運転するときは不必要な急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。

ハザードスイッチがONのときは、エマージェンシーストップシグナルは作動しません。

ABS が一定時間以上作動しないとき、システムが作動しない場合があります。

駐車する

1. ブレーキペダルをしっかり踏む。
2. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げる。
3. シフトポジションを P にする。
4. エンジンを停止する。
▶ 車から離れるときは必ず施錠してください。

坂道に駐車をするときは、かならずパーキングブレーキをかけてください。

駐停車操作

⚠注意

駐車時はエンジンを止める。
万一、セレクトレバーが P N 以外に入っていた場合、クリープ現象により車が動き出したり、乗り込む際に誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するおそれがあります。

⚠注意

停車中の空ぶかしはしない。
万一、セレクトレバーが P N 以外の場合、思わぬ急発進のもとになります。

枯れ草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。
排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。

植え込みなどの近くに駐停車するときは、排気ガスが植え込みに当たらないように車の向きを決めてください。

次ページに続く

仮眠するときは、エンジンを停止してください。
無意識にシフトポジションを操作したり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

駐車する

アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。また、上り坂で P N 以外に入れた状態で、アクセルを調節しながら車を停車させたりしないでください。
トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

アドバイス

車が完全に止まらないうちに P に入れないでください。
トランスミッション破損の原因となります。

車内の見えるところに貴重品などを置かないでください。

車内にライターや炭酸飲料缶を放置しないでください。
車内温度上昇によりライターなどの可燃物が自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。

寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、凍結することがあります。
パーキングブレーキをかけずに、輪留めをしてください。
輪留めをしないと車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

指定燃料について

■指定燃料

無鉛レギュラーガソリン
レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)

■タンク容量

47 リットル

≫指定燃料について

アドバイス

指定燃料以外の燃料(粗悪ガソリン、軽油、灯油等)を補給したり、不適切な燃料添加剤を使用しないでください。
以下のような状態になるおそれがあります。

- 触媒装置などの損傷
- エンジンや燃料系などの損傷
- エンジンなどへの悪影響

プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

給油のしかた



1. 助手席側にガソリンスタンドの給油機がくるように車を停める。
2. エンジンを停止させる。
3. 運転席ドアを解錠する。
▶ 車の外側のフューエルリッドが解錠されます。
➔ **車内での施錠 / 解錠** P.134
4. フューエルリッドの右端を「カチッ」と音がするまで押し、手を離す。
▶ リッドが少し浮き上がります。

給油のしかた

⚠警告

燃料補給時は火気厳禁。
燃料や燃料蒸気は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。燃料を扱っているときは下記の項目を厳守してください。
- エンジンは常に停止させる
- 炎、火花を近づけない
- たばこを吸わない
- 燃料の取り扱いは屋外で行う
- こぼれた燃料はすみやかに拭き取る

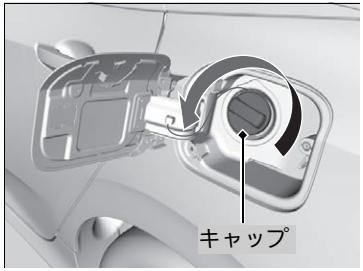
ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

⚠警告

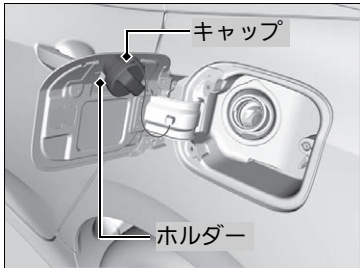
燃料補給作業は、フューエルキャップを開ける前に車体などの金属に触れて身体の静電気を除去してから行う。
静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

⚠注意

キャップはゆっくり開ける。
急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。



5. リッドを開けて、ツマミをゆっくり回し、フューエルキャップを開ける。



6. キャップをホルダーにかける。

7. 給油ノズルを奥まで差し込み、給油する。

▶満タンになると、給油ノズルの自動停止がはたらき、給油が停止します。

給油のしかた

⚠注意

給油ノズルの自動停止後は、追加補給しない。
気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

キャップが確実に閉まっていることを確認する。
閉まっていないと燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

「シュー」という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。

燃料補給は、静電気を放電した人のみで行ってください。
燃料補給中に車内に戻ると、再び帯電することがあります。再度、静電気を放電してください。

燃料蒸気を吸わないでください。
燃料成分には有害物質を含んでいる場合があります。

次ページに続く

8. 給油後、「カチッ」という音が1回以上するまでキャップを締め付ける。
9. フューエルリッドの右端を「カチッ」という音がするまで押し、リッドを閉める。

給油のしかた

気温などの変化により燃料があふれないように、タンク容量に達すると燃料タンクに空間を残して給油ノズルの自動停止がはたらくようになっています。

自動停止後に追加補給をすると、燃料が満タン容量以上に入ることがあります。

Honda 純正以外のキャップを使わないでください。
純正品を使用しないと、火災などを起こすおそれがあります。

ターボ車について

取り扱い

ターボ装置は、排気ガスの圧力でタービンを回してエンジンに大量の空気を圧縮して送り込み、より大きな馬力を引き出す非常に精密に作られた装置です。
ターボ装置の故障を防ぐため、必ず以下の点をお守りください。

- **エンジン始動直後のエンジンが冷えているときは、空ぶかしや急加速はしない**

- **エンジンオイル、オイルフィルターの交換時期を必ず守る**
  タービンは毎分 10 万回転以上の高回転で回り、かつ 700 ℃以上の高温になります。その潤滑と冷却はエンジンオイルにより行われます。したがって、定められた距離または期間でエンジンオイル、オイルフィルターの交換を行わないと、劣化したエンジンオイルによりタービン軸受部の固着や異音の発生など、故障の原因になります。

ターボ車について

エンジンオイル、オイルフィルターの交換時期は、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。表示にしたがって交換を行ってください。
➔ **オイルモニターシステム** P.294
➔ **推奨エンジンオイル** P.367

高速走行や山道走行などの高負荷で走行したあと、エンジンを再始動すると水温計の目盛が H まで上がることがありますが、機能的に問題はありません。
約 1 分間アイドリング運転を行うか、走行すると水温計の目盛は下がります。

メンテナンス

この章では、基本的なメンテナンスについて記載しています。



メンテナンスの前に
- 点検整備について 291
- メンテナンスを安全に行うために 292
- メンテナンスに関する注意事項..... 293

オイルモニターシステム
- オイルモニターシステムの表示..... 294

エンジンルーム内のメンテナンス
- エンジンルーム内のメンテナンス項目 ... 297
- ボンネットを開ける..... 298
- 推奨エンジンオイル..... 299
- ウィンドウォッシャー液の補給..... 300

電球の交換..... 301

ワイパーブレードラバーの点検と整備 306

タイヤの点検と整備
- タイヤの点検 309
- タイヤとホイールの交換 311
- タイヤのローテーション 312
- 冬期のタイヤ 313

Honda スマートキー
- Honda スマートキーの取り扱いと電池交換..... 314

エアコンのお手入れ
- エアクリーンフィルター 316

清掃
- 車内の清掃 318
- 車外の清掃 320

アクセサリーと改造 323

点検整備について

道路運送車両法により、法定点検と日常点検が義務づけられています。正しい点検整備で、車を安全・快適にお使いください。
普段と違う点(音、におい、ブレーキフルードの不足、地面に油のあとが残っているなど)に気づいたら、Honda 販売店で点検を受けてください。
点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートも併せてご覧ください。

■点検整備の種類

■日常点検
長距離走行前や洗車・給油時などに、お客様自身の判断で行う点検です。

■定期点検
12か月および24か月ごとに実施する点検です。法律で定められているものと、Honda が指定するものがあります。

■その他
新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。

点検整備について

作業に不慣れな場合や難しい場合は、Honda 販売店にご相談ください。

メンテナンスを安全に行うために

メンテナンスを行う際は、メンテナンスノートと下記の安全に関する注意事項をよくお読みのうえ、安全を確保して行ってください。
お客さま自身でメンテナンスを実施したときは、メンテナンス点検整備記録簿のメンテナンスレコードに記録してください。

■メンテナンスを行う場所や備品についての安全事項

- 火災や爆発防止のため、タバコの火、火花、炎を引火性の液体やガスから遠ざける。
- エンジンルーム内の、タオルや可燃物の置き忘れに注意する。
  ▶ 火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンの排気ガスに含まれる一酸化炭素の毒作用に注意する。
  ▶ エンジンを始動するときは必ず十分な換気を行ってください。

■車についての安全事項

- エンジンルーム内を点検するときは、冷却ファンが止まってから行ってください。
  ▶ エンジンの温度が高い状態でエンジンを停止したとき、冷却ファンが自動的に作動することがあります。
- 熱くなった部品によるやけどに注意する。
  ▶ 部品に触れる前に、エンジンと排気システムを十分に冷やしてください。
- 可動部品によるけがに注意する。
  ▶ 指示されたとき以外は、エンジンを始動しないでください。
  ▶ アイドリングストップ中は、ボンネットを開けないでください。

メンテナンスを安全に行うために

⚠警告

適切なメンテナンスを行い、走行前に故障がないようにする。
走行時に故障がある状態や、適切なメンテナンスがなされていないと、重大な傷害や死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。
必ず、取扱説明書に記載されている点検とメンテナンスに関する注意事項や別冊のメンテナンスノートに記載の点検時期を守ってください。

メンテナンスは、指示と注意事項を守って行う。
メンテナンスの指示と注意事項を守らないと重大な傷害や死亡のおそれがあります。
必ず、取扱説明書に記載されている手順と注意事項を守ってください。

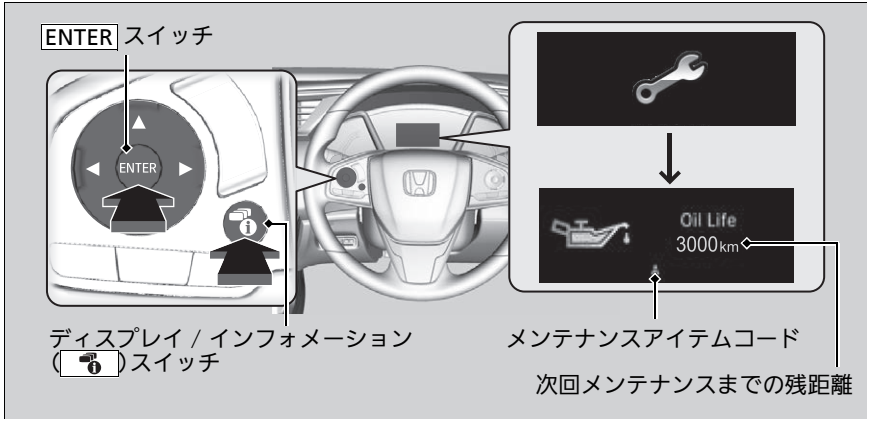
メンテナンスに関する注意事項

■メンテナンスサービスで使用する部品やオイル

メンテナンスサービスを受けるときは、Honda 純正部品やオイル類を使用することをおすすめします。Honda 純正部品は、車で使われている部品と同じ高品質の基準に基づいて製造されているため、性能と耐久性の面で安心です。

メンテナンスが必要な場合は、パワーモードをONモードにするたびにオイルモニターシステムのメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。メッセージが表示されたときは、Honda 販売店でメンテナンスを受けてください。

オイルモニターシステムの表示



1. パワーモードを ON モードにする
2. アイコンが表示されるまで、ディスプレイ / インフォメーション( )スイッチを押す。
3. ENTER スイッチを押す。
▶ マルチインフォメーションディスプレイにオイルモニターシステム画面が表示されます。

オイルモニターシステムの表示

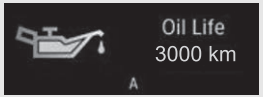
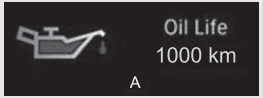
エンジンの運転状態とエンジンオイルの状態をもとに、次のメンテナンス時期までの残距離を計算しています。

走行条件によっては、表示された残距離より実際の走行距離は短くなる場合があります。

メンテナンスアイテムコードは、以下の項目についてのメンテナンスを指しています。
A：エンジンオイル交換
B：エンジンオイル、オイルフィルター交換

残距離表示が十分残っていても、前回のオイル交換から1年が経過していたら、メンテナンスを実施してください。詳しくはメンテナンスノートを確認してください。

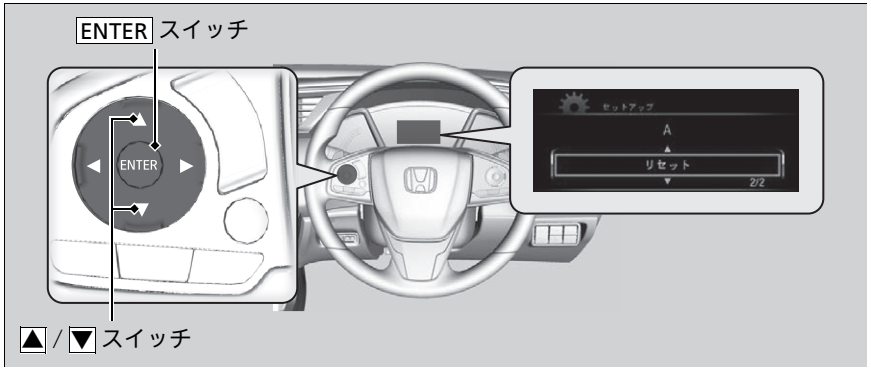
■マルチインフォメーションディスプレイのメッセージとオイルモニターシステム情報

メッセージ	オイルモニターシステム情報	情報
—		エンジンオイル交換後、リセット操作を行うと表示されます。 走行状態に応じた適切な走行距離が計算されるまで継続します。
		メンテナンス時期までの走行距離が表示されます。
		メンテナンス時期が近くなっています。
		できるだけ早めにメンテナンスを受けてください。
		メンテナンス時期を過ぎています。メンテナンスを受けたら、オイルモニターシステムをリセットしてください。

次ページに続く

■リセットのしかた

メンテナンスを行った後は、オイルモニターシステムの表示をリセットします。



1. パワーモードを ON モードにする。

2. カスタマイズ機能の中から「メンテナンス設定」を選択する。

カスタマイズ機能 P.113

3. ▲ / ▼ スイッチを押して「リセット」を選択する。

4. リセットが選択された状態で ENTER スイッチを押すとリセットされる。

5. マルチインフォメーションディスプレイにメンテナンスリセットが完了した文章が表示される。

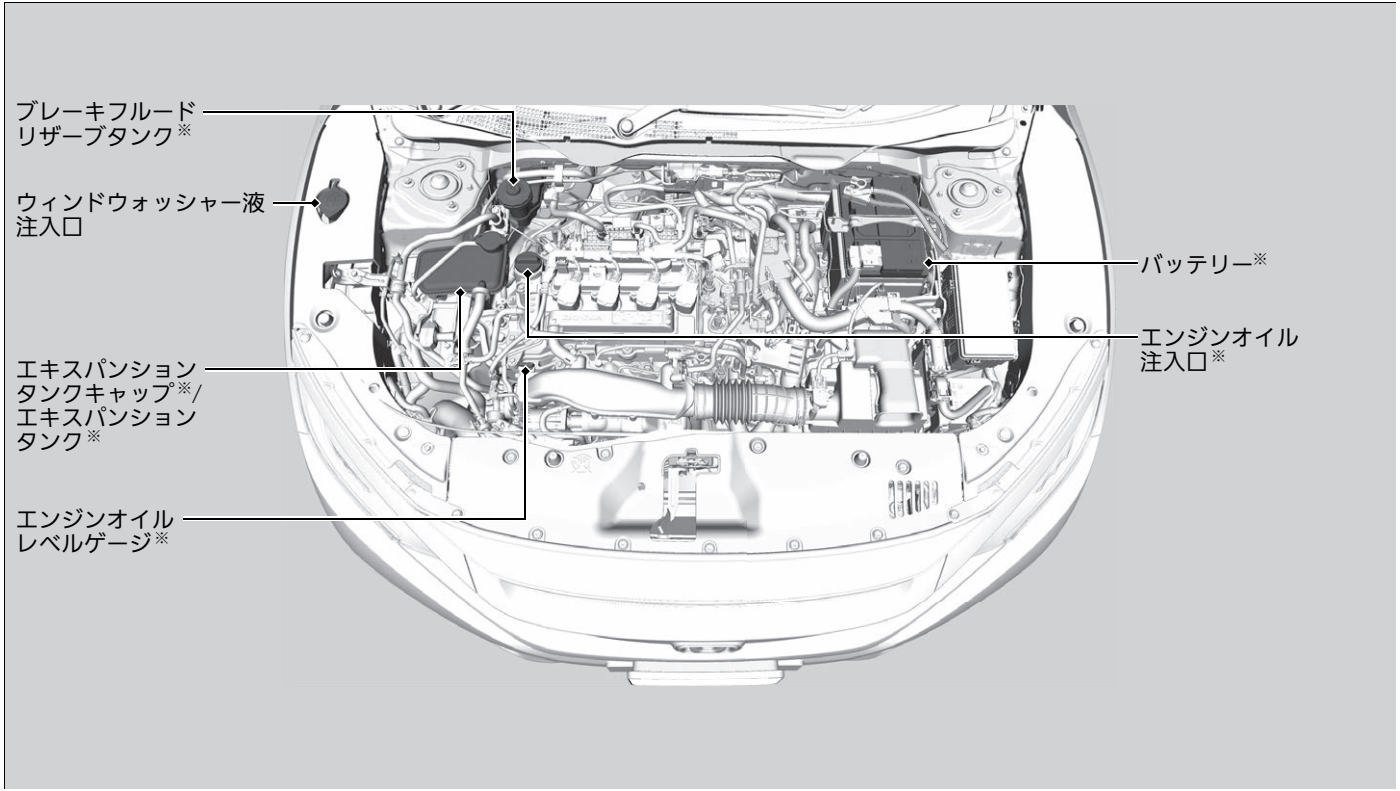
▶ メンテナンスアイテムコードがリセットされ、走行距離表示が「- - - - -」になります。

リセットのしかた

アドバイス

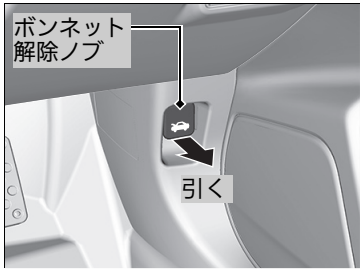
メンテナンス後にオイルモニターシステムをリセットしないと、メンテナンス時期を正しくお知らせできないため、故障につながる可能性があります。

エンジンルーム内のメンテナンス項目

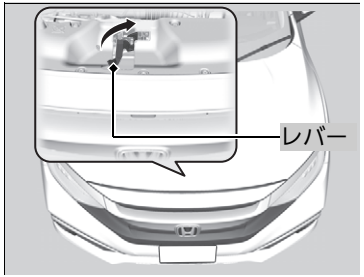


※：点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

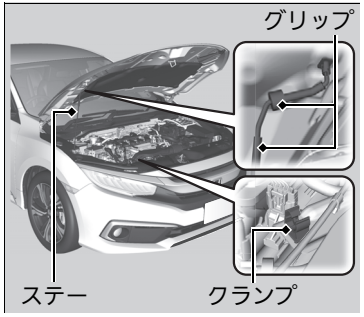
ボンネットを開ける



1. 車を停め、パーキングブレーキをかける。
2. 運転席足元にある、ボンネット解除ノブを引く。
▶ ボンネットが少し浮き上がります。



3. ボンネット中央のレバーを上げてロック機構を解除し、ボンネットを開ける。



4. グリップを持ってステーをクランプから取り外し、ステーをボンネットにかける。

閉めるときは、ステーを外しクランプに納めてからボンネットを静かに下げて、約30cm の高さから手を離します。

▶▶ボンネットを開ける

⚠警告

ステーの金属部分は、エンジンから発生する熱により非常に熱くなります。
やけどを負うおそれがあるので、必ずグリップを持って使用する。

⚠注意

ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意する。

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。
ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷することがあります。

ボンネットを閉めたときは、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

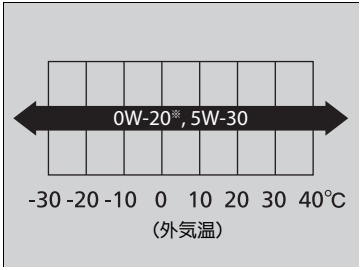
アイドリングストップ中は、ボンネットを開けないでください。

推奨エンジンオイル

推奨エンジンオイル：
Honda 純正エンジンオイル
➔ Honda 純正エンジンオイル P.367
API SM もしくは SN 級以上かオイル缶に API CERTIFICATION(エーピーアイサーティフィケーション)マークの入ったエンジンオイル



エンジンオイルは、量が少なかったり劣化したものを使用していると、エンジンの不調や破損につながることがあります。



市販のエンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。

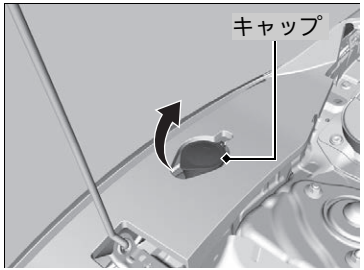
※：最も省燃費性に優れた Honda 純正オイルです。Honda 販売店でお求めください。

推奨エンジンオイル

冬期はエンジンオイルの劣化が激しくなります。
冬期に主として短距離、市街地を運転する場合は、早めに交換してください。

ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液の量は、キャップを外して確認します。



減っていた場合は、ウォッシャータンクに補給します。

ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液以外の液体を、タンクに入れないでください。

ウォッシャー液は必要に応じて水(軟水)で薄めてください。

冬期はウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

ヘッドライト電球

ロービームヘッドライト、ハイビームヘッドライトは LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

アクセサリーライト / 車幅灯電球

アクセサリーライト / 車幅灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

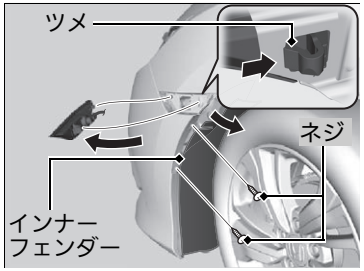
フォグライト電球

フォグライトは LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

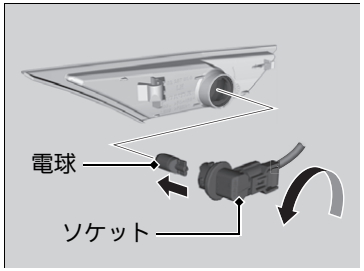
サイドマーカーライト電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

サイドマーカーライト ：12V−5W(橙色)



1. ネジを外し、インナーフェンダーをめくる。
2. ツメを押し、ライト本体を外す。



3. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
4. 新しい電球を差し込む。

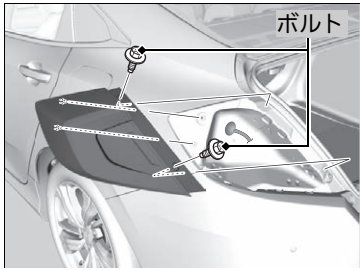
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

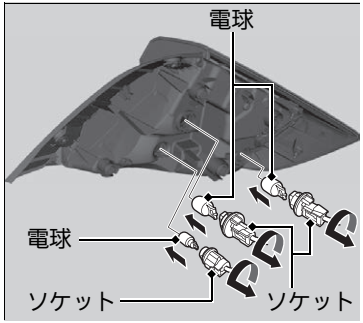
制動灯、後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯、後退灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

制動灯	: 12V−21W
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	: 12V−21W(橙色)
後退灯	: 12V−16W



1. プラスドライバーまたはソケットレンチを使い、ボルトを外す。
2. ライト本体を後部ピラーから外へ引くようにして取り外す。



3. ソケットを左に回して外す。
4. 古い電球を抜き取り、新しい電球を差し込む。
5. 車体のガイドに沿って、ライト本体をスライドさせる。
6. ピンを車体のグロメットに合わせてから、しっかり固定されるまで押す。

尾灯電球

尾灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

番号灯電球

番号灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

ハイマウントストップランプ電球

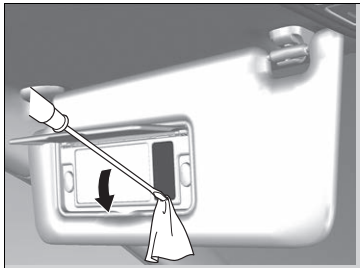
ハイマウントストップランプはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

その他の電球

■バニティミラー照明灯電球

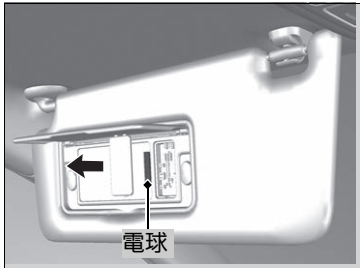
下記の電球をご使用ください。

バニティミラー照明灯：12V−2W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。

▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



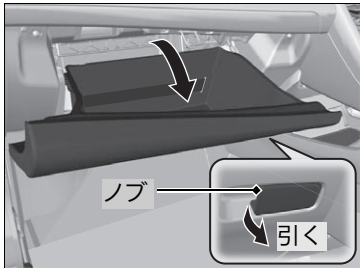
2. 古い電球を抜き取る。

3. 新しい電球を差し込む。

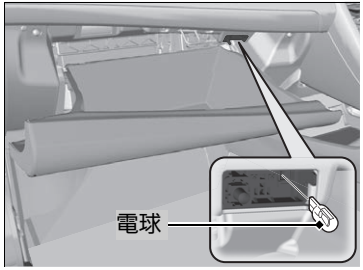
■グローブボックス照明灯電球

下記の電球をご使用ください。

グローブボックス照明灯：12V−3.4W



1. グローブボックスを開ける。



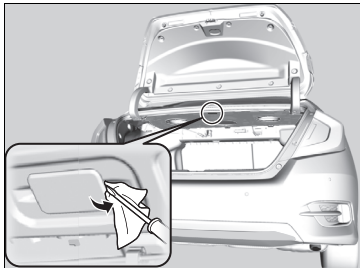
2. 古い電球を抜き取る。

3. 新しい電球を差し込む。

■トランクスペース照明灯電球

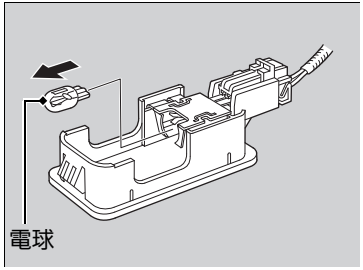
下記の電球をご使用ください。

トランクスペース照明灯：12V−5W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。

▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



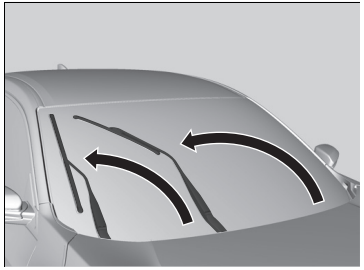
2. 古い電球を抜き取る。

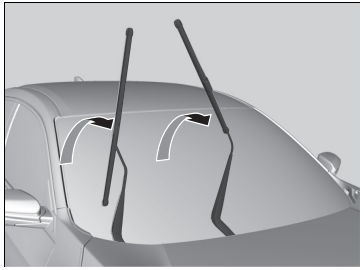
3. 新しい電球を差し込む。

ワイパーブレードラバーの点検

ワイパーブレードラバーが傷んでいると、拭きムラになったり、ウィンドーガラスを傷つけたりします。定期的にワイパーブレードラバーの状態を点検し、傷んでいる場合は交換してください。

ワイパーブレードラバーの交換





1. パワーモードを OFF モードにする。

2. ワイパースイッチのレバーを**MIST**の位置に押し上げたまま、パワーモードを ON モードにし、すぐにパワーモードを OFF モードにする。

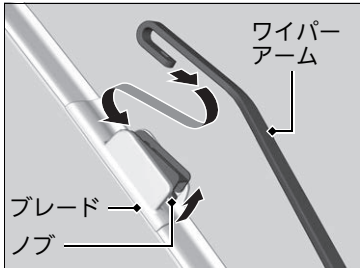
▶両方のワイパーアームが、ワイパーメンテナンスポジションにセットされます。

3. 両方のワイパーアームを起こす。

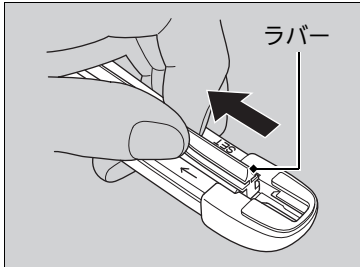
»ワイパーブレードラバーの交換

アドバイス

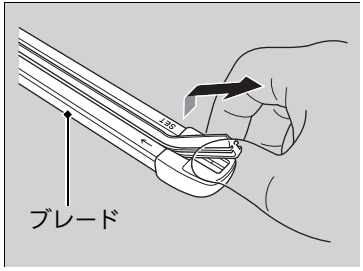
ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けたりワイパーを作動させたりすると、ボンネットとワイパーアームを損傷します。



4. ノブを押し上げながら、ワイパーアームからブレードをスライドさせて外す。



5. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。

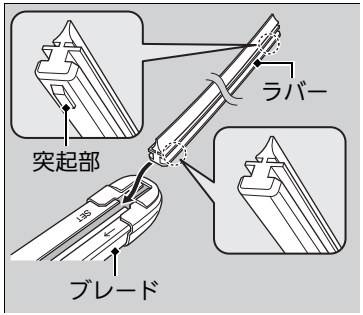


ワイパーブレードラバーの交換

アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。

次ページに続く



6. ラバーを突起部のない側を下にしてブレードに沿って差し込む。
▶ブレードをワイパーアームに取り付け、ラバーの突起部がブレード先端の溝に挿入されるまで差し込み、確実に固定します。
7. 両方のワイパーアームを戻す。
8. パワーモードを ON モードにする。
9. ワイパースイッチのレバーを**MIST**の位置に押し上げて、両方のワイパーアームを通常の位置に戻す。

タイヤの点検

■タイヤの点検について

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができないばかりか乗り心地も損なわれます。
安全な走行のために求められるタイヤの条件は下記のとおりです。

- 種類とサイズが適正であること
- 接地面の状態が良好であること
- 空気圧が適正であること
- 摩耗、傷、亀裂、異物などがないこと

これらの条件を満たすために下記の点検を行い、常にタイヤを最適な状態に保ってください。

■日常的な点検

乗車前に必ず行う点検です。下記の項目を確認し、状況によってはメンテナンスをしてください。

- タイヤがつぶれているように見えないか？
  ▶ つぶれているように見えたら、すぐに空気圧をチェックしてください。
- 激しい摩耗、傷、亀裂、異物はないか？
  ▶ 状況に応じて、タイヤを交換してください。

タイヤの点検について

⚠警告

摩耗が激しいタイヤ、空気圧が適正でないタイヤを使用しない。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

次ページに続く

■空気圧測定器による点検

すべてのタイヤの空気圧を測定してください。空気圧が下がっている場合は、パンクを入念に調べます。

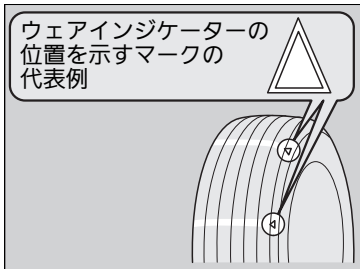
タイヤの指定空気圧は、巻末の資料を参照してください。

➔ 仕様 P.367

■損傷、異物、摩耗の点検

下記の項目を点検してください。

- タイヤの接地面と側面の突起、膨らみが正常か？
  ▶ 異常が見られた場合は、タイヤを交換する必要があります。
- タイヤ側面に、裂け目、亀裂がないか？
  ▶ 裂け目や亀裂がある場合は、タイヤを交換する必要があります。
- 接地面とウェアインジケーターが同じ高さになっていないか？



ウェアインジケーター（摩耗限界表示）

ウェアインジケーターはタイヤの接地面にあり、他の部分より溝が 1.6mm 浅くなっています。

接地面が摩耗して、ウェアインジケーターと同じ高さになったら、タイヤを交換してください。

▶タイヤの点検について

タイヤの空気圧は、タイヤ温度が低いときに測定してください。

必要な場合は、指定空気圧になるまで空気を注入または排出してください。

タイヤが高温のときに空気圧を測っても、低温のときより高めになるため正しく測定できません。

指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってあるラベルにも記載されています。

取扱説明書が手元にない場合は、車のラベルをご覧ください。

タイヤとホイールの交換

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。
サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを使用すると、運転に関わるシステムが正常に機能しなくなったり、動力伝達装置に悪影響を与えたりします。

同時にすべての4 つのタイヤを交換することをお勧めします。それができない場合は、前輪または後輪タイヤの左右を一緒に交換してください。

ホイールの仕様が純正ホイールと同一のものか確認してください。

タイヤとホイールの交換

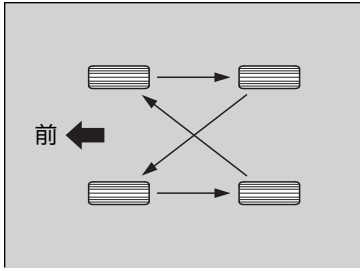
⚠警告

必ず、サイズと種類が適切なタイヤを使用する。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

タイヤのローテーション

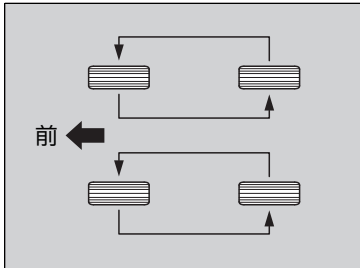
5,000km 走行したときタイヤローテーションをしてください。
タイヤローテーションを行うのは、特定のタイヤが摩耗するのを防ぐためです。

■回転指示マークがないタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

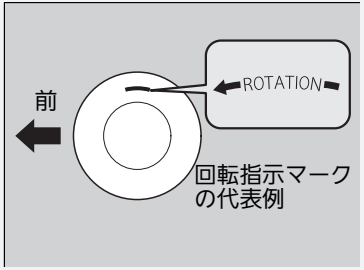
■回転指示マークがあるタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

▶タイヤのローテーション

タイヤ回転方向が指定されているタイヤには、タイヤ回転指示マークがあります。
図のように回転指示マークが前へ向くように取り付けてください。



締め付けトルク
108 N・m（11 kgf・m）

冬期のタイヤ

雪道や凍結した道路を走行する場合は、スノータイヤやタイヤチェーンを装着し、速度を落として十分に車間距離をとって運転してください。
また、横滑りの原因となりますのでハンドルやブレーキの操作は、特に慎重に行ってください。

タイヤチェーンおよびスノータイヤは、走行条件や法令により装着が必要とされた場合に使用します。
装着する場合は、下記のポイントを参照してください。

スノータイヤの場合：
- 四輪とも同じ種類、指定サイズのタイヤを選ぶ
- 四輪すべてにスノータイヤを装着する

タイヤチェーンの場合：
- Honda 純正スチールチェーンを、付属の取扱説明書にしたがって前輪に装着する
- タイヤサイズに適合したチェーンを装着する
- ブレーキラインやサスペンションと接触していないか確認する
- ゆっくり走行する

冬期のタイヤ

アドバイス

サイズが不適切なチェーンを装着したり、装着のしかたが不適切だと、車のブレーキライン、サスペンション、ボディー、ホイールを損傷するおそれがあります。
チェーンが車のどこかに当たる場合、ただちに走行をやめてください。

タイヤチェーンは前輪に装着します。
後輪には、タイヤチェーンを装着しないでください。

タイヤチェーンを装着したときは、30km/h以下の速度で走行してください。
なお、乾燥路面ではタイヤチェーンを装着したまま走行するのは避けてください。タイヤチェーンの摩耗を早めます。

Honda スマートキーの取り扱いと電池交換

■取り扱いについて

Honda スマートキーの取り扱いは、下記の点に注意してください。

- 発信器を落としたり投げたりしない
- 温度が極端に高い / 低い場所に置かない
- 液体にひたさない

■電池交換のしかた

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。
ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。電池を交換してください。

≫取り扱いについて

Honda スマートキーをなくした場合は、Honda 販売店へご連絡ください。

≫電池交換のしかた

⚠警告

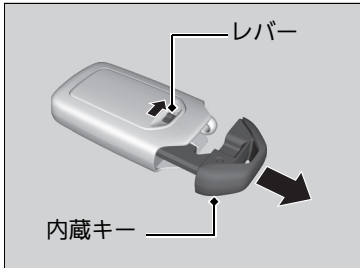
ボタン電池は、お子さまが飲み込まないように注意する。
重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
飲み込んだ時は、ただちに医師の診察を受けてください。

電池交換の際は、破損などのおそれがあるため、Honda販売店での交換をおすすめします。

電池交換の際は、カバーを確実に取り付けてください。
確実に取り付けられていないと、耐水性能の低下や故障の原因となります。

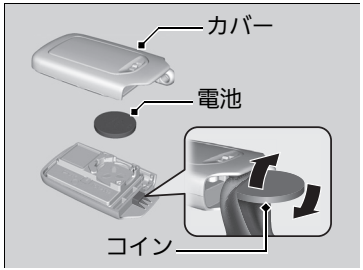
電池は Honda 販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

■Honda スマートキー



ボタン電池 CR2032

1. レバーを引きながら、内蔵キーを取り出す。



2. カバーを外す。
▶ カバーに傷が付かないように、コインに布などを巻いてカバーを取り外します。

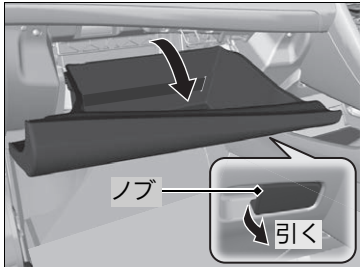
3. ⊕ と ⊖ を間違えないよう、電池を交換する。

エアクリーンフィルター

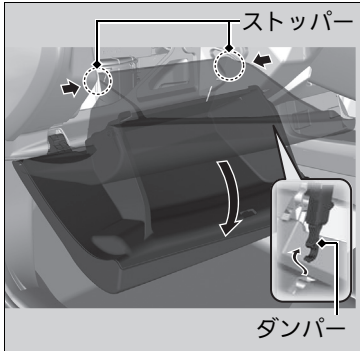
■エアクリーンフィルターの交換時期

エアクリーンフィルターは、通常 1 年または 15,000km ごとに交換してください。粉じんなどの多い場所で使用される場合は、早めの交換をおすすめします。

■エアクリーンフィルターの交換



1. グローブボックスを開ける。



2. ダンパーを外す。

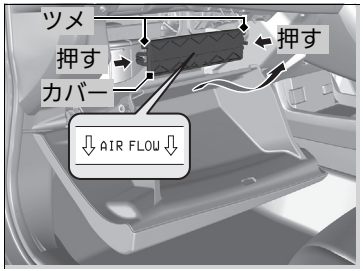
3. グローブボックスの両側に付いているストッパーを内側に押し込み、グローブボックスを下ろす。

エアクリーンフィルター

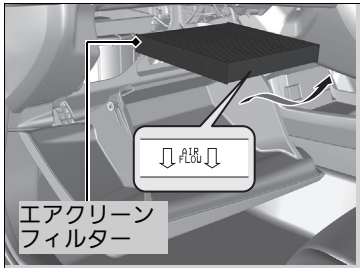
芳香剤を使用すると脱臭効果が弱くなり、脱臭寿命が短くなることがあります。

エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。

アレルフリー高性能脱臭フィルターは、空気中の花粉・粉じんを集じんし、アレルゲンを処理、排気ガス臭も低減します。



4. 左右にあるツメを押しながら、カバーを外す。



5. エアクリーンフィルターを引き出す。

6. 新品と交換する。

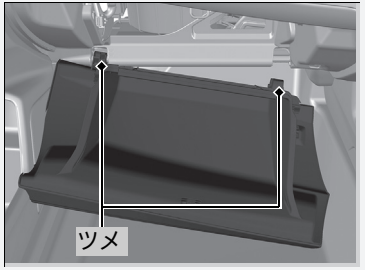
▶「AIR　FLOW」マークの矢印が、下向きになるように取り付けます。

エアクリーンフィルター

エアクリーンフィルターを取り付けたあと：

1. カバーを取り付ける。
2. グローブボックスの底にある運転席側のツメを取り外す。
3. グローブボックスを回転させ、ストッパーを取り付ける。
4. グローブボックスを約 30 度開ける。
5. ダンパーをグローブボックスに取り付ける。
   ダンパーを取り付けるとき、グローブボックスの下から手を添えます。
6. グローブボックスの底にある運転席側のツメを取り付ける。

グローブボックスを取り付けたあと、何度か開け閉めをし、グローブボックスが適切に取り付けられているか確認してください。



車内の清掃

内装の清掃は、掃除機で塵やほこりを取り除いてから汚れを落としてください。ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものを柔らかい布に軽く含ませ、固く絞って汚れを落とします。その後、真水を含ませたきれいな布で、洗剤分をきれいに落としてください。

■シートベルトの清掃

ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものをブラシにつけて清掃し、その後空気乾燥させます。

≫車内の清掃

室内に水をかけないでください。
室内の部品に水がかかると故障や、さびの原因となります。

オーディオ、スイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。
故障や車両火災の原因となるおそれがあります。万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda 販売店にご相談ください。

ケミカル類、液体芳香剤は成分により、樹脂部品、布材の変色、しみ、ひび割れなどを起すことがあります。
ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤、酸、アルカリ性の溶剤は使用しないでください。

ケミカル類を使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取ってください。
使用した布をそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。

液体芳香剤は、こぼさないよう確実に固定してください。

■ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■スーパーUV カット /IR カットドアガラスのお手入れ

前席ウィンドー(ドアガラス)の車内側に UV カット膜や IR カット膜がコーティングしてあります。水またはぬるま湯を含ませた布などで汚れを拭き取ってください。

■本革のお手入れ

塵やほこりを掃除機や乾いた布で取り除いてください。
ウール用中性洗剤の 10% 水溶液を柔らかい布に軽く含ませ汚れを落とします。その後、真水を含ませた柔らかい布を固く絞り、洗剤分をきれいに拭き取ります。乾いた布で水分を拭き取り、風通しをよくして日陰で乾燥させます。濃色のデニムなど、衣類の染料が本革に移ってしまうことがあります。
汚れが付着したらすぐに拭き取ってください。

ガラスのお手入れ

リヤガラスは、ガラスの内側に電熱線が装着されています。
傷付けないよう、これに沿って柔らかい布で拭いてください。

UVカット膜やIRカット膜を長持ちさせるために次のことをお守りください。

- 汚れがひどいときは、開閉をなるべく行わない
- みがき粉(コンパウンド)入りガラスクリーナーやワックス、洗剤等は使わない

フロントセンサーカメラのカバーや周辺に水やガラスクリーナーなどの液体がかからないようにしてください。

➔ **フロントセンサーカメラ** P.271

車外の清掃

走行後は、塗装面に付着したほこりなどを毛はたきなどで払い落としてください。飛び石などによる塗装面の傷は錆の原因になります。見つけたら早めに補修してください。

■洗車について

月に一度は洗車をするようにしてください。以下の場合は、必ず洗車をしてください。

- 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- 海岸地帯を走行したとき
- コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき

■自動洗車機を使うとき

- 自動洗車機に記載されている指示にしたがう
- ドアミラーを格納する
- ワイパースイッチを OFF にする

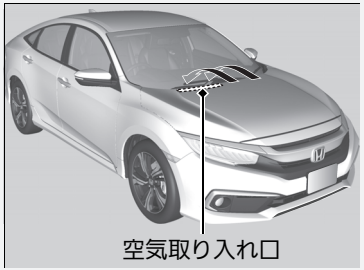
■高圧洗浄機を使うとき

- 洗車ノズルと車体の距離を十分に離す
- ドアガラスやドアまわりなど開閉部分は、特に注意する
  ▶ 近づけすぎると室内に水が入ることがあります。
- エンジンルームには水をかけない

≫車外の清掃

故意に空気取り入れ口に水をかけないでください。

故障の原因になります。



空気取り入れ口

洗車するときは、運転席ドア(フューエルリッド)を施錠してください。

フューエルリッド付近に水をかけるとフューエルリッドが勢いよく開いて、車体に傷を付けるおそれがあります。

ワイパーアームを起こす場合は、ワイパーアームをワイパーメンテナンスポジションにセットしてください。

➔ **ワイパーブレードラバーの交換** P.306

■ワックスをかけるとき

ワックスは、月に1回程度または水をはじかなくなったときにかけてください。洗車した後や、車体表面が体温以下に下がっているときにかけるようにしてください。

■バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品に、ガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着するとしみや塗膜はがれの原因となります。付着した場合は、すぐに柔らかい布で拭き取ってください。

■ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

ワックスをかけるとき

アドバイス

みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは、使わないでください。塗装面に細かい傷が残ることがあります。

ワックスは Honda 純正ケミカル用品をお使いください。

バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品の補修をする場合は、Honda 販売店にご相談ください。不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

次ページに続く

■アルミホイールのお手入れ

アルミは塩分や汚れを嫌います。道路凍結防止剤や海水が付いたときは、柔らかい布やスポンジに中性洗剤を含ませ汚れを早めに落としてください。
洗車後は、水が乾かないうちに拭きとってください。

■ヘッドライト、制動灯の曇り

ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などにより、レンズ面が一時的に曇ることがあります。また、ランプ内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。
これは雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の自然現象で、機能上の問題ではありません。
また、ランプの構造上、レンズの縁に水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。但し、ランプ内に水がたまっている場合や大粒の水滴が付いている場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

▶▶アルミホイールのお手入れ

この車専用のホイールをお使いください。
専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換は、Honda 販売店にご相談ください。

硬いブラシやコンパウンド(研磨剤)の入った洗剤などは使わない。
変色やしみ、光沢の変化の原因になったり、傷をつけるおそれがあります。

アクセサリー

アクセサリーを取り付ける場合は、下記の項目を確認してください。

- アクセサリーをフロントガラスに取り付けていないか？
  ▶ アクセサリーの揺れる動きが車外の状況認識を遅らせることがあります。また、吸盤がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあります。
- フロントガラス、ドアガラスやフロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーを取り付けていないか？
  ▶ サイドカーテンエアバッグの作動の妨げになるので、上記の場所にはアクセサリーを取り付けないでください。

アクセサリーと改造

⚠警告

不正改造は、法律に触れることはもちろん、思わぬ事故につながる可能性があります。
適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故につながる可能性があります。

電装品の分解、改造は行わないでください。故障や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

車の性能、品質を維持するために、Honda 車に最も適した Honda 純正部品をお使いください。
純正部品には下記のマークが付いています。

HONDA
GENUINE PARTS

お求め、装着に際しては、Honda 販売店にご相談ください。

改造や部品交換について

車の改造はしないでください。

Honda 純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。

Honda が国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。

診断コネクターは、故障診断用の診断装置などの機器のみを接続するためのものです。
それ以外の機器を接続すると、車の電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがるなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。

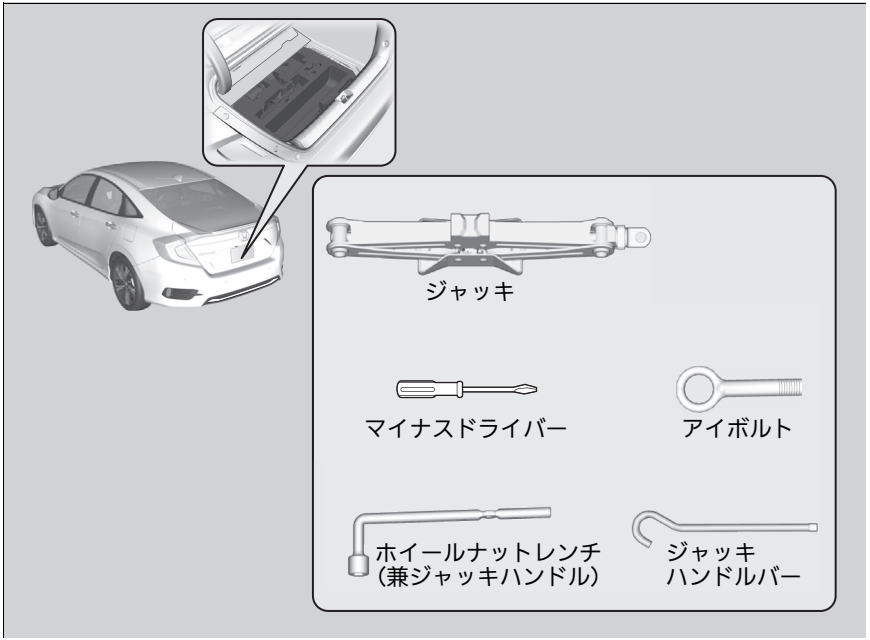
無線装置などの取り付けの際には、必ず Honda 販売店にご相談ください。装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

万一の場合には

この章では、万一の場合の対応方法について記載しています。

工具、発炎筒.....326
パンクしたとき.....328
パンクしたタイヤの応急修理.....328
ジャッキの取り扱い.....340
エンジンが始動しない
エンジンの状態の確認.....342
Honda スマートキーの電池が切れたとき ...343
緊急時のエンジン停止方法 344
ジャンプスタート.....345
セレクトレバーが動かない.....348
オーバーヒート.....349
警告灯の点灯 / 点滅.....351
ヒューズ
ヒューズの設置場所 356
ヒューズの点検と交換..... 360
けん引..... 361
フューエルリッドが解錠できないとき .. 364
トランクが開かないとき..... 365

工具の種類



工具の種類

工具類はトランクルーム内に収納されています。

発炎筒

高速道路や踏切などの危険な場所で故障したときに使います。
発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- 使いかた
- 使用上の注意
- 発炎時間
- 有効期限

➔ **発炎筒** P.2

発炎筒

⚠警告

ガソリンなどの燃えやすいもののそばで使わない。
火災や爆発のおそれがあります。

⚠注意

発炎筒を使うときは、以下のことに注意する。

- お子さまにさわらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 顔や身体に向けないでください。思わぬ事故ややけどの原因になります。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

パンクしたタイヤの応急修理

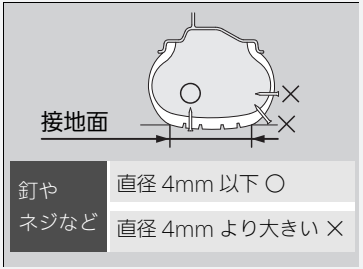
スペアタイヤの装備はありません。タイヤの損傷が激しい場合は、乗り物をけん引する必要があります。
単にタイヤに小さな穴がある場合、永久的な修理をするために最寄りの販売店へ運転することができるよう、損傷を一時的に補修するタイヤパンク応急修理キットで応急修理ができます。
パンクしたときは、ハンドルをしっかり握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。

1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. セレクトレバーを P に入れる。
3. パーキングブレーキをかける。
4. 非常点滅表示灯を点滅させ、パワーモードを OFF モードにする。

パンクしたタイヤの応急修理

以下のような場合、タイヤパンク応急修理キットは使用できません。Honda 販売店またはロードサービスにご連絡ください。

- 応急修理剤の有効期限が切れているとき
- タイヤが 2 本以上パンクしているとき
- 約 4mm 以上の切り傷や刺し傷によるパンクのとき
- 路面接地部以外が損傷を受けパンクしたとき



- ほとんど空気が抜けた状態で走行したとき
- タイヤがホイールから外れているとき
- ホイールが破損しているとき

タイヤに刺さったクギなどは抜かないでください。
抜いてしまうと、タイヤパンクの応急修理キットでは応急修理が不可能になる場合があります。

■タイヤ応急修理の準備



エアコンプレッサー



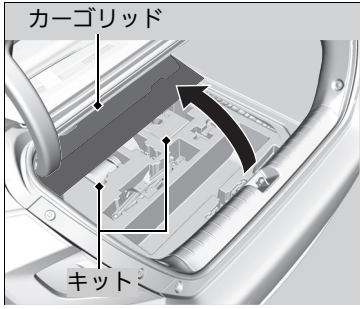
タイヤパンク
応急修理剤



説明書



速度制限シール



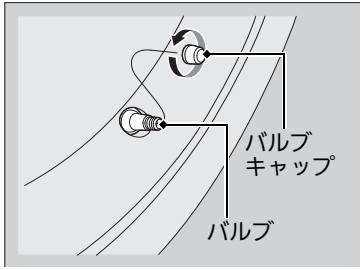
1. カーゴリッドを開ける。
2. タイヤパンク応急修理キットを取り出す。
3. 交通から遠ざけ、パンクしたタイヤ付近にキットを水平に置く。

タイヤ応急修理の準備

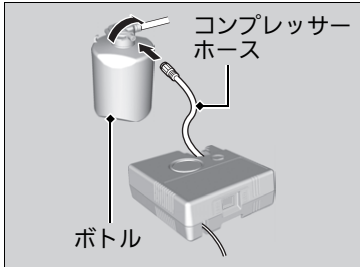
応急修理をスムーズに行うため、タイヤパンク応急修理キットに付属の説明書をお読みください。

次ページに続く

■応急修理剤とエアの注入



1. バルブからバルブキャップを取り外す。



2. 応急修理剤のボトルをよく振る。
3. ボトルにコンプレッサーホースをきつく締め付ける。

▶応急修理剤とエアの注入

⚠警告

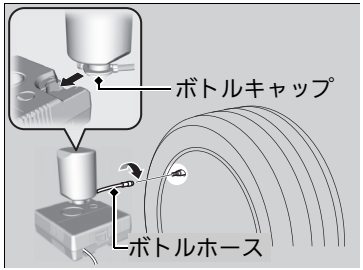
応急用修理剤は、飲用すると有害で、致命的になりうる物質を含んでいます。
誤って飲用した場合、
- できるだけたくさんの水を飲んでください。
- ただちに医師の診察を受けてください。

目に入ったり皮膚に付いた場合
- 水でよく洗い流してください。
- 異常を感じたときはただちに医師の診察を受けてください。

お子さまが誤って手を触れないよう、保管、取り扱いに注意してください。

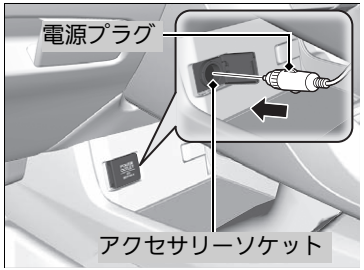
外気温が氷点下以下のときは応急修理剤は容易に流れないかもしれません。車内で温めると流れやすくなります。

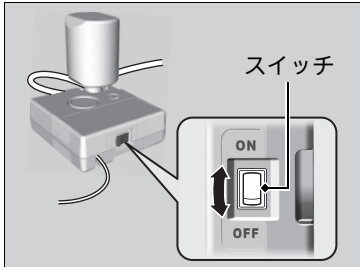
応急修理剤が衣類などに付着すると、落ちないおそれがありますのでご注意ください。



4. エアコンプレッサーにボトルキャップを取り付ける。
5. バルブにボトルホースをきつく締め付ける。

次ページに続く





6. エアコンプレッサーの電源コードのパワープラグを、アクセサリーソケットに差し込む。
▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。
➡ **アクセサリーソケット** P.176

7. エンジンを始動する。
▶ 応急修理剤 / エアを注入しているときはエンジンを停止しないでください。
➡ **一酸化炭素について** P.60

8. エアコンプレッサーのスイッチを ON にする。
▶ エアコンプレッサーはタイヤに応急修理剤とエアを注入し始めます。
▶ 応急修理剤の注入が完了すると、エアのみ注入されます。

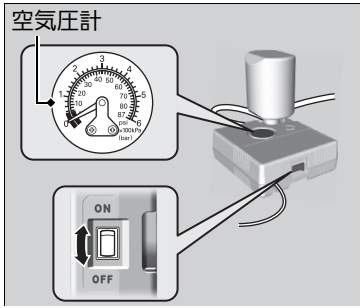
応急修理剤とエアの注入

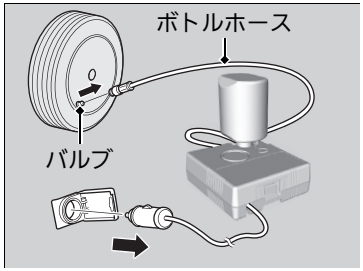
⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

アドバイス
15分以上エアコンプレッサーを使用しないでください。
エアコンプレッサーは過熱し、破損するおそれがあります。





9. 指定の空気圧に達したら、エアコンプレッサーのスイッチを OFF にする。
▶ エアコンプレッサーの空気圧計を確認してください。

10. エアコンプレッサーの電源コードの電源プラグを、アクセサリーソケットから外す。

11. タイヤバルブからボトルホースを外しバルブキャップを取り付ける。
▶ ボトルホースを外すときは応急修理剤のふきこぼれに注意してください。ふきこぼれた修理剤は、布などで拭き取ってください。

12. エアコンプレッサーからボトルを外す。

13. 減圧ボタンを押して、空気圧計が 0 kPa になるまでエアを抜く。

14. タイヤパンク応急修理キットをトランクに格納する。

応急修理剤とエアの注入

応急修理剤が注入されている間、圧力は一時的に高くなります。注入が完了すると圧力は落ちますが、再度上昇します。これは正常です。
正しい空気圧を測定するためには、応急修理剤が注入された後にエアコンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。

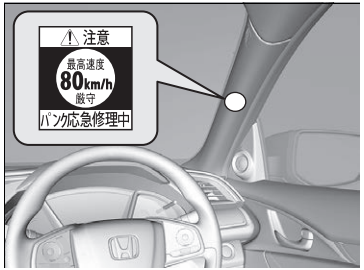
指定空気圧は、運転席側横の車体にある空気圧ラベルを確認してください。

10 分以内に設定空気圧にならないときは、応急修理剤による応急修理はできません。
Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。

タイヤパンク応急修理剤の購入および空きボトルの適切な処分については販売店にお尋ねください。

次ページに続く

■点検走行



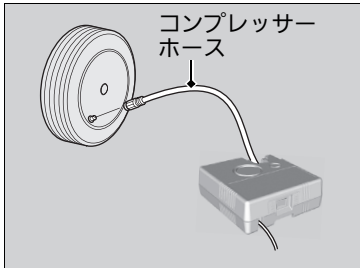
1. 速度制限シールを、運転者のよく見える位置に貼る。
2. 点検走行を開始する。
   ▶法定速度を守ってください。高速道路では 80km/h 以下を厳守してください。
3. 10 分または 5km 走行したあと安全な場所に車を停める。
4. タイヤのバルブにコンプレッサーホースをきつく締め付ける。

≫点検走行

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。



5. エアコンプレッサーに付属の空気圧計で空気圧を測定する。

6. 空気圧が 130 kPa 未満の場合：
応急修理剤では修理はできません。
運転を中止してHonda販売店またはロードサービスに連絡してください。

- 空気圧が、指定空気圧の場合、応急修理は完了です。
  指定空気圧：
  215/55R16 93V タイヤ装備車
  前輪：250kPa(2.5kgf/cm²)
  後輪：250kPa(2.5kgf/cm²)
  215/50R17 91V タイヤ装備車
  前輪：220kPa(2.2kgf/cm²)
  後輪：220kPa(2.2kgf/cm²)
- 空気圧が130 kPa以上、指定空気圧以下の場合：
  エアコンプレッサーを使って指定空気圧まで高める。
  Honda 販売店または専門修理工場に到着するまで、ステップ 2 から 5 までを繰り返す。

▶高速道路では80km/h以下で、法定速度を守って指定の Honda 販売店または専門修理工場でタイヤの修理、交換を行ってください。

次ページに続く

≫点検走行

⚠注意

ハンドルのパッドにシールを貼らない。
SRSエアバッグが正常に機能しなくなります。

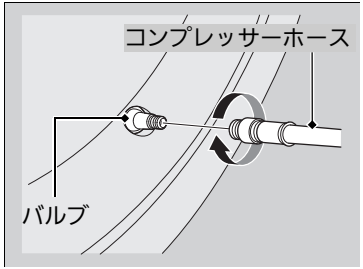
警告灯やスピードメーターが見えない位置に貼らない。
安全運転の妨げとなります。

走行前に、エアコンプレッサーなどの積み忘れがないか、しっかりと確認してください。

7. タイヤバルブからコンプレッサーホースを外しバルブキャップを取り付ける。
8. 減圧ボタンを押して、圧力計が 0kPa になるまでエアを抜く。
9. キットを車両に戻す。

■タイヤ空気圧の補充

装備されているエアコンプレッサーを使用して、パンクしていないタイヤの空気圧を補充することができます。



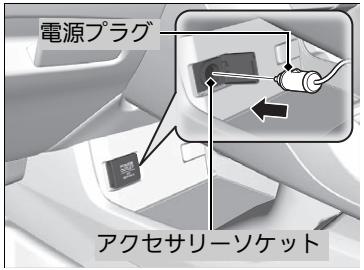
1. エアコンプレッサーを準備する。
2. 交通から遠ざけ、空気を補充するタイヤ付近にキットを水平に置く。
3. バルブからバルブキャップを取り外す。
4. バルブにコンプレッサーホースを確実に取り付ける。

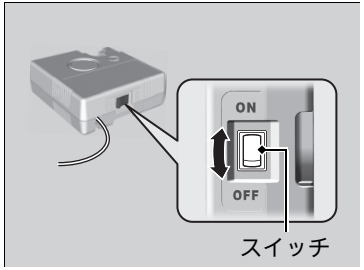
タイヤ空気圧の補充

備え付けのエアコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

- エアコンプレッサーの電源は自動車用12V専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、エアコンプレッサーの表面が熱くなります。15 分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、エアコンプレッサーが冷えてからお使いください。

次ページに続く





5. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットに差し込む。

▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。

➡ **アクセサリーソケット** P.176

6. エンジンを始動する。

➡ **一酸化炭素について** P.60

▶ エアを注入しているときはエンジンを停止しないでください。

7. エアコンプレッサーのスイッチを ON にして、指定の空気圧まで高める。

指定空気圧：

215/55R16 93V タイヤ装備車

前輪：250kPa(2.5kgf/cm²)

後輪：250kPa(2.5kgf/cm²)

215/50R17 91V タイヤ装備車

前輪：220kPa(2.2kgf/cm²)

後輪：220kPa(2.2kgf/cm²)

タイヤ空気圧の補充

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

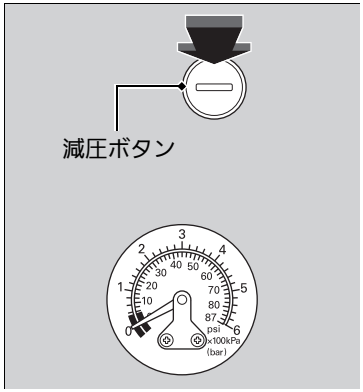
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。



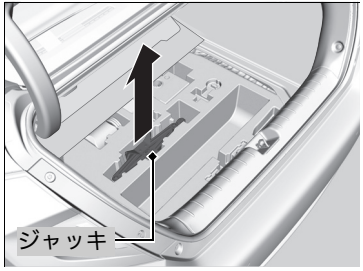
8. エアコンプレッサーのスイッチをOFFにする。
▶ エアコンプレッサーの空気圧計を確認してください。
▶ もし空気圧が高ければ、減圧ボタンを押して減圧します。
9. エンジンを止め、エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットから外す。
10. タイヤバルブからコンプレッサーホースを外しバルブキャップを取り付ける。
11. キットを車両に戻す。

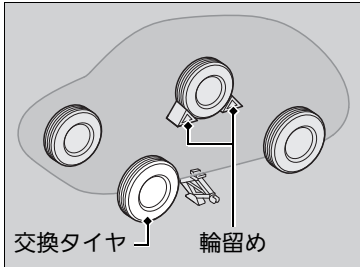
タイヤ空気圧の補充

エアコンプレッサーのスイッチを ON にすると、振動して音が聞こえますが、故障ではありません。

タイヤの空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーのスイッチをOFFにしてください。

ジャッキのかけかた





1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. セレクトレバーを P に入れる。
3. パーキングブレーキをかける。
4. パワーモードを OFF モードにする。
5. カーゴリッドを開けて、ジャッキ、ジャッキハンドルバー、ジャッキハンドルを取り出す。
6. 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、石などで輪留めをする。

▶ジャッキのかけかた

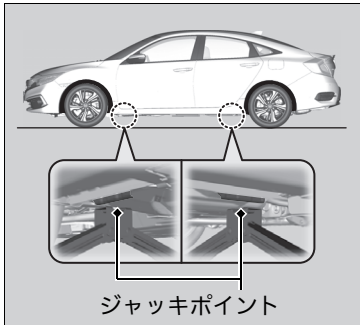
⚠警告

車がジャッキだけで支えられているときは、車の下に入らない。
車がジャッキから外れて、車の下にいる人が重大な傷害を負うおそれがあります。

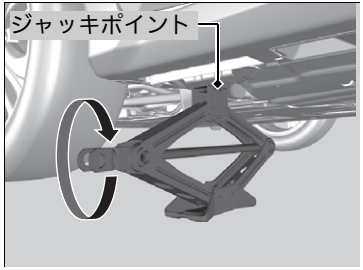
⚠注意

ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守る。
- エンジンをかけたままにしない
- 地面が固い平らなところ以外では使用しない
- ジャッキポイント以外にかけない
- 人や荷物を乗せたままにしない
- ジャッキ使用中に車内に入らない
- ジャッキの上や下にものを入れたりしない

この車に搭載されているジャッキをお使いください。
他のジャッキでは支えられる重量(呼荷重)が不足したり、形状が合わないことがあります。

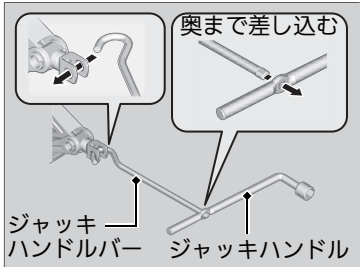


7. 交換するタイヤにもっとも近いジャッキポイントの下にジャッキを置く。



8. ジャッキの上部がジャッキポイントに接触するまで図の部分を矢印の方向に回す。

▶ ジャッキの溝にジャッキポイントがはまったことを確認します。



9. ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤが地面から離れるまで車体を上げる。

エンジンの状態の確認

エンジンが始動しない場合、スターターの状態を確認してください。

エンジンの状態の確認

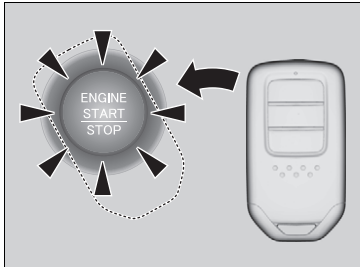
すぐに車を動かす必要がある場合は、ブースターバッテリーを利用してジャンプスタートさせます。
ジャンプスタートの方法 P.345

スターターの状態	確認項目
スターターが全く回らない！ **スターターの回転が非常に遅い！** バッテリーがあがっていることなどが考えられます。右記の項目をチェックして適切な対応をしてください。	**室内灯などの明るさを確認する** 室内灯などを点灯し、明るさを確認します。 • 室内灯などが非常に暗い、または全く点灯しない場合 • 室内灯などの明るさに問題がない場合 **ヒューズの点検と交換** P.360 **マルチインフォメーションディスプレイの表示を確認する** 「キーでスイッチに触れて下さい」のメッセージが表示されているとき **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.343 • エンジン始動の作動範囲を確認します。 **ENGINE START/STOP スイッチ** P.145 • ボタンを押してもキーのインジケーターが点灯しないときは **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.343
スターターは正常に回るが … ヒューズに問題があることなどが考えられます。右記の項目をチェックして適切な対応をしてください。	**エンジン始動の手順を実行する** もう一度、正しいエンジン始動操作をしてみてください。 **エンジンの始動** P.189 **イモビライザーシステム表示灯を確認する** イモビライザーシステム表示灯が点滅しているときは、エンジンの始動ができません。 **イモビライザーシステム** P.141 **燃料の量を点検する** 燃料が入っているか確認してください。 **燃料計** P.93 **ヒューズを点検する** 全てのヒューズを確認してください。 **ヒューズの点検と交換** P.360

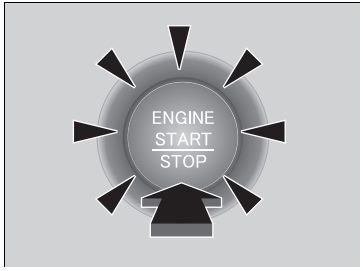
以上の確認をしてもエンジンが始動しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

Honda スマートキーの電池が切れたとき

ENGINE START/STOP によるパワーモードの操作やエンジンの始動ができない場合、以下の手順を行ってください。



1. ENGINE START/STOP を押す。
   ▶「ピーピーピーピーピーピー」とブザーが鳴り、 ENGINE START/STOP が約 30 秒間点滅します。
2. ENGINE START/STOP が点滅している間に、Honda スマートキーの Honda エンブレムをスイッチに接触させる。
   ▶「ピッ」とブザーが鳴り、 ENGINE START/STOP が約 10 秒間点灯します。



3. ENGINE START/STOP が点灯している間に、ブレーキペダルを踏みながら、 ENGINE START/STOP を押す。
   ▶ブレーキペダルを踏んでいないときは、アクセサリーモードになります。

緊急時のエンジン停止方法

ENGINE START/STOP ボタンは走行中、緊急事態の場合にエンジンを停止させるために使用することができます。
エンジンを停止しなければならない場合は、以下のいずれかを行ってください。

- ENGINE START/STOP を約 2 秒以上押す
- ENGINE START/STOP を連続して 3 回押す

このとき、ハンドルはロックしません。

エンジンが停止すると、パワーモードはアクセサリーモードになります。
パワーモードを OFF にするには、車両が完全に停止後に以下の操作を行ってください：

1. シフトポジションを P にする。
2. ブレーキペダルを踏まずに ENGINE START/STOP を 2 回連続して押す。

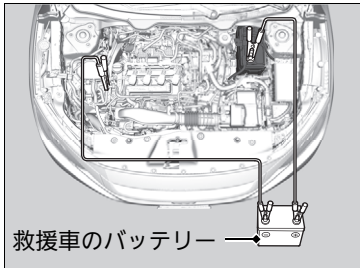
緊急時のエンジン停止方法

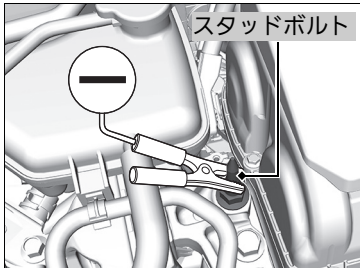
緊急時など必要な場合以外は、走行中に ENGINE START/STOP を押さないでください。
走行中に ENGINE START/STOP を押すとブザーが鳴ります。

ジャンプスタートの方法

■処置のしかた

まず、ボンネットを開け、バッテリーの状態を確認します。バッテリー液が凍っている場合はバッテリー液が溶けるまでジャンプスタートはできません。
次に、オーディオやライトなどの電源を OFF にしてください。
ブースターケーブルのクリップは、エンジンの振動などで外れないように確実に固定してください。また、ケーブルの巻き込みに注意してください。





1. 自車と救援車のパワーモードを OFF モードにする。
2. ブースターケーブルを、自車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。
3. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。
▶ 救援車には、12V のバッテリーを装着している車を使用してください。
▶ 自動車用充電器を使用する場合は、電圧を 15V 以下に設定してください。
4. もう 1 本のブースターケーブルを、救援車のバッテリーの ⊖ 端子に接続する。
5. ケーブルの反対側を、自車のエンジンのスタッドボルトに接続する。
6. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにする。
7. 自車のエンジンを始動する。

次ページに続く

⚠ 警告

ジャンプスタートは、正しい手順で慎重に行う。
ジャンプスタートの操作を間違えると、バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあります。
タバコの火、火花、炎をバッテリーから遠ざけ、正しい手順で行ってください。

アドバイス

気温が極端に低い場所にバッテリーを長時間にわたって置くと、内部のバッテリー液が凍結するおそれがあります。
バッテリー液が凍結したバッテリーでジャンプスタートすると、バッテリーが壊れることがあります。

寒冷時は、バッテリーの性能が低下します。
エンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

金属どうしがきちんと接続されているか確認してください。
ケーブルをエンジンのスタッドボルト以外に接続しないでください。

バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。
バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。

■エンジン始動後の作業

自車のエンジンが始動したら、下記の手順でブースターケーブルを取り外します。

1. 自車のエンジンのスタッドボルトからケーブルを外す。
2. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊖ 端子から外す。
3. 自車のバッテリーの ⊕ 端子からケーブルを外す。
4. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子から外す。

Honda 販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

エンジン始動後の作業

⚠警告

バッテリーを扱うときは、火気を近づけない。
バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると、バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
バッテリーを扱うときは、保護衣・保護面を着用するか、Honda販売店でバッテリーのメンテナンスを受けてください。

バッテリー液の取り扱いに注意する。
バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分が侵されますので十分注意してください。
- 万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも 5 分間以上洗浄する
- 飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲む

応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

ブースターケーブルの端子どうしが接触しないよう注意してください。

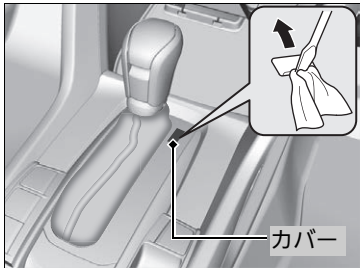
エンジン始動後の作業

バッテリーを外して再接続した後、
ENGINE START/STOP を押してパワーモードを ON にすると、VSA 警告灯、VSA OFF 警告灯、CMBS 警告灯、渋滞追従機能付 ACC 警告灯、路外逸脱抑制機能警告灯が点灯する場合があります。
このとき車速20km/h以上でしばらく走行すると、これらの警告灯は消灯します。
消灯しないときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

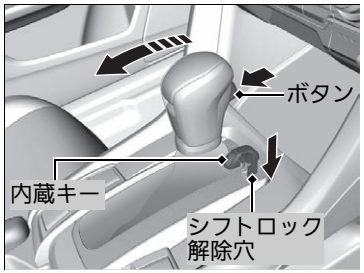
セレクトレバーが動かない

セレクトレバーが、 P の位置でロックされて動かなくなったら、下記の方法で解除してください。

■ロックを解除する



1. パーキングブレーキをかける。
2. パワーモードを OFF モードにする。
3. 細いマイナスドライバーの先端を布で包み、 図のようにシフトロック解除用カバーの切り欠きに入れてカバーを外す。



4. シフトロック解除穴に内蔵キーを差し込む。
5. キーを押しながらセレクトレバーのボタンを押し、セレクトレバーを N に入れる。
▶ ロックが解除されました。Honda 販売店で、早めに点検を受けてください。

オーバーヒートしたときの対処方法

次のようなときは、オーバーヒートです。

- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温：安全な場所に車両を停車してください」とメッセージが表示される
- 水温計が H の目盛に入ったり、エンジンの力が急に落ちる
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

■最初にすること

1. ただちに車を安全な場所に停める。
▶ セレクトレバーを P に入れ、パーキングブレーキをかけます。
2. すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。
▶ **蒸気が出ていない場合：**エンジンをかけたままボンネットを開ける。
▶ **蒸気が出ている場合：**エンジンを停止し、蒸気が出なくなってからボンネットを開ける。

次ページに続く

⚠警告

蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けない。
エキスパンションタンクから噴き出る蒸気や熱湯に触れると、重大な傷害を受けるおそれがあります。

エンジンが熱いうちにエキスパンションタンクキャップを外さない。
冷却水が噴き出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずエキスパンションタンクが十分に冷えてからキャップを外してください。

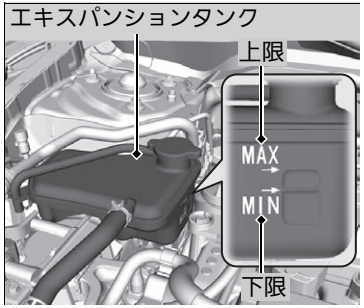
アドバイス

水温計が H の目盛まで上がった状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温：安全な場所に車両を停車してください」とメッセージが表示された状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

冷却水がもれている場合は、Honda 販売店に修理を依頼してください。

■次にすること



1. 冷却ファンの作動を確認し、マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温：安全な場所に車両を停車してください」のメッセージが表示されなくなったらエンジンを停止する。
▶ 冷却ファンが作動していない場合は、すぐにエンジンを停止します。

2. エンジンが冷えてから冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検する。
▶ 冷却水量が不足していたら、エキスパンションタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

■最後にすること

- 十分にエンジンが冷えたら、エンジンを始動し水温計を確認する。水温計が H の目盛より下がった場合は、運転を再開します。下がらないときは、Honda 販売店に修理を依頼します。

油圧警告灯が点灯した



■点灯の理由
エンジン内部を潤滑しているオイルの油圧が低下すると点灯します。

■点灯したらすぐにすること
1. ただちに車を水平で安全な場所に停車する。
2. 非常点滅表示灯を点滅させる。

■車を停車してからすること
1. エンジンを停止し、3 分間ほど放置する。
2. ボンネットを開け、エンジンオイルの量を確認する。
▶ 必要に応じて、エンジンオイルを補給してください。
3. エンジンを始動し、油圧警告灯を確認する。
▶ **消灯した：**運転を再開してください。
▶ **10 秒以内に消灯しない：**エンジンを停止して、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

充電警告灯が点灯した



■点灯の理由
バッテリーが充電されていないと点灯します。

■点灯したらすること
電気の消費を減らすため、エアコン、リヤデフロスターなどを OFF にして、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

≫油圧警告灯が点灯した

アドバイス

油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンが破損するおそれがあります。

≫充電警告灯が点灯した

一時的に停車する場合は、エンジンを停止しないでください。
エンジンを始動すると、バッテリーが急速に放電します。

PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した



■点灯 / 点滅の理由

- エンジンの排気ガス制御システムが異常のとき点灯します。
- エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅します。

■点灯したときは

高速走行を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

■点滅したときは

枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上エンジンを停止して冷えるまでお待ちください。

≫PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した

アドバイス

点灯したときは

PGM-FI 警告灯が点灯したまま運転すると、排気ガス制御システムとエンジンを損傷する場合があります。

点滅したときは

エンジン再始動後、警告灯が再び点滅するときは、50km/h 以下の速度で最寄りの Honda 販売店まで走行し点検を受けてください。

ブレーキ警告灯(レッド)が点灯 / 点滅した



■点灯の理由

- ブレーキフルードが減っているときに点灯します。
- ブレーキ配分機能が異常のときに点灯します。

■走行中に点灯したらすること

- ブレーキペダルを軽く踏んで、ペダルの圧力を確認する。
- ブレーキフルード量を確認する。

■点滅の理由

電子制御パーキングブレーキが異常のときに点滅します。

■点滅したときは

パーキングブレーキを使用せずに、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

▶ブレーキ警告灯(レッド)が点灯 / 点滅した

ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。
ブレーキフルードが減っている状態で運転することは危険です。

ブレーキペダルに抵抗がない場合は、ただちに安全な場所に車を停めてください。必要に応じて、ギヤを落とします。

ABS警告灯と同時に点灯した場合は、急ブレーキ時に車両が不安定になる可能性があります。
高速走行や急ブレーキを避けてください。
ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。

ブレーキシステム警告灯(オレンジ)の点灯と同時に点滅した場合は、パーキングブレーキが作動しないことがあります。パーキングブレーキを使用せずに、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

➔ **ブレーキシステム警告灯(オレンジ)の点灯と同時にブレーキ警告灯(レッド)が点灯または点滅した** P.354

電子制御パーキングブレーキを短時間にくり返し操作するとシステムの過熱防止のために作動が停止し警告灯が点滅します。
約 1 分経過すると元に戻ります。

ブレーキシステム警告灯(オレンジ)の点灯と同時にブレーキ警告灯(レッド)が点灯または点滅した


(オレンジ)


(レッド)

■ブレーキシステム警告灯(オレンジ)の点灯と同時にブレーキ警告灯(レッド)が点灯または点滅したときは

手動または自動でパーキングブレーキを解除してください。

➔ **電子制御パーキングブレーキ** P.274

- ブレーキ警告灯(レッド)が同時に点灯または点滅し続けているときは、ただちに安全な場所に停車し Honda 販売店へご連絡ください。
  ▶ 車両が動き出さないように、セレクトレバーを P にしてください。

- ブレーキ警告灯(レッド)だけが消灯したときは、パーキングブレーキを使用せずに、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

ブレーキシステム警告灯(オレンジ)の点灯と同時にブレーキ警告灯(レッド)が点灯または点滅した

パーキングブレーキをかけると、パーキングブレーキが解除できなくなることがあります。

ブレーキ警告灯(レッド)が同時に点灯しているときは、パーキングブレーキが作動しています。

ブレーキ警告灯(レッド)が同時に点滅しているときは、システムの点検中でパーキングブレーキが作動していない可能性があります。

EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯が点灯した



■点灯の理由

- EPS が異常のときに点灯します。

■点灯したらすること

- 安全な場所に停車し、エンジンを再始動する

その後も走行中に点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

ヒューズの設置場所

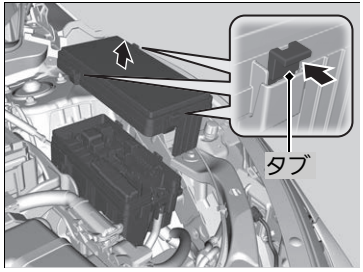
電気装置が作動しない場合、パワーモードを OFF モードにして、ヒューズが切れていないか確認します。ヒューズは、エンジンルームと室内のヒューズボックスに入っています。

■エンジンルーム内のヒューズボックス

■ヒューズボックス

エンジンルーム内の助手席側にあります。

1. タブを押してフタを開ける。



» エンジンルーム内のヒューズボックス

ヒューズボックスのフタに、ヒューズの場所が表示してあります。
ヒューズ番号とフタの表示で、該当するヒューズの位置を確認してください。

■各ヒューズの装備と容量

表示		装備	容量
1		オプション✣	(60A)
		アイドルストップ	(30A)
		冷却ファン	50A
		—	(30A)
		イグニッション メイン 2	(30A)
		ヘッドライト ハイビーム メイン	30A
		メインヒューズ	125A
2		EPS	70A
		イグニッション メイン 1	30A
		ヒューズボックス オプション✣	(40A)
		ヒューズボックス メイン	60A
		ワイパー	30A
		ヘッドライトロービーム メイン	30A

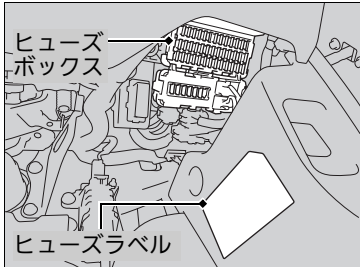
表示		装備	容量
3		リヤデフロスター	40A
		スターターモーター	(30A)
		ヒューズボックス メイン 2	40A
		ABS/VSA モーター	40A
		ABS/VSA FSR	40A
		ブロアモーター	40A
4		—	(40A)
		—	(40A)
		—	(40A)
		—	(40A)
5		冷却ファン	(5A)
6		ウォッシャー	15A
7		FI メイン	15A
8		制動灯	10A
9		FI ECU(サブ)	15A
10		インジェクション	(15A)
11		LAF センサー	5A
12		FI ECU	10A
13		非常点滅表示灯	15A
14	RR	—	(15A)
15		イグニッションコイル	15A

表示		装備	容量
16		トランスミッション	(15A)
17		アクセサリーライト	(10A)
18		バックアップ	10A
19		—	(15A)
20		スモールライト	10A
21		室内灯	10A
22		フォグライト	(15A)
23		MG クラッチ	10A
24		ホーン	10A
25		—	(30A)
26	L	左側ヘッドライト ロービーム	10A
27	R	右側ヘッドライト ロービーム	10A
28		バックアップ 2	(30A)
29	L	左側ヘッドライト ハイビーム	10A
30	R	右側ヘッドライト ハイビーム	10A
31	AS	助手席パワーシート (前後スライド)✣	(20A)
32	AS	助手席パワーシート (リクライニング)✣	(20A)
33		VB ACT	(5A)

✣：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

■室内運転席側のヒューズボックス



インストルメントパネルの奥にあります。

▶下から確認できます。

≫室内運転席側のヒューズボックス

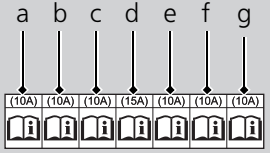
ヒューズボックス下のサイドパネルに貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。

ヒューズ番号とラベルの表示で、該当するヒューズの位置を確認してください。

■各ヒューズの装備と容量

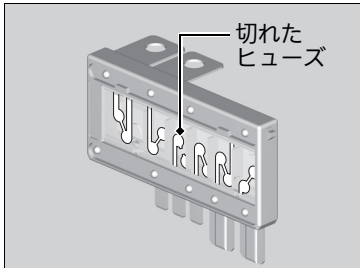
表示		装備	容量
1		ACC	10A
2		ACC キーロック	(5A)
3		リヤワイパー	(10A)
4		オプション 3	(5A)
5		オプション	(10A)
6		—	(10A)
7		メーター	10A
8		フューエルポンプ	15A
9		エアコンディショナー	10A
10		—	(20A)
11		エンジンコントロール	5A
12		右側ドアロック	10A
13		左側ドアアンロック	10A
14	RR L	後席左側 パワーウインドー	(20A)
15	AS	助手席 パワーウインドー	20A
16		ドアロック	20A
17		トランスミッション	(10A)
18	DR	—	(10A)
19		—	(20A)
20		スターター	(10A)
21		ACG	10A
22		IG2	(10A)
23		—	(10A)
24		オプション	(5A)
25		—	(10A)
26		右側ドアアンロック	10A
27	RR R	後席右側 パワーウインドー	(20A)
28	DR	運転席 パワーウインドー	20A
29		フロント アクセサリーソケット	20A
30		スマートエントリー	(10A)
31	DR	運転席パワーシート (リクライニング)✤	(20A)
32	FR	シートヒーター	(20A)
33	DR	運転席パワーシート (前後スライド)✤	(20A)
34		VSA/ABS	10A
35		SRS	10A
36	—	—	—
37		—	(10A)
38		左側ドアロック	10A
39		—	(10A)
a		IG2	(10A)
b		EOP	(10A)
c		バックアップ 2 メイン	(10A)
d		オーディオ VST	(15A)
e		ACC CUT VST	(10A)
f		IG1 VST	(10A)
g		—	(10A)

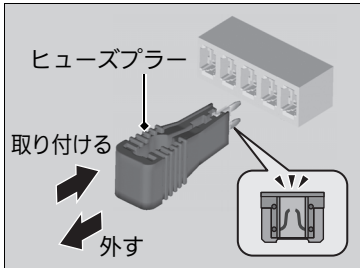
ヒューズラベル



✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ヒューズの点検と交換





1. パワーモードを OFF モードにし、ヘッドライトとすべてのアクセサリーを OFF にする。
2. エンジンルーム内のヒューズボックスのフタを取り外し、大きいヒューズを点検する。
   ▶ 切れているヒューズがあったら、プラスドライバーでネジを外し、新しいものと交換してください。
3. エンジンルーム内と、室内の小さいヒューズを点検する。
   ▶ 切れているヒューズがあったら、ヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。

▶ヒューズの点検と交換

アドバイス

規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。
交換したあと、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

ヒューズは同じ規定容量のヒューズと交換してください。
各ヒューズの装備と容量 P.357, 359

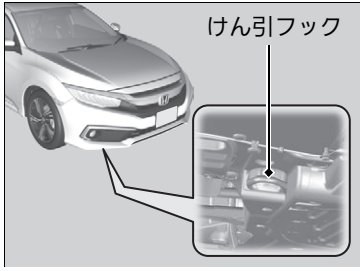
エンジンルーム内のヒューズボックスには、フタの裏にヒューズプラーがついています。
ヒューズプラーは、切れている小さいヒューズを引き抜くときに使います。

非常時のけん引

けん引するときは、Honda 販売店にご連絡ください。
けん引は専門業者に依頼して四輪または前輪を持ち上げて行ってください。

■やむをえずけん引される場合

やむをえず四輪を接地させてロープでけん引を行う場合、次の方法で行ってください。



1. エンジンルームの下からトランスミッションフルード(オイル)などが漏れていないことを確認する。
▶異常がある場合は、四輪または前輪を接地させてのけん引は行わないでください。
2. ロープをけん引フックにかける。

≫非常時のけん引

車輪が動かないときなど動力伝達装置に異常があると思われるときは、四輪または前輪を持ち上げてけん引してください。

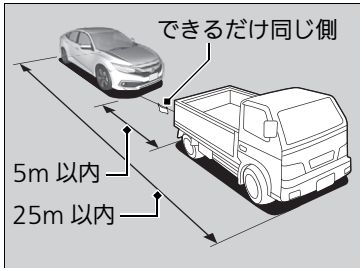
アドバイス

バンパーで車を持ち上げたり、けん引すると、バンパーがいちじるしく損傷します。
バンパーは車の重量を支えるようにはできていません。

パーキングブレーキが解除されていることをブレーキ警告灯(レッド)で確認してください。パーキングブレーキが解除できないときは、必ず四輪を持ち上げてけん引してください。
➔ **電子制御パーキングブレーキ** P.274

ロープやチェーンなどを使ってけん引されるときは、車体に当たる部分に布を巻いてください。
そのままけん引されると、車体に傷が付くことがあります。

次ページに続く



3. ロープ中央部に白い布(0.3m 平方以上)を付ける。

4. エンジンをかけてセレクトレバーを D にし、約 5 秒間保持する。

▶ エンジンがかからないときは、アクセサリーモードまたは ON モードにします。

5. セレクトレバーを N にする。

6. パーキングブレーキを解除する。

7. 速度30km/h以下、走行距離80km以内でけん引する。

▶ けん引中は、前の車の制動灯に注意してロープをたるませないようにしてください。

≫非常時のけん引

アドバイス

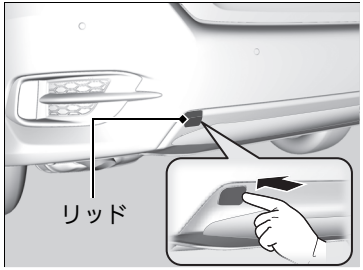
エンジンが停止している状態でのけん引は、以下のことに注意してください。

- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる
- トランスミッションが破損するおそれがある

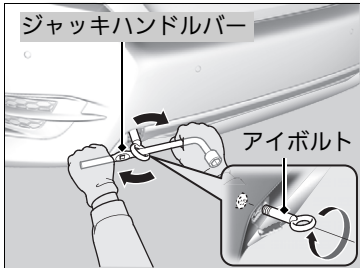
長い下り坂では、ブレーキの温度が上がりブレーキが効かなくなるおそれがありますので、レッカー車にけん引してもらってください。

■やむをえず他車をけん引する場合

やむをえず他車のけん引を行う場合、次の方法で行ってください。



1. ジャッキハンドルバー、アイボルトを取り出す。
2. カバーの右側を押して、リッドを開ける。



3. アイボルトがガタつかない程度まで手で締め付けてから、ジャッキハンドルバーで確実に締め付ける。

やむをえず他車をけん引する場合

アドバイス

アイボルト以外のところにロープをかけないでください。

車体が破損、変形する場合があります。

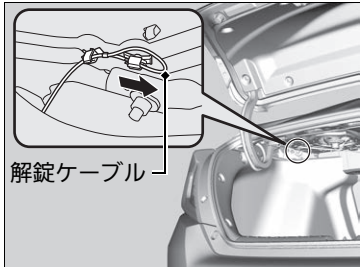
自車より重い車のけん引は避けてください。

アイドリングストップシステムを OFF にしてください。

➡ **アイドリングストップシステムの ON/OFF**
P.204

■解錠できないときの対処方法

万一、フューエルリッドが解錠できなくなったときは、応急処置として次の方法で解錠してください。



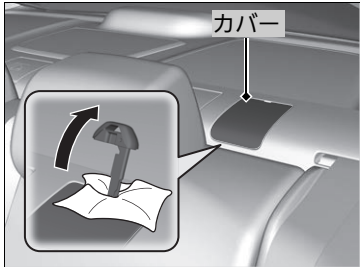
1. トランクを開ける。
2. 解錠ケーブルを矢印の方向に引く。
▶ 解錠ケーブルを引くとフューエルリッドが開きます。

≫解錠できないときの対処方法

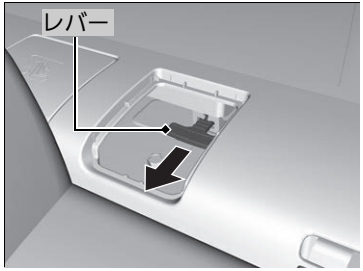
応急処置後は、Honda 販売店で点検を受けてください。

■開かないときの対処方法

万一、トランクを開けることができなくなったときは、応急処置として次の方法で開けてください。



1. キーを使ってカバーを取り外す。
▶カバーに傷が付かないように、キーに布などを巻いてカバーを取り外します。



2. レバーを引く。
▶トランクが開きます。

≫開かないときの対処方法

応急処置後は、Honda 販売店で点検を受けてください。

資料

この章には、仕様に関する情報が記載されています。



仕様 367

仕様

■仕様

名称	シビック
排気量	1,496 cm³
車体形状	4 ドアセダン
乗車定員	5 名

■点火プラグ

NGK	ILZKAR8H8S

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。
交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■確認

ブレーキペダル	遊び	2.8～6.5mm
	床板とのすき間	128mm 以上 [約 196N(20kgf)の力]
	カーペットとのすき間(参考値)	112mm 以上 [約 196N(20kgf)の力]

■燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン (E10/ETBE22)
燃料タンク容量	47 L

■エアクリーナーエレメント

タイプ	湿式

■バッテリー

容量 / タイプ	48AH(5)60AH(20)/LN2 EFB※1

※1 ： アイドリングストップシステム専用バッテリー

■ウォッシャー液

タンク容量	2.5 L

■電球

ヘッドライト	ロービーム	LED
	ハイビーム	LED
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯		LED
アクセサリーライト / 車幅灯		LED
フォグライト		LED
サイドマーカーライト		12V-5W(橙色)
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯		LED
制動灯		12V-21W
尾灯		LED
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯		12V-21W(橙色)
後退灯		12V-16W
ハイマウントストップランプ		LED
番号灯		LED
室内灯		LED
マップランプ		LED
バニティミラー照明灯		12V-2W
センターポケットランプ		LED
グローブボックス照明灯		12V-3.4W
トランク照明灯		12V-5W

■ブレーキフルード

指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3 または DOT4

■トランスミッションフルード

指定液	Honda 純正ウルトラ HCF-2	3.7 L (交換時)

■推奨エンジンオイル

Honda 純正エンジンオイル	ULTRA LEO	API SN 以上 SAE 0W-20※1
	ULTRA LTD	API SN 以上 SAE 5W-30
規定量	オイル交換時	3.2 L
	オイル、オイルフィルター同時交換時	3.5 L

※1 ： 最も省燃費性に優れたオイルです。

■冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント
規定濃度	50%
規定量	4.92 L (交換時 : エキスパンションタンク 0.58 L 含む)

■タイヤ

サイズ		215/55R16 93V※1 215/50R17 91V※2
空気圧 (kPa[kgf/cm²])	前輪	250(2.5)※1 220(2.2)※2
	後輪	250(2.5)※1 220(2.2)※2
リムサイズ		16X7J※1 17X7J※2

※1 ： 16 インチホイール装備車
※2 ： 17 インチホイール装備車

数字

7速マニュアルシフトモード 200

A

A/C(エアコン) 178, 316
ABS(アンチロックブレーキシステム) 280
ABS警告灯 65, 280
AT(オートマチックトランスミッション) .. 197

C

CMBS(衝突軽減ブレーキ) 215

E

ECONスイッチ 202
ENGINE START/STOPスイッチ 145
パワーモードの切り換えかた 145
EPS(電動パワーステアリング)
システム警告灯 67, 355

H

Hondaスマートキー 124, 125
緊急時のエンジン停止方法 344
電池交換のしかた 314

I

ISOFIX/i-Size 54

L

LKAS(車線維持支援システム) 243

M

MIST 155

P

PGM-FI警告灯 64, 352

S

SRSエアバッグ 32
エアバッグシステム警告灯 39, 66

V

VSA(ビークルスタビリティアシスト) 209
VSA OFF警告灯 66
VSA警告灯 66, 209

W

W(ワット)数 367

ア

アイドリングストップシステム 203
アイドリングストップシステム警告灯 67
アイドリングストップ表示灯 76
アクセサリー 323
アクセサリーソケット 176
アクセサリーライト 150
アジャイルハンドリングアシスト 211
安全なドライブのために 23
安全に関する表示 20
安全のための確認事項 23
アンチロックブレーキシステム(ABS)
ABS警告灯 65, 280

イ

一酸化炭素の危険性 60
イモビライザーシステム 141
イモビライザーシステム表示灯 74
イルミネーションコントロール 157
インフォメーションスイッチ 96

ウ

ウィンカースイッチ(方向指示器) 150
ウィンドウォッシャー
ウィンドウォッシャー液の補給 300
ウィンドウォッシャースイッチ 155
ウィンドーの開閉 143

ウェアインジケーター 310
運転
エンジンスタートボタン付Honda スマートキーシステム 191
エンジンの始動 189
シフト操作 198
ブレーキ操作 274

エ

エアクリーナーエレメント 367
エアコン 178, 316
エアクリーンフィルター 316
オートエアコンの使いかた 179
窓の曇りや霜の取りかた 181
エアバッグ 32
SRSエアバッグ 32
エアバッグシステム警告灯 39, 66
エアバッグシステム故障診断記録装置 20
エアバッグのお手入れ 40
サイドエアバッグ 35
サイドカーテンエアバッグ 37
エキスパンションタンク 297, 350
エキスパンションタンクキャップ 297, 350
エコアシストシステム 6
エマージェンシーストップシグナル 282
エンジンオイル 299
推奨エンジンオイル 299, 367
油圧警告灯 63, 351
エンジンスタートボタン付Honda スマートキーシステム 191
エンジンの始動 189
エンジンが始動しない 342
ジャンプスタート 345
エンジンルーム内のメンテナンス 297
ウィンドウォッシャー液の補給 300
エンジンルーム内のメンテナンス項目 297
推奨エンジンオイル 299
ボンネットを開ける 298
冷却水の点検と補給 349, 350
エンジン冷却水 367

オ

追越合図(パッシング) 149
オイルモニターシステム 294
応急修理剤(タイヤパンク) 328
オートエアコン 179
オートドアロック/アンロック 137
オートハイビーム 152
オートマチックブレーキホールド 277
オートワイパー 156
オーバーヒート 349
オドメーター 98

カ

外気温表示 98
鍵(かぎ) 123
カスタマイズ 102
カスタマイズ機能 113
ガソリン 285, 367
下部取付金具 54

キ

キー 123
Hondaスマートキー 124, 125
Hondaスマートキーの電池が切れたとき 343
キー閉じ込み防止装置 133
キーナンバータグ 124
キーレスエントリー 131
後席ドアが開かない 17
電池交換のしかた 314
ドアが開かない 18
内蔵キー 123, 124
キー閉じ込み防止装置 133
キーナンバータグ 124
キーレスエントリー 131
キックダウン 197
給油 285
給油のしかた 286
指定燃料 285, 367
燃料計 93
燃料残量警告灯 65

ク

空気圧 367
空気圧測定器による点検 310
クリープ現象 197
車の改造 324
グローブボックス 171

ケ

経過時間表示 100
計器 61
警告灯 62
ABS警告灯 65, 280
CMBS(衝突軽減ブレーキ)警告灯 69
EPSシステム警告灯 67, 355
LKAS(車線維持支援システム)警告灯 68
PGM-FI警告灯 64, 352
VSA OFF警告灯 66
VSA警告灯 66
アイドリングストップシステム警告灯 67
エアバッグシステム警告灯 66
シートベルト非着用警告灯 64
渋滞追従機能付ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)警告灯 68
充電警告灯 64, 351
トランスミッション警告灯 65
燃料残量警告灯 65
ブレーキ警告灯(レッド) 62, 353
ブレーキシステム警告灯(オレンジ) 63
油圧警告灯 63, 351
路外逸脱抑制機能警告灯 71
警告灯の点灯/点滅 351
けん引 361

コ

コートフック 175
交換
グローブボックス照明灯電球 305
後退灯 303
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯電球 303
車幅灯電球 301
制動灯 303
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯電球 302
トランクスペース照明灯電球 305
ハイマウントストップランプ電球 304
バニティミラー照明灯電球 305
番号灯電球 304
尾灯電球 304
フォグライト電球 301
ヘッドライト電球 301
ワイパーブレードラバー 306
工具 326
航続可能距離表示 99
後退灯 303
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯 303
コンソールボックス
センターコンソールボックス 172

サ

サービス診断記録装置について 20
サイドエアバッグ 35
サイドカーテンエアバッグ 37

シ

シートの調節
ヘッドレスト 167
シートヒーター 177
シートの調節 162
フロントシート 162
シートベルト 25
アンカーポイント 31
シートベルトの着用 28
シートベルトの点検 31
シートベルト非着用警告灯 64
シートベルトプリテンショナー 27
シートベルトリマインダー 26
妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた 30
時刻の設定 119
室内灯 170
指定燃料 285, 367
シフト操作 198

シフトポジション 198
シフトポジション表示灯 199
車外の清掃 320
車線維持支援システム(LKAS) 243
ジャッキ 326, 340
ジャッキハンドル（ホイールナットレンチ) 326
ジャッキハンドルバー 326
車内の清掃 318
車幅灯 148, 301
ジャンプスタート 345
渋滞追従機能付ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール) 228
充電警告灯 64, 351
収納装備 171
瞬間燃費表示 99
仕様 367
衝撃感知ドアロック解除システム 135
衝突軽減ブレーキ(CMBS) 215
ショルダーアンカー 29

ス

スイッチ
ENGINE START/STOPスイッチ 145
イルミネーションコントロール 157
オートマチックブレーキホールドスイッチ 277
パーキングブレーキスイッチ 274
フォグライトスイッチ 151
方向指示器(ウィンカースイッチ) 150
リヤデフロスタースイッチ 158
ワイパー/ウォッシャー 155
ステアリング 158
スピードメーター 93

セ

清掃 318
制動灯 303
セキュリティシステム 141
イモビライザーシステム 141
セキュリティアラームシステム 141
セレクトレバー
セレクトレバーの操作 199
セレクトレバーが動かない 348
先行車発進お知らせ機能 261
センターコンソールボックス 172

ソ

側面方向指示器/側面非常点滅表示灯 302

タ

ターボ車 289
タイヤ 309
ウェアインジケーター 310
指定空気圧 367
タイヤの点検 309
タイヤのローテーション 312
タイヤパンク応急修理キット 328
冬期のタイヤ 313
パンク 328
タコメーター 94

チ

チャイルドシート 44
ジュニアシート 58
乳児のチャイルドシート 46
幼児のチャイルドシート 47
チャイルドプルーフ 136
駐停車操作 283

テ

データの開示について 20
デフロスター 181
リヤデフロスター 158
点火プラグ 367
電子制御パーキングブレーキ 274
電子制御ブレーキアシスト 281
電池交換 314

ト

ドアの施錠と解錠 123
キー閉じ込み防止装置 133
キーナンバータグ 124
キーの種類と機能 123
キーレスエントリー 131
後席ドアが開かない 17
車外でのドアの施錠/解錠 126
車内での施錠/解錠 134
衝撃感知ドアロック解除システム 135
チャイルドプルーフ 136
ドアが開かない 18
ドアミラー 160
冬期のタイヤ 313
時計 119
時計の表示 100
トップテザー取付金具 55
トラブルシューティング
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る 18
エンジンが始動しない 342
オーバーヒートした 349
警告灯が点灯/点滅した 351
けん引してもらいたい 361
後席ドアが開かない 17
ジャンプスタートしたい 345
セレクトレバーが動かない 348
走行するとブザーが鳴る 18
ドアが開かない 18
パンクした 328
ヒューズが切れた 356
ブレーキを踏むと音がする 19
ブレーキを踏むと振動する 17
トランク
トランクオープナー 139
トランクが開かないとき 365
トランクの開閉 138
トランクスペース照明灯
電球の交換 305
トランスミッションフルード 367
トリップメーター 98
ドリンクホルダー 173

ナ

内蔵キー 124

ネ

燃料 285, 367
燃料計 93
燃料残量警告灯 65

ハ

排気ガスの危険性 60
ハイビーム 149
電球の交換 301
ハイビーム表示灯 73
ハイマウントストップランプ 304
発炎筒 327
パッシング 149
発進補助ブレーキ機能 208
バッテリー
ジャンプスタート 345
充電警告灯 64, 351
容量/タイプ 367
パワーウィンドーの開閉 143
パワーモード
パワーモードオートオフ機能 146
パワーモード警告ブザー 146
パワーモードの切り換えかた 145
パンク 328
番号灯 304
ハンドル 158
ハンドル位置調整レバー 158

ヒ

ヒーテッドドアミラー 158
尾灯 304
ヒューズ 356
ヒューズの設置場所 356
ヒューズの点検と交換 360
標識認識機能 265
表示灯 73
ECON表示灯 76
LKAS（レーンキープアシストシステム）表示灯 76

アイドリングストップ表示灯 76
イモビライザーシステム表示灯..... 74
インフォメーション表示灯..... 77
オートハイビーム表示灯 73
オートマチックブレーキホールドシステム
表示灯..... 77
オートマチックブレーキホールド表示灯 .. 77
シフトインジケーター/M(7速マニュアル
シフトモード)表示灯 75
シフトポジション表示灯 75, 199
渋滞追従機能付ACC(アダプティブ・
クルーズ・コントロール)表示灯 76
セキュリティアラームシステム
作動表示灯..... 74
ハイビーム表示灯 73
フォグライト点灯表示灯 73
方向指示器/非常点滅表示灯 73
ライト点灯表示灯 73

フ

ブースト圧計..... 101
ブースターケーブル..... 345
フォグライト..... 301
フォグライトスイッチ 151
ブザー
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る 18
走行するとブザーが鳴る 18
フューエルリッド
フューエルリッドが解錠できないとき.... 364
フューエルリッドの開けかた..... 286
フューエルリッドの開けかた 286
ブレーキ警告灯(レッド) 62
ブレーキシステム..... 274
ABS(アンチロックブレーキシステム)... 280
エマージェンシーストップシグナル..... 282
オートマチックブレーキホールド 277
電子制御パーキングブレーキ 274
電子制御ブレーキアシスト 281
フットブレーキ 276
ブレーキ警告灯(レッド)..... 62, 353, 354
ブレーキシステム警告灯
(オレンジ)..... 63, 354
ブレーキを踏むと音がする 19
ブレーキを踏むと振動する 17
ブレーキシステム警告灯(オレンジ) 63
ブレーキフルード..... 367
ブレーキ警告灯(レッド)..... 62, 353
フロントシート..... 162
シートヒーター 177
フロントシートヘッドレスト 167
フロントセンサーカメラ 271

ヘ

平均車速表示 100
平均燃費表示 99
ヘッドライト 148, 322
オートハイビーム 152
追越合図(パッシング)..... 149
電球の交換..... 301
ハイビーム表示灯..... 73
ライト点灯表示灯..... 73
ヘッドレスト
フロントシート 167
リヤシート 168

ホ

ホイールサイズ..... 367
ホイールナットレンチ
(ジャッキハンドル)..... 326
方向指示器(ウィンカースイッチ) 150
方向指示器/非常点滅表示灯 73
歩行者事故低減ステアリング 222
ポップアップフードシステム 41
ホンダセンシング 14, 212

マ

マスタードアロックスイッチ 135
マップランプ..... 170
マルチインフォメーションディスプレイ 95
メッセージ..... 78

ミ

ミラー 159
自動式防眩ミラー 159
ドアミラー 160
ルームミラー 159

ム

無段変速オートマチック 197

メ

メーター 8, 93
スピードメーター 93
タコメーター 94
燃料計 93
マルチインフォメーション
ディスプレイ 95
メンテナンス 290
Hondaスマートキー 314
エアコンのお手入れ 316
エンジンルーム内のメンテナンス 297
清掃 318
タイヤの点検と整備 309
メンテナンスに関する注意事項 293
メンテナンスを安全に行うために 292
ライト類の点検と整備 301
ワイパーブレードラバーの点検と整備 306

ユ

油圧警告灯 63, 351

ラ

ライトスイッチ
追越合図(パッシング) 149
オートハイビーム 152
ハイビーム表示灯 73
フォグライト点灯表示灯 73
ヘッドライト 148
ライト点灯表示灯 73
ライト類の点検と整備 301
グローブボックス照明灯電球 305
後退灯 303
後面方向指示器/
後面非常点滅表示灯電球 303
車幅灯電球 301
制動灯 303
側面方向指示器/
側面非常点滅表示灯電球 302
トランクスペース照明灯電球 305
ハイマウントストップランプ電球 304
バニティミラー照明灯電球 305
番号灯電球 304
尾灯電球 304
フォグライト電球 301
ヘッドライト電球 301

リ

リムサイズ 367
リヤシート 166
リヤデフロスタースイッチ 158

ル

ルームミラー 159

レ

冷却水 349, 350, 367
オーバーヒート 349
補給 349, 350
レーダーセンサー 273

ロ

ロービーム
電球の交換 301
路外逸脱抑制機能 254

ワ

ワイパー/ウォッシャー 155
ワイパーブレードラバー 306

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まずHonda販売店にお気軽にご相談ください。
下記アドレスより最新のHonda販売店を検索することが可能です。
Hondaホームページ　https://www.honda.co.jp
（Hondaホームページにある検索ボックスに『販売店』と入力してください）

携帯電話からは、携帯電話用Hondaホームページをご覧ください。
https://shopsearch.honda.co.jp/auto/area/
※：QRコード読み取り機能付きの携帯電話をお持ちの場合は、右のQRコードをご利用ください。
ご利用にあたっては、お持ちの携帯電話取扱説明書をご確認ください。
QRコードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

フリーダイヤル　0120-112010（イイフレアイオ）

受付時間　9:00～12:00　13:00～17:00
〒351-0188　埼玉県和光市本町8ー1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速に対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

① 車検証記載事項：車両型式、車台番号、エンジン型式、登録番号、登録年月日
② 車種名、タイプ名、走行距離　③ ご購入年月日　④ 販売店名